

2019

研究紀要

第34号



秀光中等教育学校
仙台育英学園高等学校

巻 頭 言

秀 光 中 等 教 育 学 校
仙 台 育 英 学 園 高 等 学 校
校 長 加 藤 雄 彦

平成30年度は学園創立113年の年でした。本学園が、多くの皆様方からご支援、ご協力を賜り、温かく見守っていただきましたこと、改めて感謝申し上げる次第です。

いうまでもなく、学校経営にあたる立場として、自身の職責の重さを心に刻みながら、全職員が日々の教育活動にまい進し、生徒諸君にとってかけがえのない高校生活が充実した日々になるよう心から願うものです。同時に、入試制度を含めた社会の変革が急速に進みつつある現状を踏まえ、学校における適切な進路指導の在り方について、すべての先生方のご理解と協力をいただきながら、学校としての明確な指針を示さなければなりません。その重さに、校長としては改めて身の引き締まる思いがしているところです。

同時に、目の前にあるものが困難な課題であればなおのこと、創業者の加藤利吉先生の教えにもう一度立ち返り、心を奮い立たせて取り組んでいこうと決意することも、校長の果たすべきことであると言えるでしょう。今回の職員研修は、先生方に会津に出向いていただき、改めて創業者の目指してきた夢と実践してきた役割をご理解いただくことで、本学園のさらなる飛躍に取り組んでいただきたいの思いから企画いたしました。

さて、この研究紀要では、教育活動を充実させるべく様々な視点から取り組んできた研究、実践が示されており、また、今後大きな意味を持つであろう問題提起も含まれております。ご一読いただくと、先生方の日々の教育活動に指針や参考になることもたくさん含まれているものと思います。積極的にご活用いただくことで、より良い教育実践につながることを願っております。

ここで目を転じ、部活動を紹介します。今年も、多くの部活動で素晴らしい実績を上げることができました。昨年に引き続き、陸上競技部男女駅伝チーム、ラグビー部、サッカー部がそれぞれ都大路と花園、全国選手権の全国大会に出場いたしました。特に駅伝チームは、女子が全国第3位に入賞し、着実に実績を積み重ねております。また、サッカー部は初戦奈良県代表の一条高校に勝利し、その実力を改めて示しました。

文化部では、書道部が「書の甲子園」と称される国際高校生選抜書展において、初めて全国団体優勝と、4年連続の東北地区団体優勝をなしとげました。この、国際高校生選抜書展全国優勝チームには、書道パフォーマンスのエキシビジョンが認められております。先日それを目の当たりにし、生徒たちの熱い思いを自分の目で見る事ができたことはたいへん幸せな体験でした。

さて、平成30年12月6日付けの毎日新聞学園特集号では「みちのくから新たな歴史を」と題して次のように紹介したところです。

「戊辰戦争から150年の節目を迎えました。日々の鍛錬と切磋琢磨の成果をみちのくの地から発信し、全国に広く名を知らしめる絶好の機会とも言えるでしょう。昨年の女子駅伝チーム、今年の書道部はそれを見事に果たしました。これから全国に挑む諸君も、後に続いて新たな歴史を築くという気概を持ち、歴史の節目が仙台育英学園飛躍の節目となるよう、全力を尽くしてほしいものです。健闘を祈ります。」

最後に、もう一つの学校の責務である、卒業後の進路についてはどうでしょうか。今最も先進的な取り組みである国際バカロレア (IB) のディプロマプログラム (DP) については、昨年より大幅に増え、外国語コースの三年生5名が最終試験に合格するという快挙を成し遂げました。これは昨年度に引き続き、東北唯一のIB認定校として誇るに足る快挙であり、本学園の先進性を示すものと言えるでしょう。大学入試においても、IBで学んだプレゼンテーション力をしっかりと発揮し、自己の進路実現に結び付けた生徒もおります。今後とも先進的な取り組みに向けて、さらなる挑戦を続けていく所存です。この研究紀要はその道しるべとして作成したものです。

ご高覧の上、本校のよりよい教育活動のために忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

研究紀要34号

巻頭言 加藤 雄彦

トピック

- 授業改革：協働学習の可能性 Kerry Winter 1
Transforming the Culture of Teaching and Learning:
An emerging collaborative learning community
仙台育英孔子課堂活動報告 孔子課堂長 板垣 徳昭 12

I 研究報告

- (1) デュアルランゲージで行う TOK 授業のケーススタディ
—PCK（授業を想定した教科内容知識）を意識したバイリンガル授業—
..... 外国語コース 石田真理子 23
(2) 特進コースの英語4技能向上対策：
「オンラインWeblio英会話」を活用したe-learning学習について
..... 特別進学コース 伊藤 需 29
(3) 仙台育英学園生き生き教室「√2ってなに」
..... フレックスコース 雫石 利光 34
(4) 教科BU研修会について 教科教育センター長 板垣 徳昭 43

II 平成30年度 研修報告

- (1) 秀光中等教育学校
カナダ研修報告 笠原 千尋 65
(2) 特別進学コース
関西校外研修報告 高橋 真理 78
佐々木正人
(3) 情報科学コース
沖縄研修報告 船越 正志 84
野坂 有生
(4) フレックス・技能開発コース
沖縄研修報告（男子） 西山 大樹 90
沖縄研修報告（女子） 石川美紀子 93
(5) 英進進学コース
沖縄研修報告 藤倉 善将 96
台湾研修報告 熊坂 治平 108
(6) 外国語コース
ハワイ研修報告 松崎 希莉 113
下浅 雄大
(7) 仙台育英孔子課堂 第2回北京語学研修報告
..... 平成29年度孔子課堂長 鈴木 茂幸 120
(8) 職員会津研修報告 フレックスコース 雫石 利光 123

III その他

- ILC青森校の状況と社会人養成講座について ILC青森所長 三笠 勝彦 128

総目録（第1～33号）

編集後記

授業改革：協働学習の可能性

秀光中等教育学校 ケリー・ウインター

世界は絶え間なく変化しても教員の役割は変わりません。さらにスピードを増して変化している世界で成功するためには次世代の子供たちを教育し、そして前向きなそして有益な社会貢献をさせることです。

この目的は時にとらえどころがないように見える時があるかもしれませんが、しかし私たちの未来そして次世代の未来はどれだけ生徒に準備をさせることができるか、さらに必ず起こる変化に彼らがいかに対応するかということにかかっています。若者たちの知識やスキルの伸長に重点を置くことは次世代の社会的結束や豊かな経済につながっているのです (Hargreaves & Fullan, 2013)。

秀光中等教育学校は仙台育英学園高等学校と連携してIBプログラムを実践することにより授業の質を向上させる方向に改革の歩を進めております。両方の学校は探究学習を基礎とした構成主義的教授法に移行過程にあります。そのためには十分な理念的、教授上の、組織的、文化的そしてロジスティックな取り組みが必要とされています。

そのような移行はどのように方向づけられるのでしょうか。そしてうまくその目的を達成するためにどのようにこれらの課題を克服できるのでしょうか。

生徒の学習はもともと教員研修と結びついており、教員が継続的に学び続けることにかかっています (Fullan & Hargreaves, 1991; Fullan, 2007)。つまり、教員研修に重点を置くということは生徒の学力を伸ばすことへ重点を置くということなのです。教員の研修を進め生徒の学力を伸ばそうという未来戦略を立てたので秀光中等教育学校は最近学校内外での教員の継続的な研修に重点を置いております。

この事例研究は教員研修、協働学習コミュニティの利点について議論し、そして2017年から2018年にかけて見られた秀光中等教育学校における協働学習の実践や影響に関する報告であります。

教員としての資源

教員に必要な多くのスキルは例えば学習上の問題を確認、人間関係の調整、指導の個別化、学習の動機付けから生徒と保護者両方にかかる慎重を要する問題の処理まで沢山の技術的なスキルや訓練が必要です。これらの役割を効果的に果たすことができるような教員としての資源を開発するためには教授技術の知識や高等レベルの教育に加えて、学校での実践に力を入れるとか、継続的な研修が必要となります (Hargreaves & Fullan, 2013)。

生徒の学習を改善するために同じように重視すべき教員としての資源が3つあります。人的資源とは学校の個々の教員の質や能力のことです。この資源は研修によって伸ばすことができます。社会的な資源とは教員間の協働文化のことです。長い経験によって習得された他の教員の知識や教育技術を活用し、他の教員の人的な資源にもアクセスを可能にさせます。決断的資源とは学校目標を達成するため人的資源や社会的資源の利用に関して決断をする人々の能力や技術のことです。一般的に信じられているように人的資源だけでは生徒の学習を改善するためには十分ではありません。なぜならその過程に対するフォローアップや責任が欠けているためそれだけでは必ずしも実質的な改革を保証しているわけではないのです。社会的資源は同様に協働学習コミュニティをとおして伸ばさなければなりません (Hargreaves & Fullan, 2013)。

協働学習

協働学習コミュニティは教員のグループで一緒に集まって学習の取り組みや授業改善の仕方について議論します。強い協働文化は学習を豊かにし、ゆえに教授方法も改善します (Fullan, 2016)。効果的な協働学習の環境の中に身を置くだけで他の教員を仲間にして教員同士がお互いに良い影響を与え合います (Leanna, 2011)。これらのコミュニティが信頼関係に基いて相当の時間をかけて成り立った時はその結果として生徒の成績も改善されます (Timperly, Barrar, Wilson, & Fung, 2007; Hattie, 2009; Leanna, 2011)。

協働文化は信頼関係や、評価、透明さそして学校内外の両方の支援に基づいたオープンな信頼関係の上に成り立っております (Nias, Southworth, & Yeomans, 1989)。協働文化の特徴の中には教員が支援や助けが必要とする分野を共有するという透明さや開かれた議論、そして教員が自分を擁護する必要がないほどの信頼関係が含まれております。そして常に向上しようという気持ちが標準です (Fullan & Hargreaves, 1991)。

しかしながら協働文化を涵養するのはゆっくりとした過程で精神的な変化が必要ですがそれにもまた時間がかかります。ただ単にワークショップを受ける (人的資源) だけでは実践を変えるということにはなりません。自

分が学んだこと実践し生徒の学びを変えるためには教員を励ましてくれたり支援したりしてくれるコミュニティー（社会的資源）が必要です。（Fullan & Hargreaves, 1991; Fullan, 2007）。

秀光中等教育学校協働学習コミュニティーの可能性

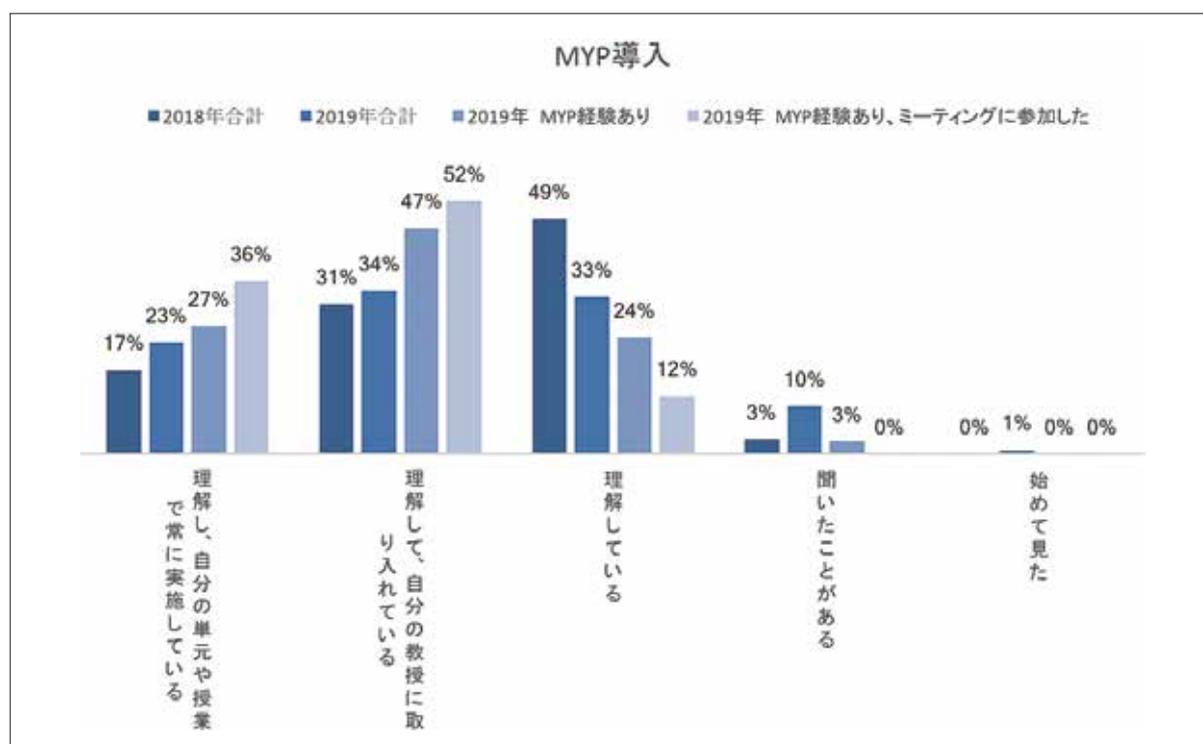
2016年以来過去4年間で秀光中等教育学校は教員を62のIBのMYPワークショップに派遣しました。それはのべで1,000時間以上の教員研修に相当します。強固な教員研修は強固な協働学習文化を構築する基礎になります（Fullan & Hargreaves, 1991）。多くの場合IBワークショップを受講することが探究型ベースの教授法や学習方法へ転換するための最初の段階です。もしこの段階を人的資源開発に向けた‘推進力’ということができれば、校内の協働学習計画委員会（以下CPMと言う）は‘牽引力’と言えます。CPMは社会的資源に重点を置くということですが、その中で新しいことは他の教員から‘教えられる’というよりは校内に‘伝播’していくのです。秀光中等教育学校は2017年以来特筆すべき多くの時間や努力を毎週MYPのCPMという形で社会的資源の開発のために費やしてきました。これは新たに年間約40時間を協働学習に使ってきたこととなります。CPMの題材はMYPのアクションプランに従って学校として向上させなければならない領域を基にIB運営委員会（以下PLTと言う）が年度初めに計画します。週ごとの研修では教員に授業に対する実践的な考え方や同じ教科領域や同じ学年（縦と横のアプローチ）で他の教員と協働して活動したり、あるいは他の教員から一番良い実践について話を聞いたり、振り返りの実践を一緒に行ったりする機会が提供されます。

研究によると協働学習文化は社会的資源を高める効果的な方法で教育の質を改善したり、それによって生徒の学習も改善したりできると言われています。秀光中等教育学校の協働学習コミュニティーがどの程度最良の実践を取り入れるためにどの程度教員に役立っているか評価するために教員に1年ごとの教育実践について振り返りをするようお願いしました。2018年2月分は21名、2019年2月分は20名の回答がありました。

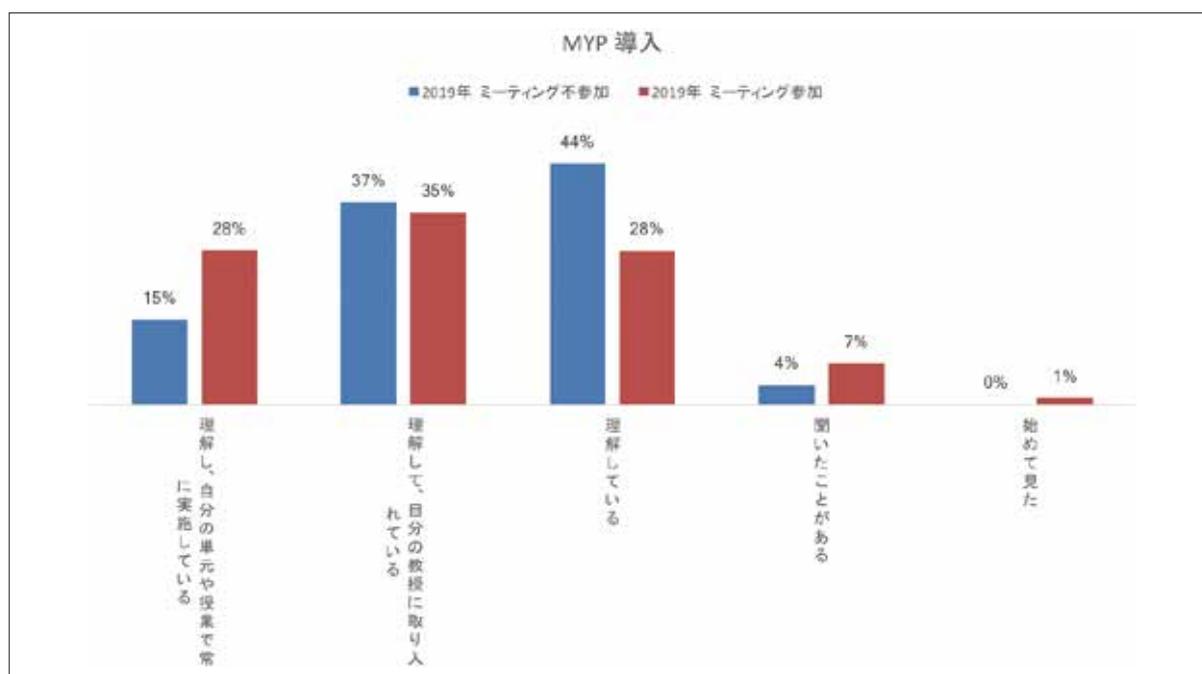
MYPの実施

教員は授業で、「IBの学習者像」「グローバルな文脈」「重要概念」「関連概念」「探究テーマ」「学習方法（ATL's）」「奉仕活動」「形成的評価」「総括的評価」「学問の誠実性」「指示用語」「個別化」「パーソナルプロジェクト」「探究」というMYPの14の異なった領域をどの程度実施しているか自己評価するように求められました。前述の領域をどのくらい理解し、自分の授業の中に（適用できるときは）取り入れ実施しましたかという質問も与えられ、そして「今まで聞いたことがありませんでした」「以前聞いたことがあります」「理解しています」「以前授業にこれを取り入れ実施しようとしたことがあります」「授業に着実に取り入れ実施している」という5つ選択肢を与えられました。下のグラフは各年度の

MYPの全ての領域の平均を比較したものでCPMに定期的に参加している教員やMYPを教えた経験を（新しい秀光教員のデータへの影響を少なくするために）持っている教員の分析も行っております。

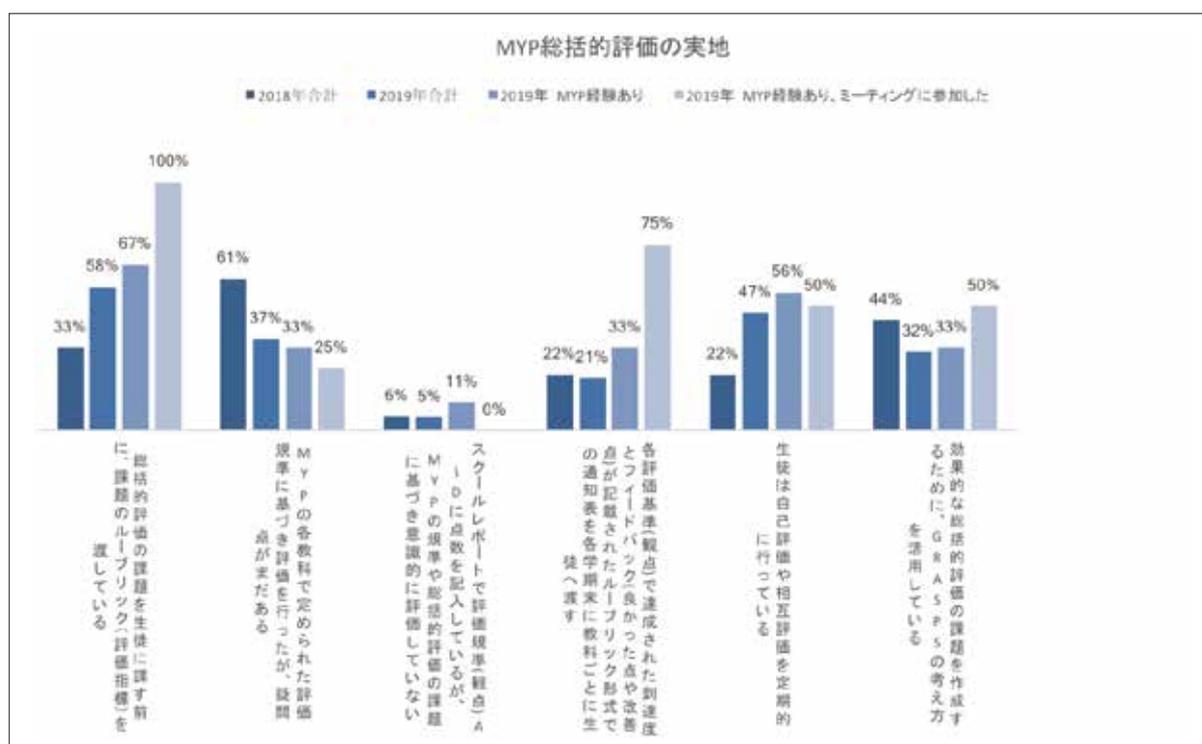


次のグラフは2018年に定期的にCPMに定期的に参加している全ての教員と定期的には参加していない全ての教員を比較して上記と同じMYPの領域に対する教員の実施状況を自己評価してもらった結果を比較しています。

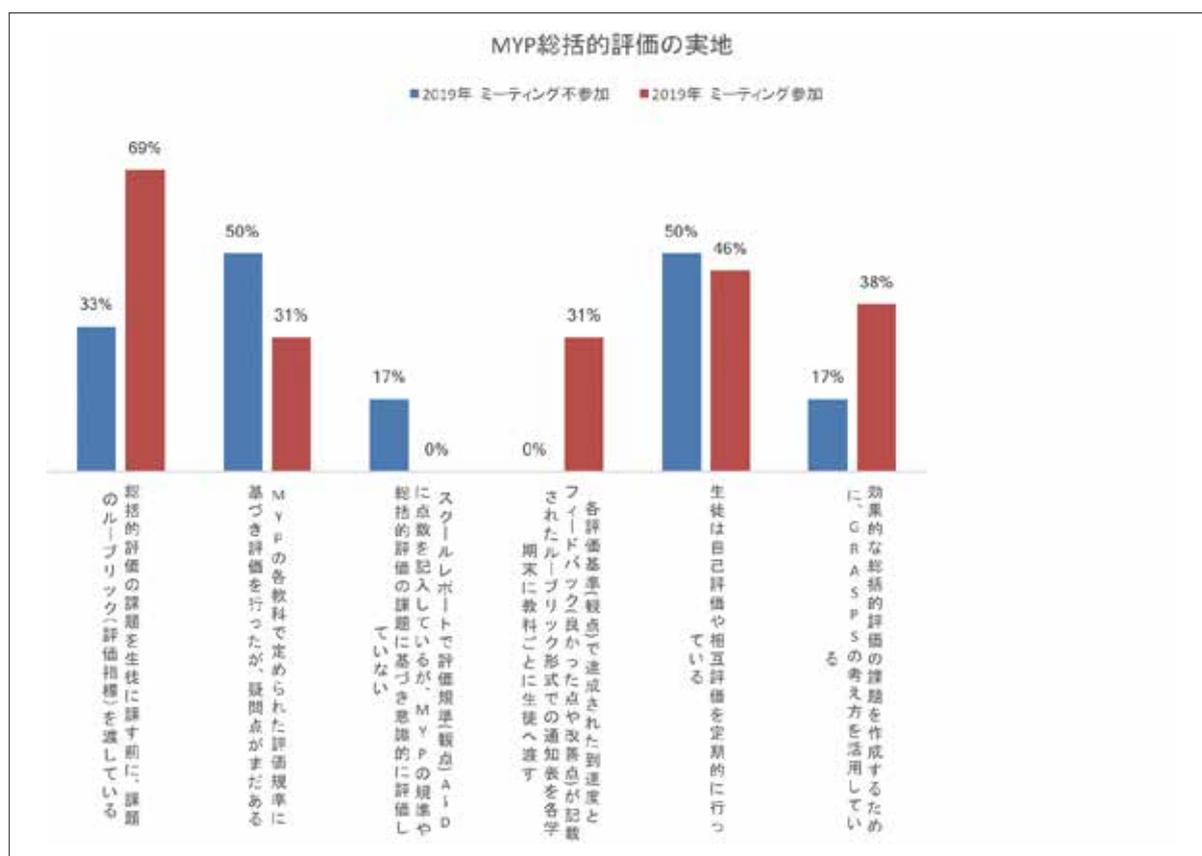


総括的評価実践について

教員は「総括的評価課題の前に生徒たちにルーブリックを与える」「完全に理解しているわけではないがMYPの目的に従って生徒たちを評価する」「1年間を通してMYPの目的を意図的に評価しているわけではないが課題をAからDの評価基準に従って生徒に評価点を与える」「評価課題が終了したらできるだけ早く生徒たちにフィードバックを添えて完成したルーブリックを返却する」「生徒たちに評価課題が終了したらピアレビュー(同僚評価)を完了するように依頼する」「有意義な評価課題を作り出すのに役立つようにGRASPS評価課題を活用している」という6つの評価実践のどれが自分たちの1年間の実際の評価実践を反映しているか質問されました。下のグラフは1年間のそれぞれの評価実践平均を比較したものです。そしてCPMに定期的に参加した教員とMYPを教えた経験のある教員の(新しい秀光教員のデータへの影響を少なくする為に)分析を含んでいます。



次のグラフは2018年に定期的にCPMに定期的に参加している全ての教員と定期的には参加していない全ての教員を比較して上記と同じMYPの6つ総括的評価の実践状況の自己評価してもらった結果比較しています。



分かったこと

2018年から2019年の間の秀光中等教育学校の教員による14のMYP実践の実施状況の自己報告データを分析して次のような観察結果となりました。

- 1年間の経験が加わったことと(2018年2月以来)CPMに参加したことはMYPの授業実施が40%増加する結果となりました。
- 2018年から2019年の間に授業の中で着実にグローバルな文脈を取り入れた教員は全体で26%も増加しました。さらに1年間経験をつんだことと(2018年2月以来)定期的にCPMに参加したことで授業実践の中でグローバルな文脈を取り入れたのが51%増加しました。
- 学校全体として実践はしていないがMYP教育実践を自分の感覚で理解しているという教員の本数は2018年から2019年の間に16%減少しました。
- これらの結果は秀光中等教育学校の教員がMYPスタイルの教授法や学習に移行するには約2,3年かかるということを示しております。

2018年から2019年の秀光中等教育学校の教員による総括的評価の実施状況の自己報告データの分析により次の観察結果となりました

- 2018年から2019年の間にMYPの評価基準に従って評価をする教員が全体で25%増えました。
- 1年間の経験が加わったことと(2018年2月以来)CPMに参加したことでMYPの評価基準に従っての評価が67%増える結果となりました。
- CPMに定期的に参加した経験を積んだ教員は全員(100%)がMYPの評価基準で評価しています。
- 1年間の経験が加わったことと(2018年2月以来)CPMに参加したことはできるだけ早く形成的評価のフィードバックと一緒に生徒へ完成したルーブリックを返却するのが53%増加しました。
- 2018年から2019年の間に生徒たちに自己評価やピア(同僚)評価を完成させるように要請した教員が全体で25%上昇しました。それはHattie(2009)の主張では生徒の学習を向上させる最も有効な教授法のひとつです。

カリキュラム、教授法そして評価は関連があるので、生徒の学習成果の向上は3つの領域全ての変革の結果もたらされるものなのです。それらは皆お互い結びついているのです。

結論

MYPの教授法の実施（40%）、総括的評価の実施（67%）という最大の増加を示した教員は公的なIBワークショップと秀光中等教育学校で週1回CPMという形で開かれた協働学習コミュニティーの両方に参加した先生たち人たちでした。この発見はHargreaves & Fullanの主張すなわち生徒の学習を向上させるためには人的資源と社会的資源を同じように重要視することが必要だということを裏付けるものです。（Hargreaves & Fullan, 2013）。さらに秀光中等教育学校の構成主義的な教育や学習への移行には数年間を要するかもしれませんが、協働学習に参加し他の教員の経験から学ぶ機会が持てるということは全体的に効果的な教育実践を高めるといこともわかります。

効果的な教育実践は2018年から2019年にかけて増加しているのがわかりますがその中にはMYPの「探究的学習（学習者像、グローバルな文脈、重要概念、関連概念、探究テーマ）」、「学習方法（ATL's）」、「形成的評価」、「総括的評価」、「学問の誠実性」そして「個別化」などの実施も含まれます。増加が見られた総括的評価実践は総括的評価の前に生徒にルーブリックを提供したり、振り返り活動として自己・ピア（同僚）評価やより有意義な評価課題を作るツールとしてGRASPS評価課題を使用したりすることなどが含まれます。前述した授業や評価実践の重要性は生徒の学習と本質的に結びついていると言われてはいますが、それらの中には形成的評価のように生徒の学習に最も大きな影響を与えたと主張されているものもあります（Fullan & Hargreaves, 1991; Fullan, 2007）。

ゆえに、教育過程の変革の歩みは遅くても、秀光中等教育学校の教育資源を重要視する取り組みは長期的に多くの恵みをもたらし、「より変化に富んだ世界で成功できるように次の世代に教育を授けるということはより良くなるように、有益なように社会貢献すること」という教育の重要な目標の達成に大いに貢献するだろうと言えます（Hargreaves & Fullan, 2013）。

訳：高橋 郁夫

参考文献

- Fullan, M. (2007). Change the Terms for Teacher Learning. *National Staff Development Council*, 28(3), 35-36.
- Fullan, M. (2016). Amplify Change with Professional Capital. *Learning Forward*, 37(1), 44-46.
- Fullan, M., & Hargreaves, A. (1991). *What's worth Fighting for? Working together for your school*. Massachusetts: The Regional Laboratory for Educational Improvement of the Northeast Islands.
- Hargreaves, A., & Fullan, M. (2013). The Power of Professional Capital. *Learning Forward*, 34(3), 36-39.
- Hattie, J. (2009). *Visible Learning: A synthesis of Over 800 Meta-Analyses Relating to Achievement*. New York: Routledge.
- Leanna, C. (2011). The missing link in school reform. *Stanford Social Innovation Review*, 9(4), 30-35.
- Nias, J., Southworth, G., & Yeomans, R. (1989). *Staff relationships in the primary school: A Study of Organizational Cultures*. London: Cassell.
- Timperly, H., Barrar, H., Wilson, A., & Fung, I. (2007). *Teacher Professional Learning and Development: Best Evidence Synthesis Iteration (BES)*. Wellington: Ministry of Education.

Transforming the Culture of Teaching and Learning: An emerging collaborative learning community

Kerry Winter
Shukoh Middle School

In a constantly changing world, the role of the teacher remains the same: to equip the next generation to be successful in an increasingly changing world, and to contribute to society in a positive and meaningful way. This goal can seem elusive at times, however, our future, and the future of the next generation is dependent on how prepared students are, and how they respond to the challenges which will undoubtedly arise. Investing in the development of knowledge and skills of young people results in social cohesion and economic return in the next generation (Hargreaves & Fullan, 2013).

Shukoh Middle School in association with Sendai Ikuei Gakuen have been making progressive steps towards enhancing the quality of teaching and learning through the implementation of International Baccalaureate programmes. Both schools are in the process of transitioning to an inquiry-based and constructivist pedagogy, which requires significant philosophical, pedagogical, organizational, cultural, and logistical challenges. How is such a transition navigated? And how can these challenges be surmounted in order to successfully achieve the goal? Student learning is intrinsically linked to teacher development, and is dependent on teachers learning continuously (Fullan & Hargreaves, 1991; Fullan, 2007). Which is to say that to invest in teacher development is to invest in student development. In a strategic decision to enhance the teaching and learning within the school, Shukoh Middle School has recently invested heavily in the continual professional development of teachers both inside and outside the school.

This case study will discuss the merit of teacher professional development, collaborative learning communities, and a report summarising the implementation and the effects of an emerging collaborative learning community at Shukoh Middle School from 2017 to 2018.

Professional Capital

The many skills necessary for a teacher require a lot of technical skill and training, from identifying learning difficulties, mediating relational difficulties, differentiating instruction, motivating students to navigating sensitive issues with both students and parents. Developing the Professional Capital to be able to effectively carry out these roles requires strong practice in schools, continuous development, in addition to technical knowledge and high levels of education (Hargreaves & Fullan, 2013).

There are three aspects of professional capital which need to be invested in equally in order to improve student learning. *Human Capital* refers to the quality and talent of individual teachers in the school. This is enhanced through professional development. *Social Capital* refers to the collaborative culture of the group. It draws on the skills and knowledge of others which have been acquired over time and gives access to the human capital of others. *Decisional Capital* refers to the skills and abilities of those who make decisions in regards to the use of human and social capital to achieve the goals of the school. Human capital alone is not enough to improve student learning, as is commonly believed, because it doesn't necessarily guarantee a change in practice due to a lack of follow-up or accountability to the process. Social capital must be equally developed through collaborative learning communities (Hargreaves & Fullan, 2013).

Collaborative Learning Communities

Collaborative learning communities are groups of teachers who gather together to discuss learning engagement and how to improve teaching and learning. Strong collaborative cultures enrich learning and thus improve teaching (Fullan, 2016). Even just being in an environment of effective collaboration positively affects and engages other teachers (Leanna, 2011). When these communities are based on relationships of trust, and take place over an extended period of time, the outcome is improved student performance (Timperly, Barrar, Wilson, & Fung, 2007; Hattie, 2009; Leanna, 2011).

Collaborative cultures are founded on open relationships based on trust, appreciation, transparency and

support both inside and outside of work (Nias, Southworth, & Yeomans, 1989). Characteristics of a collaborative culture include transparency, open discussion in which teachers share areas they're in need of help and support, trust in which teachers do not deem it necessary to defend themselves, and where a mindset of continuous development is the norm (Fullan & Hargreaves, 1991).

However, developing a collaborative culture is a slow process and requires a change in mindset, which takes time. Simply taking a workshop (human capital) does not guarantee changed practices. Teachers need the support of an encouraging and supportive community (social capital) to implement what they learn and thereby improve student learning (Fullan & Hargreaves, 1991; Fullan, 2007).

Shukoh Middle School: An Emerging Collaborative Learning Community

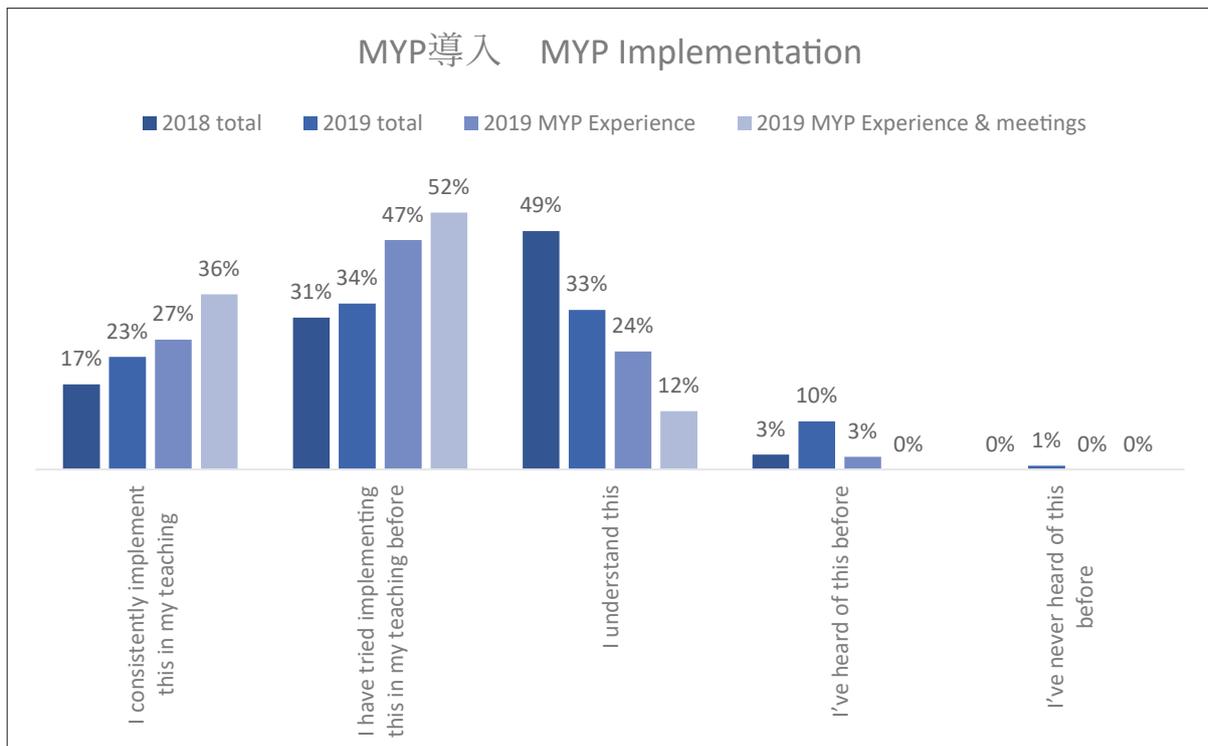
Over the last four years, Shukoh Middle School has sent teachers to a total of sixty-two International Baccalaureate Middle Years Programme (MYP) workshops since 2016, which equates to more than one thousand hours of professional development. Strong professional development is the foundation for strong collaborative cultures (Fullan & Hargreaves, 1991). In many cases taking an IB workshop is the initial step to transitioning to inquiry-based teaching and learning. If this step can be seen as a “push” towards the development of human capital, internal Collaborative Planning Meetings (CPM's) can be seen as a “pull”. CPM's are an investment in social capital, in which new things are “caught” from others, rather than “taught”.

Shukoh Middle School devoted significant time and effort in since 2017 towards the development of social capital in the form of weekly CPM's for MYP, which equates to approximately an additional 40 hours of collaborative learning each year. An agenda is developed at the beginning of the year by the pedagogical leadership team, based on areas to improve on as a school, in accordance with the MYP action plan. At the weekly meetings, teachers are provided with practical ideas for lessons, and opportunities to work collaboratively with others in the same subject area or year level (vertical and horizontal approach), hear from other teachers about best practices, and to undertake in reflective practices together.

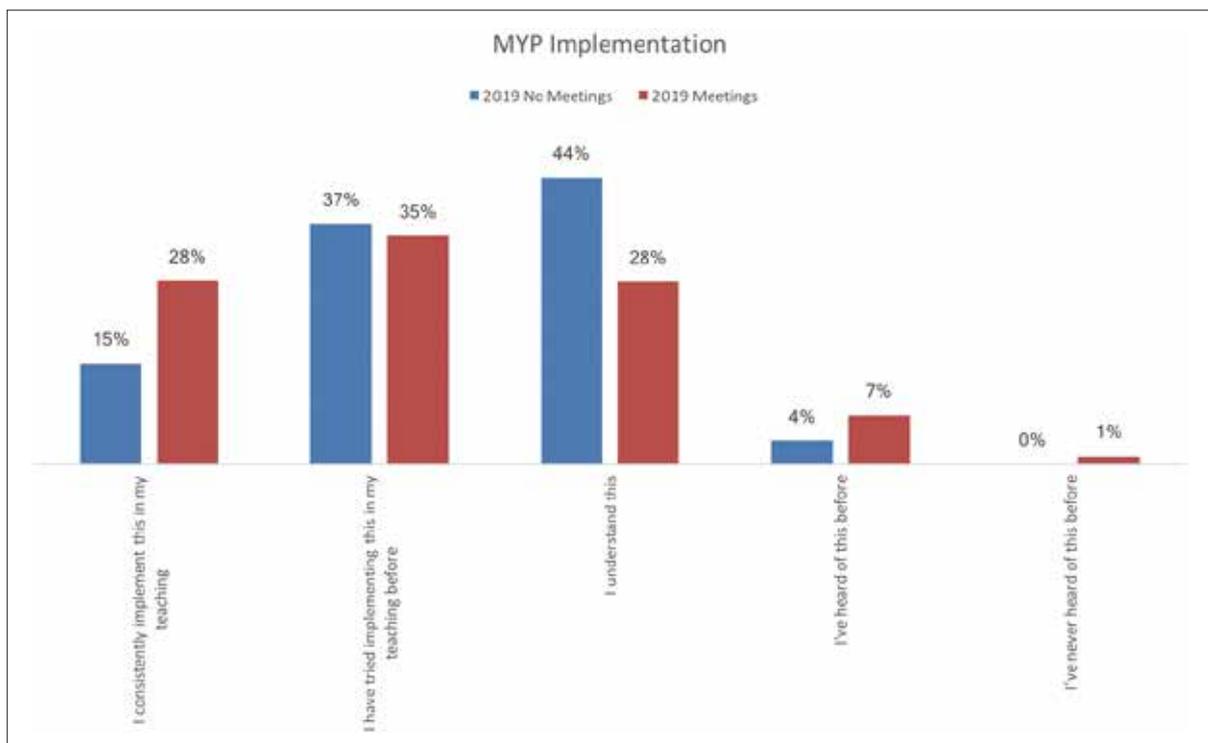
The research states that collaborative learning cultures are an effective way to enhance social capital which improves the quality of teaching, thereby improving student learning. In order to evaluate the extent to which the collaborative learning community at Shukoh Middle School assisted teachers in implementing best practice, teachers were asked to reflect on their pedagogical practices one year apart. There were twenty-one respondents in February 2018 and twenty in February 2019.

MYP Implementation

Teachers were asked to provide a self-assessment of the extent to which they are implementing fourteen different aspects of the MYP in their teaching: The IB Learner Profile, Global Contexts, Key Concepts, Related Concepts, Statement of Inquiry, Approaches to Learning (ATL's), Service Learning, Formative Assessment, Summative Assessment, Academic Honesty, Command Terms, Differentiation, Personal Project, and Inquiry. Teachers were asked the question, “How well do you understand and incorporate (where applicable) the following in your classes?” and given five options: “I've never heard of this before”, “I've heard of this before”, “I understand this”, “I have tried implementing this in my teaching before”, and “I consistently implement this in my teaching”. The graph below compares the average of all aspects of the MYP in each year, and includes a breakdown of teachers who regularly attend CPM's, and who have had experience teaching MYP (to discount the impact of new Shukoh teachers on the data).



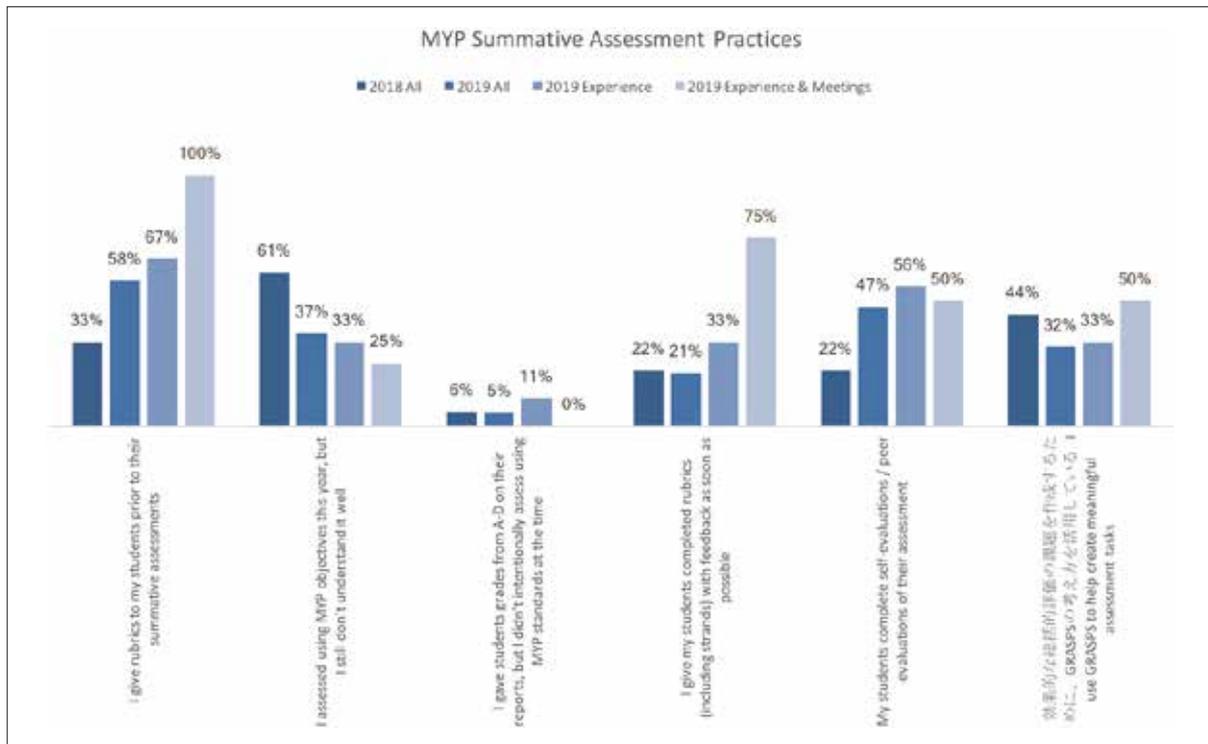
The following graph shows teachers' self-perceived implementation of the same fourteen aspects of MYP between all teachers who regularly attend CPM's in comparison with all teachers who didn't regularly attend CPM's regularly throughout 2018:



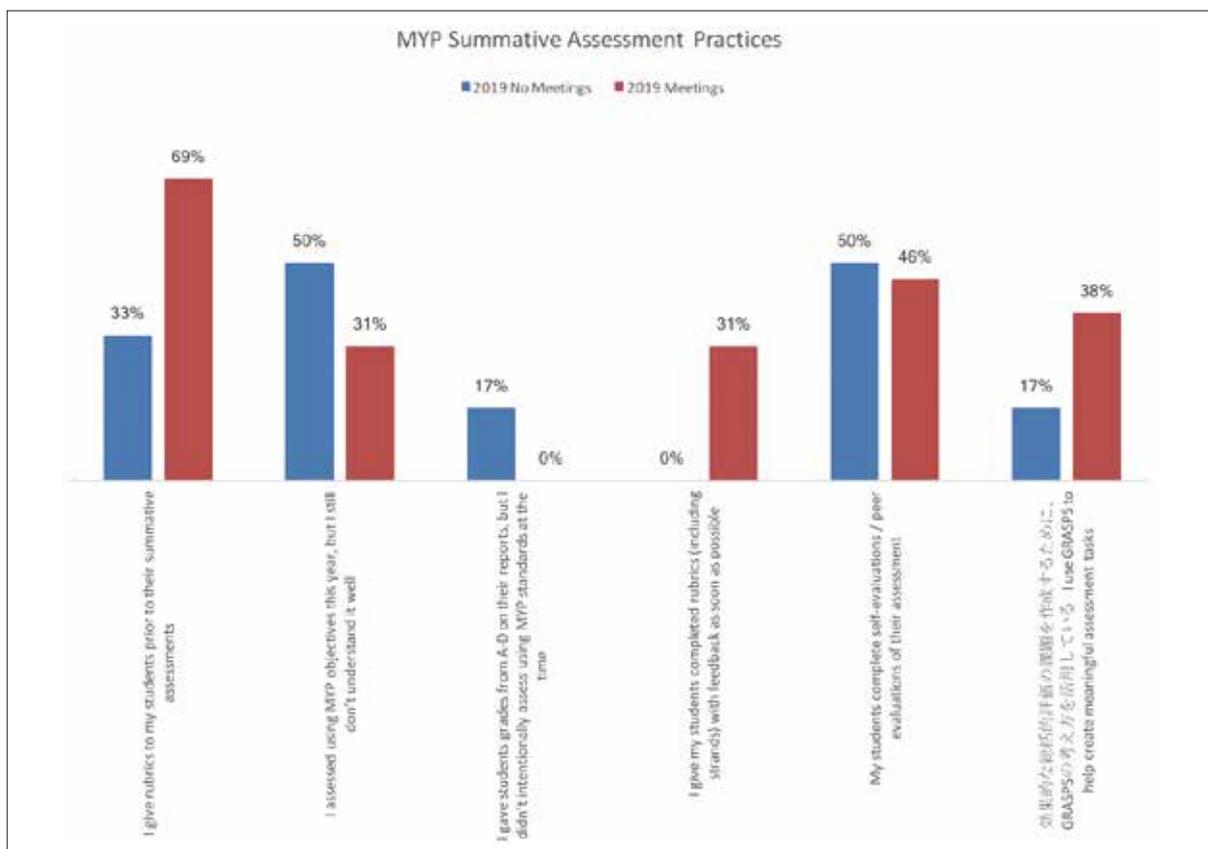
Summative Assessment Practices

Teachers were asked to select which of the following six assessment practices reflected their actual assessment practices throughout the year: Giving rubrics to students prior to summative assessment tasks, assessing students according to MYP objectives but not understanding them fully, giving the students an estimated grade for assessment criteria A-D on their reports but not intentionally assessing MYP objectives during the year, returning completed rubrics with feedback to students as soon as possible after assessment

tasks, asking students to complete self/peer evaluations after their assessment tasks, and using GRASPS to help create meaningful assessment tasks. The graph below compares the average of each assessment practice by year, and includes a breakdown of teachers who regularly attend CPM's, and who have had experience teaching MYP (to discount the impact of new teachers on the data).



The following graph compares self-perceived implementation of the same six summative assessment practices of all teachers who regularly attend CPM's in comparison with all teachers who didn't regularly attend CPM's regularly throughout 2018:



Findings

Analysis of the data of self-reported implementation of the fourteen MYP practices by teachers at Shukoh Middle School between 2018 to 2019 led to the following observations:

- An additional year of experience and attending CPM's (since February 2018) led to a 40% increase in implementation of MYP pedagogical practices.
- There was an overall 26% increase of teachers consistently incorporating Global Contexts in their teaching between 2018 to 2019. Furthermore, an additional year of experience and regular attendance of CPM's (since February, 2018) led to a 51% increase in incorporation of Global Contexts in teaching practices.
- As an entire school body, the number of teachers who are not practicing, but exhibit self-perceived understanding of MYP pedagogical practices, has decreased by 16% between 2018 to 2019.
- These results suggest that it takes teachers at Shukoh Middle School approximately two to three years to transition to an MYP style of teaching and learning.

Analysis of the data of self-reported implementation of summative assessment practices by teachers at Shukoh Middle School between 2018 to 2019 led to the following observations:

- Between 2018 to 2019, there was an overall increase of 25% of teachers who assess according to MYP standards.
- An additional year of experience and regularly attending CPM's (since February 2018) led to a 67% increase in assessment according to MYP standards.
- 100% of experienced teachers who regularly attend CPM's are assessing according to MYP standards.
- An additional year of experience and attending CPM's (since February 2018) led to a 53% increase in returning completed rubrics to students with formative feedback as soon as possible.
- There was an overall 25% increase of teachers requiring students to complete self or peer assessments between 2018 to 2019 which Hattie (2009) claims is one of the most effective methods to improve student learning.
- Teachers who regularly attend CPM's were 21% more likely to use GRASPS to create meaningful assessment tasks.

Because curriculum, pedagogy, and assessment are linked, increase in student learning outcomes will come with a reform in all three areas. They all inform each other.

Conclusion

The teachers who demonstrated the greatest increase of implementation of pedagogical (40%) and summative assessment practices (67%) were those that participated in *both* official IB workshops *and* the collaborative learning community in the form of weekly CPM's at Shukoh Middle School. This finding supports Hargreaves & Fullan's claims of the necessity of the equal investment in human capital *and* social capital in order to improve student learning (Hargreaves & Fullan, 2013). Furthermore, it can also be noted that the transition to a constructivist style of teaching and learning at Shukoh Middle School takes several years, however, participation in a collaborative learning culture and having the opportunity to learn from others' experience enhances the implementation of effective teaching practices as a whole.

Effective teaching practices which have seen an increase between 2018 to 2019 include the implementation of MYP Inquiry practices (Learner Profile, Global Contexts, Key Concepts, Related Concepts, Statement of Inquiry), ATL's, formative assessment, summative assessment, academic honesty, and differentiation. Summative assessment practices which have seen an increase include providing rubrics to students prior to summative assessments, self and peer assessments as reflective practices, and the use of GRASPS as a tool to make more meaningful assessment tasks. Improvement of the abovementioned teaching and assessment practices are said to be intrinsically linked to student learning, some of which have been claimed to have the greatest effect on student learning such as formative assessment practices (Fullan & Hargreaves, 1991; Fullan, 2007).

Therefore, although the transformative educational process is slow, the investment in professional capital by Shukoh Middle School can be said to reaping long term benefits, and contributing to the overarching goal of education: Equipping the next generation to be successful in an increasingly changing world to contribute to society in a positive and meaningful way (Hargreaves & Fullan, 2013).

Bibliography

- Fullan, M. (2007). Change the Terms for Teacher Learning. *National Staff Development Council*, 28(3), 35-36.
- Fullan, M. (2016). Amplify Change with Professional Capital. *Learning Forward*, 37(1), 44-46.
- Fullan, M., & Hargreaves, A. (1991). *What's worth Fighting for? Working together for your school*. Massachusetts: The Regional Laboratory for Educational Improvement of the Northeast Islands.
- Hargreaves, A., & Fullan, M. (2013). The Power of Professional Capital. *Learning Forward*, 34(3), 36-39.
- Hattie, J. (2009). *Visible Learning: A synthesis of Over 800 Meta-Analyses Relating to Achievement*. New York: Routledge.
- Leanna, C. (2011). The missing link in school reform. *Stanford Social Innovation Review*, 9(4), 30-35.
- Nias, J., Southworth, G., & Yeomans, R. (1989). *Staff relationships in the primary school: A Study of Organizational Cultures*. London: Cassell.
- Timperly, H., Barrar, H., Wilson, A., & Fung, I. (2007). *Teacher Professional Learning and Development: Best Evidence Synthesis Iteration (BES)*. Wellington: Ministry of Education.

平成30年度 仙台育英孔子課堂のあゆみ

孔子課堂長 板垣 徳昭

一昨年5月に協定書調印及び銘板披露除幕式を行って以来、いろいろな文化交流や語学研修に取り組んできた仙台育英孔子課堂の活動も今年で3年になります。

一昨年は、仙台・中国映画週間への協賛及び参加、広東外語外貿大学学生芸術団本校公演、日本孔子学院協議会総会、桜美林大学孔子学院10周年記念式典への参加、新潟総領事館、工学院大学孔子学院訪問、北京航空航天大学副学長先生及び関係者の皆様をお招きし、講演会、研修会を実施するなど、様々な活動を実施しました。また年度末には本校生徒12名が、語学研修で提携校である北京航空実験学校に一週間お世話になり、様々な研修を体験してきました。

設立2年目の昨年は、5月、孔子課堂設立一周年を記念して、前工学院大学孔子学院長の西園寺一晃先生をお招きしご講演をいただいたのを皮切りに、7月には、北航実験学校中等部の卓球・バドミントン競技を得意とする生徒8名が本校を訪れ、本校の卓球部・バドミントン部生徒と合同練習、試合等を通して大いに交流を深めました。

10月には、「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト東日本予選大会（工学院大学）、宮城県日中友好協会主催の日中国交正常化45周年記念中国語スピーチコンテストに本校中国語選択者が参加しました。また、「育英祭」に合わせて「孔子学院の日」イベントとして、北京航空航天大学実験学校の生徒芸術団（学生12名）を招聘し、京劇及び中国伝統楽器や民族楽器の演奏、中国舞踊・民謡の披露を企画しました。

平成30年1月には、宮城華僑華人女性聯誼會「2018 春節国際文化祭」（富谷武道館）春節を祝う会（生徒6名参加）でパフォーマンス、交流会を通して参加者同士の親睦を深めました。

校内での中国春節を迎えるイベントとして2月に、中国人留学生と中国語選択者との交流親睦と中国伝統文化を知る「中国春節パーティー」を開催し、約80名が参加。クイズ、書道、羽蹴り、歌、餃子試食と大いに楽しみました。

そして、平成30年3月には、本校宮城野校舎にて、仙台育英孔子課堂理事会を開催しました。また、第2回仙台育英孔子課堂北京語学研修（北京航空航天大学実験学校訪問と語学研修）を実施し、外国語コース中国語選択生徒等、22名が参加しました。

さて、本校孔子課堂は、設立3年目を迎え、活動を拡充した昨年度を引き継いで、高校らしい孔子課堂活動を目指し、校内での中国語の普及とレベルアップ、中国提携校中・高校生との交流と、昨年にも増して企画行事を進めてきましたが、今後とも、両国生徒たちにとって成果のあがる活動、両国の言語・文化理解の促進及び交流・友好の発展とグローバルな人材育成を目指していきたいと思っています。

では、今年度これまでに実施された行事・事業について、ご報告致します。

2018年度仙台育英孔子課堂事業

2019.3.27

	月 日	事 業 内 容 (会場)
1	5月31日(木)	○仙台育英孔子課堂設置二周年記念式典 外国語コース全生徒及び留学生参加 (本校宮城野校舎ゼルコバホール) 講演 工学院大学孔子学院長 高橋恵子 氏 北京語学研修発表及び生徒パフォーマンス
2	7月15日(日) ～22日(日) 7月22日(日)	○北航実験学校交換交流事業 13名来校(うち引率教員1名) スポーツ交流(バレーボール部)・授業体験及び文化交流 (北京台風のため23日(月)午後帰国) ○「漢語橋」スピーチコンテスト東日本大会参加 4名参加 (工学院大学)
3	9月20日(木)	○中華人民共和国成立69周年祝賀レセプション 4名参加 新潟総領事主催 (ホテルオークラ新潟)

4	10月6日(土) ～7日(日) 10月19日(金) ～20日(土) 10月27日(日)	○「孔子学院の日」&「育英祭」 孔子課堂文化活動展示 ○日本孔子学院協議会総会参加 2名参加 (兵庫医科大学中医薬孔子学院) ○全日本中国語スピーチコンテスト東北大会 4名参加 (仙台市青年文化センター)
5	11月11日(日)	○工学院大学孔子学院10周年記念式典 5名参加 (京王プラザホテル)
6	12月4日(火) ～5日(水)	○全世界孔子学院大会 1名参加 (中国成都市)
7	1月27日(日) 1月31日(木)	○華僑華人留学生新春交換会 5名参加 (仙台メトロポリタン) ○仙台育英学園孔子課堂2019年新年会(春節パーティ)85名参加 (多賀城校舎レオホール)
8	2月9日(土)	○宮城県仙台市日中友好協会定期大会 4名参加 (宮城自治会館)
9	3月17日(日) ～24日(日) 3月27日(水)	○第3回仙台育英孔子課堂北京語学研修 生徒11名、教員2名 (北京航空航天大学付属実験高等学校) ○第3回仙台育英孔子課堂理事会 (北京航空航天大学) (仙台育英学園 宮城野校舎)

1 5月

仙台育英孔子課堂設置二周年記念講演会(本校宮城野校舎ゼルコバホール)

本校での、孔子課堂設立から二周年を記念して、工学院大学孔子学院長の高橋恵子先生をお招きし「夢のタネをまこうー中国語と歩んだ25年ー」をテーマに本校ゼルコバホールにてご講演いただきました。またこの中で、語学研修の成果発表、中国語での歌や武術披露等のパフォーマンスを行いました。この講演会には、外国語コース全生徒及び留学生が参加しました。

平成30年5月31日(木)



北航実験学校交換交流事業

北航実験学校中等部生徒12名と引率教員1名が本校を訪れました。今回はバレーボール競技を得意とする生徒で、本校のバレーボール部生徒との合同練習、試合等、外国語コース生徒との交流を通して大いに交流を深めることができました。また校内及び校外での様々な研修に参加し、日本文化に触れ教養を深めました。

平成30年7月15日（日）～22日（日）



「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト東日本予選大会(工学院大学)

第11回「漢語橋」世界中高生中国語コンテストに、本校中国語選択者4名が参加しました。

平成30年7月22日(日)



3 9月

中華人民共和国成立69周年祝賀レセプション(ホテルオークラ新潟)

新潟市のホテルオークラ新潟で開催された中華人民共和国駐新潟総領事主催の中華人民共和国成立69周年祝賀レセプションに4名出席しました。

平成30年9月20日(木)



4 10月

「孔子学院の日」 and 「育英祭」

「孔子学院の日」のイベントを「育英祭」発表に合わせて実施しました。孔子課堂を訪れた生徒に孔子課堂の紹介を模造紙に書いて行いました。

平成30年10月6日（土）～7日（日）



日本孔子学院協議会総会(兵庫医科大学)

午前には「日本孔子学院の連携と協力体制の強化」他のテーマで全体協議を行い、引き続き2校の孔子学院の活動事例発表・質疑応答がなされました。午後には、さらに2校の孔子学院の活動事例発表・質疑応答がなされ、そのあと孔子学院本部代表者（駐大使館。国家漢弁）による今後の展望・期待についての話があり、参加校との意見交換がなされました。

平成30年10月19日（金）～20日（土）



5 11月

工学院大学孔子学院10周年記念式典(京王プラザホテル)

本校の上部組織でもあり、常日頃支援をいただいていることもあって本校からは5名参加し式典の受付等にも協力しました。午前ホテルでの記念式典、懇親会のあと、午後から工学院大学新宿キャンパスにて、日本人初の宇宙飛行士秋山豊寛氏の講演会が開催されました。

平成30年11月11日（日）



全日本中国語スピーチコンテスト東北大会(仙台市青年文化センター)

宮城県日中友好協会主催、日中国交正常化45周年記念中国語スピーチコンテストに本校中国語選択者4名が参加しました。

平成30年10月27日（日）



6 12月

全世界孔子学院大会（中国成都市）

本校より1名参加しました。

平成30年12月4日（火）～5日（水）



7 1月

華僑華人留学生新春交換会（中国駐新潟総領事館主催・仙台メトロポリタン）

本校より孔子課堂担当教員5名が参加。たくさんの留学生との交流、親睦を図ることが出来ました。

平成31年1月27日（日）



校内での中国春節を迎えるパーティ（新年会）

中国人留学生と中国語選択者との交流親睦と、中国伝統文化を知る「中国春節パーティー」が開かれ、歌と演奏の他、福笑い、椅子取り、羽蹴りなどのゲーム、小豆団子、胡麻団子の試食と大いに楽しみました。

平成31年1月31日（木）





8 3月

第3回仙台育英孔子課堂北京語学研修(北京航空航天大学附属実験高校)

外国語コース・特進コース中国語選択生徒等11名参加

仙台育英孔子課堂訪問日程(3/17-3/24)												
期日	第一時間	第二時間	休憩	第三時間	第四時間	第五時間	昼休み	第六時間	第七時間	第八時間	夕食	備考
	8:00 - 8:40	8:50 - 9:30	9:30-9:50	10:00 - 10:40	10:50 - 11:30	11:40 - 12:20	12:20 - 13:40	13:40 - 14:20	14:30 - 15:10	15:20 - 16:00		
3/17 (日)							仙台→北京(CA156 21:35) 到着、ホテルチェックイン手続き					
3/18 (一)	①9:00-11:30 北航大学国際学院及び校舎見学 ② 11:30午餐(地下教員食堂)						昼休み	①14:00-15:00中国語授業 ②15:00-16:00武術体験授業		ホテルレストラン		
3/19 (二)	10:00-17:00 故宮博物館見学(昼食持参); 中国伝統的な街見学(后海, 南锣鼓巷)									食文化体験-火鍋		
3/20 (三)	9:00-16:00 万里の長城—八達嶺長城見学(レストランで昼食事)									夕食各自(食事手当30円/人)		
3/21 (四)	9:00-10:00中国語授業 10:30-11:30飛行機モデル製作体験授業 11:30昼食事(地下教員食堂)					昼休み	14:30-16:00 伝統的な楽器体験授業	16:20-17:30 选修课观摩	ホテルレストラン			
3/22 (五)	9:00-10:00中国語授業 10:30-11:30飛行機操作模擬授業 11:30昼食事(地下教員食堂)					昼休み	14:00-15:00伝統的な水墨画体験授業	15:00-16:00健美操	ホテルレストラン			
3/23 (六)	10:00-17:00 北京動物園、頤和園、オリンピック公園見学(レストランで昼食事)								見学地周辺のレストランで夕食			
3/24 (日)	北京→仙台(CA155 7:20)											

平成31年3月17日(日)～24日(日)





北京語学研修感想(3名選抜)

1G1 酒井 玲奈

今回、中国語研修で8日間中国へ行き、私は文化の違いなど、たくさんのことを学びました。その中でも2つ驚いたことがありました。

1つ目は、交通ルールが、日本よりあまり厳しくないということです。信号機の設置されている割合が日本より低いというのかもしれませんが、道路を渡る際、歩行者とバイクや車との距離がとて近くなるのが度々ありました。そして、勢よくバイクや車が来るので、最初の1~2日目は、渡るタイミングが分からず困ることが何度かありました。

2つ目は、大学・学校の環境です。今回、北京航空航天大学という航空系に強い大学に行き、実際に大学の付属高校で授業を受けた際、パイロットを目指している人などが使う飛行機操作のシュミレーターを使っての授業がありました。日本の高校ではなかなか経験できない授業でした。シュミレーターを使って飛行操作を体験したところ、機体のバランスを保つのが非常に難しく、墜落しそうな場面もありました。

そして、この大学は学生数3万人ということで、校地がとて広く、学生と教員だけが校内に入れるのかと思っていたら、一般の人も校内にあるアパートに住んでいて、私たちが今回泊まったホテル、そしてスーパーや銀行、飛行機を展示している博物館などがあり、校内が一つの町のような感じでした。

今回の中国語研修を通して私は、中国語、そして中国文化に触れることができ、これからも大学で中国語を学び、将来また中国に行きたいと思いました。

1G2 佐藤 舞桜

私が、中国語学研修に参加して一番感じたことは、食の大きな違いです。私は、今まで海外に行ったことはなく、今回の中国語研修が初めての海外でしたが、日本と大きく異なっており、驚きました。当然ながら、日本と中国では米の種類が異なります。それから行って気づいたのは、料理に使用する油の匂いが違うように思いました。味も少し変わっていて、日本の中華街で食べた中華料理とも違う味がしました。私は、正直に言うと、向こうの料理があまり好きになれませんでした。その時に私が考えたことは、「もしかしたら、中国の人が、日本で日本の料理を食べたら、私と似たような反応をする人がいるのではないだろうか。」ということです。私は日本食に慣れすぎていたため、今回このように思ったのだと思います。しかし、この先、どこか海外へ行った時に、同じように感じてしまったらもったいないような気がするので、これからは、日本で食べる料理とは大きく異なり、あまり好きでもない料理でも、「この国の人たちはこういう料理を食べるのか」というように考え方を変えるようにします。

そしてもう一つ、私が大きな違いを感じたのは、物価です。中国は私が思っていたよりも物価が安いものが多く、最初はとて驚きました。しかも質が悪いというわけでもなく、本当にすごいと思いました。ですから、今回の研修で、中国の良さがさらに一つ分かることができたので、良かったと思います。

一週間という短い時間でしたが、新しい友人もでき、様々な体験や経験をすることが出来ました。これからの生活で生かしていけることや、中国に行って感じた「自分のこういうところを改善すべきだな。」と思ったところを改善できるようにしたいと思います。とても楽しい研修でした。

1G3 今野 遥香

私は今回、初めて中国に行きました。

普段の中国語の授業で単語や簡単な文法を学習していますが、現地で話の内容を聞き取ることはやはり難しかったです。武術体験や水墨画体験など、実際に行かないと体験できないこともたくさんあり、貴重な体験ができました。

故宮の見学に行った時、歴史を話してくれたガイドさんの話を聞いて中国の歴史に興味を持ちました。「百聞は一見に如かず」という言葉がありますが、本当にその通りだと思います。数時間だけの滞在でしたが、自分の目で見てたくさん発見ができました。

英語が通じず言葉の壁を感じましたが、分かりやすいように紙に書いたりジェスチャーを交えて話してくれたりなど、現地の方の優しさを感じることも多々ありました。今の時代、英語が話せることは決して珍しくないでしょう。社会に出た時に必要とされる人間になるために、英語だけではなく、中国語も自分の話せる言語の一つにできたらいいなと思っています。とても内容の濃い一週間を過ごすことができました。

ありがとうございました。

第3回仙台育英孔子課堂理事会(於：北京航空航天大学、本校宮城野校舎)

平成31年3月27日(水)

9 孔子課堂今後の課題

教育事業：中国人講師による、本校生徒の中国語授業の充実と質の向上
中国人講師による講演・中国語履修の他コースへの拡大
中国語検定試験への積極的参加
本校生徒への特別講座の開設（体育・音楽・芸術・文学・料理等）
中国語講座、中国文化の一般対象者への拡大
三周年記念行事

課外・交流事業：

孔子課堂ルーム・ミニ図書館の設置
短期研修旅行・長期留学プログラムの実施
北京航空航天大学及び中国各大学への進学

2019年度仙台育英孔子課堂事業計画(案)

2019.3.27

月 日	事業内容(会場)
7月	北航実験学校交換交流事業 スポーツ交流・授業体験及び文化交流 「漢語橋」スピーチコンテスト東日本大会参加
10月	「孔子学院の日」&「育英祭」 日本孔子学院協議会総会参加 全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会参加
12月	全世界孔子学院大会参加
1月	宮城華僑華人留学生新春交歓會参加 中国春節パーティーイベント
2月	宮城県仙台市日中友好協会定期大会
3月	第4回仙台育英孔子課堂北京語学研修準備 理事会準備

I 研究報告

(1) デュアルランゲージで行うTOK授業のケーススタディ —PCK（授業を想定した教科内容知識）を意識したバイリンガル授業—

外国語コース 石田真理子

〔キーワード：デュアルランゲージ、TOK、バイリンガル授業、チームティーチング、PCK〕

はじめに

本稿の目的は、二点である。第一は、国際バカロレアディプロマプログラム（以下IBDP）のコア科目である「知の理論」（TOK）の授業においてPCK（Pedagogical Content Knowledge、授業実践のための教科内容知識）はどのように機能するかを明らかにすることである。第二は、TOKにおける英語と日本語のバイリンガル授業の効果と課題を考察し解明することである。

文部科学省（2017）によれば、国際バカロレアの認定を受けている学校は、平成29年6月1日現在、世界140以上の国・地域において4,846校である。さらに最新の情報は国際バカロレア機構（IBO）からも発表されていない。周知のとおり、平成25年度からは、文部科学省は、IBOとの協力の下、DPの科目の一部を日本語でも実施可能とする「日本語DP」の開発・導入を推進しており、一部の認定校で平成27年4月から日本語DP課程を実施している。

本校は日本語で行うIBデュアルランゲージプログラムを実施した日本で最初的一条校であるが、2年目からTOK授業を英語と日本語の両方を使用したチームティーチング（TT）を行なっている。世界中のIB校でもバイリンガルのTTで行なっているTOKの授業は珍しい例であると推測できる。英語のTOKテキストブックの内容をどれだけ日本文化へ応用することが可能か、またその限界など、本学園におけるTOKの授業内容を示すことで、バイリンガル授業の効果や問題点を紹介する。

1 本校のIBプログラム導入の流れ

本校では、2013年2月に国際バカロレア（以下IB）ディプロマ・プログラムの認定を受け、すぐに次の2学年からIBDPの授業を開始した。英語と日本語のデュアルランゲージで実施し、3年が経過した。IBDPは本来英語だけで学ぶ教育プログラムであるが、先に述べたとおり、文部科学省とIBOとの合意により、日本で普及させるためにIBディプロマ・プログラムの一部科目の授業と試験、評価を日本語で実施する日本語DPが導入された。本校ではEnglish A、English Bと芸術（musicまたはvisual arts）以外の教科目を日本語で受講できる。

本校におけるIBクラスの生徒数は、一昨年卒業した1期生は8名で、国籍の構成は、シンガポールとのミックスとマレーシアからの帰国子女を含む日本人6名と中国人2名であった。昨年の卒業生である2期生も8名でフィリピンとのミックスを含む日本人4名とインドネシア人2名、韓国人1名、ウガンダ人1名である。そして現在3学年に在籍する3期生は19名でカナダとのミックスを含む日本人が14名、インドネシア人1名、中国人3名、セネガル人1名である。

IBの教育課程は、「IB教育理念」に基づいて「国際性を発達させる」こととして規定されており、授業を通じて「IB学習者像」の10の資質が育成される。IBDPのコア科目であるTheory of Knowledge（「知の理論」以下TOK）は、IBDPの基盤となる考え方の授業である。本校のように多様な生徒たちを受け入れている場合、彼らにTOKの授業を実施するうえで、複雑な概念をいかにわかりやすく伝えるかが成功のカギとなる。

2 学習指導要領の変化

昨今の情報化やグローバル化といった社会変化に伴い、大きなパラダイム転換が求められる。これまで正しいとされていたことが社会的に通用するとは限らない。このような状況に対応するためには、その場その場の状況に応じて正確な判断を下せる知識とそれを使いこなすスキルが必要である。たとえ、それが教科書に書かれている内容だとしても、見方を変えれば、事実の受け止め方も変わってくることもある。自立した学習者は、固定観念を捨て、常識を疑う姿勢が身につけていなくてはならない。生徒たちは、従来のように読み書き能力とも訳される「リテラシー」を身につけるだけでは不十分であり、それを応用する力まで含んだ「コンピテンシー」が求められる。

新学習指導要領においても、指導方法の質的転換が導入され、従来とは異なる新たな学びの方法を3つ推進している。「アクティブラーニング」「協働学習」そして「教科横断型授業」である。まず、「アクティブラーニング」

であるが、中教審（2016）で、高等教育においては、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」と定義されている。次に、「協働学習」は、グループ単位で課題を解決していく活動であり、文部科学省（2015a）によれば、問題を発見し、その問題を定義し、解決方法を探して解決につなげていくプロセスの中では、情報を他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）が必要である。そして「教科横断型授業」は、文科省初等中等教育局（2015b）は、「これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成り立たせていくことが課題となる。そのため、各教科等における学習の充実はもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める観点から、教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整える必要がある」としている。

日本の教育において新しいとされるこれらの教育方法は、すでにIBカリキュラムにおいては実践されているものであり、教科横断型授業を行う上で架け橋になるのがTOKなのである。

3 TOK「知の理論」の意義

TOKは、先に述べた通り、IBプログラムのコア科目の一つであり、「批判的（クリティカル）に思考して、知るプロセスを探求する授業」である。知識というものについて、異なる角度やさまざまな視点から思考していく。TOKの授業は、常に次の2つの問いを出発点としている。『「私（私たち）は知っている」と言うとき、それはどのようなことを意味するのか。』という核心となる問いと、それに関連する『その知識は、何に基づいているのか。』という知識の根源（出どころ）に関する問いである。

TOKは、要件とされる100時間の授業時間を2年間かけて議論などを経験しながら理解していく。具体的には、IBから出題される6つの課題文から1つを選んで書くエッセイと教室内で行うプレゼンテーションを通して評価する。エッセイはIBが評価を行う外部評価、プレゼンテーションは学校の担当教師が評価を行う内部評価で採点される。TOKは、ディプロマ・プログラムを履修するすべての生徒にとって学習の土台となるものであるが、総合的な学習の時間や現代国語、LHRの時間などに、IB校でなくともTOKを取り入れている灘高等学校のような学校もある。

パラダイムシフトが求められる学力観の転換の中、21世紀型の学力を身につけさせるには、誰がどういう背景で伝えたものなのか、その知識は鵜呑みにしてしまっているのか、クリティカルに考える力が必要である。クリティカル（critical）は「批判的」と訳されることが一般的であるが、対象をしっかりと見極めて評価し、よく判断することで、相手の過ちを指摘するといった日本語のニュアンスとは異なる（福田、2015）。TOKは、異なるバックグラウンドや異なる見方を持った他者と話すことにより、自分自身の価値観を問い直す機会を設ける科目であり、知識を批判的（クリティカル）に吟味することで、「信念に基づく知識」とでも呼ぶべきものに到達しようとする。TOKで自分や他者の動機、信念、思考プロセス、感情的反応が所有する知識や所有することのできる知識にどう影響するかを振り返ってみることを学習するのである（国際バカロレア機構、2014）。

TOKでは、構成主義の論理に基づき、授業を学ぶ知識は教科あるいは学問によって性質が異なるため、知識の組み立て方も異なり、それぞれの教科には限界があることも学ぶ。

4 授業のための教科内容知識（PCK）

教師はさまざまな状況下の生徒に対して授業を行うため、「授業のための教科内容知識」（以下PCK）（ショーマン、1987）に統合される知識も多様である。ショーマン（1987）は教師の知識の主なカテゴリーを具体的に示し、ボールら（2008）はこれを基に、算数の計算の指導の例を挙げ、教師がどのように授業準備をすべきかを述べた（石田、2014）。授業展開の中には、単なる教科の知識だけでなく、PCKやそれに統合される多様な知識も必要である。ボールら（2008）は、この概念をまとめ、図にした。それを日本語としてわかりやすく改変したものが図1である。

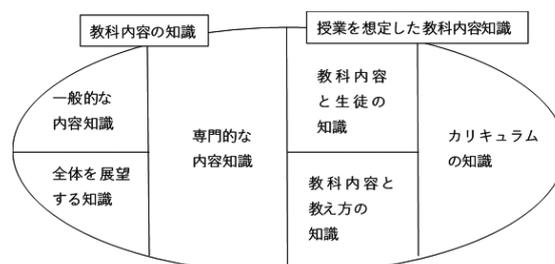


図1 授業実践のための教科内容知識
Ball et al. (2008) をもとに筆者改変

この図からもわかるように、教員には「教科内容の知識」だけでなく「授業を想定した教科内容知識」が必要である。ボールらは、まず教師が「教科内容の知識」（図1の左半分）を持って授業に臨んだ場合の生徒の達成度を調査し、次に別の授業において「授業を想定した教科内容知識」（図1の右半分）を持って授業を行った場合、教師の職能成長に対してどれだけのようによった効果になったかを示した（ボールら、2008）。ボールらはこの研究により、「授業を想定した教科内容知識」は、授業を行う際、教師にも生徒にも有益であることを明らかにした。彼らは、授業を想定した内容知識というはっきりとしたカテゴリーがあれば、教師教育や教師の職能成長と同様にサポート教材をどうデザインすべきかを明確にすることができるかもしれないと述べた。さらにボールらは、これまでも教師の内容理解の知識は教育改善の研究に非常に重要とされていたが、その開発と研究の方法は均一ではなかったとした上で、教師は授業に関してどのくらい準備しておけばいいのかではなく、何に焦点を当てるかが重要だとしている（ボールら、2008／石田、2014）。

図1でPCKを説明すると、左側「教科内容の知識」では、大学で学ぶ「一般的な内容知識」だけではなく、その知識がどういう流れの中のどこに位置づくのか、「全体を展望する知識」が必要であり、その内容を深く掘り下げた「専門的な内容知識」が求められる。さらに「授業を想定した教科内容知識」としては、最初に「教科内容と生徒の知識」を把握しておく必要がある。これは、教科内容の知識に加えて、授業を受ける生徒の情報を得ておくことである。また教授内容を学習段階に応じて配列した教育課程の知識も求められるため、「カリキュラムの知識」が必要である。

IBDP教育の中心に位置づけられるTOKは、その目的を生徒に確実に理解させる必要がある。理解が不十分であれば、TOKの概念を使ってプレゼンテーションをすることもエッセイを執筆することも不可能となり、また、6グループ全ての教科を学びながら学習像を実現させて行くのも困難となる。TOKにこそ、確実なPCKが必要であるといえる。

PCK研究の成果は、具体的な授業をもとに省察することで、自身の見方に気づき、授業のための新たな知識を形成できる点にある。生徒たちの学習過程の知識と結びつけたり、先輩教師や同僚など他者の言葉によってPCKを発展させたりすることで教師は自身の省察を促す。新しい教科内容を学ぶのではなく、教材に対する見方を転換すると、生徒からの視点から、教科内容の知識をとらえるようになる。

5 本校のTOK授業内容

現在出版されているTOKのテキストは、若干数日本語に訳されたり説明されたりする教書もあるものの、英語によるものがほとんどである。我々が実践している授業では、英語から日本語に訳す単なる翻訳ではなく、英語で伝える部分は各国の、また日本語で伝える場合は日本のバックグラウンドに根ざした解釈を提案することで、生徒たちが理解しやすく工夫した教材を使用している。

本校は、いずれの学年も留学生と日本人の生徒が混在して多様な生徒構成になっており、複雑なTOKの考え方を理解するためには、英語だけあるいは日本語だけで行う授業では対応するのが難しいため、本校ではアメリカ人と日本人（筆者）の教員でチームティーチングを行うことにした。

2年間のユニットプラン作成には、オックスフォード出版の「Theory of Knowledge Course Companion」のテキストブックを用い、各単元を2年間に割り当てる。このテキストブックは、大きく知識の構築：主な概念、知るための方法、知識の領域、TOK評価のためのサポートの4つの部分に分かれている。TOKの主要な用語である「知るための方法」は、言語、知覚、感情、理性（論理、理由）、想像、信仰（信念）、直観、記憶の8つがあり、「知識の領域」にも数学、自然科学、ヒューマンサイエンス（人間科学）、芸術、歴史、倫理、宗教的知識の体系、土着の知識の体系の8つの領域がある。IBOのTOKガイドブックによれば、「知るための方法」は少なくとも4つ、「知識の領域」は少なくとも6つを授業で学習することになっているが、本校では全てを生徒に紹介した。活動や議論をさせるために説明する際、英語で伝えた後、日本語でも伝える。それは単なる翻訳ではなく、例を挙げるときに、英語では英語圏としてわかりやすい例を挙げ、日本語では日本人の生徒になじみのある例を挙げるもので、それぞれの文化に即して理解しやすいようにしている。本校ではデジタルポートフォリオのマネジバック（managebac）を使用している。これは教員と生徒だけでなく保護者もアクセスして見ることが可能である。カリキュラムや指導計画、課題の提示や提出、評価、連絡などもこのシステムを用いている。マネジバックで生徒に課題をアップロードするときも英語と日本語両方で指示を載せている。一つの言葉に対しても、文化的背景により異なるイメージを持つ。それを無視して、テキスト通りに伝えても深い理解を得ることは難しい。伝え方や事例を吟味するため、授業準備の話し合いには2～3時間を要する。

例としては、各「知識の領域」の特徴や限界を考えさせる活動として、留学生にはイチジクを、日本人生徒にはハスを記述したものをmanagebacにアップした。どちらも自然科学、芸術、土着の知識の体系、そして宗教的知識の体系の領域からの説明文やビデオなどを載せ、その違いを認識させた。TTを実施しているアメリカ人教員が、様々な領域から見た分析ができるものとしてイチジクを挙げたが、日本人の文化としてはハスがいいのかと考えた。

この方法を、PCKを示した図1で考えてみると、IBOで作成しているTOKガイドブックが「一般的な内容知識」

であり、オックスフォードなどから出版されているいわゆるテキストブックが「全体を展望する知識」となる。教員がこのような指南書をもとに得た知識は「専門的な内容知識」であり、左半分の「教科内容の知識」が形成される。右半分の「授業を想定した教科内容知識」がこのバイリンガル授業では独特であると考えられる。生徒の背景を考えて内容を吟味するのが「教科内容と生徒の知識」となり、教員2人で工夫を加えた教授法が「教科内容と教え方の知識」となるであろう。ユニットプランで明確に2年間のスケジュールを組み立てることで「カリキュラムの知識」が完成する。教員同士も背景が異なり、お互いが理解できるまでじっくり話し合うことで深いPCKが得られる。

我々教員が準備段階で最も時間をかけているのが、「教科内容と生徒の知識」を考える部分である。生徒がもともと知っている内容を扱うべきか、全く知らないであろう内容を生徒たちでリサーチさせるべきかは、どちらが授業内容を理解しやすいかとそれに割くことができる授業時間数で判断する。

6 受講生徒へのアンケート調査

本研究のために、TOKの授業をバイリンガルで受講している当時高校2年生本校のIB3期生の生徒19名に、バイリンガル授業についてのアンケート調査（2018年2月7日～14日実施）を行った。記名式で、質問として「TOKに授業を英語と日本語でのバイリンガルで行っていることについてどのような感想を持っているか。自由に書いてください。」と英語と日本語で示した。また効果の具体例に関しては後に個別にインタビューをした（2018年9月27日）。意見は、バイリンガル授業の利点を述べた好意的な意見、中立的な意見、そして欠点を述べた否定的な意見の3つに分けられる。生徒たちの感想は以下の通りである。

<TOKバイリンガル授業に対して好意的意見>

- TOKは日本語でさえ難しいので、英語オールで授業をするのかと不安だった。しかし、日本語と英語で授業をしてもらえるので、スピードラーニング感覚で分かりやすい。日本語で読んで分からないときは英語を見る、英語で分からないときは日本語を見るということができるので、便利である。一つの単語にこういう意味もあるんだとわかるので、良い授業形態であると思う。〔例：英検2級を取得できた。〕（日本人生徒）
- TOKはかなり難しい概念を扱うので、英語と日本語の両方の言語でコア科目を理解できることは都合がいいと思う。2人の先生がいることで楽しいし、授業がよりわかりやすくなる。何かの例を英語の説明で理解した後、さらに日本語でも理解できる。〔例：TOEFLの成績も日本後能力試験の成績も上がった。〕（インドネシア人留学生、筆者訳）
- TOKを学んで、物事を深く考えることが多くなり、ニュースなどを見て情報を取り入れるようになった。2つの言語でやるので、英語で理解するようにして、もし本当に理解できなかったときに日本語で確認できるので、英語力も上がる。英語からの直訳なので分かりやすい。〔例：ジンバルドーの監獄実験の話のとき、アメリカ人の先生の説明ではよく理解できなかったが、日本語での説明で心理状態まで納得できた。〕（日本人生徒）
- 英語の難しい単語を聞くとなんとなく理解できる程度だが、すぐ日本語で説明してくれるので、きちんと理解して授業の活動をすることができる。耳で聞いた英語だけでは分かりにくい質問も、先生が日本語で対応してくれるのでとても安心。自分の英語力は高くないので、日本語で伝えてくれるのは助かる。〔例：宗教の議論のとき、イスラム教徒の生徒と話し、自分たちが考えるように神は心の中にあるとか空にいるとかものではないのだと知った。英検準1級を取ってIELTSやTOEFLの成績も上がった。〕（日本人生徒）
- 英語の説明を聞いた後に日本語を聞くことで、自分がどこまで聞き取れているのかが確認できる。分からなかった単語の意味を知ることでもできるので、自分にとってはこの授業形式は嬉しい。〔例：宗教と科学の観点から世界の始まりを考える議論で、カナダで小学校時代を過ごした生徒との知識の量の違いがわかり驚いた。英検は準1級を取得できた。〕（日本人生徒）
- とても興味深い授業形態。良い点は、TOKの授業で英語も同時に勉強できる、イングリッシュ・スピーカーとも議論できる、海外大学の授業を字幕付きで受けているようなお得なクラスというところ。また、先生がたの判断で各言語（日本語、英語）に分かれて授業を受ける時もあるので、TOKの授業は常に理解しやすい。何の心配もなく楽しく学べる。〔例：宗教観の違いは文化の違いのもとになっているとわかった。〕（日本人生徒）
- 私たちのTOKクラスは最高。英語と日本語の2人の先生が教える授業は生徒にとっていい効果があると思う。TOKで求められるような深い考察は、よく分からない言語で行うのは難しい。英語と日本語で教えてくれる先生がいるので、授業内容を深く理解できる。英語がネイティブでない生徒でも、TOKを扱えるくらい英語力がつく。2ヶ国語で同時に説明を聞くことで、外国人生徒はTOKが学びやすくなる。〔例：宗教の話のとき、自分たちにとっての宗教と基本的に無宗教が多い日本人にとっての宗教は全く考え方が違うことがわかった。〕（セネガル留学生、筆者訳）

<中立的意見>

- バイリンガルで行う授業はとても面白い。外国人生徒として、日本語で聞いたり読んだりすることは役に立

つ。しかし、このクラス構成の欠点として、一つのトピックを早く理解することが難しい点があげられる。どうしても授業の進みが遅くなってしまふからだ。もし英語だけの授業だったら、概念をもっと短い時間でより深く考えられるだろう。しかし、バイリンガルで行うことで、他の文化の生徒から異なる考えを得ることもできている。(中国留学生、筆者訳)

< TOKバイリンガル授業に対して否定的意見 >

- ▶ 日本語クラスと英語クラスで分かれた方がいいと思う。両方の生徒が一緒にいるよりも効果的だと考える。英語クラスでやる授業にして欲しい。(中国人留学生、筆者訳)
- ▶ もし日本人生徒と留学生が2つのグループに分かれてやるのなら、その方がいいと思う。その方が効果的に授業を受けることができる。(中国人留学生、筆者訳)

受講生の意見をまとめると、次のようなことが言える。バイリンガルで行う授業の利点は、TOKの複雑な概念を理解し哲学的な思考などを深めるのに効果的であること、欠点としては、一つの言語で実施するよりも2倍の時間を要することである。単一言語で行う授業であれば、一つのトピックについて学ぶ際、さまざまな例を挙げたり、深く掘り下げたりすることに時間を割ける。

7 TOK授業におけるPCK

生徒の意見にも見られた通り、確かにバイリンガル授業は2倍の時間が必要となるため、一つの言語で行うよりも半分の内容になってしまう点がデメリットである。それを見越してアメリカ人の教員とのチームティーチングの授業準備にはかなりの時間をかけた。3時間以上の話し合いをする日も少なくない。これは5章で述べたPCKにおける「教科内容の知識」を「授業を想定した教科内容知識」へと発展させる作業ともいえる。

アメリカ人教員と筆者の間で、最も時間を要するのは、どういう部分かを話し合ったところ、何かの概念や指導法などについてお互いが納得するまでの時間であった。つまり、教員間にも文化の背景は大きく異なり、それを十分に理解するまで議論をする必要があったのである。授業展開には単なる教科の知識以外にも必要な知識があり、それを視覚化したものがPCKの図であったが、図1の左から右へ移行させる作業に大きく時間を要していると考えられる。

「教科内容の知識」を「授業を想定した教科内容知識」に発展させる際にはそれぞれの文化的背景に応じて生徒が理解しやすいような仕掛けや工夫を考えるための時間を要する。

8 バイリンガル授業の効果と課題

6で示した生徒の意見も含めて、TOKにおけるバイリンガル授業は、3つの効果が得られていると考えられる。

第一に、生徒たちは日本だけ欧米だけの狭い文化の中だけで考えなくなる点である。どちらの言語の説明も聴くことで、自然に異なる文化の理解の仕方も知ることになり、グローバルな視野を持つことになる。

第二に、身近なこととしてTOKの概念を理解できる点である。日本人の生徒は、欧米の例で示されてもなんとなくわかったような気がする程度の理解しか得られない場合が多いが、日本語での例を挙げて伝えると、なるほどとストンと心に落ちる。母国語で伝えられることで、自分のこととしてとらえやすくなるのである。

そして第三の効果としては、英語運用能力の向上である。議論の際にはどちらの言語も使われるので、日本人の生徒は英語力が伸びていく。

一方、バイリンガル授業の展開には、問題点もある。

まず、生徒の意見にもあったように、それに費やす時間は2倍となるため効率が悪いという点が挙げられる。英語で伝えた後に日本語で伝えるため、授業の時間も長く必要になる。教員としても、100時間の授業計画の中で、さまざまな活動を盛り込み、多くのTOKの用語や概念を身につけさせるので、時間を2倍要するバイリンガル授業の実施はかなりの検討を加えながら計画を立案している。

また、教員側の準備に相当の時間を要する。通常のチームティーチングにおいても同様であろうが、TOKの授業の場合、伝え方や事例を吟味するため、教材を探すことも含め、準備の話し合いにはかなりの時間を費やしている。

さらに、TOKの概念はキリスト教基盤の欧米の考え方が根底にあり、日本の文化にどのように落とし込むかは毎回相当頭を悩ませている。また本校の場合、英語を使用する生徒の多くは英語が母国語ではないため、複雑な概念を理解させるのが難しく、またエッセイを書くときにも深い思考をうまく文に表すことが困難なこともある。

おわりに

現在のところ、本校における次年度のIB希望者は30名に上り、それぞれの言語でクラスを分けて行なって

いる。

IBディプロマ・プログラムは生徒が教わったことを丸暗記するような学習方法ではない。本稿で紹介したように、自分たちで課題を見つけ、それを発表し、議論する探求型学習のIBDPの授業において、アクティブラーニングは自然なことである。教師は講義的に生徒に教えるのではなく、ファシリテーターの役割を担う。生徒たちは、TOKをベースとした教科横断型の授業で、さまざまなものの見方を理解していく。その際、協働学習としてグループで考えた内容を発表し、また議論をしてさらに考えを深めていく。

この授業形態は、まさに新学習指導要領で目指すところであり、TOKの考え方や手法を日本の高等学校に導入することで、アクティブラーニングの実現につながるのではないかと期待される。我が国の教育は、グローバルな学習者像を目指す方向へと動いており、そのためには指導する教員自身が精神的に成熟することが求められる。生徒たちが理解しやすい言語に置き換え、それぞれの文化に合わせた教材、課題を用意することは、まさにIBのコア科目であるTOKを担当する教員には求められる姿勢である。TOKを教えるにあたり、教員は生徒に応じた適切なPCKを身につけることが重要であり、バイリンガル授業を展開する際には、教材を吟味したり伝え方を工夫したりする必要があることから、特に有効に活用するべきであると考えられる。

本研究が、今後のIBプログラム研究及び実践の一助となれば幸いである。

文献

- 石田真理子 (2014) 「英米における教師教育研究の動向—実践知の継承を中心に—」『東北大学大学院教育学研究科 研究年報 第62集第2号』(pp. 209-224)
- 国際バカロレア機構 (2014) 『「知の理論」(TOK) 指導の手引き 2015年第1回試験』
- 中央教育審議会 (2016) 「次期学習指導要領にむけたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント」中央教育審議会教育課程企画特別部 資料1 [PDF]
- 福田誠治 (2015) 『国際バカロレアとこれからの大学入試改革—知を創造するアクティブ・ラーニング』 亜紀書房
- 松尾知明 (2016) 『21世紀型スキルとは何か—コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較』 明石書店
- 文部科学省 (2015a) 初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室
「学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策」
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1364319.htm) (2018/01/14取得)
- 文部科学省 (2015b) 初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室
「新しい学習指導要領等を目指す姿」
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1364316.htm) (2018/01/14取得)
- Ball, D. L., Thames, M.H. & Phelps, G. (2008) Content Knowledge for Teaching, *Journal of Teacher Education*, vol. 59, pp. 389-407.
- Dombrowski, Eileen, Rotenburg, Lena, Blick, Mimi (2013) *IB Theory of Knowledge Course Book: Oxford Diploma Programme* Oxford
- Shulman, L. S. (1987) Knowledge and teaching: Foundations of the new reform. *Harvard Educational Review*, 57 (1), pp. 1-22.
- Shulman, L. S. (1991) Private Conversation.

(2) 特進コースの英語4技能向上対策： 「オンラインWeblio英会話」を活用したe-learning学習について

特別進学コース 伊藤 需

1 はじめに(導入までの経緯)

文科省の高大連携による英語教育の大改革の提言を受けて、4技能入試対策として導入されたのが、IGSのe-Spireというe-learningであった。これは、「4技能(Speakingはオプション)のレベルアップに加えて、vocabulary(語彙)がゲーム感覚で学べるので、生徒の単語学習効果が期待できる。個々のレベルと学習スピードに応じて自学自習が可能だし、自宅でもインターネット環境があれば、学習できる。」ということで、特進コースでは4年前の1年生から導入し、継続してきた。しかし、実際には問題も多かった。特に、e-learningの評価に関しては「語彙」を中心に考査で判定せざるを得なかったが、出題範囲をかなり絞っても、既に学んでいるはずの語彙の定着が芳しくないことが判明した。これは、e-Spireによる語彙の学習の仕方そのものが、単調な作業的なものになりがちであり、なかなか意欲的に行う学習とはならなかったことが主な原因である。また、e-Spireはアメリカの大学留学希望者が受験するTOFELの対策として開発されたものであり、その語彙のレベルがかなり難易度が高いものや、アカデミックなものがあったことも、その一因と思われる。Reading, Listeningは評価がなかったこともあり、積極的に取り組む生徒はあまりいなかった。昨年度、今年度と3年生の文系の生徒に取り組ませたWritingに関しては、選抜クラスの一部の生徒は、自由英作文の様々なトピックに対して意欲的に取り組んでいた。しかし、AIが生徒の英文を自動採点し、指導教員の負担軽減を図ると謳っていたが、実際にはAIの活躍は大まかな文法ミスやスペルミスの指摘程度にとどまり、最終的には、教員のタイピングによる個別の生徒への添削指導が必要であった。その結果、生徒が提出すればするほど、教員の負担が大幅に増えるということになり、十分な指導までは至らなかった。

生徒が受け身ではなく、もっと意欲的に4技能の向上、特に授業ではなかなか難しい個別のスピーキング力の向上を図れるe-learningはないかということで検討した結果、白羽の矢が立ったのが「オンラインWeblio英会話」であった。

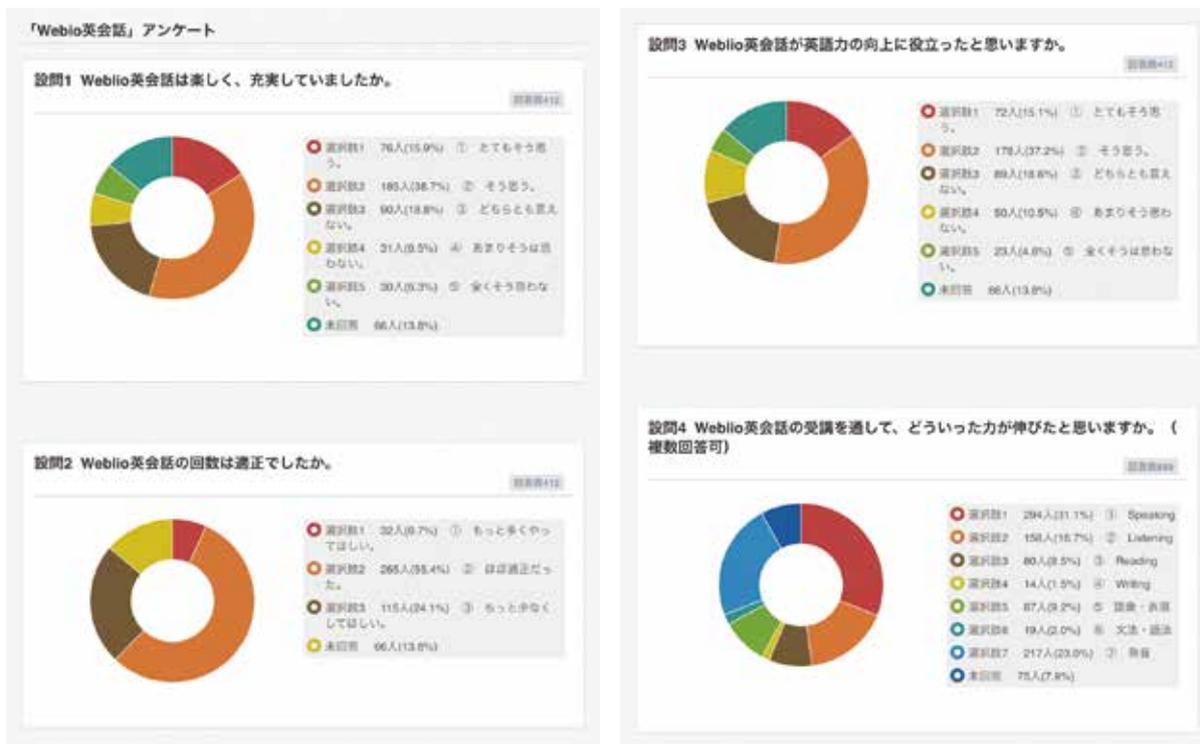
2 「Weblio英会話」実施概要

Weblio英会話は、1年生は原則週1回、2年生は原則隔週1回、外国人講師(フィリピン在住)と個別にオンラインで25分間会話をするというものである。生の英語に直接触れることにより、発話量を圧倒的に増やし、主にスピーキング、リスニングの力を伸ばすことを目指した。生徒たちは、担当する講師が毎回違うので、妥協したり、だれたりすることもなく、ある程度の緊張感を持って臨むことになる。教材テキストはあらかじめ生徒に渡されていて、十分に予習して本番に臨むことも可能である。また、会話の中で講師から発音や文法の間違いの指摘・訂正や、うまくできた時の称賛の言葉などをもらうこともできる。レベルは、1年生が初級レベル、2年生は中級レベルということで、それぞれ25回、15回のレッスン・トピックを用意してもらった。また、年1回実施している4技能を測定する外部検定試験GTECの直前には、それに模したGTEC対策の時間を設定してもらった。そして、Weblio英会話の評価に関しては、毎回終了後に「振り返りシート」(Weblio English Conversation Evaluation Sheet)を書かせて、自己評価をさせた。総合評価に関しては、Weblio英会話の講師に年2回スピーキングテストをオンライン上で実施してもらい、その結果を基に平常点を加味して、各期末考査の評価点とした。

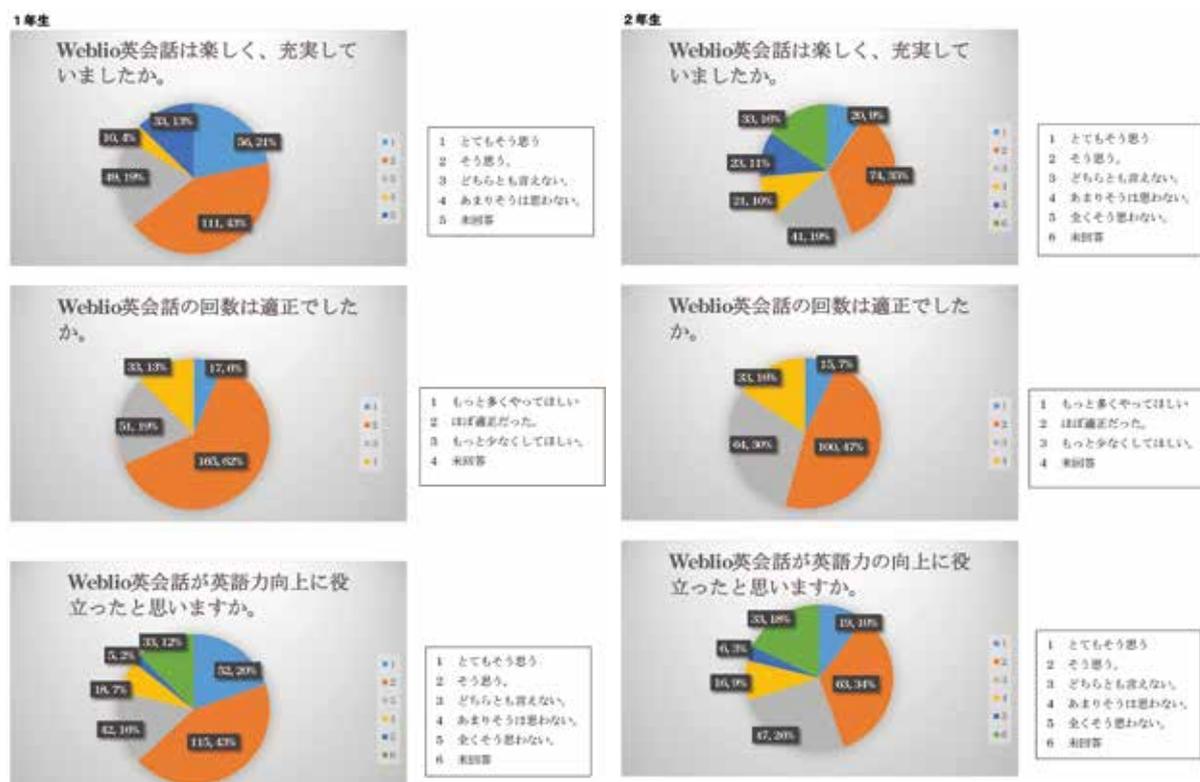
3 生徒の実態・成果

生徒の実態については、一年間のレッスンがほぼ終了する2月初旬に、1, 2年の生徒にWeblio英会話を実施しての「アンケート(設問1~6)」を実施したので、その結果をまとめたグラフなどを参考にして報告したい。(資料①、②)

設問1の「Weblio英会話は楽しく、充実していましたか。」については約55%が、「とてもそう思う。」「そう思う。」と肯定的な答えで、否定的な答えは13%であったが、詳しく分析してみると、1年生と2年生でかなり大きな違いが出た。1年生が、肯定的な意見が64%だったのに対して、2年生は44%に留まった。これは、設問6の自由記述のコメントなどから考察すると、教材のレベルが1年生は「理解しやすい=楽しめるもの」だったのに対して、2年生の教材のレベルが最初から全員中級で設定してしまい、「理解するのが結構難しい=なかなか



資料①



資料②

か楽しめない」となってしまったという違いが、その背景にあったものと思われる。2年生に関しては、英語の学力が高い選抜クラスにおいては、アンケート設問1の答えが肯定的なものが非常に多かったのに対して、普通クラスではかなり少なかったことから、それが裏付けられる。

設問2の「Weblio英会話の回数は適正でしたか。」には、62%が適正という回答であったが、詳しく見てみると1年生の68%、2年生の54%が適正、「もっと少なくてほしい」はほぼ毎週の1年生が約2割、ほぼ隔週の2年生は約3割だった。やはり2年生の消極的態度はレベル・理解度の問題と関連があるものと思われる。

設問3では、「Weblio英会話が英語力の向上に役立ったと思いますか」という設問に対して、52.3%が肯定的な答え、15.3%が否定的な答えであった。これに関しても、1年生と2年生の回答に大きな差が出た。1年生が

肯定が63%とかなり高かったのに対して、2年生は44%に留まった。1年生が2020年の新共通テスト、4技能型入試の本格的スタートの学年であり、特にスピーキングの学習などに関して、最初から意識がかなり高いことも関係していると思われる。

設問4の「Weblio英会話の受講を通してどういった力が伸びたと思いますか。」という問いに関しては、「スピーキング力が伸びた」と思うものが31%とほぼ3人に一人、「リスニング力向上」は17%、「語彙表現力がついた」というものが9%、「発音がよくなった」と思うものが23%という結果であった。

設問5は「設問4で答えた力のほかにプラスになったと思われるものを記述してください。」というものであった。その中では、レッスン中に講師の住むフィリピンの生活、文化、教育などがよく話題になり、日本の現状と比較することも多かったため「異文化理解が深まった。」という記述が多かった。また、毎回様々な講師と初対面で話をするにより、「コミュニケーション能力、臨機応変な対応力がついた。」「積極的に英語を話そうとする意欲が身についた。」という回答も多かった。外国人と英語で話をするに対する抵抗はかなり薄れてきたことは間違いのないようである。

加えて、振り返りシートなどを見ると、「もっと文法的にもしっかりと英文を作りたい。ちゃんと外国人とコミュニケーションできるようになりたい。」と書いてくる生徒も増えており、英語学習全体に対するモチベーションのアップにも役立っているものと考えられる。

「Weblio英会話」の客観的な成果を示すものとして、昨年12月1日に実施したGTEC（英語4技能型検定）の結果が参考になると思われる。ベネッセから届いた「GTEC高1、高2 12月検定回の結果」（資料③）を見ると、1年生、2年生ともに、4技能の中でも、スピーキングにおいて飛躍的な向上が見られた。GTECのスピーキングのグレード5というのは、上から3番目の「なじみのある話題について、英語で議論することができる」レベルであるが、2年生は、昨年度受験した時には、このレベル以上の生徒が累計6名のみだったが、今回は約20倍の119名（全体の58.6%）に増えている。1年生も、昨年度の1年生に比べると驚異的に高く、グレード5以上が累計111名（全体の45.3%）に達している。他の技能に比べて、スピーキングの伸びが抜きん出て大きいところから判断すると、これはWeblio英会話を継続的に実施し、直前にはGTEC対策の時間を取ったことによる効果であることは、疑問の余地はないものと思われる。

1 仙台育英・特進 2018年度 高1 12月検定回の結果

コース・科目	Total	
受験人数	245	
満点	660	
スコア(人数)	単純	累積
660~	1	1
650	1	2
640	1	3
630	4	7
620	1	8
610	2	10
600	2	12
590	4	16
580	2	18
570	1	19
560	2	21
550	3	24
540	3	27
530	8	35
520	5	40
510	10	50
500	12	62
490	12	74
480	8	82
470	16	98
460	15	113
450	15	128
440	9	137
430	22	159
420	12	171
410	16	187
400	12	199
390	11	210
380	6	216
370	10	226
360	2	228
350	5	233
340	3	236
330	1	237
320	3	240
310	1	241
300	3	244
~300	2	246

①リーディングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	前回		今回		前年度生	
				18年12月		17年12月	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	270~			0	0	0	0
6	230~			17	17	28	28
5	190~			50	67	49	77
4	160~			76	143	56	133
3	140~			64	207	44	177
2	120~			25	232	23	200
1	0~			13	245	10	210

②リスニングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	前回		今回		前年度生	
				18年12月		17年12月	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	270~			0	0	0	0
6	220~			27	27	22	22
5	200~			21	48	28	50
4	180~			43	91	36	86
3	160~			57	148	43	129
2	140~			55	203	51	180
1	0~			42	245	30	210

③ライティングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	前回		今回		前年度生	
				18年12月		17年12月	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	170			0	0	0	0
6	160~			1	1	0	0
5	130~			33	34	1	1
4	100~			168	202	173	174
3	80~			33	235	27	201
2	40~			9	244	8	209
1	0~			1	245	1	210

④スピーキングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	今回		前回		前年度生	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	170	9	9			0	0
6	150~	16	25			2	2
5	130~	86	111			4	6
4	110~	104	215			49	55
3	90~	25	240			113	166
2	70~	4	244			35	203
1	0~	1	245			7	210

©Benesse Corporation.

スコア(人数)	単純	累積
800~		
790	1	1
780		1
770		1
760		1
750		1
740		1
730		1
720		1
710	1	2
700		2
690		2
680		2
670		2
660	1	3
650		3
640	2	5
630	1	6
620	1	7
610	1	8
600	3	11
590	5	16
580	4	20
570	5	25
560	6	31
550	7	38
540	2	40
530	5	45
520	9	54
510	9	63
500	13	76
490	6	82
480	11	93
470	8	101
460	19	120
450	13	133
440	11	144
430	10	154
420	11	165
410	16	181
400	8	189
~400	14	203

(3)リーディングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	前回		今回		前年度生	
		17年12月		18年12月		17年12月	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	270~	0	0	1	1	2	2
6	230~	28	28	9	10	7	9
5	190~	49	77	58	68	44	53
4	160~	56	133	85	153	76	129
3	140~	44	177	37	190	56	185
2	120~	23	200	13	203	11	196
1	0~	10	210	0	203	1	197

(3)リスニングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	前回		今回		前年度生	
		17年12月		18年12月		17年12月	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	270~	0	0	6	6	8	8
6	220~	22	22	34	40	29	37
5	200~	28	50	25	65	32	69
4	180~	36	86	44	109	50	119
3	160~	43	129	44	153	44	163
2	140~	51	180	38	191	21	184
1	0~	30	210	12	203	13	197

(3)ライティングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	前回		今回		前年度生	
		17年12月		18年12月		17年12月	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
7	170	0	0	0	0	0	0
6	160~	0	0	0	0	0	0
5	130~	1	1	43	43	18	18
4	100~	173	174	125	168	135	153
3	80~	27	201	29	197	35	188
2	40~	8	209	4	201	7	195
1	0~	1	210	2	203	2	197

(3)スピーキングスコア成績分布(人数)

グレード	スコア	今回		前回		前年度生	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
		7	170	6	6	0	0
6	150~	37	43	2	2	1	1
5	130~	76	119	4	6	14	15
4	110~	67	185	49	55	59	74
3	90~	13	199	113	168	80	154
2	70~	3	202	35	203	25	179
1	0~	1	203	7	210	9	188

©Benesse Corporation.

資料③-2

4 課題について

開始当初は様々な接続トラブルが生じたが、Wi-Fiアダプターの増設などで、その後かなり落ち着いて発信できるようになってきている。しかし、現在も隣接するクラスでの同時展開のレッスン時には、発信が乱れる生徒が多くなる傾向がある。アンケートの設問6「受講しての感想・要望・改善点などがあれば記述してください。」でも、レッスン中の回線の安定、確実な発信を求める声が非常に多かった。

加えて、生徒は執務室から各教室へパソコンラックで持ち込んだパソコンにヘッドセットとウェブカメラをセットして、オンラインとなるのだが、13クラス全てでパソコンやヘッドセットなどを共有することになるので、特にヘッドセットの故障が頻発し、「講師の声が聞こえない。」「自分の声が届いていない。」という苦情が出るようになった。故障のヘッドセットの数が多くなり、使用可能なものが不足しかけたので、年度途中でヘッドセットとカメラを急遽追加購入してもらわなくてはならなくなった。現在も、毎週平均5~6セットをエクシオンの担当者に修理してもらっている状況である。ヘッドセットの故障・修理対策は大きな課題である。

また、アンケートの結果からもわかるように、生徒のレベルに合わないもの、特に難しすぎるレベルのものを提供されると、英語が理解できず、レッスンについていけないため、楽しむどころか、Weblio英会話そのものが嫌いになるという生徒も一部出てきている。また、時々事前に渡された教材と授業内容が異なっていたり、予定には載っていなかった質問をされたりするというのも中級レベルなどではあった。

5 改善策・今後の展望

実態・成果の中でも記述したように、4技能とくにスピーキング力向上には間違いなく効果があり、英語学習への大きな動機付けともなる取り組みであると思われるので、何とか課題をクリアし、さらなる効果を期待したい。

まず安定した発信のためには、理想的には「Weblio英会話」の教室を定めて、パソコンは移動させず、そこに生徒が移動してレッスンを受ける」のがベストであろう。これが、難しいとしても、各教室のWi-Fi環境をさらに整備すること、隣り合うクラスでの実施を避けるように調整することなどを行い、レッスン中に発信できない生徒が出ないようにしてやる必要がある。

レベル設定については、生徒の英語力・希望・積極性などを十分に考慮する必要がある。可能であれば、いったんスタートしてからでも、レベルの変更ができるような形が望ましい。教材のテキストなどについても、業者

と十分に連絡を取り合い、内容の確認をするとともに、必要に応じて、レベルや内容の微調整を行うべきであろう。

最も大きな問題となっていたヘッドセットの故障に関しては、来年度はヘッドセットを個人持ちとして用意させ、管理を自分で行わせるようにしたい。最初の出費はあるが、自分のものとなれば大事に扱い、故障の可能性も減少するし、衛生上も望ましい。また、冬季のインフルエンザの流行時にも、感染のリスクを減らすこともできると考えている。

振り返りシートの改善・活用も考えていきたい。これまでは、文字通りさらりとそのレッスンを振り返り、自分の行動・意欲などを自己評価させるのがメインであったが、学んだ内容・表現までしっかりと書かせて復習させ、英語習得に活かすことも検討したい。さらに、指導教員が丁寧に点検することにより、生徒の学習意欲の喚起が図られると考えられる。具体的には、【教材の配布→家庭での予習→レッスン前のグループでの発音・意味のチェック→25分の本番レッスン→振り返りシートの記入（HRまたは家庭）→係の回収→英語科教員のチェック・コメント→返却】のサイクルをスムーズに行うことによって、レッスン中の学びの充実、そして次のレッスンへの意欲の喚起が期待される。（生徒が提出した振り返りシート・資料④参照。）

アンケートの自由記述の中には、フィリピン人講師に対する不満「当たり外れが大きい。」「すぐに怒りだす人もいる。」「発音に不満がある。」も出ていたが、これらは業者に確実に伝えて、講師の現職教育による質的向上などの企業努力を促したい。同時に、生徒たちには、世界中には様々な人たちがいて、誰もが英米人のような完璧な英語を話し、性格が温和で丁寧に話してくれるとは限らないということは、周知させる必要がある。ある意味では、生徒諸君が、将来どんな環境におかれても、何とかコミュニケーションを取り、サバイバルできるようにするための「先行体験の一環としてのWeblio英会話」という考え方もできるかもしれない。

この1年間の体験を生かし、業者と密に連絡を取り、英語科スタッフと協力しながら、多くの可能性をもつ「実体験型学習ツール」としての「Weblio英会話」をさらに有効に活用していきたい。（来年度は3年生の文系の生徒にも、隔週1回程度の活用を予定している。）

Weblio English Conversation Evaluation Sheet

Class: 1T	No:	Name:	Date: 2019 / /
1. The topic of today's lesson & its content .. General English (Intermediate) - History. 英語 31.2.21 新谷仁 Excellent report!			
2. The instructor's name and his/her background information My tutor's name is Lori. Jose Rizal is the most famous historical person you know. She is very cute. Manila is some of the historical cities in the Philippines. She doesn't like history.			
1. Words you used in today's lesson Originally: 最初 REconstructed: 再構築 authority: 権威 Tokugawa shogunate: 徳川幕府 from 1603-1867 sixteen o'clock to eighteen sixty-seven			
2. Words you didn't know in today's lesson established: 確立 represent: 代表 elements: 要素 Good Preparation!			
1. Sentences you spoke during the lesson for the first time nothing			
2. Expressions you didn't know during the lesson nothing			
1. Try to write down what you want to do next lesson I was excited in today's weblio. She is a good teacher, isn't it? My tutor is very kind to me. Example, she was typing about correcting sentence.			
2. Try to write down what you couldn't do in today's lesson So, I could learn correctly. I love her! I want to do weblio again.			
Evaluate yourself from the points of view given below (1. Absolutely No 5... Absolutely Yes)			
1. Did you enjoy today's lesson? 1 - 2 - 3 - 4 - 5			
2. Did you start to like English more? 1 - 2 - 3 - 4 - 5			
3. Are you interested in a foreign country's culture? 1 - 2 - 3 - 4 - 5			
4. Was today's instructor kind to you? 1 - 2 - 3 - 4 - 5			
5. Do you want to try the next lesson? 1 - 2 - 3 - 4 - 5			

(3) 平成31年度 仙台育英学園 生き生き教室向け講義概要 「 $\sqrt{2}$ (無理数) ってなに?…数の世界へのご招待」

フレックスコース 雫石 利光

以下に掲載したのは、平成30年度の生き生き教室向けに作成したものに加筆した原稿です。参加希望者がいないため実施しませんでした。次年度の実施を考えています。

内容は、中学校3年までの数学の知識を補いながら、無理数 $\sqrt{2}$ を取り上げるものです。先生方からのご指導・ご助言をいただければと考えここに紹介させていただきます。

- 1 日時・場所 (予定) 平成31年7月23日 (火)～26日 (金) 4日間
13:00～15:00 多賀城校舎
- 2 準備物 筆記用具、三角定規、コンパス、電卓、はさみ、工作用紙
- 3 講義概要

今回は、中学校3年生で初めて学習する $\sqrt{2}$ (無理数) を取り上げてみたいと思います。

$\sqrt{2}$ (無理数) は、正方形の対角線の長さとして身近にあるものですが、突き詰めていくと不思議な点がたくさんあります。古くはハムラビ王の時代から、ギリシア時代を経て現代まで、人間を悩ませてきた無理数について考えてみたいと思います。

使う道具は、図形 (比例、相似、合同や三平方の定理など) と数学独自の証明法です。考えにくいところも確かにありますが、気楽に取り組んでみることも一興ではと思います。

*大まかな内容 2時間×4日分の内容は以下の通りです (予定)。

- 1日目 まず、いくつか正方形を書いて、対角線の長さを調べましょう。そこから、近似値を考えていきます。また、メソポタミア文明の粘土板に $\sqrt{2}$ の近似値が記録されていますが、どの程度正確だったのでしょうか。少し面倒ですが、その値に迫ります。
- 2日目 なぜ、 $\sqrt{2}$ は無理数なのか、その由来などを考えながら、その不思議な性質に迫ります。併せて、三平方の定理についていくつかの証明を取り上げます。
- 3日目 和算の教科書でも、 $\sqrt{}$ は扱われています。その一部を紹介します。参考書として、「算法助術 (土倉保) 朝倉出版2015」を取り上げます。
- 4日目 古代から、直角三角形は様々な場面で使われてきました。特に、「直角を作る」時に使われてきた3:4:5について取り上げ、「三平方の定理」の逆を証明します。また、再度、古代メソポタミア文明の粘土板にある直角三角形を取り上げます。

1日目 $\sqrt{2}$ を測定してみましょう。工作用紙か大き目の方眼紙でやってみましょう

- 1) 一辺が1センチ、5センチ、10センチ、20センチ、40センチの正方形を書きます。
- 2) それぞれの対角線の長さを測定し、 $\sqrt{2}$ の近似値をもとめてみましょう。

辺の長さ	1センチ	5センチ	10センチ	20センチ	40センチ
対角線の長さ (センチメートル)					
対角線: 辺の比X 小数第2、3位まで					
X^2					

- 3) ここで求めた $\sqrt{2}$ の近似値 (比) が、正確な値ではないことを確かめましょう。
電卓 (スマホ) で十分です。上の表の X^2 の欄に記入しましょう。
- 4) では、 $\sqrt{2}$ の近似値が1.41421356…であることを計算で確かめましょう。

5) メソポタミア文明で使われていた近似値について紹介します。はたしてどの程度正確であったのでしょうか。
 (Yale Babylonian Collection No.7289)

√2を求める粘土板 BC2000～1800頃? 楔形文字 別紙①
 参考までに バビロン ハムラビ王 BC1792～1750

粘土板の資料から

近似値	1の位	60分の一	60*60分の一	60*60*60分の一	値	誤差
	1	24	51	0	1.414166667	-0.00004689
	1	24	51	1	1.414171296	-0.00004226
	1	24	51	5	1.414189815	-0.00002375
	1	24	51	8	1.414203704	-0.00000986
	1	24	51	9	1.414208333	-0.00000523
◎	1	24	51	10	<u>1.414212963</u>	<u>-0.00000060</u>
	1	24	51	11	1.414217593	0.00000403

比較 $\sqrt{2}=1.41421356$

◎の誤差：小数第6位…10万分の1より小さい

① 例

$30 \rightarrow 1, 24, 51, 10 \Rightarrow 1 + \frac{24}{60} + \frac{51}{60^2} + \frac{10}{60^3}$
 ≈ 1.41421295 (P)
 $42, 25, 35 \Rightarrow 42 + \frac{25}{60} + \frac{35}{60^2}$
 $(P \times 30) \approx 42.426388$
 $*\sqrt{2} \approx 1.41421356 \dots$ (Q)
 (誤差) 小数第6位から $\rightarrow 10^{-6}$ (=100万分の1) 以下
 点に近づくかあると?
 ○で10分りうめさる
 ○で10分りうめさる(10分)
 ?

別紙①

2日目 なぜ、 $\sqrt{2}$ は無理数といわれるのか、その由来を考えます。

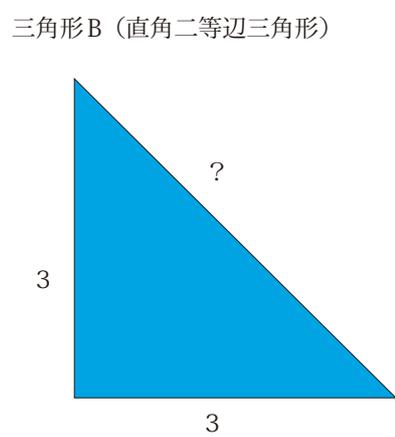
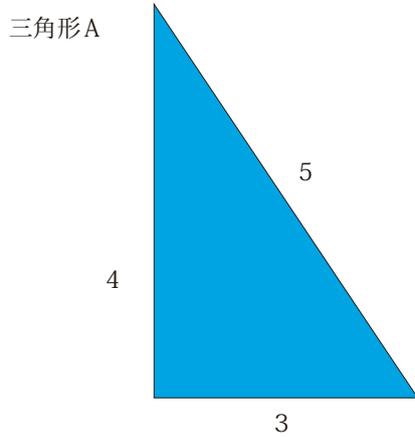
1) 無理数という名前の由来

ギリシア人（ピタゴラス学派）の考え方…万物は数である…矛盾。

2) 比例（有理数）では表せない（長さ、すなわち）数の存在…どうやって証明する？

「有比数」と「無比数」…英語では…rational number と irrational number

何が不都合か…例えば…線分が点の集まりと考えてみると…別紙①



→三角形Aの斜辺の長さ（点の個数）は比で表せる 三角形Bでは比で表せない？

3) 背理法の登場

いよいよ、 $\sqrt{2}$ は無理数（有理数でないこと）を証明します。

手ごわいところですが、かつては中学校3年の教科書で扱っていました。前提となる知識は、奇数の2乗は奇数、偶数の2乗は偶数になりことです。では

4) 三平方の定理と証明

古来、多くの証明がありますが、ここでは、その一端を取り上げます。別紙②、③

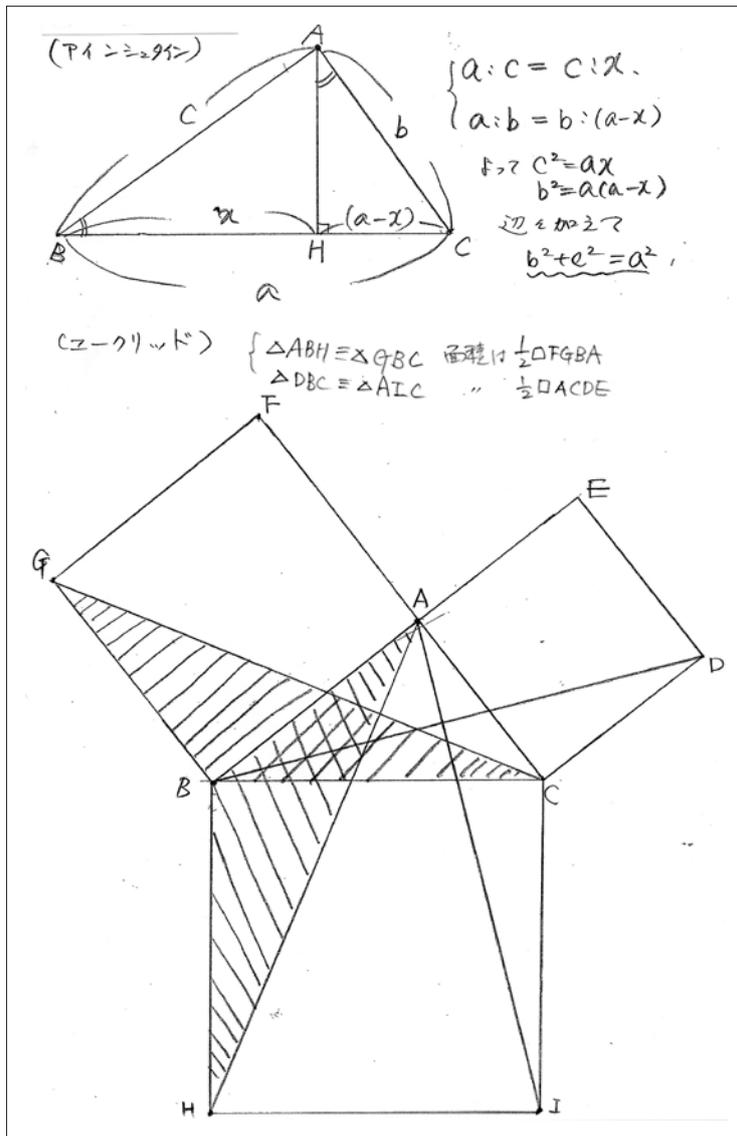
（出発点）上方形ABCDの面積 = $S_1 \times 8$, 正方形AODSの面積 = $S_1 \times 4$

よって $\square ABCD = 2 \times \square AODS$
 ならばADは?

証明

上図を二等分すれば（ガウリット）

別紙②



別紙③

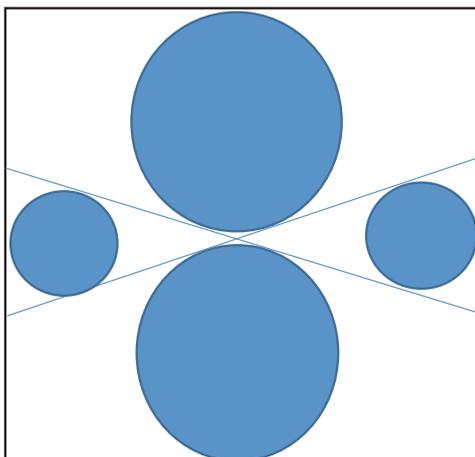
3日目 和算の教科書でも、 $\sqrt{\quad}$ は扱われています。その一部を紹介します。

まず、和算とはどんな数学なのでしょうか。初めに例を紹介します。

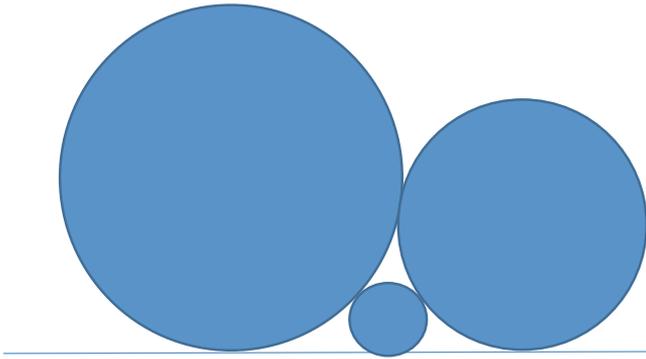
宮城県（塩釜神社）の算額の問題です。

「方面（正方形の辺の長さ）が18寸の正方形の中に、直径8寸の円が2つ、さらに直径が同じ小円が2つ図のようにある。小円の直径を求めよ。」

答え：小円の直径は6寸7分5厘である。



1) 慶應義塾 総合政策2016年 中円の半径9、小円の半径4のとき大円の半径を求めよ。別紙④



2) 上記の問題でも、三平方の定理が使われています。別記⑤の通り、江戸時代の公式集にも明記されていました。公式を知っていればやさしい問題です。説明すると以下の通りです。

3日
(算帳)

この三平方は $\frac{13}{4} = \frac{9+r}{r+4}$

$13(r+4) = 4(9+r)$

$13r + 52 = 36 + 4r$

$9r = -16$

$\frac{9}{r} = 9 \quad r = \frac{27}{8} = 3.375$

(大学入試)

$X = \sqrt{18 \times 8} = 4\sqrt{3} = 12$

$Y = \sqrt{2 \times 8 \times 8} = 4\sqrt{2}$

$Z = \sqrt{2 \times 8 \times 18} = 6\sqrt{2}$

すなわち

$6\sqrt{2} = 4\sqrt{2} + 12$

$2\sqrt{2} = 12$

$\sqrt{2} = 6$

$X = 36$

公式を使わないとき

$X^2 + 5^2 = 13^2 \Rightarrow X = 12$

⑤ $\Rightarrow (x+9)^2 = (x-4)^2 + (y+12)^2$

⑥ $\Rightarrow (x+4)^2 = (x-9)^2 + y^2$

⑦ $36x = (y+12)^2$

⑧ $16x = y^2$

$\therefore y = \sqrt{16x} = 4\sqrt{x}$

$36x = (4\sqrt{x} + 12)^2$

$36x = 16x + 96\sqrt{x} + 144$

$20x = 96\sqrt{x} + 144$

$5x = 24\sqrt{x} + 36$

$5x - 24\sqrt{x} - 36 = 0$

$(5\sqrt{x} + 6)(\sqrt{x} - 6) = 0$

$\sqrt{x} = 6 \Rightarrow x = 36$

別紙④

和算の表記法

丙 甲乙
丁也

(注) 甲乙 = 丙丁

大小
高商
子也

(注) 子 = $\sqrt{\text{大輪} \times \text{小輪}}$
(半径 r_1, r_2 のとき)
子 = $2\sqrt{r_1 r_2}$

大小差
大小高商
子也

大小差
大小高商
子也

子 = $\frac{2a\sqrt{ab}}{a-b}$

丑 = $\frac{2b\sqrt{ab}}{a-b}$

(訂正) 朝倉素庵
(算法助術)

別紙⑤

4日目 再び、「メソポタミア文明」の粘土板を取り上げます。その一端を紹介します。

① プリンプトン322 BC2000～1800頃? 4000年前 別紙⑥

直角三角形の辺の長さを記載したものとされています。非常に大きな数もあるのですが、どうやって見つけたのでしょうか。また、その正確さはどうであったかのでしょうか。PCを使って、数値の正確さを調べてみました。

プリンプトン322 a : 2,3,5の倍数 (secB) 2乗

表	u	v	a=2uv	c=u*u+v*v	b=c*c-a*a	(c/a) 2乗	角B
1	12	5	120	169	119	1.983402778	44.8度
2	64	27	3456	4825	3367	1.949158552	44.3度
3	75	32	4800	6649	4601	1.918802127	43.8度
4	125	54	13500	18541	12709	1.886247907	43.4度
5	9	4	72	97	65	1.815007716	42.1度
6	20	9	360	481	319	1.785192901	41.5度
7	54	25	2700	3541	2291	1.719983676	40.3度
8	32	15	960	1249	799	1.692709418	39.8度
9	25	12	600	769	481	1.642669444	38.8度
10	81	40	6480	8161	4961	1.586122566	37.4度
11	60	30	60	75	2700	1.5625	36.9度
12	48	25	2400	2929	1679	1.48941684	35.0度
13	15	8	240	289	161	1.450017361	33.9度
14	50	27	2700	3229	1771	1.43023882	33.3度
15	9	5	90	106	56	1.387160494	31.9度
プリンプトン322			左から3番目	左から2番目	左端		

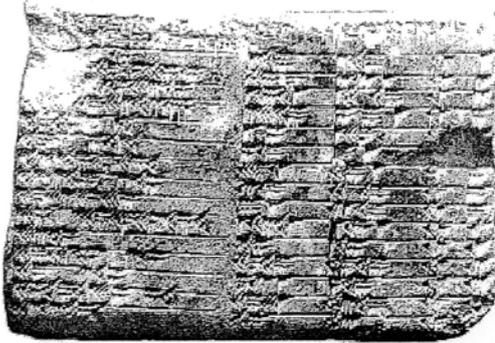
少数の部分に注目すると、現代の $\frac{1}{\cos B}$ の2乗になります。

プリンプトン322では、初めに1を補っていますが、1を加算しないと tanB の2乗そのものです。

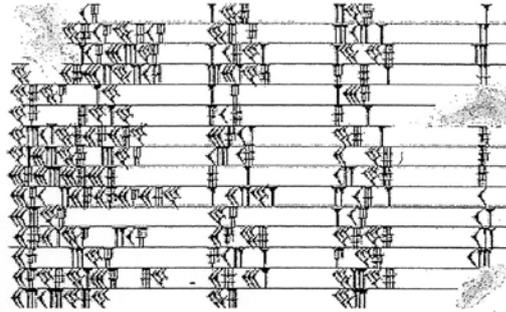
バビロンの粘土板 Plimpton322

バビロンの粘土板 Plimpton322

プリンプトン 322 (Plimpton 322) は古代バビロニアの遺跡から発掘された粘土の刻板です。



(図1)
プリンプトン 322の写真

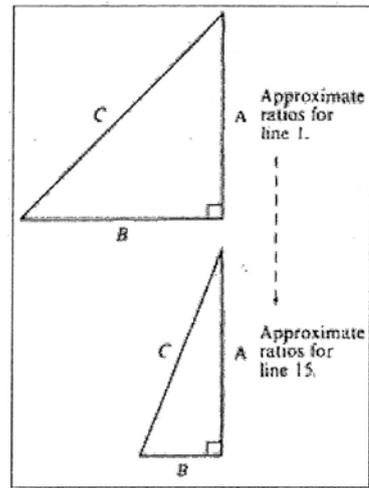


(図2)
バビロン数字を図式化

[1] 59 * 1 15	1 59	2 49	1
[1] 56 56] 58 14 50 6 15	36 7	5 12 1	2
[1] 55 7] 41 15 33 45	1 16 41	1 50 49	3
[1] 53] 10[*] 29 32 52 16	3 31 49	5 9 1	4
[1] 48 54 1 40	1 5	1 37	5
[1] 47 6 41 40	5 19	8 1	6
[1] 43 11 56 28 26 40	38 11	59 1	7
[1] 41 33 59 3 45	13 19	20 49	8
[1] 38 33 36 36	9 1	12 49	9
[1] 35 10 2 28 27 24 26 40	1 22 41	2 16 1	10
[1] 33 45	45	1 15	11
[1] 29 21 54 2 15	27 59	48 49	12
[1] 27 [*] 3 45	7 12 1	4 49	13
[1] 25 48 31 35 6 40	29 31	53 49	14
[1] 23 13 46 40	56		15

→り3へ

(図3)
(図2)をアラビア数字に変換したもの
[]内は欠損部分などを補った



(図4)
粘土板の数値の直角三角形を図式化
1行から15行までのイメージ

プリンプトン 322 (Plimpton 322) は未だ完全に解明されたとは言えないのですが、一種の数表であることは間違いありません。

有力な説の一つを紹介します。

粘土板は、次のような 60 進数の表です。

ノイゲバウアー Otto Neugebauer 1899 - 1990 がもとの表の若干の間違いを修正し、

粘土板が壊れている場所に関しては復元したものです。

一番右の列は行番号で1から15まで刻まれています。

(途中5、6と最後の14、15ははつきりしません。)

ノイゲバウアー Neugebauer の解読によると、各行は三辺の長さがすべて整数の直角三角形に対応しており、

その底角はおよそ45度から30度まで、およそ1度刻みに小さくなるという驚くべきものです。

(60進) (10進) (60進)

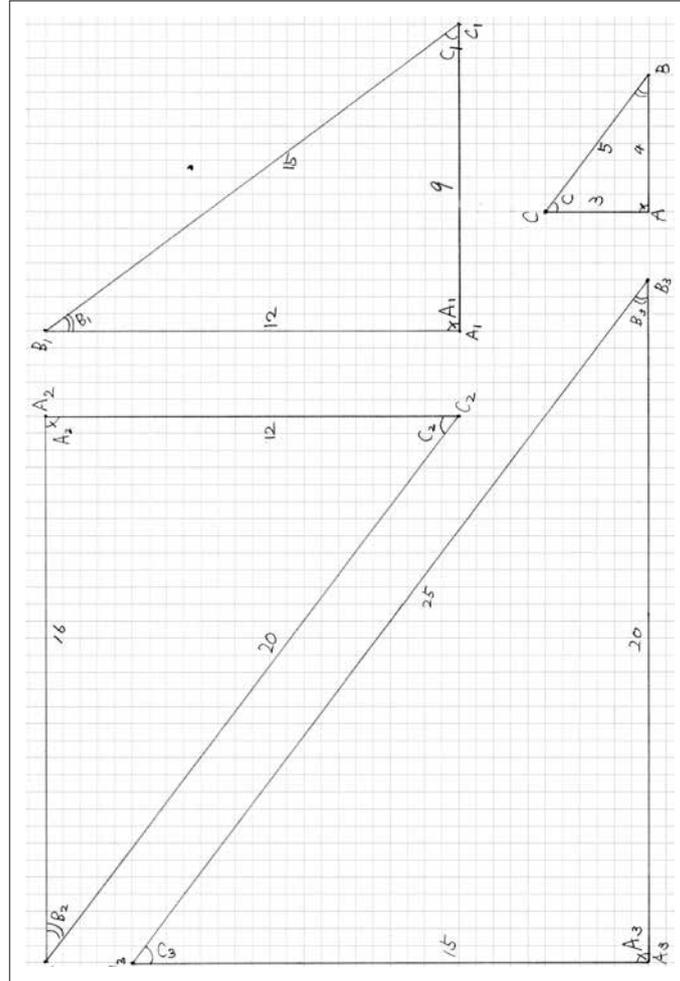
[1 59 *] 15	1 59 γ (119)	2 49 γ (169)	1
[1 56 56] 58 14 50 6 15	56 7	3 12 1	2
[1 55 7] 41 15 33 45	1 16 41	1 50 49	3
[1 53] 10 [*] 29 32 52 16	3 31 49	5 9 1	4
[1] 48 54 1 40	1 5	1 37	5
[1] 47 6 41 40	5 19	8 1	6
[1] 43 11 56 28 26 40	38 11	59 1	7
[1] 41 33 59 3 45	13 19	20 49	8
[1] 38 33 36 36	9 1	12 49	9
[1] 35 10 2 28 27 24 26 40	1 22 41	2 16 1	10
[1] 33 45	45	1 15	11
[1] 29 21 54 2 15	27 59	48 49	12
[1] 27 [*] 3 45	7 12 1	4 49	13
[1] 25 48 51 35 6 40	29 31	53 49	14
[1] 23 13 46 40	56	53	15

→ これを10進法に通すと

$\gamma: 1 \times 60 + 59 = 119$
 $\gamma: 2 \times 60 + 49 = 169$

I $c^2/a^2 = c^2/(c^2 - b^2)$ 角度 = $\angle B$ の $\sec^2 B$		II b (最も短い辺の長さ) 隣辺 adjacent		III c (最も長い辺の長さ) 斜辺 hypotenuse		IV 参考 a (高さ) $a = \sqrt{c^2 - b^2}$	
アラビア数字 60進法表示	10進法 換算	アラビア数字 60進法表示	10進法 換算	アラビア数字 60進法表示	10進法 換算	10進法	
1,00,0,15	1.98340278	1,59	119	2,49	169	1	120
1,56,56,58,14,50,6,15	1.94915855	56,7	3367	3,12,1 → 1,20,25	4825	2	3456
1,55,7,41,15,33,45	1.91880213	1,16,41	4601	1,50,49	6649	3	4800
1,53,10,0,29,32,52,16	1.88624791	3,31,49	12709	5,9,1	18541	4	13500
1,48,54,1,40	1.81500772	1,5	65	1,37	97	5	72
1,47,6,41,40	1.7851929	5,19	319	8,1	481	6	360
1,43,11,56,28,26,40	1.71998368	38,11	2291	59,1	3541	7	2700
1,41,33, (59 → 45,14),3,45	1.69277344	13,19	799	20,49	1249	8	960
1,38,33,36,36	1.64266944	9,1 → 8,1	481	12,49	769	9	600
1,35,10,2,28,27,24,26,40	1.58612257	1,22,41	4961	2,16,1	8161	10	6480
1,33,45	1.5625	45	45	1,15	75	11	60
1,29,21,54,2,15	1.48941684	27,59	1679	48,49	2929	12	2400
1,27,0,3,45	1.45001736	7,12,1 → 2, 41	161	4,49	289	13	240
1,25,48,51,35,6,40	1.43023882	29,31	1771	53,49	3229	14	2700
1,23,13,46,40	1.38716049	56	56	53 → 1,46	106	15	90

三平方の逆を、図形を使って証明してみます。別紙⑧



別紙⑧

証明の流れ

1) 準備 次のものを用意します

- ① 三辺が 3cm、4cm、5cm の直角三角形ABCを(用紙の中央に)描く。
- ② $\triangle ABC$ を、3倍した $\triangle A_1B_1C_1$ を別な紙にかく…別紙⑧の通りです。
- ③ 同様に、 $\triangle ABC$ を4倍した $\triangle A_2B_2C_2$ 、 $\triangle ABC$ を5倍した $\triangle A_3B_3C_3$ をかく。
このとき、各三角形の辺の長さを記入する。
- ④ $\triangle A_1B_1C_1$ 、 $\triangle A_2B_2C_2$ 、 $\triangle A_3B_3C_3$ を切りとる。

方法I

- ⑤ 切り取った3つの三角形を組み合わせ、長方形になるように配置する。
- ⑥ 出来上がった図形が長方形であることを証明する。
ここで注意点が一つ。三角形のうち、ひっくり返さないといけいものがあります。

方法II

- ⑤' $\triangle A_3B_3C_3$ を中央に置き、 $\triangle A_1B_1C_1$ 、 $\triangle A_2B_2C_2$ で $\triangle A_3B_3C_3$ を覆う。
- ⑥' 完全に覆っていることを証明する。

2) 以上から、三平方の定理の逆を証明できます。

この証明は、宮城県数学教育研究会の「ピタゴラス研究会」代表であった吉光章喜先生によって考えられたものです。

参考資料	WEBによる検索(プリンプトン322)他		
宮城県数学教育研究会	和算研究会	茂木悟	2016.9.14
宮城県数学教育研究会	ピタゴラス研究会	吉光章喜	
算法助術		土倉保	朝倉出版 2015

(4) 平成30年度Brush Up研修会報告

教科教育センター長 板垣 徳昭
教科コンダクター 堀田 文雄 (国語) 高橋 郁夫 (英語)
梅田 一成 (数学) 野田 良彦 (理科)
情報Brush Up研修会担当 日野 彰 板垣 徳昭

1 初めに

Brush Up研修会は、コンサルタントの模範授業や教員の公開研究授業をとおして、個々の教員の授業力向上を図るとともに、生徒への講話・集中講義をとおして生徒の教科への意欲、興味・関心、学力を醸成し、さらには大学受験に対応できる実力を養成することを目的とする。

研修会は、国語、英語、数学、理科、情報の各教科で年間2～3回実施し、研修の内容については、研修Ⅰ（公開授業）、研修Ⅱ（モデル授業、講話）、研修Ⅲ（教員研修）の3本立てとしている。（最終章「7 平成30年度Brush Up研修会実施一覧」参照）

特に今年度は、新たに「授業力向上小委員会」を立ち上げ、検討会議を2回、公開授業を英、数、国で各1～2回実施した。公開授業はBU年間予定のうち、各教育顧問が従事しない日2日を当て、大学教授等に依頼し指導助言をいただいた。

「授業力向上小委員会」の目的は以下のとおりである。

「平成33年度大学入学共通テスト」（国語・数学の記述、英語の4技能など）に向けて、アクティブラーニング（生徒が主体となった課題解決型学習）、ICTの活用などの授業方法の実践研究を行い、研究協議や大学教授等の派遣講師の指導により、各教科担当教員の「授業改善」と「授業力向上」を図る。

今回は、各教科Brush Up研修会1年間の実践の中から、主に「授業力向上委員会」の公開授業を中心に、それぞれ報告したい。今年度は公開授業を実施するに当たって「指導案」の作成にも力を注いだので、各教科公開授業の指導案も掲載する。

該当教科のみならず、多くの先生方の授業の改善に資することができれば幸いである。

2 国語Brush Up実践報告

報告者 堀田 文雄

◇ 平成30年度国語授業検討会

本年度国語授業検討会は以下の日程、場所、要項で2回行われた。

第1回 日時 7月26日（木）

場所 ミーティングルーム（宮城野校舎）

研究授業 授業者：渡邊 麻梨香先生（特進）

対象：1-T4生徒

教室：ミーティングルーム

講話 講師：児玉 忠先生（宮城教育大学教授）

研究協議助言 助言者：児玉 忠先生

第2回 日時 11月14日（水）

場所 グローバルルーム 中講義室（多賀城校舎）

研究授業 授業者：齋藤 万里先生（外国語）

対象：IB2年生

教室：グローバルルームIB2年生教室

研修 発表者：芳賀 誠先生（特進）「羅生門・山月記・こころ」

浅沼 一夫先生（英進）「とんかつ」

高橋 真理先生（特進）「羅生門」

研修発表助言：児玉 忠先生

講話 講師：児玉 忠先生

今回、「研究紀要」には、第1回国語授業検討会「講話『高等学校国語指導要領の流れ、大学入学共通テストの概観と要点』」、第2回国語授業検討会「研究授業」について報告を掲載したいと考える。

(1) 第1回国語授業検討会（7月26日）講話

講話者の児玉 忠先生は、臨床的・実践的研究においては、特に、小学校の詩教育、中学校・高等学校の作文指導の分野を専門となされている。また、豊富な経歴の中に、大学入試センター教科科目第一委員会委員（国語）や中央教育審議会専門委員、「中学校学習指導要領（国語）」作成協力者等の刮目すべき活躍があり、今回の講話の中に、それらに関する話題が数多く取り上げられ話されたのは大変有意義であった。

児玉先生は、大阪教育大学大学院（修士課程）を修了された後、帝塚山学院高等学校（後に中学校高等学校）に11年間奉職され、教務部長もなされた。その経験から私学教育に対して理解をお持ちになっている。講話の中では、本題とは別に、高校教員時代のことを話され、中学生が純真であったこと、高校生になるとやんちゃになって、そのことから、中・高教員間においてかみ合わない面が生じたこと、クラスの中での学力差が広がったことから特進クラスを作ったこと、楽しい思い出とともに、教務主任の仕事によって体調を崩すことになり苦しいこともあったなど、傾聴に値するお話を伺った。

〔新学習指導要領国語〕

講話では、高等学校平成30年度改定の新「学習指導要領」高等学校国語科科目の新しい枠組み（現行科目からの大幅な改定）を確認するとともに、1990年代の「新学力観」でうたわれた「生きる力」からお話が始まり、世界の変化に対応しようとする教育の流れとして、知識を身につけることは、もはや意味がない、学習者が仮説を立てること、考え方にチャレンジしていくことの方がつくりられ、国語の分野では子どもの言語活動の中で、自らが正解をさがすこと、つくることを目指すようになってきている過程を、要点を明確に整理して説明された。

さらに、文部科学省が求める国語教育の現段階について、以下のように解説なされた。

小学校・中学校では、文部科学省の指導により教科内容は、すでに言語活動中心になっている。教科書もその点に特色を持たせている。

それに対して高等学校側では、大学入試は変わらないのではないかと、ということで、言語活動を取り入れるという面では相変わらず動いていない、という文部科学省の認識により、高校現場とのきしみがある。文部科学省としては、そのようなことで、社会でまともな言語生活ができる人間を育成できるのか、という立場である。たとえば、新「学習指導要領」高等学校国語科科目の新しい枠組みの中では、「文学国語」が新設される中に古文も入るが、すでに平成21年度版から「伝統的な言語文化と国語の特質」がうたわれているにもかかわらず、これまでの古文の授業では、入門段階で用言、体言、用言の活用を教える中で、古文嫌いを作ってきたのではないかと、言うように。10年に1回改訂される30年度の新「学習指導要領」では、文部科学省には、はっきりと高等学校を変えたいという思いがあることを見て取れる。

国語「学習指導要領」平成元年度版から、改訂ごとに言語活動の格上げが図られてきているが、平成30年度版では、大幅に格上げが図られている。領域「A話すこと聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の指導時間の指定とともに、高等学校のみ、「C読むこと」の指導時間の指定が加えられている。これは「C読むこと」の制限を図るものになっていて（10～20単位時間）、「A話すこと聞くこと」（20～30単位時間）「B書くこと」（30～40単位時間）に重点を置かせようとしている。

それともなって、大幅に教科書を変えなければならない。言語活動についての蓄積がない教科書会社は対応することができず、撤退する会社が出てくることまで見通されている。また、教科書会社では従来の編集を大きく変えず、これまでの分量を大きく超える言語活動分野の付録をつけてくることも考えられる。

〔大学入学共通テストについて〕

文部科学省はこれを、総受験者の10人に1人が国立大学に合格する大学入学の資格テストにしたいと考えている。

特色として、「国語」の出題には記述問題が含まれることになった。中心となる「会話文」はじめ、前書き、資料、これはいわゆる実用的文章である。これが加わって、試験時間が80分から100分が増える。

さらなる特色として、従来の大問4問、評論、小説、古文、漢文には変革が加えられ、評論では複数の表、図、写真の複数の資料を関連づける問いがあった。かつ、小説、古文、漢文の大問では複数のテキストが付き合わされて全体の問いが構成され、関連付けられた問いが出題された。原作に対するスピンオフのテキストが提示されて、考えを深めることが要求されている。問題の作成者の言うことによれば、「できるだけ出題の可能性を広げる」ということである。

記述問題のある第1問の前書きは、長く読みづらい文章になっている。これは、わざとやっている。課題解決問題設定を意識している。資料の読み取りと、複数の資料の関連付け、そして、それにもとづく推察力、社会に出たならば、こういう力こそが必要とされると、文部科学省は考えている。

これまでのセンターテストの問題では、一人の筆者のコンテクストを関係づけて解答を導き出した。これに対して、大学入学共通テストの試行である記述式問題のモデル問題例（平成29年5月）からすでに、異なるテキストをダイナミックに関連付けさせて設問する方法になっている。試行調査（平成29年11月）でも同様に、従

来のセンターテストのような、答えはすべて本文のなかに、という問題方式ではなく、筆者が述べているものの中ではなく、受験生である、あなたが複数のものを関連づける中に答えを見いだす、というようになっている。

記述問題の採点については、間に合うか綱渡りの状況だと思う。「全国的な学力調査」は4月に実施され、返却は夏休み前というように3か月の時間がかかっている。大学入学試験では、この様な長い時間を掛けるわけにはいかない。記述の問題は、受験生の自己採点(予備校等が作成したチェックシートによる)と大学入試センターの点数が合わない。この点は本番での受験生の不満が予測される。精度の担保が必要とされる。そのために、いまからでも遅くないから記述は撤退しよう、記述は各大学に任せよう、という議論が、今でも内部にある。

記述問題の点数は明記されていない。点数の1案としてA-Eの5段階として、40点を上限として、点数化を各大学に任せるといふものがある。テスト学からの予想としては、総受験者の10人に1人が合格する国立大学合格者では、点数の差は付かないだろうとされている。

高校の授業においては、少しずつでも、毎回の授業で書かせることを意識して授業を行っていく必要がある。

(2) 第2回国語授業検討会(11月14日) 研究授業

この研究授業の準備のために2度、齋藤 万里先生による対象クラスの授業を拝見したが、教師の活力ある授業の姿勢、生徒の積極的な授業参加を目にして、必ずや有意義な研究授業になるものと確信を持つことができた。

教材の夏目漱石『ころ』は、各社の現行教科書に載せられているが、その部分(Kの自殺まで)とは異なった、漱石が明治という時代と、明治の人間をどのように捉えていたかが伺える箇所を選択した。

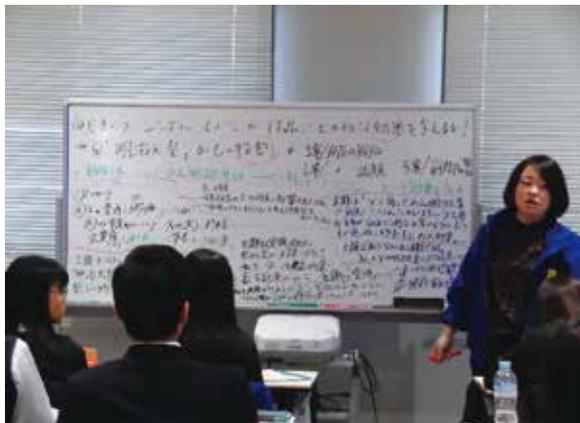
本時研究授業では明治天皇の崩御に触れた場面を教材とし、「時代」についての考察を主眼とした。

授業では、「明治天皇」が作品の中で持つ役割を中心にして、「中 両親と私」の主題を生徒一人ひとりに考えさせ、それに対して、明治天皇の存在はどのような効果を果たしているのか、3人グループで考えさせた。

生徒に課題として与えた発表形式は「主題」はAである。「明治天皇」はAにBという「効果」をもたらしている、というもので、高度というべき課題が要求された。授業が終わった後、今日は「ムズカッタ」と生徒は口にしていった。

生徒たちは、グループごとに熱心に討議し、各グループ各様に、主題と効果と、5組の解答をホワイトボードに書きだして、ほぼ授業は終わった。その解答の検討は次回以降となった。

授業の終了前に、一人の女子生徒が、一定程度長く意見を述べていた。直観的抽象性によらず、客観的抽象レベルにおいて、こんなに長く意見を述べる事ができる生徒がいることに驚かされた。児玉先生の表現では授業者の述べたことに対する「反論」ということであったが、授業の中の非常に優れた一場面であったと考える。



(4) 研究授業について児玉先生の助言

研究授業はとてもよかった。私の学生にも見せたかった。16人のアットホームな雰囲気でのいい学び方をしていたと思う。学習のための用語を板書して、生徒と共有して進めていた。主題との関連性について、生徒が納得するように導くことが目的になっていると思う。

3人グループに分けて考えさせ、それを発表させた。〈みんな違って、みんないい〉・〈言えたら合格〉とするのは、オープンエンド方式。今日の授業では、先生が生徒にゆさぶりをかけ、さらに深めさせた。あおられたら、「答え言ってよ」というのが生徒の気持ち。そのところを導いて考えるようにさせていた。エリちゃんの筋道だった先生の問いの立て方に対する反論も素晴らしく、感心した。それもみんなが考えを深めるのに役立つものだった。

課題として、① 主題をばらけさせながら、着眼点を生徒に持たせやすくすればよかったのではないかと。② 「天皇の役割は共通だ」というのは生徒には難しかったのではないかと。③ 授業の最後にもう一度本文に戻ることが必要。

第2学年 国語科学習指導案

平成30年11月14日(水) 6校時

仙台育英学園高等学校IBコース 2年

指導者 藤藤 万里

場所 2IB① 教室

1. 夏目漱石『ころ』(新潮文庫)他

- 単元(題材)の目録(身に付けさせたい方)
 - 『ころ』『上先生と私』『中両親と私』、小説を読むことになじむ。
 - 上記を読んで自ら場面のもつ意味を考える。
 - 登場人物の采することばの私然性、意味、心情、心理的確に把握し、述べられる。

3. 単元(題材)の評価規準	読む能力	知識・理解
関心・意欲・態度 内容を叙述に即して的確に読み取り、そのうえで、心が留まる箇所、疑問点をとり上げる。さらに自分の推察をはたらかせる。	文章表現に即して内容をよく取り、そのうえで、心が留まる箇所、疑問点についてグループ内でまとめ、夏目漱石について知識を持つ。	知識・理解 夏目漱石の『ころ』の最後に来る『ころ』を教材とした、この作品の後、『道草』『明暗』において数回描かれた漱石は、『ころ』によって利己心というテーマの抽出に手ごたえを得ているのだから。『上先生と私』『中両親と私』をとりあげたのは、多くの高校生が教科書の『先生と遺書』を読むことからあり、その前篇をなす上、中の部分を生徒に考えさせ、そのうえで『先生と遺書』を読ませたいと思ったからである。

4. 単元(題材)について

- (1) 教材(題材) 観
 - 夏目漱石の『ころ』(新潮文庫)の最後に来る『ころ』を教材とした、この作品の後、『道草』『明暗』において数回描かれた漱石は、『ころ』によって利己心というテーマの抽出に手ごたえを得ているのだから。『上先生と私』『中両親と私』をとりあげたのは、多くの高校生が教科書の『先生と遺書』を読むことからあり、その前篇をなす上、中の部分を生徒に考えさせ、そのうえで『先生と遺書』を読ませたいと思ったからである。
- (2) 生徒観
 - IBのプログラムを学ぶ2年生16人の生徒は、おしなべて素直、率直であり、明るく積極的である。読み取りの点で不十分な点は、疑問として掘り出し、グループまたはペアで話し合いをし、解決を図っている。評価において高スコアの取得を目指している。大学進学はIBプログラムを生かし、推薦、AOでの合格を企図している。
- (3) 指導観
 - 『先生と私』では、『先生』に対して遠慮会釈なく語をする近代的自我を持った『私』と、奥さんはその自我によって渡り合うことができる。しかし一面で『先生』に対する愛と信頼に覆われて、知り得ることも知らずもないところがある。こうした奥さんの発言について考えさせた。『両親と私』では、露骨性が頂点に達する『先生』の遺書を『私』がかい見、かきま見する場面について読み取りを深めさせた。さらに、明治天皇の逝去を描いていることについて考えさせ、そこから敷衍するする進展について目を配らせる。

5. 指導と評価の計画(35時間扱い 本時/35)

時 間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	「上先生と私」の通読を課題とし、心に留まった箇所、疑問点を提示する。	・時間配分について留意する。 ・グループの協働について目を配る。	・整理のまとめが見やすいか。 ・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
2	グループで話し合いを行い、整理表を行う。	・解決した事項について全体で確認する。	・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
11	ペアで提示された問題について考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・提示された疑問点を全体に提示する。 ・ペアで提示された問題について考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。 ・解決した事項について全体で確認する。 ・全体に提示された疑問点について、各々が考えたことを比較させる。

時 間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
12	「中両親と私」の通読を課題とし、心に留まった箇所、疑問点を提示する。	・時間配分について留意する。 ・グループの協働について目を配る。	・整理のまとめが見やすいか。 ・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
28	グループで話し合いを行い、整理表を行う。	・解決した事項について全体で確認する。	・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
(本時) 28	ペアで提示された問題について考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・提示された疑問点を全体に提示する。 ・ペアで提示された問題について考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。 ・解決した事項について全体で確認する。 ・全体に提示された疑問点について、各々が考えたことを比較させる。
33	「先生と遺書」の通読を課題とし、心に留まった箇所、疑問点を提示する。	・時間配分について留意する。 ・グループの協働について目を配る。	・整理のまとめが見やすいか。 ・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
34	グループで話し合いを行い、整理表を行う。	・解決した事項について全体で確認する。	・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
35	これまで各部分ごとに提示した疑問点について、物語全体の展開として捉え、考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・時間配分について留意する。 ・グループの協働について目を配る。 ・解決した事項について全体で確認する。	・整理のまとめが見やすいか。 ・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。 ・解決した事項について全体で確認する。 ・全体に提示された疑問点について、各々が考えたことを比較させる。

6. 本時の指導

- (1) ねらい
 - 明治天皇の逝去によって「私」をめぐる状況が変わったことと、変わらなかったことは何か。
 - 明治天皇に関する話題が、作品(「中両親と私」や『ころ』全体)においてどのような役割を果たし、モチーフとして「明治天皇」が作品に与える効果について考察する。
- (2) ねらいに迫るための手立て
 - ・ 明治天皇の逝去はどのような手立てで知ったのか(唯一のメディアはどんなにたがきをしていったか)。
 - ・ 明治天皇の逝去が明治天皇逝去の話題は、人々の言動や心情にどのような影響や変化を与え、各登場人物にどのような差果が生まれているか。
 - ・ 当時の東京から遠い地方の人々の結びつきはどのようなものであったか。

(3) 指導過程

時 間	主な学習活動(○:総論)	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入(5分)	これまで読み、考えた「両親と私」について振り返る。 ・ 明治天皇の逝去は流れのなかでどのような場面なのか把握させる。	・ 読解と場面状況、登場人物の心情を正確に把握させる。	・ 整理のまとめが見やすいか。 ・話し合いが活発か。 ・解決にむけて意見が的確に述べられているか。
展開(44分)	・ ペアで提示された問題について考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・ 提示された疑問点を全体に提示する。 ・ ペアで提示された問題について考え合う。考えたことを記述してまとめ、全体に発表する。	・ 話し合いが活発か。 ・ 解決にむけて意見が的確に述べられているか。 ・ 解決した事項について全体で確認する。 ・ 全体に提示された疑問点について、各々が考えたことを比較させる。

<p>おいてどのような効果をあげたのか(=梁塵)、考える。</p>	<p>・その他、「中間観と私」で挙げられた疑問は、課題エッセイとして提出させることの連綿。</p> <p>・次回予告(「下先生と著書」の通読を課題とし、心に留まった箇所、疑問点を提示する)。</p>	<p>とが、どのような関係をもたらし、効果(影響)を与えているのかを意識し、考察させる。</p> <p>小説の場面と今日との社会の違いを意識させる。</p>	<p>「梁塵が分かりやすく、かつしっかりしているか。」</p>
<p>まとめ (3分)</p>	<p>・課題(宿題)の提出期限を厳守させ確実にさせる。</p> <p>・「下先生と著書」について、読み直すよう促す。</p>	<p>※生徒から出てくるものを整理して記入していただく予定です。</p>	

(4) 教書計画

(5) 別添資料 青空文庫で恐縮ですが(文庫本はうまくコピーできないため)「中間観と私」の全文

3 英語Brush Up実践報告

報告者 高橋 郁夫

◇ 初めに—英語Brush Up概況—

研修1では英進・フレックス・技能開発・外国語・特進・秀光のそれぞれのコースで公開研究授業を1回ずつ実施しました。今年度は授業力向上小委員会の授業検討会を特進コースで実施したため、例年より1回多く計5回実施しました。「ICTの活用、アクティブラーニングの実践」をテーマとして掲げました。ICT活用の部分ではパワーポイント、デジタル教科書、QRコード等を授業に活用した例が見られました。アクティブラーニング実践では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどの探究型の学習を取り入れ実践していこうとする姿勢が感じられました。

研修IIではコンサルタントの坂井先生が、秀光1年生と6年生、特進3年生、外国語、英進の2年生のそれぞれのコースの生徒たちに2時間連続のモデル授業を行いました。先生が考案したグラマザウルスや英語史の知識を使い、英語の仕組みを説明し、センター試験や国公立大学の個別問題にどう対応したらいいのか解説していただきました。英語の入試問題では読ませる量が格段に増加しているのですが、文法の学習や丁寧に問題を読解する大切さを生徒に説いていました。また、現代文と同じ感覚で読解する必要があることから日ごろから読書をしたり、新聞を読んだりして、社会問題や世界が抱える様々な問題について知識を広げておくことの大切さも力説されました。

Brush Upの後は研修IIIとして研究協議を実施しました。公開研究授業の振り返りや感想、文法項目の指導方法や指導上の悩みなどについて話し合ったりしました。公開研究授業ほど人数が集まらないのが悩みですが、最終回のBrush Upでは公開研究授業について率直な感想や意見が出されました。また2021年度の共通テストや4技能試験対策として、特にスピーキング、ライティングの力を伸ばす必要性について共通理解をもつことができました。幸いなことにコンサルタントの坂井先生は見識の広さや豊かな指導経験を持っているので、どんな指導上の課題についても適切な助言をいただくことができます。

◇ 特進コース公開研究授業(1T5、11月13日(火)の実践例)

当日日程

13:05-13:50 公開授業

特進コース1年 5校時目(13:05~13:50)

授業者:新谷 仁 教諭(1T5:コミュニケーション英語I)

14:00-16:00 英語担当教員との研究協議

- 研究協議題：(1) 本日の授業について
(2) 2021年度共通テストや外部試験について
指導助言：坂井 一任 先生（英語科コンサルタント）

1) 公開授業

今回の公開授業は新谷先生による1T5組の授業でした。授業が始まる前の5分間youtubeでEl Sistemaについてベネズエラの子供たちへのインタビューのビデオを視聴させ背景知識を与えました。画面下に英語の字幕が出ており、生徒たちはそれを見て内容を理解できたようでした。授業ではほとんど英語を用いて指示や説明をしていました。デジタル教科書を使用し、シャドーイング、Q&A等の活動に生かしていました。またペアワークやグループワークなどの言語活動に応じて様々な学習形態を採用していました。生徒の発言の促し方がうまく、既習のフレーズを使い質問し、生徒も既習のフレーズを用いて答えていました。発言については必ずフォローし、褒めたりまたさらに向上させるようなアドバイスを送ったりしていました。さらにそれらをクラス全体でシェアするように指導していたのが印象的でした。

2) 授業を振り返って、そして今後の課題（新谷仁教諭）

① 公開授業について

デジタル教科書の出現や、本校のWi-Fi環境を利用して動画を見ることができるなど従来にはなかった授業展開ができることに自分自身驚いている。今回は、そうした機器の組み合わせとActive learning的なグループワーク、ペアワークを組み合わせる生徒の発言を多くすることをねらいとして授業を考えてみた。

そうした中でも英文が訴えている2つのメッセージ：The key to success is putting your heart and soul into what you do. Circumstance don't necessary determine your life.”を理解させベネズエラの貧民街から優れた音楽家が輩出したことを理解して、将来に向けて今努力すれば夢がかなうのだということを知って欲しかった。（ベネズエラは今大変な国内情勢らしいですが）生徒は明るく声も大きく授業をしてこちらも楽しくなるクラスである。一般クラスであるのでテストの結果などは今一步のところであるが、絶対に伸びると信じて（信じ込ませて）授業をしている。研究協議では時間配分の質問があったが、年度初めに教科書全体を見据えて、どのlessonをどのような時間配分で何を教えるのかの担当者の目線合わせが重要になる。（Les 8 The power of Musicはこってりコース）

それに加えて2021年度に共通テストを受験する学年なので保護者、生徒自身のspeaking, writingのアウトプット活動への積極的な参加がみられる。そうした中で今年度のweblioオンライン英会話の導入はまさにタイムリーであり、そのことにより生徒の英語学習への強い動機付けとなり、やはりきちんとした英文を話すためには内容についての知識（日本文化、医療、科学技術）はもちろんの事、英文法、語彙力の必要性もおのずと高まってきている。

② 今後の課題

模擬試験、GTECの結果を分析する限り、英文読解力、リスニング力が弱い。これはひとえに英文を読みこなす量の不足とそうしたままとまった英文を聞いて理解、反復する力の不足がある。坂井コンサルタントの指摘にもあるように「デジタル化」による弊害（ノートを取らないで眺めている授業）を理解しデジタルとアナログの組み合わせも必要である。私達教師自身が目先の事に心を奪われ、AIアプリによる英会話、中身の無いspeech, discussion, debate等といった基本的な英語力や読書や新聞に読んで自分の意見を持つことができなければすぐに崩れ去るのである。「2年生で成績をあげられたら本物」という言葉があるので、今後も楽しみながら指導していきたい。

3) 研究協議

研究協議では①授業について、②2021年度共通テストや英語外部試験について話し合いました。

① 授業について

新谷先生の授業について、感想としては、「終始生徒を励ましたり、褒めたりしていた。生徒の発言を聞き、コメントや助言を生徒に返し、クラス全体で共有していた。やる気と安心感を与える授業だった。」や「グループ活動を取り入れ、発言しやすく、協働できる環境づくりをしていた。」等、経験豊かな先生が2021年入試を見据え、speaking活動を意識した授業実践をしていることに対して賛辞の声が多くあがりました。また、「共通テストや外部試験の実施に備えてspeakingを促すような授業に変えていかなければならないのですが、教科書で文法や語彙指導など基礎学力をつける指導も大切にすべきだ。」とか「教科書を大切に授業作りをしていく。」など従来の指導方法とのバランスをとる大切さも共有しました。また、「教員間での指導方法のすり合わせが大切だ。」とか「生徒の興味関心に合わせて恣意的に課ごとの指導時間数にメリハリをつける。」など教員間の協働の大切さを説く意見も出されました。

② 2021年度共通テストや英語外部試験について

標記の件について各コースの英語教員間で資料を見ながら情報共有を行いました。コンサルタントの坂井先生

からは「実用的英語と文化教養的英語、デジタルアプローチとアナログアプローチのバランスをとりながら、両方指導しなければならない。」という助言をいただきました。英語の基礎学力をつけることを大切にしながら、speakingやwritingなどのoutputをどのように指導していくかが課題になっています。たくさんの先生方に集ってもらい熱心に話し合い、共通テストや外部試験に対する情報共有ができました。

4) コンサルタント坂井一任先生のコメント

① 研究授業について

新谷先生がヶ月近く入念な授業準備をして「デジタル教科書」によるコミュニケーション英語の授業を行った。Youtube映像～カラー文字～音声をうまく利用する生徒の参加型の模範的講義で今後の取り組みの良い先例になった。

② 研究協議

参加者多数でデジタル教科書をめぐる活発な議論になった。センター試験後の共通テスト及び外部認定資格試験と併せて英語教育における〈文化・教養的英語VS実用ツールとしての英語〉〈アナログ方式VSデジタル方式〉が複雑に絡み合う状況を認識しつつ今後の英語教育を模索することを提唱した。本年度最終回にふさわしい熱気あふれるブラッシュアップになったことは喜ばしい。



4) 学習指導案

Lesson 6 The Power of Music to Change Young Lives
TEACHING PLAN English Communication I
Date : November 13th (Tuesday) 5th Period 13:05-13:50
Grade : 1st year student: 1T-5 (20 Boys 19 Girls)

Instructor : Shintani Hitoshi

Lesson 6 The Power of Music to Change Young lives :
PRO-VISION English Communication I (Kirihara)

The main objectives of this lesson

Through the “EL Sistema-The Miracle”, let the students realize that music can change the world, learn the importance of making an effort and develop a spirit of cooperation.

By memorizing the phrases like “ The key to success is putting your heart and soul into what you do.” or “ Circumstances don’t necessarily determine your life.” let the students concentrate on their studying or sport and fulfilling their future dream.

Let the students understand the use of “causative verb / get, make, have, let “ and make their own sentences.

Topics of this lesson

The purpose of this lesson is to move the students’ heart by learning this phrase “ Circumstances don’t necessarily determine your life.”

1. A Pro-file of the class (1T-5)

Students in this class are very active and cooperative, especially in the web-lio lesson (On-line English conversation) they are eager to learn to speak English. This lesson motivates students a lot and they come to learn their lack of vocabulary and the importance of English Grammar. (see – materials) However, their abilities of English overall is not high. Some of them forgot the use of “third person singular present-tense” or didn’t make negative or interrogative sentence. In spite of these facts, they try to read the sentences aloud, increase their vocabulary and speak English fluently when they learn the joy of communicating with tutors on the Internet online conversations. In fact it has some problems, but our JTE try to improve students’ four skills of English for their future.

2. Time allotment (10/11) * Tanabu Model “KOTTERI COURSE” (To deal with one lesson in detail)

3. Teaching Procedure in detail

(1) Teaching Procedure

Teaching Procedure		A teacher & Students’ Activities
1	TED (You Tube) & Greeting	While watching VTR, imagine what poverty is like and how great the music change student After greeting is over, students enjoy talking with partner. (small talk)
2	New Words & Listening	Check the pronunciation of new words and their meanings.
3	Reading Aloud	(Karaoke Time) Students stand up and look up the screen and follow the model reading
4	Pair Work	Make a pair and read the sentences in turns try not to English version
4	Comprehension	Q and A about the part 4 (A teacher ⇔ Students)
5	Summarization	Using notes students took and “Navigator”, let the students write a summary. (p.78)
6	Listen & React	Exchange the ideas they had thought and listen to the conversation on text (p.79)

(2) New Words & Listening / Today’s small talk (5 min)

A teacher’s instruction	Students’ Activities
<ul style="list-style-type: none"> ● Confirm the pronunciation and its meaning Now I want you to listen to today’s part. Before that, let’s check the new vocabulary. 	recite the new words and phrases
<ul style="list-style-type: none"> ● Let’s listen to Part 4 of the lesson with your textbook closed. Please listen carefully while paying attention to the questions on the handout. (get the picture) 	This activity might be omitted owing to the time is limited.

While-listening Questions

- (1) How does Dr. Abreu express the basic ideas of El Sistema?
Poverty means loneliness, sadness and being forgotten. An orchestra means joy, motivation, teamwork, and wanting to succeed.
- (2) Who do the children in El Sistema have a good influence on?
They have a good influence on families and neighbors.

(3) Reading Aloud (Karaoke Time) 5 min

A teacher's instruction	Students' Activity
<ul style="list-style-type: none"> ● Stand up and try to read the passages as fast as you can. ● Using handout, student A read J, student B try to translate. 	<p>While looking at the screen, students read the text aloud.</p> <p>Using handout, students play a part of A (Japanese) and a part of B.</p>

(4) Comprehension 10 min

A teacher's instruction	Students' Activity
<p>1st paragraph</p> <p>Do you remember what Abreu believes? We have learned it in Part 1. He says “the richness provided by music can beat down poverty.” In this part, <i>how does Dr. Abreu express the basic ideas of the El Sistema music education program?</i> What does he say?</p> <p>The words following “poverty means” are all negative and the words following “an orchestra means” are all positive.</p> <p>How do children learn the importance of making an effort and develop a spirit of cooperation?</p>	<p>Poverty means loneliness, sadness, and being forgotten. An orchestra means joy, motivation, teamwork, and wanting to succeed.</p> <p>By working hard together as members of an orchestra and trying to create something artistic.</p>
<p>2nd paragraph</p> <p>The children learning at El Sistema have a good influence on their families and neighbors. Here one example is given in the text. The father was once an alcoholic. When did the father stop drinking?</p> <p>The son's dedication to music encouraged him to stop drinking.</p> <p>How about his big brother? How did he change?</p> <p>What did he learn from his younger brother?</p>	<p>He stopped drinking when he saw his son throw everything he had into music.</p> <p>Once he dropped out of high school. He started studying again.</p> <p>He learned that the key to success is putting your heart and soul into what you do.</p>
<p>3rd paragraph.</p> <p>“The seed planted by one man in Venezuela.” What do you think “the seed” means?</p> <p>How do you interpret the sentence El Sistema “has now grown into a mighty tree with strong roots”? (in English or in Japanese)</p> <p>“El Sistema has begun to bear fruit and its seeds have started to grow across international borders.” How do you interpret “fruit” and “its seeds”?</p> <p>Actually educational programs modeled on El Sistema are developing in other countries. Where are they springing up?</p>	<p>Maybe it means El Sistema.</p> <p>I think El Sistema has been recognized as a meaningful and significant program by many people.</p> <p>I interpret “fruit” as El Sistema's success, and “its seeds” as people whose life changed through El Sistema. Those people promote it abroad through mass-media or by themselves.</p> <p>In the United States, Europe, and many countries in Latin America.</p>

(5) Summarization (10 min) * Some part of it had already given an assignment

A teacher's instruction	Students' Activity
<p>● Confirm the main idea of this lesson Now make a summary of this part in simple English.</p>	<p>Make a summary of his / her own simple English</p> <p>Dr. Abreu says an orchestra means joy, motivation, teamwork, and wanting to succeed. Through El Sistema, children learn the importance of making an effort and develop a spirit of cooperation. These children have a good influence on their families and neighbors, too. Educational programs modeled on El Sistema are springing up in many parts of the world.</p>

(6) Your Comments 10min

Ask the students what impression they had in this lesson	Key phrases or words which impressed them
<p>● Do the circumstances determine your life? In this lesson, we learned about El Sistema and the power of music. El Sistema tells us that people can learn a lot by performing in an orchestra together with other members. What do you think we can learn and develop by creating something together in a team?</p>	<p>What is the key to succeed in your life?</p> <p>We can learn the importance of cooperation. We cannot play good music without harmony. We can develop a skill of communication. Discussing with other people gives us a hint to create something good.</p>

(7) Consolidation (Listen & React) 5min

If time permits, students listen to the CD concerning about the impression of Lesson 6 and answer the questions given on the textbook (p.79)

And then each student plays a role of Jacob, Emma and Kenji while reading the script on the handout.

4 数学Brush Up実践報告

報告者 梅田 一成

◇ 秀光前期公開研究授業 (3S、10月5日(金)の実践例)

- ①日時 平成30年10月5日(金) 10:00～17:00
- ②出席者 (コンサルタント) 江川博康、(コンダクター) 梅田一成、(教諭) 本木真人、佐藤雄一、佐々木幹子、佐藤久樹、小保内陽大、高橋愛、小野明、栗本崇雅、高橋秀樹、三浦昌彦、船越正志
- ③会場 宮城野校舎
- ④目的 公開研究授業、及び職員研修により教員の授業力と進学指導力向上を図る。
- ⑤当日の日程、実施内容

(1) 研修 I 公開研究授業 10:35～11:20 (45分)

- 授業者 佐々木幹子 先生
- 対象生徒 3S α クラス (23名)
- 会場 3S1 教室
- 内容 2次方程式の解の公式を、Own PcとClassi NOTEを活用して導いていた。生徒と教員、生徒間の双方向授業の実践であり、テンポの良い流れの中で授業が展開された。中学生が文字の式変形を行うのは難易度が高いが、数名の生徒は自力で解の公式を導き出していた。できなかった生徒も、その後のペアワークで熱心に学習していた。

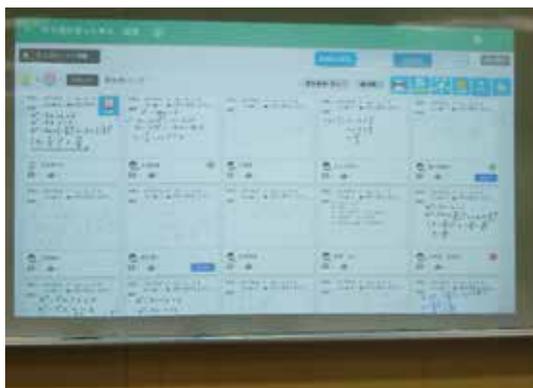


(2) 研修Ⅱ 集中講義 12:15～13:35

- 講師 江川博康先生（数学科コンサルタント）
- 対象 3S1、3S2（37名）
- 会場 南冥1階中講義室
- 内容 高校数学入門として整数の問題を扱っていた。素数の定義から始まり、 2^{2017} の1の位と、10の位を求める問題は、内容が高度であったが、くらいついていく生徒も多くみられた。生徒の受講態度はきわめて真摯で、今後の伸びが期待される。

(3) 研修Ⅲ 職員研修 16:10～17:00

- 会場 ゼミ室5
- 内容 「アクティブラーニングについて」



佐藤幹子先生より研究授業の自評をもとに参加者の意見交換を行った。

学習指導案に沿って授業が展開され、生徒はClassi NOTEを用いて真面目に授業に取り組んでいた。ディスプレイ→プリント→説明→ペアワークと場面転換がなされ、流れもスムーズであった。



ペアワークに関しては

- ・授業者の声掛けの必要性和の配置。
- ・他のペアとの関係性において、あらかじめ複数のペアを決めておき、適宜切り替えてくことで、多様性が生まれ、相性の問題の緩和や意外性が生まれる。
- ・ペアワークから4～6人のグルーピングへと移行することで一般的にうまく展開できる。などの指摘がなされた。



Classi NOTEを用いてスクリーンに映し出された個々の記述について、授業者がピックアップして、全体指導を行うことでより効果的な授業になるということが、参加者の共通認識であった。

江川先生からは、生徒が授業者に関心を持ち、理解されていると実感した時に伸びること。正誤を明示することの重要性をご指導いただいた。教師と生徒の人間関係を上手に保ちながら学力面のフォローアップを図ることで、アクティブラーニングがより効果を発揮していくとの講評があった。

- 日時場所 2018年10月5日 金曜日 第3校時 場所 3SI 教室
- 学級 秀光中等教育学校3学年 aクラス (男子10名 女子13名 計23名)
- 学級所属

1 学期期末考査の結果から、得点上位生徒をαクラス、下位生徒をβクラスに分けて指導を行っている。ほとんどの生徒は意欲的に取り組んでいるが、数名の生徒は理解に手間取っており級友や教師の支援を必要としている。

4. 使用教科書 東京書籍 新編 新しい数学 3 (2, 東京, 数学 928)

5. 単元名 2次方程式

6. 単元について

- (1) グローバルな文脈 「科学技術の革新」
- (2) 重要概念 関係性
- (3) 関連概念 量, 表現
- (4) 探究テーマ 関係性は、量の表現する過程で与えられる。

(5) 探究の問い

- ・事実的：量の表現とは何か。
- ・概念的：量の表現により、どのように関係性を表すことができるか。
- ・議論的：私たちは関係性をどの程度表現できるだろうか。

(6) 目標

- ・基準A：知識理解
因数分解、解の公式、平方根の考え方をいいて2次方程式を解いたり、その考え方を活用したりできる。
- ・基準B：パターンの探究
数量の関係性を読み取り、2次方程式を用いて表し、解決策を見つづけることができる。
- ・基準C：コミュニケーション
クラスでの発表やグループ内での話し合いを通して、お互いの意見を理解し、ときには批判的な意見を述べる。

(7) 学習の姿勢(ATL)

- I コミュニケーションスキル
 - ・他の生徒や教師と考えや知識について話し合う。
 - ・批判的に、そして理解するために読む。
- III 整理整頓する力
 - ・短期的課題や長期的課題に向けて計画を立てる。締め切りを守る。
- IV 批判的思考スキル
 - ・議論を形成するために関連する情報を集め、整理する。

(8) 内容

- ・2次方程式
- ・平方根の考え方を使った解き方
- ・2次方程式の解の公式
- ・因数分解を利用した解き方
- ・2次方程式の利用

7. 指導計画

節	項目	時	目標	学習活動
1	2次方程式 (教科書 p.68~69)	1	2次方程式とその解の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式の意味を知る。 ・2次方程式の解と2次方程式を解くことの意味を知る。
		2	$ax^2+cx=0$, $(x+\Delta)^2=\bullet$ の形をした2次方程式を、平方根の考えを使って解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$ax^2+cx=0$の形をした2次方程式を、平方根の考えを使って解く。 ・$(x+\Delta)^2=\bullet$の形をした2次方程式を、平方根の考えを使って解く。
		3	平方根の考えを使った解き方 (教科書 p.70~73)	<ul style="list-style-type: none"> ・$x^2+px+q=0$の形をした2次方程式を、$(x+\Delta)^2=\bullet$の形に変形することができる。
2	2次方程式の解の公式 (本時 1/2) (教科書 p.74~76)	4	$x^2+px+q=0$ の形をした2次方程式を、 $(x+\Delta)^2=\bullet$ の形に変形して解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$x^2+px+q=0$の形をした2次方程式を、$(x+\Delta)^2=\bullet$の形に変形して解く。
		5	2次方程式の解の公式を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式$ax^2+bx+c=0$の解き方にならって、2次方程式$ax^2+bx+c=0$を解き、解の公式をつくる。
		レポート C	2次方程式 $ax^2+2bx+c=0$ の解の公式を導く方法を考えてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・解の公式を使って、2次方程式を解く。
3	因数分解による解き方 (教科書 p.77~78)	6	解の公式を使って、2次方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解を使って、2次方程式を解く。
		7	因数分解を使って、2次方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解を使って、2次方程式を解く。
		8	いろいろな形をした2次方程式を、その形に適した方法で解くことができる。また、係数に文字をふくむ2次方程式について、その文字の値を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式の解き方を振り返って、どの方法で解いてもよいことを確認する。 ・いろいろな形をした2次方程式を、その形に適した方法で解く。 ・係数に文字をふくむ2次方程式に代わって、その文字の値を求め、その文字の値を求める。
9	基本の問題 (教科書 p.80)	問題演習		

節	項	時	目標	学習活動
2	花だんの通路の幅は？ (教科書 p.81～82)	10	具体的な問題を、2 次方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	・花だんの通路の幅を、2 次方程式を利用して解決することについて考える。 ・2 次方程式を使って文章題を解く手順を確認する。
	2 次方程式の利用	11	数に関する問題を、2 次方程式を利用して解決することができる。	・数に関する問題を、2 次方程式を利用して解決する。
2 次方程式の利用	1 2 次方程式の利用 (教科書 p.83～85)	12	長方形の紙から作った直方体の容器の容積に関する問題を、2 次方程式を利用して解決することができる。	・長方形の紙から作った直方体の容器の容積に関する問題を、2 次方程式を利用して解決する。
		13	図形の動点に関する問題を、2 次方程式を利用して解決することができる。	・図形の動点に関する問題を、2 次方程式を利用して解決する。
		14	基本の問題 (教科書 p.86)	問題演習
研究	B. パターンの探	15	誕生日はいっ	

8. 評価基準

評価基準 A: 知識と理解

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記の水準にも達していない。 生徒は以下の能力を身につけていない。 I. なじみのある状況において簡単な問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 II. それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。
1-2	生徒は以下の能力を身につけている。 I. なじみのある状況においてより複雑な問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 II. それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。
3-4	生徒は以下の能力を身につけている。 I. なじみのある状況においてチャレンジに満ちた問題に満ちた問題に満ちた問題を選択することができる。 II. それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。
5-6	生徒は以下の能力を身につけている。 I. なじみのある状況においてチャレンジに満ちた問題に満ちた問題に満ちた問題を選択することができる。 II. それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。
7-8	生徒は以下の能力を身につけている。 I. なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、チャレンジに満ちた問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。 II. それらの問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。

評価基準 B: パターンの探究

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記の水準にも達していない。 生徒は以下の能力を身につけていない。 I. 教師の支援の下で、数学の解法を応用することにより、単純なパターンを発見することができる。
1-2	生徒は以下の能力を身につけている。 II. パターンに合致した予測を述べることができる。
3-4	生徒は以下の能力を身につけている。 I. 数学の解法を応用することにより、単純なパターンを発見することができる。 II. 発見に合致した一般法則に言及することができる。
5-6	生徒は以下の能力を身につけている。 I. 数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。 II. 正しい発見に合致した一般法則としてパターンを説明することができる。 III. これらの一般法則の妥当性を検証することができる。
7-8	生徒は以下の能力を身につけている。 I. 数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。 II. 正しい発見に合致した一般法則としてパターンを説明することができる。 III. それらの一般法則を証明、または検証し、正当化することができる。

評価基準 C: コミュニケーション

到達度	レベルの説明
0	生徒の到達度は下記の水準にも達していない。 生徒は以下の能力を身につけていない。 I. 限られた範囲の数学的言語を使用することができる。 II. 推論の過程を通して考えを伝えようとはするが、推論には解析できない点が多い。
1-2	生徒は以下の能力を身につけている。 I. 数学的言語をある程度適切に使用することができる。 II. 不備のない推論の過程を通して考えを伝えることができる。 III. 論理構造に従って情報を的確にまとめることができる。
3-4	生徒は以下の能力を身につけている。 I. ほとんどの場合、適切な数学的言語を使用することができる。 II. 論理的に一貫性があり、不備のない推論の過程を通して考えを伝えることができる。 III. ほとんどの場合、論理構造に従って情報を的確にまとめることができる。
5-6	生徒は以下の能力を身につけている。 I. 常に適切な数学的言語を使用することができる。 II. 論理的に一貫性があり、不備のない推論の過程を通して考えを伝えることができる。 III. 常に論理構造に従ってまとめられた学習成果物を提示することができる。
7-8	生徒は以下の能力を身につけている。 I. 常に適切な数学的言語を使用することができる。 II. 論理的に一貫性があり、不備のない推論の過程を展開することができる。 III. 常に論理構造に従ってまとめられた学習成果物を提示することができる。

<p>9. 本時の学習</p> <p>(1) 本時のねらい これまでに学習した式の变形に関する知識を使い、2次方程式の解の公式を導くことにより、それらの知識の定着を確認する。また、2次方程式の理解を深める。</p> <p>(2) 本時の目標 2次方程式$ax^2+bx+c=0$を解き、解の公式を導く。</p> <p>(3) 学習過程</p>	<p>段階</p> <p>主な発問と予想される生徒の反応 ⑤：発問</p> <p>導入</p> <p>1 前時の復習</p> <p>⑥ Classi NOTE の復習問題を解きましょう。</p> <p>問題1 次の方程式を$(x+\blacktriangle)^2=\bullet$の形に変形しなさい。</p> $x^2-5x+2=0$ $x^2-5x=-2$ $x^2-5x+\left(-\frac{5}{2}\right)^2=-2+\left(-\frac{5}{2}\right)^2$ $\left(x-\frac{5}{2}\right)^2=\frac{17}{4}$ <p>問題2...$\left(x-\frac{5}{2}\right)^2=\frac{17}{4}$を解きなさい。</p> $\left(x-\frac{5}{2}\right)^2=\frac{17}{4}$ $x-\frac{5}{2}=\pm\sqrt{\frac{17}{4}}$ $x=\frac{5}{2}\pm\frac{\sqrt{17}}{2}$ $x=\frac{5\pm\sqrt{17}}{2}$	<p>指導上の留意点 □ATI</p> <ul style="list-style-type: none"> Classi NOTE に慣れていない生徒の支援をする。 終わった生徒は、ほかの生徒の手伝いをするように指示する。 本時の目標である解の公式の導出のヒントとなるように、ホワイトボードにしばらく映しておく。 <p>展開 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> プリント (添付資料1) を配布 課題提示 <p>⑦ 課題: 2次方程式$ax^2+bx+c=0$を解き、解の公式を導き出してみよう。</p> <p>⑧ プリントの空欄部分を埋めて、解の公式を導き出しよう。</p> <p>3 個人作業</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた2次方程式の解の公式の導出方法を、プリントを活用しながら説明できるようにする。 導出した解の公式を用いて2次方程式$3x^2+5x+1=0$の解を求める。 2次方程式$3x^2+5x+1=0$の解き方にならって、プリントの穴埋めをさせる。 変形の方法を予想し、平方根の考えを使って解くことを確認させる。
--	---	--

<p>まとめ (10分)</p> <p>4 ペアで考えた内容を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを、ペアを組んだ相手に説明する。 <p>5 まとめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 解の公式を確認する 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>2次方程式の解の公式</p> <p>2次方程式$ax^2+bx+c=0$の解は</p> $x=\frac{-b\pm\sqrt{b^2-4ac}}{2a}$ </div> <ul style="list-style-type: none"> 授業を振り返り、まとめと感想を Classi NOTE に書く。 Classi NOTE で他の生徒の授業を振り返りやまとめを共有する。 <p>2次方程式$ax^2+2bx+c=0$の解の公式を導く方法を考えよう。(添付資料2)。</p>	<p>□コミュニケーションスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いに解の公式の導出方法を話し合う。 <p>レポ</p> <p>ート</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を振り返って、自己評価をする。 ほかの生徒のまとめ・感想を読み、2次方程式の解の公式について理解を深める。 整理整頓する力
<p>(4) 評価の観点</p> <p>評価規準 A (知識と理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解くにあたって、適切な数学的手法を選択することができる。 <p>評価規準 C (コミュニケーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> 口述する場合にも、記述する場合にも、適切な数学的言語 (象記法、記号、専門用語) を用いることができる。 論理の一貫性があり、簡潔で不備のない数学的推論の過程を展開することができる <p>(5) 学習の姿勢(ATI)</p> <p>I コミュニケーションスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の生徒や教師と考えや知識について話し合う。 <p>III 整理整頓する力</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的課題や長期的課題に向けて計画を立てる。締め切りを守る。 <p>(6) 準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業プリント (添付資料1) OwnPC Classi NOTE での授業記信 (復習問題、授業のまとめ・感想) レポートC プリント (添付資料2) 	<p>6</p>	

5 理科Brush Up実践報告

報告者 野田 良彦

秀光前期・特進コース・英進コース公開研究授業

(3S1、9月7日(金)、1A5、6月1日(金)、3T6、10月10日(水)の実践例)

(1) 概要

本年度も理科ブラッシュアップを8回実施した。4月8日実施のブラッシュアップ(フレックス)以外は外部講師を招いて行われた。具体的には理科コンサルタントの鳴瀬先生が担当されたブラッシュアップが3回(5月18日=特進、6月1日=英進、7月6日=秀光)。今年度より始まり宮城教育大学の田幡先生に担当して頂いた「授業検討会」が2回(9月7日=秀光前期、10月10日=特進)。仙台河合塾の物理専任講師の渡部先生が担当するブラッシュアップが2回(12月4日、6日に実施)である。

今回はそのうち6月1日に実施された英進の授業(化学 村松昌子教諭担当)、9月7日に実施された秀光前期3年の授業(IB-MYPの理科 加藤教諭、ミゲル教諭担当)、そして10月10日に実施された特進の授業(生物 庄司昌弘先生)について紹介したい。紹介のポイントとしては次の2点である。

- ①ICT(Information and Communication Technology)を使った授業。
- ②IB-MYPの理科の授業について

なお、参加者は8回のブラッシュアップで延べ73名である。

(2) ICTを使った授業(6月1日(金) 13:35~14:25 1A5 36名) (10月10日(水) 13:55~14:40 3T6 35名)

学園でwifi環境が整ってきたので、you-tubeの実験動画を紹介したり、生徒にコンピューターやスマホを使って問題を解かせたりなどを今回の授業では実践していた。

英進の村松先生は4名1班でクラスを分け、各班にコンピューターを1台ずつ貸し出しエクセルを利用して原子番号と価電子の関係を示すグラフを作らせた。また「サイエンスチャンネル」から「メンデレーエフ」の動画をみせて、周期表の理解を深めさせる授業を行った。

また、特進の庄司先生は理系生物選択者の生徒に生物の入試問題を解かせ、その解答をスマホで画像を撮影し、その画像をClassi経由で教員のパソコンに集めてその解答を解説するという授業を行った。また、終了後にアンケート機能を使って授業の感想をすぐに集めてグラフにする試みも紹介してくれた。

(放課後の研究協議会で出された感想、意見)

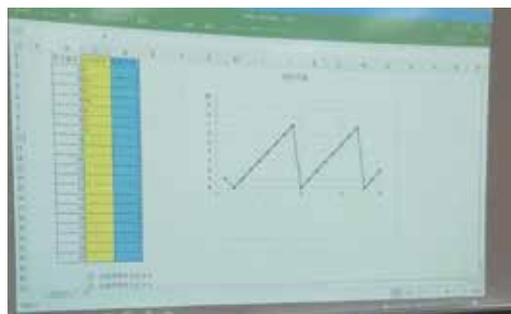
①6月1日の授業について

○村松先生より

生徒にパソコンを使わせたが、接続に思ったより時間がかかり結果を見るだけで、その中身の検討まで行かなかったのが残念である。また、動画は15分と長かったので編集するなどして、5分程度で行う方が良いと感じた。

○先生方より

- ・電子黒板には多くの機能があるのでそれを試してもらったので、参考になった。ただ、電子ペンはまだ反応が遅いと感じた。
- ・スクリーンは後ろが見にくいので工夫が必要だと思った。



②10月10日の授業について

○庄司先生より

普段よりスマホで調べ物をさせたり、答えを画像で撮って送らせたりしている。今回の授業では答えの添削までしたかったが、生徒が入試問題を「難しい」「よくわからない」と言って時間が足りなかったのが残念である。ICTの展開として将来各自に答えの画像の前で意見を述べたり、自分の解答の添削をさせたいと思っている。

○先生方より

- ・ICTはネットの検索などをさせるくらいにとど



まっている。

- ・実験動画を主に見せている。
- ・スマホの利用を授業でさせるのは良いが、それ以外の時間での使い方に問題は無いが、しっかりした指導が必要である。

○田幡先生より

- ・ICTで授業が劇的に変わる訳ではない。興味を持たせるには役立つが、理解させしっかり知識を定着させるには地道な学習が必要な事は変わらない。

(3) IB—MYPの理科の授業について

(9月7日(金) 14:00～14:45 3S1 18名)

秀光前期課程3年(中3)の理科第1分野から「自然の資源 人工の資源」の実験を行った。内容は人工イクラの作成をさせて、レポートを提出する授業だが大きな特徴として次の様な点がある。

- ・授業のプリントおよび授業はチリ出身のミゲル先生がすべて英語で行い。ポイントを加藤先生が通訳して行っている。
- ・ただ、実験をするのではなく最初に質問をして確認している。(例 自然の資源 人工の資源の例を上げさせる。その違いはどこにあるのかについて意見を出させる)。
- ・実験器具、試薬はこちらですべて準備するのではなく実験室にある棚から自分で判断して持って行く。



(放課後の研究協議会で出された感想、意見)

○ミゲル先生より

- ・自分はチリのIBスクールを出ているので、今回の進め方もその時の授業と同じやり方をしている。
- ・英語ができない中学生もいるので無理があるかもしれないが、4月よりこの方法でやっているので慣れてきたと思う。生徒は辞書を使ったり、加藤先生に通訳してもらったりしながらなんとかやっている。理屈よりも実際の実験を通してやることで英語の理解も進んでいると感じている。

○加藤先生より

- ・通訳はすべて行うのでは無く、ポイントと思われる部分や質問を受けた部分のみ行っている。

○先生方より

- ・すべて英語で行う事に無理はないのか。多賀城外国語コースでも基本的には日本語で行っている。

○ミゲル先生から

- ・IBは基本すべて英語で行うべき。チリでの授業はそうだった。私も母国語は英語でないが、必要に迫られて英語をそれぞれの教科を学習するためにとり組み習得した。日本でもIBをやるならば、そういったとり組みをさせて、実践的な英語力をつけさせるべきだと思う。

○先生方より

- ・今回のような探究型の授業(アクティブラーニング)は従来の講義型の授業に比べ知識を習得する上では効率が悪い。探究型で得られる技能とはなにか。

○ミゲル先生から

新しい社会では、自分で課題を見つけその解答を作る必要がある。そのための技能が探究型の授業では得られると思う。

第3学年 理科学習指導案

平成30年 9月7日(金)6校時
 秀光中等教育学校 3年S1組
 指導者 Miguel Campos Tejero 加藤 蓮寛
 場所 秀光理科室

1 単元名
 Natural Resources & Synthetic Resources (自然の資源と人工の資源)

- 2 単元(題材)の目標
 ○実験に必要な器具や薬品等を自ら選び、扱うことができる。
 ○生徒同士で話し合いをしながら、結果を批判的に見ることができ
 ○科学的知識が社会でどのように利用されているのかを知る。

3 単元(題材)の評価規準

A 観点 (知識・理解)	B 観点 (探究と計画)	C 観点 (手法と評価)	D 観点 (科学的影響の 振り返り)	E 観点 (関心・意欲・ 態度)
Ⅰ. 科学的知識を詳しく述べること Ⅱ. 科学的知識および理解を用いて、なじみのある状況およびなじみのない状況で設定された問題を解決すること Ⅲ. 情報を分析して科学的に裏付けられた判断をすること	Ⅰ. 科学的調査によって検証される問題または疑問を詳しく述べること Ⅱ. 検証可能な仮説の根拠を述べ、科学的合理性をもつて説明すること Ⅲ. 変数の操作方法を詳しく述べて、どのようにしてデータを収集するかを詳しく述べること Ⅳ. 科学的調査を計画すること	Ⅰ. 収集して変換したデータを提示すること Ⅱ. 科学的合理性に基づいて仮説の妥当性を論ずること Ⅲ. 方法の妥当性を論ずること Ⅳ. 方法の改善または拡張について詳しく述べること	Ⅰ. 具体的な問題または課題に対して応用するおおよび利用する方法を詳しく述べること Ⅱ. 具体的な問題または課題に解決する際に、科学およびその応用を用いることの意味を議論して分析すること Ⅲ. 科学的言葉を効果的に用いること Ⅳ. 他者の成果と用いた情報を記載すること	Ⅰ. 関心・意欲・態度 Ⅱ. 知的好奇心を高め、他者と意見交換をしながら、より深い知見を得ようとする

4 単元(教材)について

- (1) 教材(単元) 概
 現在、オーガニックの食べ物の食べ方が体にいいという風潮が流行しつつある。しかしながら、世界中では自然の物以外にも人工的に作られたものは数多く存在しており、この人工的に食べ物や薬品を作っていくという技術は人間生活において必要不可欠である。
 今年に入ってから学習をしている「化学反応」では物質を反応させる新たな物質が生成されるということであった。本授業では実験に人工イクラの生成を通して、化学反応を用いて作られた人工物によって我々の生活が支えられているということを学んでいく。
- (2) 生徒観
 国際バカロレア MYP のカリキュラムを通して、実験準備などの自己管理スキル、他者と協力しながら実験を進める協同スキルなどは備わっているため、実験に対して自ら進んで取り組んでいくことはできる。ただし、英語の理解度については生徒によってばらつきがある

(3) 指導観

我々の身の回りに天然のものや人工的に作られたものの二つが存在している。天然に出来上がったものだけでなく我々のニーズをすべく満たすことは現実問題として不可能である。我々は多くのニーズを満たすために、多くの物質を生成している。例えば、栄養剤などが挙げられる。タンパク質やビタミンなどは特に一般的な例である。本授業では化学反応を用いてイクラを人工的に作っていくという授業を展開する。この授業を通して理科としての知識だけではなく、社会では多くのものが人工的に作られている区画、その安全性とはどのように関わっているかという学際的な視野を身につけさせることも目的の一つである。

5 指導と評価の計画

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	・身の回りにおける天然物・合成材料の違いについて考えさせる。 ・プリントを読んで、ワークシートにまとめる。	・授業内容の中でポイントとなる点は日本語での細訳を交える。 ・辞書を持参させ、不明な英語は自力で翻訳できるように努めさせる。	・A 観点(知識・理解) 定期考査による ・B 観点(探究と計画) 試験、実験ノートによる ・C 観点(手法と評価) 試験、実験ノートによる ・D 観点(科学的影響の振り返り) 実験ノートによる
2	・演示実験を行い、実験の方法をレクチャーする。 ・グループで人工的にイクラを作る実験を行う。 ・プリントの問いを用いて実験の振り返りを行う。	・実験方法について理解が不十分な生徒については、教員が補助に入る。	実験ノートによる

6 本時の展開(how to develop this period)

	学習活動・内容	教師の働きかけ	指導上の留意点
導入 (10分)	活動：前回の授業の振り返り 内容：天然物と人工物	前回の授業の振り返りをいくつかの質問、ホワイトボードへの返答を通して行い、まとめる。	生徒は概念的なねらいについて適切に理解している。本時においては、さらに深い疑問を持てるように質問投げかけを工夫する。
展開 (30分)	活動：実験(人工イクラ作り) 材料：アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウム ATL(学習の方法)：Organization skill, Critical Thinking skill	生徒たちはプリントに書かれている説明に則ってグループで活動を行う。教師は彼らの実験に対して質問を投げかけたり、質問に回答することを手助けを行う。 (実験について) 1. 50 mlの水にアルギン酸ナトリウム1gを溶	生徒たちは説明に則りグループ活動を通して、適切に内容を理解していく必要がある。そのため、すべてのグループ、すべての生徒が実験の目的をしつかり達成できるようにサポートしていき、なにか事故などが起こった場合、発生場所から離れ、教員が適切な

1. 日 時：平成30年10月10日(水) 5・6校時 13:05~13:50 13:55~14:40

2. 学 級：特別進学コース 3年T6・T6組 女子13名 男子22名 計35名(連系クラス)

3. 使用教材：生物(東京書籍) p412~418 その他 自作プリント

4. 単 元 名：第6編 生物の進化と系統 2章 進化のしくみ
遺伝子プールとハーディ・ワインベルグの法則

5. 単元の目標：

- ・ 進化の法則をもとに、進化の起り得る状況を理解すること。【知識・理解】
- ・ 進化の法則をもとに、計算することができる。【技能】
- ・ 生徒同士の話し合いを通して、それぞれの結果を共有し考察することができる。【関心・意欲】
- ・ 大学入試を意識しつつ、実社会での進化的な法則との整合性を考察することができる。【思考】

6. 評価基準：

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①進化への関心や探究心を持ち、意欲的に探求しようとするとともに、他者と共に課題について話し合っている。 ②知的好奇心を持って、さらなる未知への課題へと取り組んでいる。	①進化の法則の中に問題を見出し、探究する過程を通して、設定された課題に対して、他者に分かりやすいよう表現して、それを共有している。 ②自ら講べることで、さらに思考を深めて課題に取り組んでいる。	①進化の法則をもとに計算して、過程や結果を的確に整理し、探究する技能を身に付けている。 ②導き出した答えを、ICTを活用しながら共有することができる。	①進化の法則の基礎用語を用いて、基本的な概念や原理を理解し、新しい分野の用語をさらに理解し知識を身に付けている。 ②進化の法則から、進化の大きなポイントを捉えることができる。

7. 教材について：

(1)教材概

2 学年での発生の単元にて減数分裂を学びつつ、遺伝子プールの基本から組換えの応用まで、丁寧な下積みを行ってきた経緯がある。従って、ハーディ・ワインベルグの法則については容易な遺伝用語などについては割愛し、その背景や計算方法・証明などを中心に進めたい。特に、進化との繋がりはもちろんのこと、最近の話題性の高い内容(進化論の崩壊・優生学など)にまで切り口を広げたい。

まどめ (5分)	活動：実験レポートと最後の指示を行う。	生徒は実験レポートを書き、不明な点は教師に質問をしながら解答する。 (実験レポートの質問) 1、syntheticとはどういう意味ですか 2、アルギニン酸ナトリウムに酸化カルシウムを混ぜるとどうなことが起りましたか。 3、それはsyntheticですか？どうしてそう思ったのですか？	配置を行う。
		生徒は実験レポートを書き、不明な点は教師に質問をしながら解答する。 (実験レポートの質問) 1、syntheticとはどういう意味ですか 2、アルギニン酸ナトリウムに酸化カルシウムを混ぜるとどうなことが起りましたか。 3、それはsyntheticですか？どうしてそう思ったのですか？	生徒がレポートに書かれている質問の内容について理解または解答できるようにチェックをしていく。

②生徒観
 全生徒が大学進学を目指しているが、半数以上が指定校推薦・AO入試などの何らかの推薦にて受験を希望。一般入試を希望している中には、生物基礎を選択する者や文系科目を選択する者なども存在しており、実質的に発展生物を受験科目に使用する生徒は16名程度である。しかしながら、全体的に生物への興味関心が高く、授業へのモチベーションを失わずに意見も出やすい雰囲気にある。また、日常の授業でBYODを採用しているため、調べ学習などその場で行うことができる。

③指導観
 進化的過程については、形態形状の類似性や化石証拠によって系統の進化を復元することが容易であり身近でもある。また、生物地理学（ガラパゴス群島などの海洋島では独自の在来生物が進化）や分子系統樹の作成（アミノ酸の置換率によって年代を推定する方法）によっても進化の過程を学習することができ、本時では、ハーディ・ワインベルグの法則によって、進化を管理法的に証明することの一手段としつつ、赤緑色異常の割合を実験の日本人のそれと照合しつつ考察させる。

8. 指導計画

	主な学習活動	配当時間	評価基準		
			関	思	知
1	・ワークシートを活用してハーディ・ワインベルグの法則の背景と概念を学習する ・例題の活用と法則の証明を行う	1時間			○
2	・ペアワークにて入試問題へ取り組み ・Classiの校内グループを活用して、各グループの解答をClassi上へ投稿 ・調べ学習を通して課題の発見を行う	1時間 【本時】	○	○	○
3	・ダーウインの進化論を発展的に理解し、進化の証明を理解する ・現在の進化論について調べ学習を行う	1時間		○	○

9. 本時の展開

学習活動と内容	備きかけ	留意点【ICTの活用】
導入 [5分] 展開 [35分]	・ペアワークになりワークシートの完成の確認 ・入試問題への取り組み ・ペアで話し合い、解答をClassiへ投稿し共有 ・内容をクラスで共有し検討	・ワークシートを投影 ※PowerPointによる ・Classiにおけるコンテンツボックスにて、生物選択者のグループへフォルダを共有 ・生徒自身の携帯電話[スマートフォン]にて、調べ学習へやWebへのアクセスを奨励
まとめ [5分]	・課題の発見への導入は各自で ・Classiでのアンケート回答	・本時のアンケート回答をデジタル処理

6 情報Brush Up実践報告

報告者 日野 彰

情報コース公開研究授業

(2J1・2・3選択生徒(6校時)、2J2(7校時)、10月25日(木)の実践例)

◇ 公開研究授業(10月25日)

(1) 公開研究授業①

- ①時間 6校時(13:40~14:25)
- ②会場 WIN1室(南冥4階)
- ③授業者 志賀貞昭、実習アシスタント 片山貴子
- ④対象 2J1・2・3選択生徒(34名)
- ⑤内容 MOS Word 2016における文字、段落、セクションの書式設定において、文字列や段落の挿入の方法を理解し、設定できるための知識・技能を習得させる。
- ⑥評価 内容の習得に意欲的に取り組み、機能の必要性や有用性を理解しているか。
- ⑦考察 MOS Word 2016を今年度10月より指導している。生徒のパソコンスキル理解習熟度は高く、授業中も集中して説明を聞き、内容をよく理解して実習に取り組んでいた。授業の進み具合、説明した後の生徒への働きかけも良く、考えさせる時間を取り、実習操作の補うべき点、重要な関連事項も丁寧に解説していた。実習アシスタントも個別にきめ細かく丁寧に指導していた。

(2) 公開研究授業②

- ①時間 7校時(14:35~15:20)
- ②会場 WIN1室(南冥4階)
- ③授業者 日野彰、実習アシスタント 青木京子
- ④対象 2J2生徒(29名)
- ⑤内容 MOS Excel 2016においてExcel上でAccessと接続し、データの取り込み、変換、結合、表示するための知識・技能を習得させる。
- ⑥評価 内容の習得に意欲的に取り組み、機能の必要性や有用性を理解しているか。
- ⑦考察 MOS Excel 2016を今年度4月より指導しており、ひととおり解説は終了している。難易度の高い内容ではあるが、生徒のパソコンスキル理解習熟度は高く、授業中も集中して説明を聞き、よく理解して実習に取り組んでいた。授業の進み具合、生徒への働きかけも良く、授業に集中でき

る教室環境を育んでいた。生徒の実習操作の補うべき点、重要な関連事項も丁寧に解説していた。実習アシスタント教員も個別にきめ細かく丁寧に指導していた。



6校時授業



7校時授業

(3) 研究協議

1 感想や意見など

- ・ 実例見せながらの解説はわかりやすく、生徒に目が行き届いた説明であった。
- ・ 資格試験の目的や授業の関連性、授業の中での目標到達点を明確に設定しているのが良かった。
- ・ 教員がパソコン操作の実演を行い、生徒に実習させていることは良かった。
- ・ 生徒にテキストを音読させるなど授業にメリハリをつけていて良かった。
- ・ パソコン実習において生徒個人差への対応を工夫し、理解できるよう指導している。
- ・ 内容の説明時、声が大きく、授業の重要ポイントを細かく丁寧にわかりやすく説明していた。
- ・ 普段の生活でエクセル、ワードを使用した場合を考えての内容説明はわかりやすく、生徒の興味関心をもたせられると感じた。
- ・ 授業全体の流れを大事にし、生徒全員の実習完了を見極めてから次に進むことが大事だと思った。

2 豊指先生からの講評

- ・ 難しい内容を情報処理検定などの説明も交えて、わかりやすく解説していた。
- ・ 教員がパソコン操作の実演を行い、生徒に実習操作をさせる展開は良かった。
- ・ 授業は声も大きく、特に強調したい箇所は注目させて解説し、生徒も集中しやすい雰囲気であった。

学習指導案

日時：平成30年10月25日（木）6校時（13:40～14:25） 会場：WIN2教室 クラス：2年 科目：グローバルライセンス テキスト：MOS Word 2016 教科担任：志賀 貞昭			
本時の目標：文字、段落、セクションの書式設定において、文字列や段落の挿入の方法を理解し、設定できるようにする。			
区分	学習内容	指導内容	評価の観点
導入 (5分)	挨拶、黙想、出席確認 本時の学習内容の確認	理解度チェックを読ませ、本時の習得すべき機能について確認、理解させる	本日の学習内容について目標を持つことができたか
展開 (35分)	文字列を切り取る、コピーする、貼り付ける Lesson31 (P97) 実習 文字列を検索する、置換する Lesson32 (P100) 実習	※指導方針 (解説とlesson例題をスクリーンで解説し、机間巡視等によりlesson内容の理解度を確認する) Point クリップボード 「クリップボード」と呼ばれる領域にデータが一時的に記憶されることを解説	Lesson内容の習得に意欲的に取り組んでいるか 文字列を切り取る、コピーする、貼り付けが正しくできているか 文字列を検索、置換が正しくできているか

	オートコレクトを使用して文字列を修正する Lesson33 (P104) 実習	Point貼り付けのオプション 貼り付けを実行した直後の貼り付けオプションの解説 Point検索オプション 各種検索オプションの解説 Pointオートコレクト オートコレクトオプションの解説	オートコレクトを使用して文字列を正しく修正できているか
まとめ (5分)	本時のまとめ	本時で学習した内容についてまとめる	本日の学習内容について理解できたか

学習指導案

日時：平成30年10月25日（木）7校時（14:35～15:20） 会場：WIN2教室 クラス：2年J2組 科目：グローバルライセンス テキスト：MOS Excel 2016 Expert 教科担任：日野 彰			
本時の目標：Excel上でAccessデータと接続し、取り込み、変換、結合、表示できるようにする			
区分	学習内容	指導内容	評価の観点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、黙想、出席確認 本時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> Accessの基礎知識についてデータを取り込む、変換する、結合する、表示する、データに接続する Accessの実例紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学習内容について目標を持つことができたか
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> 外部データの取り込み Lesson73 (P202) 実習 新しいクエリによるデータの取得 Lesson74 (P208) 実習 	<ul style="list-style-type: none"> 解説とlesson例題スクリーンで解説する 机間巡視し、lesson内容の理解を確認する Access・Web・テキスト・その他のソースからデータを取り込みの解説 机間巡視し、lesson内容の理解を確認する 解説とlesson例題スクリーンで解説する 外部データの接続、クエリを使ってデータの加工、クエリエディターの画面構成 Excel上でデータ取込み等に関する模擬試験の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> Lesson内容の習得に意欲的に取り組んでいるか Accessデータベースからテーブルをエクセルワークシートに正しく取り込んでいるか クエリとしてデータを正しく読み込んでいるか 指定した列を読み込んでいるか
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学習したExcel上でのデータ取込みについて 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学習内容について理解できたか

7 平成30年度Brush Up研修会実施一覧

平成30年度Brush Up研修会実施一覧

教科教育センター

2019.2.25

月毎一覧表

教科	回数	開催月日・曜日	対象学校・コース	研修			教育顧問 の有無	月	日	曜	教科	対象学校・コース	
				研修Ⅰ 研究授業	研修Ⅱ モデル授業・集中講義・講話	研修Ⅲ 職員研修							
国語	1	4月18日(水)	特秀	*	センター試験第1問分析と解法	授業巡回、教員個別面談	有	4	17	火	英1	秀光前期	
	2	5月16日(水)	特秀情	*	センター試験第1問分析と解法	授業巡回、研究協議(探求型出題研究)	有		18	水	国1	特秀	
	3	6月6日(水)	特秀情	○	漢文文法のパターンの説明	アクティブラーニングについて	有		18	水	理1	外英フ技	
	4	7月11日(水)	外英フ技	○	論理的な文章の読み方	教員個別面談	有		27	金	数1	外英フ技	
	5	7月26日(水)	全コース	○	*	大学入学共通テストとその動向	有		8	火	英2	外英フ技	
	6	9月26日(水)	外英フ技	○	漢文演習「晏子春秋」	授業巡回、研究協議(文学教育)	有		11	金	数2	秀光	
	7	10月17日(水)	外英フ技	○	講話 ことばと国語学習	文学教材・文学教育	有		16	水	国2	特秀情	
	8	11月14日(水)	全コース	○	*	文学(小説)教育について	有		18	金	理2	特進	
	9	12月19日(水)	特秀	○	講話 センター試験対策	受験指導について	有		22	火	英3	外英フ技	
英語	1	4月17日(火)	秀光前期	*	入門期指導ー英語のしくみ	入門期の英語指導、アクティブラーニング	有	6	1	金	理3	外英フ技	
	2	5月8日(火)	外英フ技	○	*	グループワークについて	無		6	水	国3	特秀情	
	3	5月22日(火)	外英フ技	○	*	ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践	無		22	金	数3	特情	
	4	6月26日(火)	特進	*	東大・京大過去問を用いて英作文と英文読解の実践的指導	国立大学の二次入試対策について	有	26	火	英4	特進		
	5	7月10日(火)	秀光	*	長文読解と英作文指導	長文化、社会化等、多様化する英語入試問題に対応する速読の指導	有	7	11	水	国4	外英フ技	
	6	9月18日(火)	外国語	*	英語の構造理解、整序・長文等大学受験に導く授業の在り方	モデル授業について、文法の指導について	有		26	水	国5	全コース	
	7	9月27日(木)	全コース	○	*	インプット理論についてのワークショップ	有		6	金	理4	秀光	
	8	10月2日(火)	秀光	○	*	関係代名詞の指導方法	有		10	火	英5	秀光	
	9	10月23日(火)	外英フ技	*	英語のしくみ・読解と英作文	語法・準動詞の指導法	有		13	金	数4	外国語	
	10	11月13日(火)	特進	○	*	4技能強化学習の在り方	有		8	2	木	情1①	情英フ
1	4月27日(金)	外英フ技	○	数Ⅰ「二次関数、三角比の応用」	新大学共通テストと授業での取り組み	有	2			木	情1②	法人局	
2	5月11日(金)	秀光	○	センター試験新傾向の問題	授業分析、IBとICT教育の関連、新テストへの対応	有	31	金		数5	情報		
3	6月22日(金)	特情	*	数学Ⅱ「微分積分」センター試験「数学ⅡB」解法	大学入学共通テストの問題分析(数学ⅠA)	有	7	金		理5	全コース		
4	7月13日(金)	外国語	○	*	ICTを用いた授業の可能性	無	18	火		英6	外		
5	8月31日(金)	情報	○	*	ICTの活用について	無	26	水		国6	外英フ技		
6	10月5日(金)	秀光前期	○3S	3S高校数学入門	アクティブラーニングについて	有	27	木		英7	全コース		
7	10月19日(金)	秀特	*	①2T「センター試験の解法」 ②5M「センター試験の解法」	第1回校内模試結果分析と次年度の作問方針	有	2	火		英8	秀光前期		
8	11月9日(金)	特進	○	3T「二次試験対策」	二次試験の傾向と対策	有	5	金	数6	秀光			
理科	1	4月18日(水)	外英フ技	○	*	今年度の研修概要	無	10	10	水	理6	全コース	
	2	5月18日(金)	特進	○	「化学」電池及び電気分解	電子黒板・プロジェクターを使った授業	有		17	水	国7	外英フ技	
	3	6月1日(金)	外英フ技	○	「化学基礎」イオン化エネルギー・電子親和力について	電子黒板・プロジェクターを使った授業、今年の入試分析	有		19	金	数7	秀特	
	4	7月6日(金)	秀光	○	「化学」熱化学方程式	アクティブラーニング	有		23	火	英9	英フ技	
	5	9月7日(金)	全コース	○	*	教育の近代化とアクティブラーニングについて	有		25	木	情2	情報	
	6	10月10日(水)	全コース	○	*	ICTを使った授業	有		9	金	数8	特進	
	7	12月4日(火)	特秀	*	外部講師による物理授業研修	講師授業から得たもの	有		11	13	火	英10	特進
	8	12月6日(木)	特秀	*	外部講師による物理授業研修	講師授業から得たもの	有			14	水	国8	全コース
情報	1①	8月2日(木)	情英フ	*	*	Excel(体験研修)	有	12	4	火	理7	特秀	
	1②	8月2日(水)	法人局	*	*	Excel実務(体験研修)	有		5	水	理8	特秀	
	2	10月25日(木)	情報	○情	*	MOS試験対策法の指導	有		19	水	国9	特秀	

(有)は外部講師による。

教科コンダクター：国語(堀田文雄)、英語(高橋郁夫)、数学(梅田一成)、理科(野田良彦)、情報担当(日野彰、坂垣徳昭)

教育顧問(コンサルタント)：国語(植松義治)、英語(坂井一任)、数学(江川博康)、理科(鳴瀬彰夫)

外部講師 ①授業力向上委員会企画BU：国語(児玉 忠 宮城教育大学)7/26(水)、11/14(水)、英語(鈴木 涉 宮城教育大学)9/27(木)

理科(田幡憲一 宮城教育大学)9/7(金)、10/10(水)

②理科(物理 渡部大嗣 仙台河合塾)12/4(火)、12/5(水)

Ⅱ 研修旅行報告

(1) 秀光中等教育学校 カナダ研修 第2班報告

笠原 千尋

1. はじめに

平成30年5月15日(日)より7月31日(火)まで15泊17日にて行われた秀光中等教育学校生徒15名によるカナダ研修第2班について、ご報告申し上げます。

参加者 秀光中等教育学校 第3学年 男子3名 女子6名 計9名
秀光コース 第1学年 男子6名
合計15名
引率団長：高橋 郁夫
笠原 千尋
Bryan Takeshi Stevens

2. 研修日程

平成30年7月15日(日)

7:30 宮城野校舎集合、出発式	8:00 出発
14:00 成田空港 着	16:50 成田空港 着
9:25 バンクーバー空港 着	11:00 バンクーバー空港 発
15:00 ツワッセン 発(フェリー)	17:15 スワルツベイ 発(バス)
18:00 シャウニガンレイク 着	

7月16日(月)～7月28(土)

Brooks Shawnigan Lakeにて「Global Leadership Academy」研修

7月29日(日)

8:00 シャウニガンレイク 発	11:00 スワルツベイ 発
13:00 ツワッセン 発	15:00 バンクーバー 着

ブリティッシュコロンビア大学訪問
19:00 ホテル 着

7月30日(月)

9:30 ホテル 発	10:00 バンクーバー空港 着
13:25 バンクーバー空港	

7月31日(火)

15:15 成田空港 着	16:10 成田空港 発
22:00 宮城野校舎 到着・解散	

3. 研修報告

第1日目 7月15日(日)

出発日は長時間の移動であったが、途中フェリーから見える景色などにこれからの研修への期待が膨らんでいたようである。

第2日目 7月16日(月) Orientation

本格的にGlobal Leadership Academyが始まった。朝食後は広場にでて簡単な自己紹介を交えたゲームを行い、緊張をほぐした。その後は小グループに分かれ、トランプを使ったコミュニケーションゲームを行い、生徒たち

は異なるルールや文化を持った人たちとどのようにしたらスムーズなコミュニケーションをとれるのかを考えるきっかけとなった。

午後はリーダーシップとは何かを考えるアクティビティをメインに行った。ペアを組み、「リーダーとは何だと思うか」「自分はリーダーだと思うか、またその理由は何か」「何が一番情熱を注いでいるのか」を考え、意見をそれぞれ発表した。全体からは責任感がある・親切・リスクテイク・インスピレーションのある人・フレンドリー・共感力のある人など、さまざまな意見が交わされた。しかし、現地の先生はリーダーとはそれらすべてができる人というわけではないことや、リーダーシップはたったひとりだけではなく、それぞれの良さを引き出してチームや地域の中で活躍できるようにすすめていける人のことだと聞き、生徒たちは視野を広げることができた。

また、小グループに分かれてチームワークやコミュニケーションをメインとしたアクティビティやゲームも行った。生徒たちはコミュニケーションの大切さを学び、どのようにしたら課題解決ができるのかを各チームで考え、声を掛け合いながら取り組むことができた。

夕食後、ゲストスピーカーの講演では、主に福祉活動についての取り組みについての講話を聞いた。ホームレスの方への支援や小児がんの患者のための支援などの話を聞き、それぞれが地域社会に貢献できることは何かを考えるきっかけとなった。最終日に行われる Design Projectへの導入となり、これから各自テーマを決めて発表に向けて取り組むことになった。



第3日目 7月17日（火） Building Confidence and Challenge Comfort Zone

バスで移動し、Wild Play Element Parksに行った。命綱をつけロープを滑り降りたり、バランスを取りながらコースを進むアクティビティを行った。そこでは先日行われたリーダーシップについての振り返りも兼ね、リーダーシップとは周りの人に声をかけたり励ましあうことができる人であるということを考えながらのものであった。グループごとに分かれてアクティビティを行う中、コースを軽々と進める人、ゆっくり進む人それぞれであったが、お互いが励ます言葉を積極的にかけあっている姿も見られた。また、器具の使い方で困った生徒を手助けしたり、どうしたらコースをうまく渡れるかなどアドバイスをするなど、互いが協力して取り組む姿も見られた。

帰ってきてからはDesign Projectの導入を行った。JLAでは小グループを作り、「火星人を考えて描いて発表する」(自由な発想や創造性のためのアクティビティ)を行った。





第4日目 7月18日(水) Learning Leadership Through Service

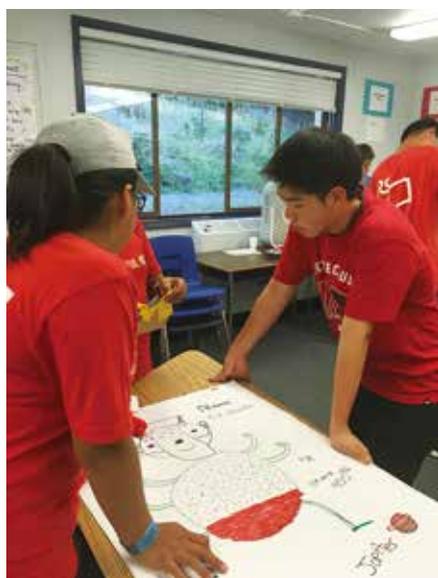
バスで約1時間移動し、Providence Farmでの奉仕活動を行った。その農場では障がいを持つ人や心のケアを必要とする人たちが運営されているところであり、自然とのつながりや協力していくことを大切にし、セラピーのような意味合いも持つ場所である。その農場では今まで手が足りず、雑草の生い茂っていたカボチャ畑の除草活動を行った。生徒たちは積極的に動き、最後にはきれいな畑の姿を取り戻すことができ、農場の方からは非常に感謝された。この畑はそのままの状態であればカボチャはすべて枯れてしまうはずだったが、今回の活動を通して10月ごろにはカボチャが実りそうとのことだった。それらはハロウィンなどのイベントを通じて地域に住む人たちの手に渡ると聞き、生徒たちは自分たちの活動が将来につながる活動であると改めて感じたようである。

振り返りの中で、「リーダーシップと奉仕活動はどのようにつながっているのか」「奉仕活動の大切さとは何か」をそれぞれが考えるきっかけとなった。

午後は3日目に行った、「火星人を考えて描く」アクティビティの続きを行ったが、そこではさらに「実際に火星人がきたら、それが生き抜くために何が必要になるか」を考える活動を行った。家、食べ物、飲み物、地域社会からの支援など、多くの意見が出た。他のグループの火星人を見ながら考え、最終的には自分たちの考えた火星人が生き抜くために具体的に何が必要になるのかを考えた。また、デザイン思考力のアクティビティとして、自分たちの作った火星人が生き延びるために必要なものを紙コップやストローなどを用いて作り、それを紹介する発表も行った。

だんだんと英語のアクティビティに慣れてきた生徒もおり、より積極的に活動できるようになってきている姿が見られた。





第5日目 7月19日(木) Design Planning

デザイン思考をするアクティビティを行った。Tシャツやスプーンなどを本来の使い方以外でどんな使い方ができるか考えるアクティビティを行い、柔軟な思考やアイデアを出すことの大切さを学んだ。その後はTシャツを別のアイテムにする課題が与えられ、それぞれグループでTシャツからほかにどんなものを作り出せるか考え、実際に製作した。ある班はエコバッグ、ある班はモップなど、多角的な視点から自分のアイデアを発言していく姿も見られた。グループのメンバーと作業をしながら身振り手振りも使ってコミュニケーションができるようになってきた生徒が多く見受けられた。

また、このアクティビティはJLAの最後に行われるDesign Projectに向けての練習段階でもあり、これから「自分にとっての重要なもの、こと」「目的がはっきりしているもの、便利なもの、実際に使えるもの」「誰かに変化を与えるもの」それは何かを考え、各個人の製作にも取り組んでいくことになった。

振り返りの中で、「創造性とチームワークはどのようにつながっているか」「なぜ創造性が重要なのか」をそれぞれ考え、意見交換をした。

午後は参加メンバー全員で社交ダンスを行った。ほとんどの生徒が初めての社交ダンスで、最初は戸惑いもあったが一生懸命取り組み、多くの人とダンスをすることができ、とても楽しめたようである。ステップの踏み方も教えていただきながら、ペアになった相手に敬意を払うことや思いやる事、自信を持った態度でいること、そしてダンスを楽しむ気持ちを大切にすることを学んだ。

夕食後にゲストスピーカーからの講演があり、そこでは夢を大きく持つこと、そしてそれを周りと共に共有していくことが大切であり、決して諦めなければ必ず実現することをお話いただいた。



第6日目 7月20日（金） Investigation

世の中をよくするために何ができるのか、また実際にどんなことを行った同世代の子がいるのかをビデオを見て学んだ。ビデオの中で、電気が通っていないところでも夜に子どもたちが勉強できるように、手のひらの熱によって発光するLED懐中電灯を作った生徒や、リサイクルをしてそのお金をすべて寄付している少年の話など、身の回りのことで何が問題になっているのか考え、それを解決するにはどうしたら良いのか考えるきっかけとなった。

その後生徒たちには、それぞれ別の状況に置かれている人たちのプロフィールが書かれた紙を渡され、その人になったつもりで体育館にてアクティビティを行った。一列に並び、ある状況を読み上げ、それに対して当てはまる場合は一歩ずつ前か後ろに進むものである。たとえば「住んでいる場所から病院まで非常に遠い」「小学校に通っていない」「家庭が裕福で大学進学をする予定である」などである。そのプロフィールに書かれているのは実際そのような状況に置かれている人たちのことで、恵まれている環境の人、まったくそうでない人などおり、最初のスタート位置からどんどんそれぞれに距離が出てきたこと、これが今現実に行っている問題であることが生徒たちにとっては非常に強く印象に残ったようである。アクティビティ終了後の振り返りの時間に、もし自分が恵まれない人たちの立場だったらどうか考え、涙を流す生徒もいた。

このアクティビティでは恵まれていることに罪悪感を覚えることが目的ではなく、世界にはさまざまな困難に直面している人が実際にいることを意識し、恵まれていることに感謝を忘れないことが目的である。先生からは自分たちにできることは何かを考えて実行していこうとお話があった。

午後には身の回りの問題と世界的問題になっていることは何か、マインドマップを作成した。その中からそれぞれが選び、最終的に一番気になる事、解決したいと思う問題を選び、それを各個人のDesign Projectのスタート地点とした。



第7日目 7月21日(土) Exploration

全員でダウンタウンまで行った。はじめにロイヤルBC博物館へ行き、カナダの歴史や豊かな自然をテーマにした常設展や、特別展として古代エジプト展があり、短い時間の中でも生徒たちはカナダがどのような歴史を持った国なのかを学んだ。

その後は自由行動でグループのメンバーと一緒に買い物や観光をする時間をとった。日本にはあまりないお菓子や大きなショッピングモールなどにも行き、楽しいひと時を過ごせた。

夕食後はブッチャード・ガーデン(植物園)へ行った。バラ園や日本庭園などもある広い植物園で、美しい園内や広場で行われていたバンドパフォーマンスを楽しんだ。夕方には全員で花火を見て帰り、非常に思い出に残った1日だった。

第8日目 7月22日(日) Investigation

前回決めた「世界の中で起こっているさまざまな問題の中から、自分が一番気にかけていること、解決したいと思うこと」を元に解決策のプロトタイプ(原型)作成のためのアクティビティを行った。なぜ解決したいのか、何が必要なのか、誰にとって必要なのかを考え、それぞれどのような形にしていくなかアイデアを出したり、調べたりしながら取り組んだ。

午後のアクティビティでは、全員で特権とは何か、どんなものなのかを考えるアクティビティを行った。それぞれにプロフィールと自分の色、さらにほかの何色に絵や文字を上書きできるかが書かれているものである。家や水のアクセス、教育、食事などをそのプロフィールの人物から考えて紙に表していくが、自分が描いたものの上に違う色を持った人が上書きしてしまう場合があり、そこから自分の描いたものの上書きされたらどんな気持ちになったか、恵まれている人や特権とは何かを考えることができた。またこのアクティビティも罪悪感を持つことが目的ではなく、恵まれていることに気づき、世界にはさまざまな困難に直面している人がいることに気づくためのものであった。

夕方のアクティビティでは、Tシャツをバッグにリメイクする活動が行われた。これは明日訪問する施設の方へ渡すもので、全員で協力したたくさんのTシャツバッグを作ることができた。





第9日目 7月23日(月) Invention

昨日作ったTシャツの中に入れる手紙を全員で書いた。ホームレスの方々への希望となるような言葉や、思いやりのある言葉を考え、それぞれがカラフルに書いた。また、どんな質問をしたらコミュニケーションが取りやすいのか、つながりを感じることができるのかを考えた。

バスでホームレスの方々に住むところへ行き、代表の方からお話をいただいたあと、小グループごとに地区にいたホームレスの方々へ話しかけに行った。事前に質問する内容もある程度決めていたため、臆することなく話すことができた。そこにいた方々がとても和やかに受け入れてくれ、生徒と話をしてくれた。会話をしていくうちに非常に深い部分まで話してくれた方もおり、それを聞いて思わず涙を流す生徒もいた。

そこに暮らす人それぞれが困難を抱えているものの、つながりや思いやり、共感する心を大切にし、みんなが平等に大切な存在であることに気づくことができるアクティビティとなった。

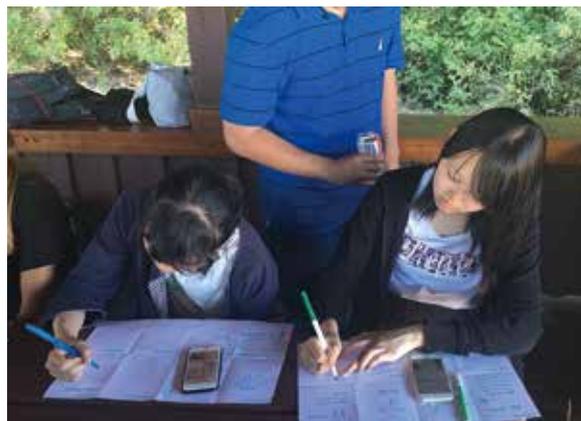
夕方のゲストスピーカーの方からのお話では、今までの政府の更生プログラムではほとんど問題が解決できないことに気づき、一緒に農業などをして生活する福祉施設を立ち上げ、社会復帰率を飛躍的に伸ばしたという話であった。情熱をもってやり続けること、そしてそれぞれ抱える問題に対して一時的な手助けではなく、長い目で見た助けが必要であることを学んだ。



第10日目 7月24日(火) Reflection

バスでCoombs Marketへ移動した。その市場では集客のためのひとつとして屋根にヤギを飼っている一風変わった市場である。そこで昼食をとり、周囲を観光した。その後はすぐ近くのビーチへ移動し、「振り返り」をテーマにアクティビティを行った。「Leadership(リーダーシップ)」「Building Confidence(自信をつけること)」「Service(奉仕)」「Communication/Creativity(地域社会/創造性)」「Exploration(探検/探求)」「Inspiration(ひらめき)」「Passion(情熱)」「Connection(つながり)」について1枚の紙にそれぞれ絵や文字を書いて振り返りを行った。印象に残っているアクティビティや、学び取ったことなどを書き、最も印象に残っているものは何かをグループで共有した。

アクティビティ終了後はフリータイムとなり、ビーチへ行ったりサッカーや野球をしたりして交流を深めていた。すっきりと晴れた青空の下で生徒たちはのびのびと身体を動かし、ほかの多くの参加者たちとコミュニケーションをとっていた。



第11日目 7月25日(水) Implementation

本格的にDesign Projectの製作に入った。3つ作った原案の中から最も気に入ったものを選び、それがどのようなものなのか、誰のために、なぜ、どんな変化をもたらすものなのかをそれぞれ書き、フィードバックをもらってさらにアイデアを加えたり、説明を加えたりする作業を午前中に行った。全て英語で書かなければならず、ハードなアクティビティであったが、どの生徒もとても熱心に取り組んだ。

午後にはまた続きを行い、本番の製作段階に入った生徒もいた。2日後の発表に向け、時間が許す限り取り組んでいた。



第12日目 7月26日(木) Implementation

全員が原案を作り上げ、ほとんどの時間をDesign Projectの製作時間とし、各自懸命に取り組んでいた。休み時間なども使って製作に取り組む生徒もいた。また、早く終わった生徒は発表の原稿作りをし、先生からアドバイスをもらいながら励んでいた。「Passion(情熱) + Purpose(目的) = Change(変化)」をキーワードとし、どのような思いで製作に取り組み、誰にとっての助けになるのか、それがどのような変化を引き起こすのかを考えて明日の発表を行う。

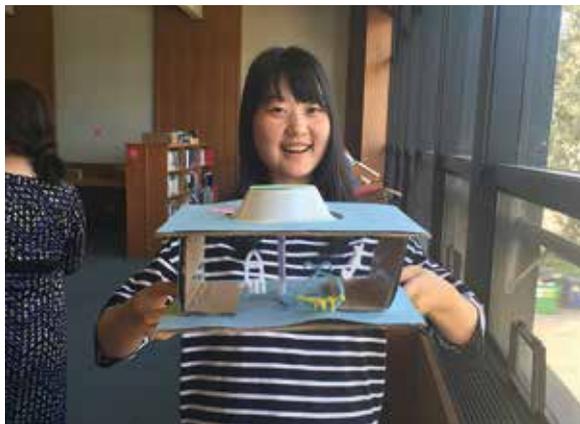


第13日目 7月27日(金) Celebration

それぞれの作品の発表を小グループごとに行った。今までの努力した成果の出せた発表であった。全体への発表会では空気清浄器のデザインをした生徒が代表としてアイデアを発表した。

夕方には修了式が行われ、ひとりひとりに修了証が手渡された。そこには各グループの先生たちからのコメントも書かれており、とても思い出に残るものとなった。研修終了後もここで学んだことや感じたこと、出会った仲間たちのことを忘れず、よりよい社会を作り上げることのできる人になれるよう、これからも前に進み続けてほしいと先生たちから話があった。





第14日目 7月28日(土) Departure from Program

今日で帰国する参加者もあり、皆別れを惜んでいた。この日は1日フリーとなり、再びダウンタウンへと向かった。ゆっくりと買い物をしたり観光をして生徒たちの仲もさらに深まったようである。



第15日目 7月29日(日)

ブリティッシュコロンビア大学へ行き、学生さんたちにキャンパスツアーをしていただいた。とても広いキャンパスの中を歩きながら丁寧に案内していただいた。ジェンダーフリーのお手洗いや、日本庭園も敷地内にあり、先住民に関する資料が保管されている場所やプールなども案内して下さった。非常に規模の大きな大学であることに圧倒されながらも、海外の大学を見学できたことは生徒たちにとって良い刺激となったようである。



4. 謝辞

今回のカナダ研修において、あらゆる面からご支援、ご指導いただきました加藤雄彦校長先生に心より感謝申し上げます。また、カナダ研修に関わりご協力、ご支援いただきましたすべての方々へ御礼申し上げます。

生徒たちはさまざまな人たちと協力して問題解決へ取り組むことへの難しさや大切さ、世界へ目を向けこれからの社会をよりよいものにしていくには何ができるのかを考えるきっかけも多く得ることができました。また英語で自分の表現したいことがうまくできず、もどかしい思いを抱えながらもコミュニケーションをとるためにはどうしたらよいかを考え実行していく力もつきました。ここでの経験を忘れることなく、多角的な視野から物事をとらえ、解決策を考えられるよう、次に活かしていくにはどうすべきかを教え導きたいと思います。

(2) 特別進学コース 関西校外研修旅行

高橋 真理
佐々木正人



1. はじめに

本年度の特別進学コース第二学年の校外研修旅行は、昨年とほぼ同様12月14日から3泊4日の日程で、京都・奈良方面にて実施された。育英祭が終わった直後より本格的な指導を始め、旅行会社との連絡を密にとりながら計画を進めていった。研修中に体調を崩した生徒も数名見られたが、大きな問題はなく、参加生徒全員が無事に研修を終えることができた。以下に報告したい。

2. 計画及び事前準備と実施内容の概要

(1) 7日程：平成30年12月14日（金）～17日（月） 3泊4日

(2) 研修地：京都

〈主な研修・見学地〉

平等院鳳凰堂、法隆寺、伏見稲荷、清水寺、金閣寺

立命館大学 衣笠キャンパス、同志社大学 京田辺キャンパス、京都大学

(3) 参加者：生徒 201名（男子114、女子 87）、引率教員10名（男8、女2）

添乗員 4名（男2、女2）、看護師1名（女）

*不参加生徒9名（公認欠席及び諸事情による）

(4) 交通機関と宿泊場所

・往路 仙台駅—東京駅（やまびこ126号） 東京駅—京都駅（ひかり509号）

・復路 京都駅—東京駅（ひかり520号） 東京駅—仙台駅（やまびこ145号）

・男子宿舎（3泊）：「ホテル杉長」：京都市中京区富小路御池上ル守山町172

・女子宿舎（3泊）：「NISHIYAMA RYOKAN」：京都市中京区御幸町二条下ル山本町433

(5) 自主研修と大学での研修

〈自主研修〉

研修旅行3日目に、班ごとに京都市内を中心に実施。体験学習可。事前準備として、旅行会社の添乗員による相談会を実施した。

〈大学での研修〉

立命館大学 衣笠キャンパス：12月14日14:10～16:00

本郷真紹教授による講話

学生ガイドによるキャンパスツアー（10名につき学生ガイド1名）

同志社大学 京田辺キャンパス：12月14日14：50～16：20
学生ガイドによるキャンパスツアー（10名につき学生ガイド1名）

(6) 事前準備

校外研修旅行は、本校特別進学コース3年間の学校行事で最大のものといえる。有意義で充実した、安全な研修旅行にするために目標を明確に持ち、事前の計画・準備には十分な時間をかけることが求められる。特に、過去の研修旅行における感染症発生の事例をふまえて生徒の健康や安全に留意し、彼らが楽しみにしている校外研修旅行が実り多きものとなるよう計画することに注力した。

10月上旬：LHRにて担任より研修旅行概要の説明

班編成（係決め）・自主研修計画表作成

中旬：第一回研修旅行委員会（委員長・副委員長の選出）

下旬：「参加承諾書」「不参加願い」の提出

11月上旬：食物アレルギーを含む健康調査

保護者緊急連絡先調査

中旬：自主研修計画の最終チェック

12月上旬：「校外研修旅行のしおり」完成・配布

校外研修旅行結団式（6日）

研修旅行出発式14日（仙台駅）～17日解散式（仙台駅）

※ 研修旅行終了後、大学見学のレポート（各自）と自主研修レポート（班ごと）を作成して提出。

(7) 事前指導の重点

研修旅行に関しては、「仙台育英学園高等学校 特別進学コース」としての誇りと自覚を持って行動することが求められる。研修旅行中、お世話になる方々や訪問先に良好な印象を与える行動ができるよう、また恥ずべき行動は慎むよう指導した。さらに、過去の研修旅行における感染性胃腸炎やインフルエンザ発症の事例をふまえ、各自が十分な体調管理をするよう指導した。

3. 行程

第1日目	12月14日(金)	集合 7:20 仙台駅3階 緑の窓口前					
	仙台駅	やまびこ126号	東京駅	ひかり509号	京都駅	13:40	
	8:05	10:08	10:33	13:11			
			昼食：列車内で弁当				
文系	立命館大学 衣笠キャンパス	16:00	16:30	京都大学	17:10	17:40	宿舎
理系	同志社大学 京田辺キャンパス	16:20	17:30	宿舎			
	14:10						
	14:50						

第一日目 平成30年12月14日(金) 天気：晴

研修旅行初日、仙台駅にて出発式を行なった。仙台駅構内で迷う生徒もなく、参加予定生徒全員が集合し、千田副校長先生へ出発の挨拶をし、元気に旅立った。

今年度は新幹線での移動である。生徒は同行いただく添乗員の方々の誘導に従い、7:50ホーム移動、7:55乗車、8:05定刻通り出発と迅速に行動していた。また移動の車中では、クラスメイトと談笑したり、しおりでこれからの予定を確認したりするなど、和気あいあいとして過ごす姿が目立った。東京駅にて乗り換え、予定通り13:30に京都駅に到着する。長時間の移動の疲れも見せず、文系は立命館大学衣笠キャンパス、理系は同志社大学京田辺キャンパスへと向かう。立命館大学では本郷真紹教授に学びの意義について講話いただいた。大学がどのような場なのかを説明されるなかで「努力もしないで無理だとかできないとか決めつけるのは、自分で自分を貶めること」との指摘が何度かあり、この言葉は特に生徒たちの意識に強く働きかけていたようである。また文系生徒が苦手としがちな数学を持ち出し、ご自身の体験を織り交ぜながら、学びとは教科の別なく実はリンク

するものだと示されると多数の生徒が納得している様子だった。さらに、脳科学的に見れば生徒たち世代がいかに恵まれた時期にあるのかについて触れられ、今を無為に過ごすことのないようユーモアを交えお話しいただいたことで、生徒たちは高校生段階で身につけておくべき学力の将来への有用性を実感できたようであった。講話後にはサプライズとして辰巳涼介選手が登場、サインと生徒たちへのメッセージをいただいた。その後、学生ガイドによるキャンパスツアーでは、現役大学生の生の声を聞きながら大学施設を見学した。次いで、文系生徒は京都大学へと向かう。大学構内を自由に見学し、売店では「京都大学」を冠した商品を購入する姿が見られた。

同志社大学京田辺キャンパスでは、はじめに同志社大学の紹介映像を鑑賞した後、本校の卒業生も含めた大学生にキャンパスの案内をして頂いた。生徒たちは、大学の広さに驚きながら、先輩たちの説明をよく聞き、行動していた。キャンパスツアーでは、マルチメディアライブラリーを備えたラーネッド記念図書館や同志社ローム記念館などを見学し、生徒は同志社大学のキリスト教主義教育の考え方に触れつつ、立体印刷機などの最先端科学に触れ、大学教育、大学生活について肌で感じ、さらに進学を期待を膨らませたようであった。

文系・理系に分かれての大学見学であったが、バスの到着時間はほぼ同じで男子・女子それぞれの宿泊先に予定時間通りに入った。怪我を負った者や体調不良者もなく、初日は終了した。



第2日目	12月15日(土)	起床 6:15	朝食7:00	夕食19:00
宿舎	8:00	9:10	※ 奈良公園 (大仏殿)	10:20
			法隆寺	11:00
			昼食	13:00
	14:15	平等院鳳凰堂	15:30	16:10
		伏見稲荷大社	17:30	18:10
		宿舎		

第二日目 平成30年12月15日(土) 天気：晴

8時に宿泊先を出発し、奈良公園へと向かう。約1時間の車中ではバスガイドから本日の見学先についての紹介があり、生徒たちは鹿に会うのをとても楽しみにしている様子であった。到着後、クラスごとに大仏殿の前で記念撮影をしてから現地ガイドの案内で見学を開始。巨大な仏像に驚嘆しながらガイドの話に耳を傾ける。鑑賞に夢中になるあまり移動が遅れがちになる者もいたが、それほど生徒たちにとっては興味・関心が惹起される場だったようである。ガイドによる説明が終わってからは、各自が自由に公園内を散策した。待ちに待った鹿との触れ合いの時間。人に馴れ、生徒が手にした鹿せんべいを求めて近づいてくる彼らと戯れたり写真を撮ったりと、終始笑顔が絶えることはなかった。

奈良公園を後にし、法隆寺へと向かう。玉砂利に足をとられながら境内を見学する。「歩きにくい…」と言いつつも皆楽しげにバスガイドの説明を受け、エンタシスの柱などに目を向ける。夢殿を見てから入館した大宝蔵院では玉虫厨子の前で足を止める生徒が多かった。また夢違観音や地藏菩薩像などの造形の違いについて、友人と指摘し合う姿もあった。法隆寺の見学を終えてから昼食を摂る。体調不良を訴える者が1名出たが、他の生徒については問題なく元気である。平等院鳳凰堂への移動までの時間は皆お土産の物色に余念がない。

次いで平等院鳳凰堂へと向かい、本日二度目のクラス写真撮影を行う。庭園にはまだ紅葉の残りがあり、天候にも恵まれたことから阿字池に映る鳳凰堂の姿が一際美しい。生徒たちは平等院ミュージアム鳳凰館で国宝の雲中供養菩薩像や一對の鳳凰、重要文化財の十一面観音立像をじっくりと観察・鑑賞し、展示品の精巧さに非常に目を奪われているようであった。その後はミュージアムショップで記念グッズを購入する者や併設された茶房で宇治茶を使ったスイーツを楽しむ者など、各自思い思いに平等院鳳凰堂を楽しんでいた。

二日目、最後の見学地は伏見稲荷大社である。社までの坂道を登り切るとちょうど夕日が楼門に当たる絶景と出会うことができた。ここでは多くの生徒が千本鳥居の下を歩いた。延々と続く鳥居に圧巻されるとともに幻想的な風景を堪能した。また伏見稲荷は有名なパワースポットということもあってか、本日何度目かのおみくじを引く姿も多数見られた。ひととおり稲荷大社を見終えた生徒たちは坂道の両脇に居並ぶ店先をめぐり集合時間までの短時間を食べ歩きに費やしたりお土産買い求めたりして過ごしていた。

伏見稲荷の見学を終え、バスで宿に戻る。宿に着くと夕食を摂り、最も楽しみにしている明日の自主研修に備え早めの就寝を促し、二日目の研修を終えた。



第3日目	12月16日(日)	起床 6:45	朝食 7:30	夕食 18:30	
宿舎	8:30	京都市内 グループ別自主研修 〈昼食は各自〉		17:00	宿舎

第三日目 平成30年12月16日(日) 天気：曇り

研修旅行第3日目は、生徒たちも楽しみにしていた自主研修である。この日の為に、生徒たちは班毎に何度も話し合い、京都での有意義な一日を送るために検討を重ねてきた。どの班も、旅行業者のアドバイスを真剣に聞き、研修計画を完成させた。

朝8:30の解散の合図とともに、生徒たちは皆元気よく出発していった。なかには、出発してから宿泊地の前でずっと地図を眺めてうろうろしている生徒もいたが、やがて意気揚々と目的地に向かって、生徒は慣れない京都の町で歩き出した。昼の定時報告では、全ての班が概ね予定通りに研修を進めていると報告があった。生徒が立てた研修計画によると、和菓子作りや着付け体験、嵐山や渡月橋、祇園の散策などが人気のようであった。



17:00にはほとんどの班が戻り、生徒たちの表情から各班内容の濃い自主研修となったことが窺えた。生徒たちは夕食を食べながら、研修先の様々な体験について楽しそうに語り合っていた。

第4日目	12月17日(月)	起床 6:15	朝食 7:00
宿舎	8:00	8:20	清水寺
		9:50	10:20
			金閣寺
			11:10
11:45	京都駅	ひかり520号	12:32
			15:10
			東京駅
		やまびこ145号	16:00
			18:04
			仙台駅
昼食: 列車内で弁当			

第四日目 平成30年12月17日(月) 天気:曇りのち晴れ

本日は研修旅行の最終日である。部屋の片付けや荷造りなどで少し時間がかかったが、概ね予定通りに出発することが出来た。最初に向かったのは清水寺である。清水寺の本堂には、2018年の「今年の漢字」である「災」が納められていた。本堂から張り出す「清水の舞台」は、高さが13メートルあり、桜と紅葉の名所である。残念ながら2017年2月からの本堂の檜皮屋根の葺き替え工事の為、舞台の全体像を見ることは出来なかったが、生徒たちはその迫力に驚かされていたようであった。その後、音羽の滝などを散策し、この旅行最後の研修地である金閣寺へと移動した。

金閣寺は、正式名称を鹿苑寺といい、相国寺の塔頭寺院の1つである。元を辿れば、鎌倉時代の公卿、西園寺公経の別荘を室町幕府三代将軍の足利義満が譲り受け、山荘北山殿を造ったのが始まりとされている。幸運にも天気にも恵まれ、鏡湖池に移る逆さ金閣も観ることが出来、生徒たちもその美しさに興奮していた。

その後、多くの思い出とお土産を持ち、12:32の新幹線で仙台へと向かった。かけがえのない4日間を過ごした古都京都を出発する時には、生徒も少し寂しそうな表情であったが、疲労がピークに達していたのか、発車した新幹線の中ではほとんどの生徒が眠っていた。途中の東京駅での乗り換えも混乱なく、無事18:00過ぎに仙台に到着した。仙台駅に到着後、出迎えの須藤教頭先生へと帰仙の挨拶を行い、解散式を行った。



4. おわりに

今回の研修旅行では、生徒は日本の伝統文化に触れるとともに、歴史の重みを感じ、古都京都での実際の見聞を通して知識・教養を深めることができた。また、団体行動を通して生徒は協調性、自主性を身につけ、友人同士、あるいは教員との交流を深め、高校生活でかけがえのない思い出になったように思う。

生徒たちがこのような貴重な研修を無事に行うことが出来たのは、事前より多くのご高配を賜りました、加藤雄彦理事長・校長先生のお力添えがあったことでもあります。この場をお借りしまして、加藤雄彦理事長・校長先生に心より御礼申し上げます。また、ご指導、ご鞭撻をいただきました千田副校長先生、須藤教頭先生をはじめ、多くの打ち合わせを行い、この研修旅行を形にいただいた東武トップツアーズの依田さんはじめ、添乗していただいた方々、看護師さん、同志社大学・立命館大学の先生方、先輩方、ほか京都、奈良でお世話になった現地バス、ホテル、各施設のスタッフの方々、そして本学園の指導方針に多大なるご理解をいただきました保護者の皆様に深く感謝申し上げます。この研修旅行において、事故もなく生徒がみんな元気に帰ってくることができたのも、以上の方々の細やかな心配りや、温かい対応によるものだと思います。この場を借りて、皆様方にも厚く御礼を申し上げます。

(3) 情報科学コース 沖縄研修旅行報告

船越 正志
野坂 有生

期 間 平成30年4月17日(火)～20日(金) 3泊4日
場 所 沖縄県(那覇市～名護市)
参加生徒 80名(男子64名、女子16名)
引率者 梅田一成 千葉陽子 志賀貞昭 船越正志 野坂有生

1. 研修の目的

- ・沖縄の風土と歴史に親しみ、文化・自然・産業に理解を深める。
- ・研修を通じて豊かな感性と情操を養い、見識を広げる。
- ・集団行動を通して協調性を養い、様々な交流を元に協調性を養う。
- ・体調はもとより、貴重品の管理や時間配分等、自己管理の能力を養う。
- ・公衆道徳を守り、社会性を身につける。

2. 事前指導

LHRや総合的な学習の時間を利用して以下の事前指導を行った。

- 1) 健康調査(アレルギー調査を含む)
- 2) 自主研修の班編成
- 3) 自主研修の計画
- 4) 研修の目的心得諸注意などの指導
- 5) 沖縄研修旅行結団式

3. 行程

1日目 4月17日(火)

仙台空港 1F中央噴水広場 10:40 集合
仙台空港 — 11:55 — 《ANA 1863便》 — 14:55 — 那覇空港
那覇空港 — 15:40 — 貸切バス — 16:10 — ホテルサン沖縄
到着後、国際通り散策

2日目 4月18日(水)

朝食7:00～
ホテルサン沖縄 — 8:30 — 貸切バス — 9:20 — 平和記念資料館 平和の礎 — 11:20 — 貸切バス —
11:30 — 優美堂(昼食) — 12:30 — 貸切バス — 13:15 — 那覇市内班別自主研修 — 19:00 — ホテルサン沖縄

3日目 4月19日(木)

朝食7:00～
ホテルサン沖縄 — 8:30 — 貸切バス — 9:20 — 沖縄県科学技術大学院大学 — 11:40 — 貸切バス
— 12:50 — 古宇利オーシャンタワー — 13:50 — 貸切バス — 14:30 — 沖縄海洋博記念公園 —
16:50 — 貸切バス — 17:20 — ホテルリゾネックス名護(夕食BBQ)

4日目 4月20日(金)

朝食7:00～
ホテルリゾネックス名護 — 8:00 — 貸切バス — 9:30 — おきなわワールド — 11:30 — 貸切バス
— 12:00 — 那覇空港 — 14:10 — 《ANA1864便》 — 16:45 — 仙台空港 解散

◎1日目

仙台空港に現地集合をした生徒たちは、楽しみにしていた研修旅行ということもあり、終始笑顔であった。生徒たちは保安検査場を無事に通過し、安堵の表情を浮かべている生徒もいた。初めて飛行機に乗る生徒たちもいて、離陸時と着陸時には驚きの声をあげたり、落ち着かない様子も見られた。

無事に那覇空港に着陸し、貸切バスで宿泊場所のホテルサン沖縄に移動した。バスで移動中の生徒は初めて見る沖縄の景色を興味津々に見入っていた。ホテルサン沖縄に到着した後、班ごとに国際通りを散策した。多少の雨天ではあったが、生徒たちは国際通りでの買い物を楽しんでいた。夕食はホテルでバイキングであり、夕食後はホテル館内で、それぞれの自由時間を楽しんでいたようであった。



写真1 仙台空港で搭乗を待つ生徒①



写真2 仙台空港で搭乗を待つ生徒②



写真3 那覇空港で荷物を待つ生徒



写真4 国際通り散策に出発する生徒

◎2日目

ホテルサン沖縄から貸切バスに乗り、約50分で平和祈念資料館に着いた。貸切バスの中ではバスガイドさんの様々な沖縄のお話があり、生徒たちはガイドさんの話に聞き入っていた。

平和祈念資料館では沖縄戦についての講話を頂き、生徒たちは終始真剣な表情で講話を聞いていた。語り部の方は、戦争の悲惨さや凄惨さを生徒に伝えるとともに平和な社会を築いていかなければならないということをお話していた。その後、生徒たちは資料館を見学し戦時中の沖縄の様子や当時使われていた道具、貴重品を見ていた。生徒は、「まだまだ知らないことがたくさんある。」「資料を実際に見ると戦争についてより現実的になる。」など意見を話し合いながら資料館を見学していた。

昼食は沖縄名物のタコライスを優美堂でとり、その後ショッピングを楽しんでいた。



写真5 講和をしてくださった先生



写真6 講和を真剣に聞く生徒



写真7 平和祈念資料館の展示物



写真8 平和祈念公園での記念撮影



写真9 平和祈念公園を散策する生徒①



写真10 平和祈念公園を散策する生徒②

この日の午後からは、班別自主研修を行った。天気も快晴であり、生徒たちは数カ月かけて話し合い、計画立てをした自主研修を楽しんでいる様子であった。写真を撮ったり、お土産などを買ったりと沖縄の街の雰囲気を味わい、班別自主研修を満喫していた。ホテルの集合時間は19:00であったが、全員が集合時間に遅刻することなく無事にホテルに到着した。



写真 11 優美堂にて買い物をする生徒



写真 12 首里城公園

◎3日目

8:30にホテルを出発し、初めに沖縄科学技術大学院大学（OIST）に向かい、約50分かけて到着した。沖縄科学技術大学院大学には、非常に多くの外国人が在学しており生徒たちも驚きの表情を見せていた。沖縄科学技術大学院大学の見学では、生徒自身のスマートフォンを利用した参加型の講義があり、IOTを活用した最先端の講義スタイルに生徒たちは感銘を受けていた。その後のクラスごとに分かれての施設見学では、大学の充実した設備はもちろんのこと、普段目にすることのない機械や設備などの見学、また大学内にある寮や託児所、その他の生徒たちの想像を超える環境に、興味津々な様子であった。各ゼミでの様々な研究内容や大学での学びについて生徒たちはメモを取りながら真剣に聞いていた。



写真 13 スマートフォンを利用しての講義



写真 14 沖縄科学技術大学院大学にて記念撮影

見学終了後、バスで古宇利オーシャンタワーに向かった。その際、古宇利大橋という沖縄の海の上に架かる橋を通過するが、そこを走っている時、車内からは沖縄の綺麗な海をみて歓声が上がっていた。昼食は、古宇利オーシャンタワーで、海を臨めるオーシャンビューの会場で昼食をとった。昼食後は、各自施設を見学した。オーシャンタワーの展望台から景色を眺める生徒や、友人と記念撮影をする生徒、昼食を食べたばかりにも関わらず沖縄のデザートを食べる生徒など各々が充実した時間を過ごしていた。



写真 15 古宇利オーシャンタワーで昼食をとる生徒



写真 16 展望台で記念撮影をする生徒

次に沖縄海洋博記念公園に向かった。クラスごとの集合写真を撮った後、美ら海水族館の館内に入った。美ら海水族館では様々な魚やジンベイザメの餌やり、人気のオキちゃん劇場などを見学した。特にジンベイザメのあまりの大きさに驚き、足を止め見入っている生徒が多くいた。また、美ら海水族館館内でしか買えない限定グッズなどを買って楽しい時間を過ごしていた。

沖縄海洋博記念公園、美ら海水族館の見学を終え、ホテルリゾネックス名護に向かった。夕食までの時間、生徒たちは目の前のビーチを散策したり、遊んだりして沖縄の海を体感していた。珍しい貝殻や綺麗な石などを見つけて喜んでいる生徒の姿もあった。夕食はサンセットを見ながらビーチでBBQをし、生徒たちは夕食を楽しんでいた様子であった。



写真 17 ジンベイザメの大水槽前にて



写真 18 オキちゃん劇場にて



写真 19 ホテルリゾネックス名護ビーチにて



写真 20 BBQ を楽しむ生徒

◎4日目

最終日は、おきなわワールドへ向かった。おきなわワールドでは初めに鍾乳洞を見学した。鍾乳洞の中は高温多湿で額に汗をにじませながら生徒たちは見学していた。鍾乳洞を出ると、様々な施設があった。生徒たちは、熱帯フルーツ園で沖縄ならではのココナッツやマンゴーなどを食べている様子が見られた。フルーツ園を抜けると、体験施設などがありガラス工芸品の作成を見学する生徒や白蛇との記念写真を撮る生徒など沖縄ならではの体験を各々が過ごしていた。広場では旧盆の祖先供養の集団舞踊のエイサーをアレンジした「スーパーエイサー」の公演もしており、迫力満点の踊りに生徒たちも見入っていた。

那覇空港に向かう車内では、この研修旅行が終わることを名残惜しそうにしている声が多く聞こえた。最後に空港内で沖縄のお土産等を購入し、生徒たちは最後の最後まで充実した時間を過ごしていた。

帰りの飛行機の中では、名残り惜しそうに窓を見つめる生徒や疲れ果てて寝ている生徒様々であった。仙台空港に到着すると、佐藤教頭先生をはじめ多くの保護者の方に迎えられそれぞれ帰路についた。



写真 21 おきなわワールドにて①



写真 22 おきなわワールドにて②

4. おわりに

3泊4日の情報科学コース沖縄研修旅行で、生徒たちはおおむね時間厳守で行動することができていた。また、この研修旅行で多くのことを学び、普段の学校生活では味わうことのできない経験をし、生徒たちは大きく成長したのではないかと思います。

沖縄研修旅行を実施するにあたり、加藤雄彦理事長・校長先生の多大なるご配慮をいただき、心より御礼申し上げます。また、東武トップツアーの後藤さんをはじめ、添乗員の方々・現地バス・ホテル・各施設のスタッフの方々、お世話になった皆様方にも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(4) フレックス・技能開発コース 沖縄研修旅行報告

西山 大樹

期 間 平成30年4月14日（土）～17日（火） 3泊4日
場 所 沖縄県（那覇市～名護市）
参加生徒 男子149名
引 率 者 二上久芳、鈴木孝司、渡辺章紀、林田茂、西山大樹、山田大、木村公則

1. 研修の目的

- ・事前準備を含むクラス別、班別活動を通じて、問題解決に必要な情報収集、処理能力を身につける。
- ・団体行動を通してクラス・学年の和を培う中で、友情を深めると共に集団行動のきまり・公衆道徳を身につける。また、集団の構成員としての健康管理や安全確保のあり方を考える。
- ・沖縄の自然・文化・産業・生活などに触れることで視野を広めると共に、本県の風土と多面的に比較することにより、地域性や自然環境の違いを認識し、郷土と旅行先にすばらしさや独自性を実感する。

2. 事前指導

LHRや総合的な学習の時間を利用して以下の事前指導を行った。

- 1) 健康調査（アレルギー調査を含む）
- 2) 自主研修の班編成
- 3) 自主研修の計画
- 4) 研修の目的心得諸注意などの指導
- 5) 沖縄研修旅行結団式

3. 行程

1日目 4月14日（土）

仙台空港 1F中央噴水広場 10:30 集合
仙台空港 — 11:50 — 《ANA 1863便》 — 15:50 — 那覇空港
那覇空港 — 15:40 — 貸切バス — 16:10 — 旧海軍司令部壕 — 17:00 — 17:30 — 沖縄サンプラザホテル
到着後、国際通り散策（夕食各自） 18:30～20:00

2日目 4月15日（日）

朝食6:40～
沖縄サンプラザホテル — 8:00 — 貸切バス — 8:50 — 平和記念資料館 平和の礎 — 10:50 — 貸切バス
— 11:00 — 優美堂 — 12:00 — 13:00 — ホテル～国際通り自主研修 — 18:30 沖縄サンプラザホテル

3日目 4月16日（月）

朝食7:00～
沖縄サンプラザホテル — 8:30 — 貸切バス — 10:10 — 沖縄海洋博記念公園 — 12:45 — 貸切バス
— 13:00 — マリンピアザ沖縄（ホテル）…もとぶ元気村（3種体験）

4日目 4月17日（火）

朝食7:00～
マリンピアザ沖縄 8:00 — 貸切バス — 9:50 — おきなわワールド — 11:30 — 貸切バス —
12:10 — 那覇空港 — 14:10 — 《ANA1864便》 — 16:40 仙台空港 解散

◎1日目

仙台空港に現地集合をした生徒たちの表情からは、沖縄研修旅行に対する期待感や楽しみでいっぱいな様子が見てとれた。保安検査場を通過する際は、私物が反応してしまうのではないかとドキドキしていた生徒も無事に通過できた時には安心した表情を見せていた。中にはうっかり反応してしまった生徒もいて、照れた様子で対応している生徒を見て微笑ましく思った。ほとんどの生徒が飛行機に乗るのは初めてで離陸時と着陸時に驚きの声をあげていた。

無事に那覇空港に着陸し、貸し切りバスを使い旧海軍指令壕へ行き、戦時の貴重な壕を見学し各自が戦争のことを考えていた様子であった。見学後、再度貸し切りバスに乗り宿泊場所である、沖縄サンプラザホテルに移動した。移動中の生徒は初めて見る沖縄の景色をまじまじと見ていた。沖縄サンプラザホテルに到着後、国際通りを散策し、買い物や夕食を楽しむ生徒たちはとても生き生きとしていた。



◎2日目

沖縄サンプラザホテルから貸し切りバスに乗り約1時間かけて平和祈念資料館へ向かった。貸し切りバスの中ではバスガイドさんの様々な沖縄のお話やクイズ、歌などで盛り上がり愉快地に目的地に向かった。

平和祈念資料館では沖縄戦についての講話をいただき、生徒たちは終始真剣な眼差しを向けながら講話を聞いていた。語り部の方は、惨劇を生徒に伝えるとともに平和な世界を作っていかなければならないことを話した。それを聞いた生徒たちは「今の戦争の無い生活が当たり前ではないんだ」と口々にしていた。その後は、資料館を見学し、戦時中の沖縄の様子や当時使われていた道具、貴重品を真剣に見ていた。

この日の午後からは、自主研修を行った。小雨が降ったりやんだりする中でしたが生徒たちは、それを苦にせず数カ月かけて計画立てをした自主研修を楽しんでいる様子であった。写真を撮ったり、沖縄の様々な文化にふれたり、お土産などを買ったりと沖縄を満喫していた。ホテルの集合時間は18:30であり、ホテルに帰ってきた生徒たちは安心と満足した表情を見せ、全員が無事にホテルに到着した。



◎3日目

3日目は8:30にホテルを出発し、沖縄海洋博記念公園に向かった。沖縄海洋博記念公園では見たことのない魚やジンベイザメ、イルカショーが人気のオキちゃん劇場などを見学した。ジンベイザメの所ではジンベイザメの大きさに釘付になり開いた口が塞がらないような表情で見入っていた。また、オキちゃん劇場では普段見ることのできない様々なパフォーマンスをするイルカたちを見て、感激する姿も見て取れた。さらに、沖縄海洋博記念公園でしか買えない限定グッズなどを買い、充実した時間を過ごしていた様子であった。

沖縄海洋博記念公園の見学を終え、マリニピアザ沖縄に向かった。ホテル到着後、昼食を食べ、ホテルからすぐにあるもとぶ元気村での3種体験を行った。内容としては、バナナボートやマスクスイミング、カヌーにサーターアンダーギー作りと様々な体験を通し、沖縄を満喫している様子だった。



◎4日目

最終日は、8:00にホテルを出発し、おきなわワールドへ向かった。おきなわワールドでは初めに鍾乳洞を見学し、生徒のほとんどが初めての体験であった。鍾乳洞の中は高温多湿で額に汗をにじませながら生徒たちは見学していた。長い年月をかけて作られた鍾乳洞の大きさに生徒たちは感動していた。鍾乳洞を出ると様々なお店があり、アイスクリームや沖縄ならではの飲み物、お菓子を買って、笑顔を見せながら食べていた。スーパーエィサーショーもあり、迫力満点の踊りと音に生徒たちも見入っていた。

帰りの飛行機の中では、名残り惜しそうに窓を見つめ、もう少し沖縄に居たいなどと口にする生徒も居た。また、慣れない沖縄での研修旅行に疲れ果てて寝ている生徒など様々であった。仙台空港に到着すると、多賀教頭先生をはじめ、多くの保護者に方に迎えられ、それぞれ帰路についた。

4. おわりに

3泊4日のフレックス・技能開発コース沖縄研修では、普段の学校生活では味わうことのできない集団行動の大切さ、協調性を養うことができた、沖縄の歴史や文化も学ぶことができたのではないかと考えます。

沖縄研修旅行を実施するにあたり、加藤雄彦理事長・校長先生の多大なるご配慮をいただき、心より御礼申し上げます。また、東部トップツアーの千葉さんはじめ現地バス・ホテル・各施設のスタッフの方々、お世話になった皆様方にも厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

フレックス・技能開発コース（女子） 沖縄研修旅行報告

石川美紀子

1. はじめに

男子班より一日遅れて仙台を出発した。研修期間中は雨天が多く、南国の沖縄を感じる事が少なかったが、生徒は有意義な時間を過ごしていた。また、事前指導の時間を多く設定したこともあり、大きな事故やトラブルもなく研修を終えることができた。

2. 研修内容

(1) 研修の目的

- 事前準備を含むクラス別、班別活動を通じて、問題解決に必要な情報収集、処理能力を身につけ、協調性や自主性・責任感を養う。
- 団体行動を通してクラス・学年の和を培う中で、友情を深めると共に集団行動のきまり・公衆道徳を身につける。また、集団の一人としての健康管理や安全確保のあり方を考える。
- 沖縄の自然・文化・産業・生活などに触れることで視野を広めると共に、本県の風土と多面的に比較することにより、地域性や自然環境の違いを認識し、郷土と旅行先のすばらしさや独自性を実感する。

(2) 旅行日

平成30年4月15（日）～4月18日（水） 3泊4日

(3) 旅行先

沖縄（沖縄本島）方面

(4) 参加者

フレックスコース・技能開発コース 第三学年（女子） 計80名
引率者 副団長・佐々木英明 石川美紀子 河原愛利沙

(5) 事前指導

LHRや総合的な学習の時間を利用して以下の事前指導を実施した。

- ①健康調査（アレルギー調査）
- ②自主研修の班決め
- ③自主研修の計画
- ④体験学習種目決め
- ⑤研修の目的心得諸注意などの指導
- ⑥研修旅行結団式

(6) 行程

集合：仙台空港1階中央噴水広場 10:30

日次	月日(曜日)	行程	宿泊・備考
①	4/15(日)	仙台空港 11:55【ANA1863便】—— 14:55 那覇空港 15:40 —— 16:10 旧海軍司令部壕 17:00 —— 17:30 ホテル 到着後、国際通り散策・各自夕食 ～20:00	那覇市 ホテルオーシャン ☎098-863-2288
②	4/16(月)	ホテル 8:30 —— 9:20 平和祈念資料館・平和の礎 11:20 —— 11:30 優美堂(昼食・買い物) 12:30 —— 13:30 ホテル～国際通り自主研修・各自夕食 —— 19:00 ホテル	
③	4/17(火)	ホテル 8:30 —— 10:10 沖縄海洋博記念公園(美ら海水族館) 12:45 —— 13:00 マリンピアザ沖縄(昼食) ～もとぶ元気村～体験終了後班ごとにホテル、休憩後夕食	本部町 マリンピアザ沖縄 ☎0980-48-3000
④	4/18(水)	ホテル 8:00 —— 9:50 おきなわワールド 11:30 —— 12:10 那覇空港・各自昼食 14:10【ANA1864便】 —— 16:50 仙台空港	

3. 研修期間中の生徒について

～1日目～

仙台空港に集合し、出発式を行った。添乗員の方の話も静かに聞き、真面目な態度で研修に臨む様子があった。搭乗手続きもスムーズに終わり、余裕を持って行動できていた。

無事に那覇空港に到着し、バスにて旧海軍司令部壕へ向かった。展示物を見ながら真剣な表情で戦争について学んでいた。見学終了後、ホテルに移動して各自荷物整理をし、国際通りの散策へ出かけた。各班で買い物や夕食を楽しみ、時間通りに全員がホテルへ戻った。この日の那覇は豪雨だったことから、早めに活動を切り上げてホテルへ戻る班も多かった。

～2日目～

ホテルを出発後、平和祈念資料館へ向かった。沖縄の風土を感じながら、沖縄の歴史についてバスガイドの方からの話を聞きながら移動した。

平和祈念資料館では沖縄戦についての講話を拝聴後、資料館を見学し戦時中の沖縄について学んでいた。また、平和の礎へ向かい、犠牲者の方々に悼んでいた。

優美堂にて昼食後、ホテルへ戻り各班で自主研修を行った。首里城や国際通りを観光して二日目は終了した。



体験者の方からの講話を聴く



平和の礎を訪ねる

～3日目～

天気に恵まれず、雨の中バスで沖縄海洋博記念公園へ向かった。美ら海水族館では生徒は各自のペースで見学していた。イルカショーを楽しんでいた生徒も多かった。

その後、本部へ向けて移動、宿泊先のホテルで昼食。各班ごとに、もどぶ元気村での活動へ。三種類の体験を楽しみ、それぞれの思いで作りができていた。夕食はホテルでBBQを準備していただき、生徒は満足した様子で沖縄最後の夜を楽しんでいた。



バナナボートを楽しむ



キャンドル作りに挑戦

～4日目～

沖縄滞在の最終日は、おきなわワールドへ向かい、鍾乳洞の見学をした。施設やショーの見学、お土産を買ったりおやつを食べて過ごしていた。

那覇空港では、昼食を取ったり最後の買い物をして帰りの飛行機を待っていた。仙台空港に到着すると、疲れた表情がみられたが満足した様子で解散することができた。

4. おわりに

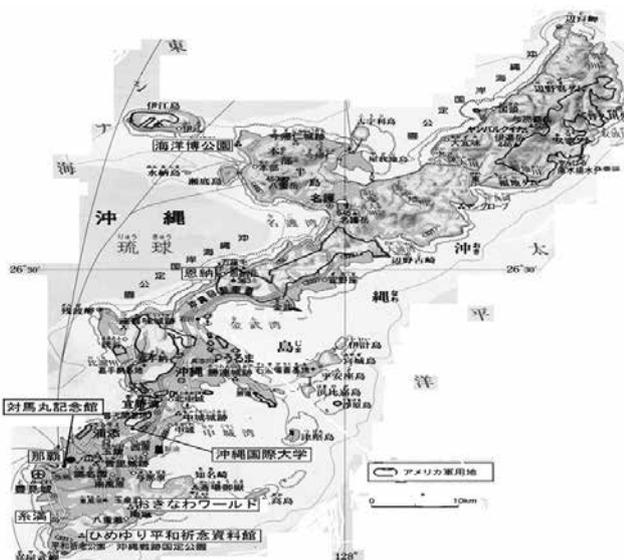
今回の4日間の沖縄研修旅行では、沖縄の文化や歴史、現地の人々との交流を通して多くのことを学ぶことができた。生徒一人ひとりにとって有意義な時間であったと感じた。



(5) 英進進学コース 沖縄研修旅行報告

藤倉 善将

- ◎ 期 間 平成30年4月12日（木）～15日（日）
- ◎ 旅 行 先 沖縄（本島）
- ◎ 参加生徒
A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7計7クラス 男子122名 女子58名
- ◎ 引 率 者
男子・渡邊正孝、熊坂治平、遠藤良長、藤倉善将、佐藤真弓、安藤拓也、秋山直道
女子・山内朋彦、及川まり、竹ヶ原孝則



研修旅行の目的

- (1) 我が国最南端の県沖縄の歴史と自然に触れ、独特の文化や産業についての理解を深める。
- (2) 平和祈念資料館・平和の礎や旧海軍司令部壕、沖縄国際大学での研修を通して太平洋戦争（第二次世界大戦）中の悲惨な状況や戦後の本土とは異なる歴史を理解し、平和であることの尊さを感じ、平和を希求することの重要性に思いをはせる。
- (3) 集団行動を通じて、きまりを守り、生徒同士、または生徒と教師の人間的な交流を深め協調性を養う。
- (4) グループ活動を通じて、互いに助け合い、連帯感を培い、また自分の体調を自分で管理自制できる。
- (5) 公衆道徳を守り、一人の社会人として社会性を身につける。

旅行行程表

第1日目 4月12日（木）

仙台空港集合（1階中央噴水広場） 10:30
仙台空港 11:55 ----- <ANA1863便> ----- 14:55 沖縄空港 15:50 ^{貸し切りバス} ===== 16:20 旧海軍司令部
16:55 ^{貸し切りバス} ===== 17:20 ホテル
夕食 18:30～ 「3F ピクシスジェミニ」「ベガ」 夕食後班長会議
宿泊 ネストホテル那覇 電話：098-868-1118

第2日目 4月13日(金)

朝食 08:00～ 「3F ピクシスジェミニ」「ベガ」

ホテル 09:00^{貸し切りバス} 10:50 平和記念資料館・平和の礎 11:50 === 12:00 優美堂 13:00
<平和講話> <ショッピング・昼食>

=== 沖縄国際大学(研修14:10～16:10) === イオンモール沖縄ライカム === 19:30 ホテル 班長会
<講義・学生サークル「スマイライフ」による校内案内> <夕食各自>

宿泊 ネストホテル那覇 電話:098-868-1118

第3日目 4月14日(土)

朝食 07:30～ 「3F ピクシスジェミニ」「ベガ」

ホテル 08:30 …………… 那覇市内; 班別自主研修 …………… 13:00 ホテル集合 ===
<首里城～沖縄県立博物館～国際通りなど> <昼食各自>

==== 14:50 沖縄海洋博記念公園 16:50 ===== 17:20 ホテル到着後班長会議、ビーチ散策
<美ら海水族館・熱帯ドリームセンター・オキちゃん劇場・熱帯植物園・イルカショー>

夕食 18:30～ 「BBQビーチサイド」

宿泊 リゾネックス名護 電話:0980-53-8021

第4日目 4月15日(日)

朝食 07:00～ 「3F」ドルフィン

ホテル 08:00 ===== 09:30 おきなわワールド(玉泉洞・王国村) 11:30 =====
<10:30～スーパーエーショー(エーサー広場)>

==== 12:10 那覇空港 14:10 ----- <ANA1864便> ----- 16:40 仙台空港

<昼食:空港内弁当>

解散17:20

【旅行記録】

◎ 第1日目

10時30分: 全員予定通り仙台空港1階中央噴水広場に集合して、11時50分仙台空港を出発。昼食は各自弁当を機内でとる。機内が大変揺れて緊張の連続でした。

15時00分: 那覇空港に予定通り到着した。ほとんどの生徒は飛行機の旅は初めてなので、離陸時と着陸時や激しい機内での揺れで驚きの声をあげていた。

15時50分: 那覇空港から貸切バスで最初の研修地「旧海軍司令壕」にむけて出発。

16時20分: 旧海軍司令壕に到着し、真剣に当時の展示品や写真を見て戦争の悲惨さと平和の大切さを痛感させられました。

<旧海軍司令壕について>

沖縄戦において、日本海軍沖縄方面根拠地帯司令部のあった壕です。日本海軍設営隊によって掘られた壕で当時のまま残されており、現在は恒久平和を祈念する戦跡施設として、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ平和学習の場として活用されている。併設の資料館には、豪内で発見された戦争当時の遺品などが展示されています。

旧海軍司令壕や資料館には、この日も多くの人々が訪れ、戦争の悲惨さを痛感していました。

18時00分: ホテルに到着、19時に夕食、入浴後10時消灯、今日1日大分疲れたようでした。



写真1 仙台空港集合(女)



写真2 搭乗機 ANA 1863 便



写真3 機内



写真4 那覇空港から旧海軍司令壕へ



写真5 旧海軍司令壕1



写真6 旧海軍司令壕2

◎ 第2日目

9時00分：貸し切りバスでホテルを出発し、本日最初の見学地である平和祈念資料館に10時50分に到着して、資料館館長の「平和講和」を聞きました。講和は、太平洋戦争の勃発と沖縄戦についての戦争の悲惨さをお話していただきました。沖縄県民の4人に1人が犠牲になったことを聞き、大変心が痛みました。平和への強い希望や夢を持つ努力をしないと、憎しみや報復の連鎖を呼ぶことになるという教訓を学ぶことができました。沖縄県民にとっては「終わらない戦後」が続いていることも、忘れてはいけないと痛感しました。

□□□ 平和祈念資料館 □□□

—基本理念—

1945年3月末、史上まれにみる激しい戦火がこの島々に襲ってきました。90日に及ぶ鉄の暴風は島々の山容を変え、文化遺産のほとんどを破壊し、20数万の尊い人命を奪い去りました。

沖縄戦は二本に於ける唯一の県民を総動員した地上戦であり、アジア・太平洋戦争で最大規模の戦闘でありました。

沖縄戦の何よりの特徴は、軍人よりも一般住民の戦死者がはるかに上まわっていることにありその数は10数万人におよびました。ある者は砲弾で吹き飛ばされ、ある者は追い詰められて自ら命を絶たされ、ある者は飢えとマラリアで倒れ、また、敗走する自国軍隊の犠牲にされる者もありました。私たち沖縄県民は、想像を絶する極限状態の中で戦争の不条理と残酷さを身をもって体験しました。

この戦争の体験こそ、とりもなおさず戦後の沖縄の人々が、米軍の軍事支配の重圧に抗しつつ、つちかってきた沖縄のこのころの原点があります。

“沖縄のこのころ”とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心であります。

私たちは、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人びとに私たちの心を訴え、もって恒久平和の樹立に寄与するため、ここに県民個々の戦争体験を結集して、沖縄県平和祈念資料館を設立いたします。

<平和の礎(いしじ)とは…>

沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこのころ」を広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」を太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して建設したものである。



写真7 平和祈念資料館1



写真8 平和祈念資料館館長講和1



写真9 平和祈念資料館館長講和2



写真10 平和祈念資料館館長講和3



写真11 平和の礎 (いしじ) 1



写真12 平和の礎 (いしじ) 2



写真13 平和祈念資料館2



写真14 平和祈念資料館3



写真15 平和祈念資料館4

12時00分：優美堂に到着、昼食後各自ショッピングを楽しみました。

14時00分：沖縄国際大学に到着、大学の学部の紹介後、1時間の講義を受けました。その後、学生サークル「スマイライフ」の皆様14名で、大学校内を案内してもらいました。2004年にこの大学の校舎に米軍のヘリコプターが墜落し炎上した事故の説明を受けました。屋上に案内され普天間基地が目の前に見えることの驚きは、言葉に表せない重みを感じさせられました

□□□ 沖縄国際大学 研修 □□□

現役大学生が行う平和ガイド「スマイライフ」は、普天間基地に隣接している沖縄国際大学の学生たちが2006年に結成したサークルで、嘉数（かかず）高台公園内にある戦跡や普天間基地が一望できる展望台を巡り、平和について共に考え、語り合う体験プログラムです。広大な土地を占拠する米軍、今なお残る戦争の傷跡を見つめ、若者の目線と言葉で戦争の事実と基地の現状を語ります。

今回は時間の関係で嘉数高台公園には行くことができませんでしたが、大学校内の案内（モニュメント・図書館など・屋上・サークル棟や体育館など）を通して、戦争と平和について話をさせていただきました。



写真16 沖縄国際大学



写真17 沖縄国際大学講和



写真18 大学サークルスマイライフの紹介



写真 19 大学の屋上での説明 1



写真 20 大学の屋上での説明 2



写真 21 屋上から見える普天間基地 1



写真 22 屋上から見える普天間基地 2



写真 23 屋上から見える普天間基地 3



写真 24 屋上から見える普天間基地 4

<イオンモール沖縄ライカム>

17時イオンモール沖縄ライカムに到着、ショッピングを楽しんだ後、各自夕食をとりました。

このイオンモールは2015年4月にオープンして、地元で暮らす人も、旅する人も、海外から訪れた人も、昔ながらの沖縄と、新しい沖縄を感じる場所と位置づけています。220の専門店が入っており沖縄を訪れる観光客にも魅力ある店舗として歓迎されているようです。

◎ 第3日目

ホテルを8時30分那覇市内班別自主研修に各班ごと出発し、モノレールやバスを利用して、それぞれの計画書に基づいて行動していました。首里城や国際通りなどを主に見学していました。

首里城は改修工事が行われており、見学ができない場所もありました。

<首里城>

琉球王国の居城として15世紀から廃藩置県まで約500年にわたり琉球王国を統治し、沖縄の政治経済・文化の中心地となっていました。

首里城とその周辺では芸能・音楽が盛んに演じられ、美術・工芸の専門家が数多く活躍していました。

首里城は沖縄戦を含め4度焼失しました。復元された首里城は、18世紀以降をモデルとしています。

2000年12月2日、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして世界遺産に登録されました。

首里城正殿を中心として、守礼門や園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）、円覚寺跡などの文化財からなる国営の公園です。

<国際通り>

全長約1.6kmの国際通りは、「奇跡の1マイル」と呼ばれるほど、第二次世界大戦で焼け野原となった沖縄の復興の象徴となりました。15分ほどの沖縄県庁を起点として、観光客の方々が賑わう商店街となっている。メインの通りを歩くと、数々のお土産品店が立ち並んでいる。国際通りの脇に広がる「市場本通り」「平和通り」「公設市場」などの路地に入ると、地元の人々の買い物通りとして、見て歩くだけでも充分楽しめます。



写真 25 守礼門



写真 26 首里城 1



写真 27 首里城 2



写真 28 首里城 3



写真 29 首里城 4



写真 30 国際通り

13時00分：全員ホテルに到着。荷物をバスに積んで次の目的地に出発。14時50分：沖縄海洋博記念公園に到着。広大な敷地に驚かされました。今回は海のエリアを見学することになります。特に美ら海水族館は生徒達にとって、大変思い出に残る時間をいただいたと思います。沖縄海洋博記念公園について紹介しておきます。

□□□ 沖縄海洋博記念公園 □□□

国営沖縄記念公園は、昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念して、昭和51年8月に博覧会跡地に設置された国営公園です。現在は沖縄の観光振興、特に本島北部の観光の拠点として中心的役割を果たしています。

公園の3つのエリアのうち、歴史・文化のエリアでは、東南アジア諸国の海洋民族とのかかわりを示す生活用品、漁労具等約1,000点が展示されている海洋文化館、琉球列島古来の民家群及び民家庭園を再現したおきなわ郷土村、沖縄最古の歌謡集である「おもろさうし」にうたわれている植物のうち代表的な22種類を展示植栽したおもろ植物園等があります。

海のエリアでは、ジンベエザメ、マンタなど大型のサメ・エイ類を飼育している世界最大級の沖縄美ら海水族館、海洋博以来のイルカショーが人気のオキちゃん劇場、メキシコ政府から贈られたマナティーがいるマナティー館、ウミガメの産卵から成長まで観察できるウミガメ館、イルカを間近に観ることができるイルカラグーン、面積約3haの白砂を敷きつめた人工ビーチで、平成13年に「水浴場八十八選」、平成18年には「快水浴場百選」に認定され、4月から10月末まで海水浴ができるエメラルドビーチなどがあります。

花・緑のエリアでは、一年を通じて花を絶やすことのないよう世界的な規模の温室を設け、ランや熱帯果樹・花木等熱帯性の植物を演出展示している熱帯ドリームセンター、東シナ海に沈む美しい夕陽が見られる夕陽の広場、外国人に人気の熱帯・亜熱帯都市緑化植物園などがあります。



写真 31 沖縄海洋博記念公園 1



写真 32 沖縄海洋博記念公園 2



写真 33 美ら海水族館入口



写真 34 ヒトデ・ナマコとの触れあい

沖縄美ら海水族館とは

「沖縄美ら海水族館」は、海洋博公園にある人気スポットの一つです。
 水族館では、神秘に満ちた沖縄の生き物たちの雄大な世界が広がります。
 入館してすぐに「イノーの生き物たち」というエリアがあります。ヒトデやナマコに触れることができます。
 ※イノーとは沖縄の方言でサンゴ礁に囲まれた浅い海という意味です。
 太陽の光が降りそそぐ「サンゴの海」水槽では800群体のサンゴを飼育展示しています。
 小さな水槽がいくつもあり、いろんな生き物を見ることができます。
 美ら海水族館のメインスポットで、巨大な水槽の中には三匹の大きなジンベエザメが泳ぐ姿や、マグロやマンタなど迫力ある泳ぎを楽しむことができる大迫力の巨大水槽「黒潮の海」。
 さらに謎に包まれた沖縄の深海を再現した「深層の海」水槽へと、沖縄の海を丸ごと体感できます。



写真 35 水族館 1



写真 36 水族館 2



写真 37 水族館 3



写真 38 水族館 4



写真 39 水族館 5



写真 40 水族館 6



写真 41 水族館全景



写真 42 マナティー館



写真 43 マナティー

マナティー館

人魚伝説のモデルとなったマナティーが飼育されておりました。マナティーは草食の哺乳類であり、大きな体に似合わずおとなしい動物であることが紹介されている。

オキちゃん劇場

オキちゃん劇場では青い海をバックに、海洋博公園のアイドル、イルカのオキちゃんとその仲間たちが楽しいショーを繰り広げます。



写真 44 イルカショー 1



写真 45 イルカショー 2



写真 46 イルカショー 3

17時20分：ホテルに到着。本日宿泊のリゾネット名護はプライベートビーチを所有しておりライフセーバーも常駐しているとのこと。到着後ビーチを歩きたいということから、先生方と一緒に海辺を散策していました。

18時30分：夕食はビーチサイドでバーベキューを行いました。用意してある肉や野菜を自分たちで焼くことに対して最初は戸惑いがあったようですが、すぐに慣れてきて、上手に焼けるようになりました。食後みんなで記念撮影をしていました。



写真 47 ビーチ 1



写真 48 ビーチ 2



写真 49 ビーチ 3



写真 50 バーベキュー会場 1 (宿泊ホテル広場)



写真 51 バーベキュー会場 2



写真 52 バーベキュー会場 3



写真 53 バーベキュー会場 4

◎ 第4日目

8時：次の目的地沖縄ワールド（玉泉洞・王国村）に向けて、ホテルを出発。

<玉泉洞>

9時30分：おきなわワールド（玉泉洞・王国村）に到着。ガイドさんから、おきなわワールド全体の説明を聞き、鍾乳洞の洞窟である玉泉洞へ行って行きました。この玉泉洞は30万年という長い年月をかけて形成された鍾乳洞です。総延長5Kmに及ぶ国内最大級といわれる石灰岩（珊瑚を主成分とする）の溶食された洞窟の一部890mが観光用に公開されています。天井から垂れ下がった鍾乳石の数は100万本以上で、国内最多である。階段を下りて入口から入り、地下水が流れ、湿度が高く、水滴が落ちてくることもある洞内を、様々に名付けられた奇岩を見ながら、約30分歩きました。沖縄は高温多湿のため、洞内では3年に1mmというスピードで鍾乳石が成長していると聞き驚きました。最後は鍾乳洞の絶景から、長いエスカレーターで明るい地上に戻りました。



写真 54 集合写真 1



写真 55 集合写真 2



写真 56 玉泉洞 1



写真 57 玉泉洞 2



写真 58 玉泉洞 3

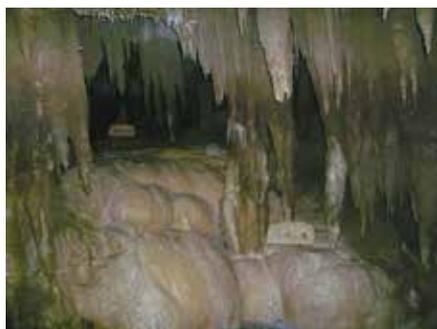


写真 59 玉泉洞 4



写真 60 玉泉洞 5



写真 61 玉泉洞 6



写真 62 玉泉洞 7



写真 63 玉泉洞 8



写真 64 玉泉洞 9

写真①～③は、玉泉洞に生息している魚たちです。あの暗闇の環境の中に魚たちが棲んでいることに驚かされました。



①



②



③

<王国村>

沖縄の自然・文化・伝統を体感できます。30万年の年月が創り上げた神秘の鍾乳洞や地上エリアには、赤瓦の古民家（国・登録有形文化財）の中で、工芸制作体験ができるテーマパークです。人気のエイサー演舞やハブのショーなどアトラクションも見ることができます。

エイサーは念仏踊りが変化したもので、今でも沖縄県内では、お盆に各地域青年団が地域内の道を回って演じられています。

最近は観光化が進むと共に、振り付けがダイナミックになり、ショーとして演じられることも増えてきました。その中でも一番完成度が高いと思われるのが、おきなわワールドの無料ゾーンで一日4回演じられている真南風（マフェカジ）といわれるグループのエイサーショー。

まずは、黒島口説にのって、エイサーがあり、八重山のアンガマーの面をかぶったおじいさんとおばあさんが、シーサー（獅子舞）とともに現れます。

シーサーは観客席まで暴れこみ、厄払いにお客さんを囓んでくれたりします。

そして、その後は本格的エイサー。

若いメンバーが笑顔を絶やすことなく沖縄の音楽にのって力いっぱい踊る様子は、スーパーエイサーの名に恥じることなく見た人を必ず感動させるものだと思います。エイサーをここまで感動させることのできる立派なショーに仕上がっています。



写真 65 王国村



写真 66 パパイアの木



写真 67 バニラの木



写真 68 アセローラの木



写真 69 グルミシャーマの木



写真 70 グッパの木



写真 71 パッションフルーツの木



写真 72 体験コーナー 1



写真 73 体験コーナー 2

体験コーナー（琉球写真館）

琉球王国時代に王族・士族のみが着用していた伝統衣装。沖縄の自然の鮮やかな色彩を取り込んだ華やかな琉装を、体験することができました。



写真 74 体験？



写真 75 エイサー演舞 1



写真 76 エイサー演舞 2



写真 77 沖縄空港



写真 78 ANA1864 便



写真 79 ANA1864 便機内

14時10分：那覇空港出発。

16時40分：仙台空港に無事到着。解団式後解散。

◎ 沖縄研修旅行の展示発表

10月6日～7日の育英祭と高校オープンキャンパスで沖縄研修旅行と台湾研修旅行の写真や参加生徒の感想文等の展示発表を行いました。沖縄と台湾の2方面の展示に、見学者から自由に選択できることに驚いていました。多くの方々に展示を見ていただきました。



写真 80 展示 1



写真 81 展示 2



写真 82 展示 3

謝 辞

今年度の英進進学コースの沖縄研修旅行では、現地でしか味わえない文化や歴史など多くの貴重な体験を通して、生徒一人一人が自主性・協調性ともに培うことができ、満ち満ちた研修旅行になったことと思います。研修旅行を実施するにあたり、多大なご配慮を賜りました加藤雄彦理事長・校長先生に心より御礼申し上げます。また、東武トップツアーの後藤さんはじめ、同じくトップツアーの方々、現地のバス・ホテル・各施設のスタッフの方々、沖縄研修旅行に際してお世話になった皆様に深く感謝申し上げます。この沖縄研修旅行で学んだことは生徒たちの財産になり、将来に活かせる形にしていきたいと思っています。このような素晴らしい機会をいただき、誠にありがとうございます。

英進進学コース 台湾研修旅行報告

英進進学コース 熊坂 治平

1. はじめに

英進進学コースの第三学年の研修旅行は、例年の沖縄と今年から韓国に代わって台湾に行ってきました。私たちは4月6日から9日まで3泊4日の日程で台湾研修をしてきました。生徒たちはこの旅行を通して、中国文化の一端に触れてきました。日本とは戦前からの深いかかわりがあり、現在も良好な関係の続く台湾で素晴らしい風景や文物、そしておいしい食べ物を味わってきました。特に大きな問題もなく、参加生徒全員が無事に充実した研修を行うことができましたのでここにご報告いたします。

2. 研修目的

- (1) 我が国の先島諸島と境を接する台湾の歴史と文化に触れ、独特の中国文化や産業についての理解を深める。
- (2) 故宮博物館を見学することにより、中国文化についての理解を深める。また、忠烈祠や中正紀念堂を見学することにより、戦前からの日本との関わりや、戦後の経済的發展について思いをはせる。
- (3) 集団行動を通じて、決まりを守る意識や協調性を高める。
- (4) 同級生や教師または現地の方々との交流を深め、社交性やコミュニケーション能力を培う。
- (5) グループ活動を通じて、互いに協力し助け合う姿勢を体現する。
- (6) 宿泊研修を通して、自身の体調管理能力や自立心を養う。
- (7) 公衆道徳を守り、1人の社会人としての社会性を身につける。

3. 研修日程

平成30年4月5日（木）～平成30年4月8日（日） 3泊4日

4. 参加者

平成30年度 英進進学コース第3学年希望生徒42名（男子7名、女子35名）
引率教員 計3名（熊坂治平、佐藤真弓、及川まり）
添乗員 1名（西田美緒）

5. 日程

第1日目

17:30 仙台空港1階中央噴水広場 集合
20:10 仙台空港発（夕食は機内食）

台湾時間

23:00 台北（桃園国際空港）着
24:30 ホテル（慶泰大飯店）着

第2日目

8:30 ホテル発
9:00 忠烈祠見学
10:00 中正紀念堂見学
10:55 鼎泰豊にて昼食
13:20 故宮博物院見学
14:30 休憩・買い物（民芸品店）
16:20 九份散策
18:30 春梅子にて夕食
20:00 ホテル着

第3日目（現地学生ガイドと班別自主研修）

9:00 ホテル発
17:00 康華大飯店に集合 レストランにて夕食
19:30 ホテル着

第4日目

9:30 ホテル発
10:20 行天宮見学
11:00 免税店で買い物
12:00 桃園交際空港到着
14:40 台北出発
日本時間
19:10 仙台空港着 解散

6. 宿泊地

慶泰大飯店（ガーラホテル）

台北市松江路186号（186, Sung Jiang Road, Taipei）Tel（02）2541-5511

7. 研修旅行記録

第1日目（4月5日）

17時30分に予定通り仙台空港中央噴水広場に集合し、チェックインと出国審査の後20時10分に一路台北に向けて出発しました。台湾時間（日本との時差はマイナス1時間）の23時に無事台北の桃園国際空港に到着しました。入国審査と荷物受け取りの後、バスに乗ってホテルに到着したのは24時30分ごろでした。明日の日程も詰まっているので、各部屋に分かれて就寝しました。



仙台空港出発風景

第2日目（4月6日）

7時半にホテルで朝食をとり、8時30分にホテルを出発して最初の見学地である忠烈祠に向けてバスで出発しました。昨夜遅かったのですが、体調を崩す生徒もなく元気に出かけました。

研修地1：忠烈祠

9時に忠烈祠に到着しました。ここは台湾の国のために戦って亡くなられた人々をまつた廟です。一日に何回か、衛兵交代の儀式があり銃を担いで威儀を正した衛兵が4人横隊になって高く手を振り厳かに進んでゆく様はとても印象に残りました。ちなみにこの衛兵たちは背も高くイケメンが選抜されているという話を伺いました。



研修地2：中正紀念堂

10時に次の研修地である中正紀念堂に到着しました。ここは台湾の初代総統蒋介石を記念して作られた建物です。蒋介石総統に関する様々な資料が展示されていて興味深いものがあります。



研修地3：鼎泰豊にて昼食



鼎泰豊は日本でもよく名の知られた有名な小籠包のレストランです。昼食時には長い行列のできる有名店なので、11時ごろに店につきほんの少し並んだだけでテーブルにつくことができました。6人一組ぐらいで席につき小籠包を中心にした飲茶コースをいただき舌鼓を打ちました。

研修地4：故宮博物院

おいしい昼食の後少し眠くなりましたが、13時20分から故宮博物院を見学しました。中国4000年の歴史を秘めた諸文物を駆け足で見学しました。特に有名なのは、翡翠の白菜です。中国皇帝に嫁いだお妃さまが嫁入り道具として持って行ったものだとか。コオロギが形よく止まっていて、多産の象徴だそうです。

その後、民芸品店に行きいろいろな物品を見学しながらお土産を買いました。



研修地5：九份

次の研修地は、1時間ほど郊外に出た九份です。宮崎駿雄の「千と千尋の神隠し」で有名になった場所だそうで、山の斜面に店が立ち並ぶところです。暗くなって、店に灯がともったところ下の駐車場から眺めるととても幻想的な雰囲気が漂います。台北の郊外で、山がちなので、1年を通して雨が多いのだそうです。今回もやはり九份の入り口から激しい雨になり、みんなかなり濡れながらの見学となりました。

見学を終えて、冷えた身体で1時間くらいバスに乗り、町の中心部に戻り夕食場所の「春梅子」に到着しました。台湾の郷土料理がメインでおいしくいただきました。



第3日目（4月7日）

3日目の本日は、7:30にホテルで朝食の後、7つの班に分かれてグループ毎の自主研修です。台湾の大学で日本語を勉強しているパディと呼ばれる引率が一人ついて9:00にそれぞれの場所に出発していきました。

夕方18:00に夕食場所である康華大飯店に全員無事に戻りました。みんなでおいしい中華料理をいただきました。





第4日目（4月8日）

いよいよ最終日です。いつも通り7:30にホテルで朝食の後、荷作りをして9:00にロビーに集合しました。9:30にホテルをチェックアウトして、行天宮に向かいました。

研修地6：行天宮



ホテルのすぐ近くに行天宮は台北でも有名なお寺です。参拝者が絶えず朝早いにもかかわらずたくさんの人々が熱心に参拝していました。日本とは少し違う調子の読経が響く中、長い線香を捧げて叩頭している参拝者が印象的です。お寺の地下通路には、占い師のお店が軒を連ねていて日本のテレビでも評判なのだそうです。

その後、近くの免税店で最後の買い物をして、12:00に桃園国際空港に到着しチェックインしました。お世話になったガイドの林さんやバスの運転手に別れを告げて帰国の途に就きました。

19:10に無事仙台空港に到着して解散しました。

8. おわりに

何とか無事に台湾研修旅行を終えることができました。なにしろ台北到着が真夜中になるのが少し厳しいところですが、それにもかかわらず、みんな元気に研修を終えられたことを感謝したいと思います。また校長先生はじめ、近畿ツーリストの西田さんその他関係各位のご協力に心より感謝申し上げます。

(6) 外国語コース 第1学年ハワイ研修報告

外国語コース 松崎 希莉
下浅 雄大

1. はじめに

今年度の外国語コース第1学年のハワイ研修は3班に分かれて実施いたしました。例年通り、GLOBAL VILLAGE HAWAIIにて語学研修を行い、アクティビティではハワイの様々な場所を訪れ、多くの体験をしていく中で異文化を学ぶことができました。

2. 研修期間と参加人数および引率教員

- ・第1班
平成30年10月13日（土）から11月26日（金）【12泊14日】
参加人数 11名
引率教員 松崎 希莉（外国語コース）
 - ・第2班
平成30年11月3日（土）から11月16日（金）【12泊14日】
参加人数 13名
引率教員 下浅 雄大（外国語コース）
 - ・第3班
平成31年1月12日（土）から1月25日（金）【12泊14日】
参加人数 14人
引率教員 杉田 愛（フレックスコース）
- 参加人数 計38名

3. 事前研修

今年度の事前研修として、9月後半からロングホームルームの時間を使用し、研修参加の有無に関わらず1学年全体を対象としたオリエンテーションを計2回行いました。ハワイ出身の秀光中等教育学校のブライアン先生に講師をお願いし、1回目はハワイについて知るために講義をしていただきました。文化・生活・宗教・食べ物…日本とほとんど異なるものばかりですが、共通することもあり、生徒達は興味が沸いたようでした。2回目は、グループワーク型の作業を中心とし、グループごとに好きなテーマについて調べて模造紙にまとめ、廊下に展示を行いました。各グループとも趣向を凝らした内容で、時間がない中でも朝や放課後を使って準備に取り組みました。ハワイの言語や食文化、フラダンスについてなど、様々な事を学ぶことができました。

4. 訪問地

- ・アラモアナショッピングセンター
- ・ダイヤモンドヘッド
- ・アーミービーチ&ミュージアム（1、2班のみ）
- ・アラモアナビーチ
- ・アラモアナビーチパーク
- ・ワイキキ水族館（1、2班のみ）
- ・ホノルル動物園（1、2班のみ）
- ・ホノルル美術館（3班のみ）
- ・パールハーバー（3班のみ）

5. 全日程報告

3班に分かれて実施したため、実施内容が若干異なります。また、パールハーバーについては、アリゾナメモリアルホールが改修工事のため1、2班は訪問地からはずされています。

～出発日～

学校をお昼ごろに集合し、簡単に出発式を行いました。その後、仙台港I.C.から高速道路に乗り、2回ほど休憩をとり成田空港に到着しました。空港では預け荷物や服装、持ち物の確認をしてから搭乗券を個人個人で発券し、搭乗手続きをしました。海外に旅行した経験のある生徒が少なかったため多少手間取ることもありましたが、トラブルなく日本を出発できました。機内では時差ぼけを少なくするために寝よう話しましたが、なかなか寝られない生徒もいたようでした。



写真1：成田空港にて

日付変更線の関係で、同日の昼ごろにハワイのダニエル・K・イノウエ国際空港に無事に到着し、預け荷物を無事に受け取り空港から出ました。ハワイは冬でも気温が25度前後あり、外に出るなり上着を脱いでいました。それからはレインボーホームステイの方とお会いし、ホームステイやハワイの生活における注意事項などを一通り説明されました。海外でのホームステイはほとんどの生徒が初めての経験であるため、みなしっかりと話を聞き、不明な点は質問をしていました。その後はホームステイの方がそれぞれ迎えに来てくれ、解散しました。みな楽しみにしていた様子でした。

～週末(1日目・2日目)～

初めての休日でしたが、それぞれがホームステイ先で楽しく過ごせたようです。始めは英語で話すことに抵抗があった生徒もいましたが、ホストファミリーに温かく迎えてもらえたようです。また、この週末で学校まで1度は行ってみるよう話していたので、それぞれ学校まで来ていたようです。中にはバスの乗り換えが必要な生徒もいましたが、問題なく登校できそうとのことでした。ただし、週末と平日はダイヤが異なるので注意が必要でした。

～3日目～

本日よりGlobal Villageでの授業が開始されました。普段よりも渋滞していたようで到着が遅れた生徒が何人かいましたが、連絡を取り合いながら全員が無事にたどり着くことが出来ました。学校ではまず初めにオリエンテーションとして、教室内のルールやハワイでの生活の注意点など、研修で必要なことを確認しました。始めは、生徒たちの表情や雰囲気には緊張感が漂っていましたが、シェイナ先生に気さくに話しかけられると、次第に緊張感も解け笑顔で質問に答える様子が見受けられました。午後はアラモアナショッピングセンターへ行きました。先生にどのようなお店があるのか案内をしてもらい、後は自分達で買い物をしました。お会計もスムーズにこなしており、生徒に積極性があることを確認出来ました。



写真2：オリエンテーション



写真3：注意事項

～ 4日目～

この日の朝は全員が遅刻することなく無事に到着出来ました。授業では、アール大川先生からのレッスンを受けました。アール大川先生が話す内容は、自己紹介の仕方や相手に心を開いていくことの大切さ、自分自身の成長についてなどを学び、“自分”について考える良い機会になったと思います。中には、恥ずかしさから自分自身を相手に見せることが出来ないと感じていた生徒もいたようですが、今回のレッスンを通して、残りの研修期間は積極的に自分を出して欲しいと感じました。また、レッスン中は全員がノートに学んだことを書き留めていたり、先生に英語で質問をしたりしており、自ら学ぼうとする姿勢が見えました。



写真 4：Mr.Okawa 先生の授業

～ 5日目～

本日は、最終日のプレゼン発表に向けて各グループに分かれて準備を行いました。発表内容はハワイと日本における、食・祝日・ファッションの違いについてです。各グループでディスカッションを行い、準備に取り組みました。次の日からも、プレゼンの準備は自分たちで計画的に行っていかななくてはならないと先生に言われました。午後は、学校近くのアラモアナショッピングセンターのフードコートへ行き、昨日のレッスン内容で習ったハワイの伝統料理を頼み、実際に食べてみました。日本にはない見た目や食感を楽しんでいました。午後はダイヤモンドヘッドへ登りました。頂上からの景色は絶景で、生徒たちの疲れを吹き飛ばしていたようでした。



写真 5：ハワイの伝統料理を体験



写真 6：ダイヤモンドヘッド山頂

～ 6日目～

午前中のレッスンでは未来形の続きから始まりました。昨日は遠い未来の表現を学びましたが、本日は近い未来のことを学びました。先生が出す問題に積極的に手を挙げ、英語で答える生徒が多く、授業の雰囲気慣れてきたようでした。他にも、まだ学校の授業では習っていない文法事項を学び、真剣な表情で先生の話聞いていました。その中で、先生が話す内容が分からなかった生徒に教える生徒もいました。自分だけではなく、全員の理解に努めていたと感じました。午後はアーミーミュージアムへ行き、ハワイの戦時から戦後のことを学びました。写真や模型に関心を示す生徒も多く、当時の様子と現在のハワイの様子を比べたり、日本の現状と戦時中の生活のことを考えたりする生徒もいました。



写真7：未来形についての学習風景



写真8：ホノルル美術館

～7日目～

本日も午前中は学校で、昨日に習った未来形の復習をしたり、自分達が行きたい国をグループごとに発表したりしました。授業中は楽しそうに過ごしていました。生徒も自ら動けるようになり、英語で先生に質問するなど、積極性が見えました。その後はパソコンを使用してプレゼンの準備をしました。海外のパソコンを使用することが初めての生徒が多かったですが、上手く使えている様子でした。午後はフラダンスレッスンを行いました。一時間ほど踊れるようになり、難しさと楽しさを実感したようでした。



写真9：世界旅行のプランを考える



写真10：フラダンス



写真11：フラの先生と集合写真

～8日目・9日目～

ハワイでの最後の週末となりましたが、それぞれ有意義に過ごせたようです。ホストファミリーにショッピングに連れて行ってもらったり、バーベキューをしたりと、楽しい週末になったと聞きました。また、生徒の中にはホストファミリーの子供の面倒をみたり、家事の手伝いをした生徒もいました。

～ 10日目～

午前中のレッスンの前に、何人かの生徒に土日の様子を先生から聞かれ、それぞれ答えていました。やはり1週間も経つと英語で話すことに慣れたのか、自分の知っている単語や文法でそれぞれ答えられていました。

本日のレッスンのメインテーマは「人の見た目の表現」についてでした。1人がプリントの中の48通りの見た目のイラストから1人を選び、それを英語で説明したものを当てるというものでした。英語で髭や髪形の言い方の違いが多いことや、表情の表現を学びました。慣れてくると特徴があるものから説明をしたり、ヒントの出し方を変えるなど、それぞれが工夫するようになっていました。

午後はワイキキ水族館に出かけました。熱帯のため色鮮やかな魚が多くいましたが、引率の先生に食べると美味しい魚も紹介されていました。それからは、どんな料理に使われるのか、味はどういったものかを質問していました。その後はワイキキビーチで体を動かしました。天気もよかったため人も多くいましたが、最後の1週間ということでみんな海で遊び、ハワイを満喫しているようでした。また、3班だけは祝日だったためパールハーバーに行き、戦艦ミズーリを見に行きました。そこでは真珠湾戦争のときの資料も数多く残されており、戦争の悲惨さを繰り返してはいけないという想いをもったようです。



写真 12：人の見た目の表現



写真 13：戦艦ミズーリ

～ 11日目～

ウォーミングアップとして、昨日習った「人の見た目に関する単語」を英語で他人に説明し、その単語を当ててもらおうというゲームをしました。説明をするときに身振り手振りを用いて身体全体で表現をしたりしていました。

その後は明日のファイナルプレゼンテーションの準備をしました。まず、4つのグループに分かれ、ハワイと日本の違いを4つのテーマに分かれて再度話し合いました。その時、何の写真を使うか、それを誰が何を調べるかを決め、パソコンを使いそれぞれが別々に作業をしました。パソコンの使い方や写真の保存の仕方先生から英語で説明されましたが、その内容を理解することが出来ていたと思います。写真の印刷が終わると、後は説明するための文章を考えました。今までの授業で「説明をする」という機会が多くあったため、文章は考えやすかったようです。しかし、まだまだ不完全な表現や文章も多いため、先生からチェックを受け、より正しい文章を作っていました。また、プレゼンの準備を通して改めて日本のことも学んでいたようです。この準備を通して日本とハワイの違いや共通点を話し合ったり議論し合うことで、よりよい発表を作り上げることが出来ていると思います。

午後はホノルル動物園に行きました。天気も良く少し暑かったのですが、みんな元気に回りました。平日でも人が多いと聞いていましたが、本日は人がほとんどおらず、自由に見て回れました。熱帯の動物のほかに、日本のオオサンショウウオも展示されており、日本を身近に感じることができました。また、クジャクなど温厚な鳥類はそのまま放されており、戸惑いながらも写真を撮ったりしていました。中には絶滅危惧種もあり、動物と人との付き合い方も学べたと思います。



写真 14：プレゼンの準備



写真 15：ホノルル動物園

～ 12日目～

グローバルビレッジでの最後の授業日になりました。始めの1時間はこの後のファイナルプレゼンテーションの準備を行いました。それぞれ使う資料の確認をしたり、原稿をチェックしたりするなど、学んだことを100%発揮しようとする気持ちが現れていました。

10時ぐらいから、それぞれ4つのグループによるプレゼンが開始しました。客席には学校の先生方が多数みに来られ、生徒は緊張したようでした。プレゼンが終わると、先生から英語で質問をされましたが、みなしっかりと英語で答えられており、この2週間で学んだことが確実に力になっていると確信できました。最後のグループが終わると先生方から拍手とすばらしい発表だったというコメントも頂けました。この成功した経験が自信につながったと思います。

午後は最後のアクティビティということで、アラモアナビーチパークで遊んだりショッピングをしたりと、それぞれ最後のハワイを満喫していました。



写真 16：第1班集合写真



写真 17：第2班集合写真



写真 18：第3班集合写真

～帰国日～

朝早くにダニエル・K・イノウエ国際空港に集合し、10時ぐらいの便で日本に飛び立ちました。空港でホストファミリーと別れるときにはお互いに言葉を交わし、写真を撮ったりプレゼントをしたりと思いの別れをしていました。日本には16時ごろに到着し、21時過ぎには多賀城校舎に着き、解散しました。

今回のハワイ研修を通して語学力の向上はもちろんのこと、英語をコミュニケーションのツールとして実践しながら現地の英語を肌で学び取ることができました。2週間という短い期間ではありましたが、ホームステイを通して保護者の方の有難さを実感した生徒もいましたし、他人と協力することの大切さも学んできたと感じます。普段の旅行ではなく、研修として訪問することの意義を確認できたと思います。

今回の研修にあたり、保護者の皆様をはじめ、諸先生方や用務員の方々の多大なるご協力があったからこそ、この研修がより充実したものになりました。今回のハワイ研修で学んだことを今後の人生に生かし、グローバルシチズンになるために努力を積み重ねて欲しいと思います。本当にありがとうございました。



写真 19：ハワイ研修の思い出

(7) 仙台育英孔子課堂 = 第2回北京語学研修 =

仙台育英孔子課堂長 鈴木 茂幸

仙台育英孔子課堂の活動も3年目を迎えました。これまで手探り状態ではありますが様々な行事、交流を行ってきました。各方面のご支援・ご協力のもと、メイン行事である提携校の北京航空実験学校との相互訪問が、更に大きな実りとなって生徒たちに還元されています。

これからも、高校らしい孔子課堂活動を目指し、今後とも、両校生徒たちにとって成果のあがる活動、両国の言語・文化理解の促進及び交流・友好の発展とグローバルな人材育成を目指し、活動してまいります。

2回目となった北京語学研修についてご報告致します。

仙台育英孔子課堂北京語学研修 平成30年3月11日(日)～3月18日(日)

交換交流事業の一環として、年度末に本校中国語選択者が中国語研修のため北航実験学校を訪れました。今回は特進コースで中国語を学ぶ7名を加え19名が参加しました。中国語だけでなく、様々な研修を企画していたきいろいろな意味で中国という国を実感することが出来ました。以下研修内容と生徒の感想です。

北京語学研修日程(3/11-3/18)

授業時間	コマ	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	昼休み	6時間	7時間	8時間	備考	
	時間	8:00 - 8:40	8:50 - 9:30	9:30 - 10:40	10:50 - 11:30	11:40 - 12:20	12:20 - 13:40	13:40 - 14:20	14:30 - 15:10	15:20 - 16:00		
1	3/11 (日)						②【移動】仙台→北京(CA156 13:30-21:35) 北航実験学校が迎え、到着後チェックイン(飛行機の中で食事)					
2	3/12 (一)	8:00-10:30 北航校舎見学			10:50-12:20 中国語授業(杜決決)		14:00～ 頤和園観光					
3	3/13 (二)	8:00-9:30 中国語授業(穆聰)		9:30-16:00 天安門・故宮見学						16:00-19:30 飲食文化体験(鍋料理)		
4	3/14 (三)	8:00-9:30 中国語授業(沈穎)		休息	10:50-12:20 中国美術授業体験(冯爽、高原)		昼休み	13:40-15:10 航空模擬授業体験		15:20-16:00 卓球授業体験	16:10-19:10 伝統的な街見学	
5	3/15 (四)	8:00-17:00 万里の長城見学										
6	3/16 (五)	8:00-9:30 中国語授業(姚孟洪)			9:30-15:00 北京動物園見学(パンダがいる)					15:20-16:00 武術授業体験		19:00-20:30 オリンピック建物見学予定(鳥の巣、水立方夜景)
7	3/17 (土)	8:00-17:00 <キャンプ> 現地の高校生と交流										
8	3/18 (日)	9:00-13:40～ 【移動】北京→成田→(新幹線で)仙台										



2G2 佐藤詩菜

今回の研修で、北京研修二回目の機会をいただいた。前回よりも中国の土地、人柄、食、伝統文化を知り、好きになった。事前に下調べをしたが、北京の観光地の見学ではガイドさんがついたことでより詳しいバックグ

ラウンドを知ることができ、インターネットや本の情報よりも質の良い学びを得た。実験学校の学生との交流では、10人ほどの生徒と仲良くなり、中国語や英語でコミュニケーションをとった。北京のことや中国全土のことについて、私たちが質問すると優しく答えてくれた。12歳で毎日勉強に真剣に励む姿には日々刺激される。北航大学の日本人学生の方々と話す機会があったのは貴重な時間だった。また、滞在場所が大学内だったため空き時間や朝、夜には校内をじっくり見ることができた。ある時は大学生の実験を、ある時は様々な世代の人たちが生活をしている様子を、キャンパスや校舎に近づいて見たり、貴重な体験ができた。

こういった経験により私自身ますます北航大学に入学したい気持ちが高まった。留学生の中国語の授業も受けさせていただき、どの生徒の人達も真剣に中国語のレベルを上げようと授業を受けていることがわかった。先生の話もテンポよく内容の濃い授業が行われていることを知った。これからは、これまで以上に北航大学に入れるようIBの課題や論文に取り組むとともに、日常会話からアカデミックな内容までの中国語の勉強に努めたいと思う。最後に、今回北京研修を最高に素敵なものにサポートいただいた北航大学、実験学校の先生方、生徒の方々、本当にありがとうございました。



1G2 津田京香

昨年の4月から第二外国語として約一年間中国語を学んできました。世界で最も人口が多く今や世界の中心である中国について学ぶことは私にとってすごく興味深いことでした。普通の授業に加え、孔子課堂のイベントも多くたくさん中国に触れた一年間だったと思います。

そんな中での今回の研修は私にとってさらに大きなイベントとなりました。一週間のスケジュールは北京航空航天大学実験学校での授業や生徒達との交流会、北京観光などぎっしりと詰まった1週間でした。授業では、中国語、伝統文化、武術の授業などがありました。中国の詩である漢文の授業では、正しい発音やその意味を詳しく教えて頂き、漢文本来の趣を感じる事ができました。また、武術の授業では、カンフーに初めて挑戦しました。自分のイメージしていたカンフーとは違い、体全身を使ったり、剣を突き刺したりする動作は初めての体験でした。

観光の中で一番の思い出は、万里の長城です。長さが約21196180メートルあり、すごく気が遠くなりましたが、頂上へ辿り着くまで仲間と頑張りました。頂上の景色はとても空気が澄んでいて自然の美しさに感動すると共に、達成感を味わいました。とても楽しかったです。自分が今まで思っていた中国とは違い新たな発見が多く、中国へのイメージがガラリと変わりました。今年度からは中国語を勉強する機会が少なくなりますが、留学生や学校のイベントなどで中国との関わりを増やせたらいいなと思います。皆さんも是非来年中国へと足をお運びください。



1T6 桜井 秀太

バスから降りた瞬間、想像を超える急斜面にとっても驚いた。初めて来た万里の長城は、想像していた永遠に続く坂道というイメージとは異なり、実際は永遠に続く階段だった。

段の高さはそれぞれ異なり、とても登りにくく躓くことも少なくなかった。所々休憩の出来る場所があったが、それでもかなり苦しかった。道には色々な文字で様々な言葉が彫られていた。日本語も見つけることが出来た。序盤は色々なことを考えながら登っていたが、後半は何も考えずに黙々と一人で登った。まさに、自分との闘いだった。人生で間違いなく一番肉体的に辛かった。

私たちは第12要塞まで登った。そこからの景色はとても美しく綺麗で達成感を感じさせた。自分もやればできるなど感じた。先輩方や友人、外国人とたくさんの写真を撮った。そこは北京市内の霧のような空気の白さはなく、澄んだ空気が彩り豊かな景色を映えさせた。久しぶりに深い深呼吸をした。

先人たちの知恵、皇帝の力、多くの犠牲。それらが作り出した万里の長城は実に神秘的だった。十年後に再び訪れたい。



1G1 阿部 風沙

北京に行って初めて知ることが多々ありました。お店のチャイナ服や布などは、機械ではなく大半が手縫いで作られていました。細かいところまで丁寧で中国の技術はすごいと思いました。

今回の研修旅行では、万里の長城に登るのを楽しみにしてました。しかし実際に登ってみると、階段の高さが揃っていない上に急な所があり、登り始めて数分で疲れしました。私たちはリックしか持っていないのに、昔の人は多くの品物を持って登っていたことが、どれだけ大変なことだったかがよく理解出来ました。そして、あれ程高く長い万里の長城を、人の手で作ったのは本当にすごいことだと改めて思いました。

これらのことは、実際に行ったからこそ実感できたので参加して本当によかったです。ほかにもいろいろと研修し、様々な面から中国について学ぶことが出来、とても充実した一週間でした。

(8) 平成30年度の職員研修について

フレックスコース 雫石 利光

平成30年度は、全職員を対象として下記の研修会が開催されました。以下に報告いたします。
なお、会に先立ち、飯盛山にある本学園創立者加藤利吉先生の顕彰碑を参拝いたしました。



仙台育英学園創立者ご生誕136周年記念職員研修会 「戌申の役150周年記念 遠藤敬止翁の偉業を語る」

1. 日時 平成30年12月3日（月）11:30～12:20
2. 場所 会津若松ワシントンホテル
3. 講師 遠藤敬止顕彰会 会長 新城猪之吉 先生
4. 次第
 1. 開会



2. 開会のあいさつ並びに講師紹介

学校法人仙台育英学園理事長 加藤雄彦

本日は、ご多忙のところ先生方にご参加いただき感謝申し上げます。今日講演をお願いした新城先生は、まずここ会津の地で大変おいしいお酒を造っている酒蔵の社長さんであります。

さて、新城先生は、私の慶應義塾の先輩であります。はじめてお目にかかったのはここワシントンホテルでした。その後も折に触れてお会いする機会があり、最近になりまして今日の演題である遠藤敬止翁の偉業についても話を伺う機会がありました。

今年は、戊辰150年という節目の年であります。西日本に行きますと、明治維新150年という言葉が耳に入りますが、ここ北日本では明治維新150年という言葉ではなく、戊辰150年という言葉が耳にする機会が多くあると思います。

ここに紹介する遠藤敬止翁については、七十七銀行の頭取としての活躍や仙台商工会議所会頭としての業績

など、私たち宮城県民にとってもなじみ深いものがありますが、改めてここ会津の地と宮城との深いつながりを知っていただき、本学園の創立にもつながっている事情について、先生方にご理解いただくことも意義があると考えました。

講師の紹介ですが、手元の資料にもあります通り、会津高校出身で慶応義塾大学法学部に入学、1974年に卒業後は協和発酵に入社し、代表取締役まで登られました。その後、地元の酒造会社である末廣酒造に入社され、大いなる実績を立て、会社の躍進に大いに貢献された方です。またお手元の資料にもある通り、酒造関係の理事長、教育や地域の観光・振興にも深くかかわるなど、大変お忙しいお立場でありながら、会津若松の観光資源である鶴ヶ城の復興に尽力された遠藤敬止翁の顕彰会の会長もされていらっしゃいます。とりわけ、私にとっては、新城先生が会津若松市の教育委員長のお立場のときに学校として大変お世話になったことから、親しみを感じております。ここ会津で作られている酒については、全国からも高い評価を得るようになりましたが、そこに至るまでに新城先生が果たされた役割は大きなものであったと伺っております。その後、東日本大震災での風評被害などご苦勞もあつたとお聞きしておりますが、現在は全く何の問題もなく酒造りができているとのことでした。

今日の講演では、新城先生の様々な思いが詰まった内容の講演になるものと期待しております。

大変簡単な紹介ですが、これをもって講師紹介を終わりとさせていただきます。

3. 講演

遠藤敬止顕彰会 会長 新城猪之吉 先生



只今ご紹介いただきました、末廣酒造の7代目になります新城猪之吉でございます。よろしくお願いたします。この、7代目とはどういうことかといいますと、父親が死ぬと戸籍を変えて名前を引き継ぐということです。そして、名前を引き継ぐということは、6代目と比較されるということになります。先達も、このように比較され続けてきたのだらうと感じているところです。

さて、私が高校時代、日本史という教科はありましたが、会津の歴史を意識したのは、この会津の地に帰ってからですが、その前、浪人時代に一つの出来事がありました。立命館大学にいた友人に誘われ京都を訪れたときです。金がないので夜行列車で向かい、宿は立命館の寮に潜り込むという旅行でした。その時、友人に誘われ出向いたのが、会津藩主が祭られていたお寺であり、そこには京都でなくなった会津藩士のお墓がありました。なぜ、このような会津にゆかりの深い場所があることを知らされていないのかわかりませんでした。高校の修学旅行では、京都には来たものの、見学したのは清水寺などの（普通の高校が見学する定番スポットである）有名観光地や南紀白浜、当時は新婚旅行のメッカと呼ばれている場所でした。なぜ会津高校の修学旅行はこんな場所を見学させているのか、大変疑問を感じたことがきっかけでした。

会津に戻ったとき、母校を訪問し、校長先生、私が在学時に古典の先生だった方、に話したところ、その校長先生の賛同を得て、行く先を変更し、生徒は修学旅行で全員会津ゆかりのお寺に行くことになりました。それが、故郷の歴史を見直すきっかけでした。その後、教育委員会の理解を得て、修学旅行の行き先として定着することになりました。

その後も、自分の故郷について多くのことを学び、歴史とその重みについて考えるようになったわけです。私がいま経営に携わっている酒蔵は、創立168年ほど、戊申の役から18年前、ペリーが浦賀に来航する3年前の創業です。今考えても、よく創業できたなと感じるのですが、幕末から明治期を乗り越えるには相当厳しい場面があったと思います。創立した人物は酒屋の次男坊で、独立して酒屋を始めたそうです。古い日記を調べてみると、戊辰戦争のとき、どんなことがあったのか、つまり酒蔵を維持したかの記録によると、城にこもっている会津藩士と街中をうろろろしている西軍の軍隊が、酒を取り合っただけでチャンバラをしていたとあります。ご存知のように、戊申の役では近代的な鉄砲などを持っていた西軍が勝利しますが、刀だけの勝負であったらどうなっていたか、興味深いところです。

さて、会津鶴ヶ城は、豊臣秀吉の武将であった蒲生氏郷が東北のかなめであるこの会津の地に作りました。彼が仙台と浅からぬ縁を持っていたことで、仙台藩と会津藩のきずなが生まれることになります。

歴史をさかのぼると、会津地方は、日本書記の時代から、大きな役割を果たしてきたことが分かっています。その縁もあってか、秀吉から命を受けた蒲生氏郷が、この地にあった黒川城を作り替え、鶴ヶ城としたわけです。また、自身の生地、信濃若松にあやかり、会津若松と呼ぶようにしたとされています。

何年前か、戊申の役ゆかりの奥羽列藩同盟の藩主の子孫が集まったとき、伊達家の方は、「蒲生氏郷」の名前の付いた酒には手を出さなかった記憶があります。私どもの酒蔵で作っている酒に、会津藩の建て直しに功のあった家老の名前を取った「玄宰」がありますが、それを用意すればよかったと反省した次第です。その当時の勢力図を考えると、伊達政宗が会津を領土として収めた後、全国を支配した秀吉の意向で伊達家は会津を手離す羽目になり、大いに氏郷を恨んだようです。その怨恨は根深いものがあるようです。

ここで少しそれますが、わが新城家の歴史も伊達家に関係があります。

二本松藩の畠山義嗣という殿様のころです。畠山家の近隣で親族である大内一族が、畠山家とはなく、仙台伊達藩と縁戚関係を結びました。これに怒った畠山の殿様は大内一族と激しく対立し、大内家は、これを避けるため、会津にあった芦名家に庇護を求め、逃げたそうです。そのとき、畠山家につかえていたのが新城家です。この争いの際、畠山家を支えた功により、新しい城をいただいたことから新城家の名前が知られるようになったようです。その後、大内一族の所領を納めていた伊達家との確執があり、新城一族は二本松から会津に逃げてきました。結局、この紛争がなければ、今の末廣酒造もなかったわけです。このような縁で、私どもと仙台の関わりができました。

さて、「歴史をさかのぼって」この会津の地について説明していきたいと思います。

まず、記紀より前、古墳時代までさかのぼると、白虎隊で有名な飯盛山には、大塚山古墳というものがあり、そこから鏡が見つかっています。これは、大和朝廷からの贈り物と言われ、大和朝廷と同盟を結び、外国（敵対勢力…大陸にいた部族）と対立していたようです。残念ながら、ここ会津の長（統治者）の名前は不明です。

日本書記によれば、崇神天皇の御代に、天皇の命で2人の皇子が日本全国を巡邏していますが、その二人が出会った場所ということで、会津（会った場所）と名づけられたとあります。このころから、交通の要衝とされていたということでしょうか。

戦国時代、守護大名として来ていたのが芦名家で、それを破って領地を得たのが伊達政宗になります。後は、時代時代に全国統治したところから派遣されてきたものがこの地を治めました。

さて、会津の歴史を語るには、保科正之の名前が外せません。ご存知の通り、徳川二代将軍である徳川秀忠と、大奥の女中であったお静の方の間にできたのが、保科正之です。彼は、幼少のころ秀忠の奥方から疎んぜられて、信州高遠藩に預けられます。その後、奥州会津藩の藩主としてこの地にきましたが、成長してからは、4代将軍家綱の後見役として、すなわち江戸幕府の幕閣として力をふるいました。残念ながら、会津藩にいた時間は長くはないといわれておりますが、高名な会津家訓（かきんと読みます）を作り、名君と呼ばれております。家訓には、江戸幕府・将軍への絶対の忠誠と文武両道を極めさせる子弟教育など、現代まで脈々と受け継がれている会津の教えがあります。すなわち、そのことが、のちに戊申の役の悲劇にもつながっていくわけです。

江戸幕府における保科正之の業績として著名なエピソードに、江戸大火（振袖大火）の話があります。この大火では、江戸城も消失し、その復旧には莫大な経費が掛かるものとされていましたが、保科正之の英断で、江戸城天守閣を再建しないこととしました。また、火災に瀕した米蔵を開放してコメの焼失を防ぐなど、機転の利く判断がなされたことが、記録として残っています。

一方、家訓については、現代にはそぐわないような一文もあります。例を挙げると、「婦女子の言うことは聞くな」なる文面がありますが、これは、正之の妻妾の争い、後継者のことが原因と言われております。その時代を表すエピソードといえるかと思えます。

さて、会津藩5代目の藩主（方信公）のとき、天明の大飢饉が起こります。これにより、会津藩は藩政改革に乗り出します。当時の家老である田中玄宰が作ったのが、十の掟です。ここから出たものとして「ならぬことはならぬ」や、「(街中で) 婦女子と口をきくな」などが有名でしょうか。

私が、会津高校のPTA会長のとき、私の中学校の恩師が時の教育長でした。時の市長の指示で、教育長から、「現代版十の教え（掟ではなじまないの）」を作るように指示されました。しかし、もともとの会津の教えはすべて「否定文…なりませぬ」です。それでは今の子供たちにそぐわないのではということで、作ったのが「会津っ子宣言」です。私の思いとしては、大人にこそ、この宣言を実践してほしいとの思いがありました。会津にも、市民憲章なるものはありますが、一般に浸透していかないのが現実でした。それではということで、義務教育から身に付けさせるべく作られたのが「会津っ子宣言」というになります。この宣言では、男女差別の解消、言い換えると女性蔑視の解消も課題でしたが、昔風の言い回しでは、どうにも座りが悪く苦労しました。

話題を戻しますと、天明の飢饉のとき、家老である田中玄宰は、自然に支配される農業で得られるものだけでは、安定した藩政にはならないと考えました。その反省から、商品経済、特産品の育成に手をつけます。酒

の製造もその一つです。一説には、製造された酒の生み出す価値は2000石になったとも言われています。会津漆器も有名です。他にも、朝鮮ニンジンの栽培なども実施されました。現代でも、長野と会津がその産地で、会津の朝鮮ニンジンは質的に高い評価をえています。これらと併せて取り組まれたのが、人材育成でした。日本で最初のプールや、天文台を作り、教育に力を注いだ「日新館」の開校でした。この、日新館での教育の下支えとして浸透していったのが、上記の「十のおきて」であり、それは、子供を養育する側（武士の奥方）の女性にも理解され、伝統として引き継がれてきたものでした。

この日新館は、次の世代の教育に大きな役割を果たしましたが、同時に、硬直化という弊害も生み出しました。すなわち、指導する側・管理する側に回った年長者たちの見方考え方が、激動の時代には機能しない一面が出始めたのです。

そのあたりの事情を示す著名な人物の例として、秋月梯次郎が挙げられます。日新館で頭角を表した彼は、日新館から昌平黌へ進み、薩長とのパイプ役として大きな役割を果たしながら、当時の上司である家老から疎まれ、蝦夷に配置されます。有体に言えば左遷でしょうか。その後の会津藩は、薩長とのパイプがなくなり、家訓である「江戸幕府への絶対的な忠誠」の中で、薩長との対立の流れに飲み込まれていきます。戊申の役の背景にはこんな事情もありました。

あるいは、NHKドラマの「八重の桜」で有名な女性、山本八重のエピソードですが、その女性の兄（山本覚馬）が、新式の鉄砲の購入を藩に働きかけたとき、上司から一刀両断で却下されたとの逸話があります。戦国時代に鉄砲が導入され、戦争におけるその存在価値はゆるぎないものであったにもかかわらず、刀へ固執するあたり、一言でいえば、頭の切り替えということですが、これは現代にも通じる教訓といえるかと思えます。



さて、ここでいよいよ遠藤敬止翁の話題になります。

明治維新以降、日新館で学んだ優秀な人材が、活躍の場を求めて全国に、あるいは海外に飛躍していきます。政財界の重要なポストは薩長の人脈で抑えられているのが現実でした。そのため、と言っているのでしょうか、私立大学の創始者が典型ですが、教育界には薩長以外から多くの人材が輩出しました。中には、山川健次郎のように、東大総長として辣腕を振るう人物もおります。しかし、今日取り上げる遠藤敬止のように、経済界で顕著な実績を残す人物もおります。

遠藤敬止は、日新館で勉学を積み、その後鳥羽伏見の戦いに参加、江戸幕府のために幽閉の憂き目を見ますが、その後、20歳の時に中学校の教員として働いたのち、福沢諭吉に師事し、早稲田大学で経済学を学び、銀行立憲論を書き上げました。その力量が認められ、仙台の七十七銀行の設立に尽力し、その後、仙台商工会議所の初代会頭になり、経済界の重鎮として大きな役割を果たしました。なお、京都商工会議所の初代会頭は山本覚馬です。

その後、会津鶴ヶ城の復興の話題に関与します。時の明治政府は、鶴ヶ城を競売にかけます。入札できるのは（元）藩主に限ること、城を購入することが条件であることとしました。しかし、時の藩主一族にその財力はなく、それを陰から支えたのが遠藤敬止翁だったということです。

遠藤敬止翁は、一金2,500円を藩主に提供し、藩主が鶴ヶ城を落札することができました。その後、藩主から会津若松市に寄贈され、現在に至るわけです。しかしながら、この経緯については一般にはあまり知らされず、戦後になって、地元の歴史家から私の父親に伝えられ、その後広まっていきました。そんな事情もあり、昭和45年に遠藤敬止翁の顕彰会が設立され、私の父が初代会長になりました。私は第3代の会長になって現在に至ります。

現在、鶴ヶ城は、市の所有物ですが、管理は会津若松観光ビューロー（昔の観光物産協会）が担当しています。将来的には、そこに本顕彰会も統合される見込みです。歴史的な経緯からすれば、この鶴ヶ城の所有・管理の代表は会津若松市長であるべきですが、まだそうはなっておりません。

この理由として、松平容保公の史跡で当時の町民が殿様に寄贈したものがあり、これも市で管理すべきとの意見が出されていることが背景にあるようです。市は二の足を踏んだ状態です。早期の解決が望めます。

さて、今から数年前に、遠藤敬止翁の業績を記念して、仙台で講演会を実施しました。その際には、加藤理事長先生にもご出席いただきました。

日新館の出身者は、全国に飛び出し、多くの業界で活躍しています。身近な例では、大阪でよく知られたたこ焼きも、会津の人たちの知恵が契機となっています。他にも、大阪で活躍した池上史郎、大阪市長でした。いまも銅像がありますが、そのひ孫が川島紀子さまです。

他にも、紹介したい人物はまだまだおりますが、これからも仙台との絆を深めながら、新しい時代に向けた活動を進めていきます。よく言われることですが、現在があるのは歴史の積み重ねであると。ありがとうございました。

4. 花束の贈呈・お礼の言葉 本校理事長校長より



お礼の言葉ということですが、遠藤敬止翁の業績と、会津の歴史についてご講演いただき、心より感謝申し上げます。これからもお元気で活躍いただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

文責 フレックス・技能開発 副参与 雫石利光

Ⅲ その他

広域通信制課程 「ILC青森校の状況と社会人養成講座」について

ILC青森 所長 三笠 勝彦

1. はじめに

「学校に来づらい子でも安心して通って来ることができて、その生徒なりの努力によって高校卒業の資格を得られる学校」。このような学校づくりを目指して、ILC 青森が平成14年4月に八戸学院大学内に開校されました。今年度で開校17年目を迎えました。また、湊高台校舎は新築されて3年目を迎えました。教職員は、常勤4名、非常勤7名の計11名体制で教育活動に取り組んでいます。これまで、校舎に「祝ILC 青森校竣工」と横断幕が掲げてありましたが、3年目を迎え「2002年ILC 青森開校仙台育英学園高等学校広域通信制課程」と横断幕を変更し、開校年度と通信制課程をはっきりと明記したことで仙台育英学園高等学校としてよりわかりやすくなった。



湊高台校舎でのスクーリングは、火曜日から土曜日の午前・午後それぞれ1～2教科を実施しています。また、八戸学習センターでは、金曜日と土曜日に湊高台校舎と同様に実施し、学習する環境が整備されたことで、中学校から直接入学してくる生徒生徒が増加し、少しずつではありますが、八戸に仙台育英学園高等学校広域通信制課程ILC 青森校が存在していることが市民にも名が知れてきました。

これまでに平成30年度前期卒業生を含め699名がILC 青森を卒業し、4年大学や短期大学そして各種専門学校への進学、また、八戸市内をはじめ青森県内外で就職し活躍しています。



湊高台校舎での学習の様子



学習センターでの学習の様子

2. 在学している生徒の現状

現在180名が在籍しており、八戸市をはじめ近隣の三戸郡・上北郡（三沢市・十和田市）・下北郡・青森市・岩手県北から通学しています。以下に示す表は出身中学校別の所在地入学生徒の形態、及び、本校入学の動機や学んでみたことへの感想等を掲載しています。

(1) 生徒数（出身中学校所在地別）（平成31年1月1日現在）

	八戸市 (24校)	三戸郡 (10校)	十和田市 (6校)	三沢市 (4校)	上北郡 (8校)	むつ市 (2校)	東郡 (2校)	岩手等 (8校)	合 計 (64校)
男	36	10	4	13	3	1	0	6	73
女	65	13	5	5	12	2	1	5	107
計	99	23	9	17	15	3	1	11	180
%	(56.1)	(12.7)	(5.0)	(9.4)	(8.3)	(1.6)	(0.5)	(6.1)	

(2) 入学の形態及び前籍校

入学別	人数	前 籍 校		
		市内県立	市外県立	私立
新入生	50			
転入生	78	19	20	39
編入生	52	17	5	30
計	180	36	25	69



(3) 本校入学の主な動機（作文、面接に見られる傾向）

- 進学した高校になじめないため、転校して高校卒業資格を取得したい。
- 高校を中途退学して現実の厳しさを味わった。高校卒業資格は絶対必要と痛感した。
- 病気や不登校の経験があり、週5日の登校には自信がない。
- 働きながら自分のペースで学び、高校卒業の資格を取得したい。
- 社会に出て経験を重ねるうちに、新たな目標のために勉強し直したい。

(4) ILC青森に入学してよかったと思うこと（生徒の声）

- ・先生方のサポートが手厚く、ていねいに教えてくれる。
- ・わからないところは先生から聞き、効率よく勉強ができる。
- ・全日制に行けない人でも、自分で計画を立て、自分のペースで勉強できる。
- ・勉強が嫌いじゃなくなった。
- ・自分のペースで学ぶことができ、仲間と幅広く交流できる。
- ・一日中学校にいなくてもよい。
- ・清潔感があって、勉強に集中しやすい。
- ・堅苦しい雰囲気ではなく、自由にできる。
- ・自分らしいスタイルで生活できる。
- ・細かいことを指図されない。アルバイトもできる。
- ・学校生活はイベントも交えながらなので楽しい。
- ・生徒一人一人が前向きで、先生もそれに親身になってつきあってくれる。
- ・基本的に自由で伸び伸びと出来るともいい環境。
- ・八戸駅前に教室が開設されたことで、時間的にまた交通の利便性から通学しやすくなりました。
- ・個別ブースが設置され、周りを気にすることなく学習に集中できる。

以上のことから、

- ①中学校から直接入学してくる生徒が増加している。
- ②全日制に進学したがその場の環境になじめない、また人間関係の悩みなどから本校へ転入する生徒が増えてきている。
- ③高校卒業資格を取得するために学び直しを考えて編入する生徒が増えている。

3. ILC 青森の特筆すべき学校行事「社会人養成講座」

社会人養成講座は、普段学んでいる校舎を離れて、八戸市の中心街にある公共施設「はっち」で、公開講座の形で平成26年度から開始されました。講演者は地域経済の活性化を目指す地元の経営者や地元出身の著名な方々から講話していただきます。対象は、ILC青森に在籍する生徒、保護者、一般市民の方々を交えながら、生徒たちが社会人となるための心構えを学ぶ機会としています。これまでに、八戸学院大学の長谷川真樹学長、八戸学院大学短期大学部の外崎充子学長や社会人としての基本的な挨拶やマナーについてマナー・プロトコール1級の高畑紀子さん、ロンドンオリンピック女子レスリング競技で金メダルを獲得した小原日登美さんや南部弁に詳しい梶谷伸夫さんやアドバルーンという漫才師やえんぶり組など多才な方々からお話しを頂いてきました。

I 「北日本造船株式会社豊洲工場見学」

今年度は、これまでとは少し形式を変えて、八戸市の基幹産業として地域社会の活性化と発展に大きく貢献している企業の一つでもあります、北日本造船株式会社豊洲工場見学を企画いたしました。工場内を実際に歩き、各ブースごとに鉄板を溶接・製造している所や竣工したばかりのケミカルタンカー船に乗船して、操舵室や機械室や甲板など船内を見学させて頂きました。今回、初めての試みではありましたが、生徒・保護者・教員合わせて54名が参加し、造船業のスケールの大きさに唯々驚きと感動がありました。また、船舶の製造や修理に携わる方々からお話を伺い、生徒たちは仕事に対する職員の真剣さと責任感そしてそれに携わる誇りを強く感じました。

期 日 平成30年5月31日

会 場 北日本造船株式会社

時 間 午前10時から11時30分

参加者 生徒(32)・保護者(6)・教職員(5)43名

[生徒の感想文から]

○造船工場を見学するのは初めてでした。一番驚いたことは、従業員の多さと外国の方々が日本人と一緒に働いていたことです。各部品の製造作業に真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。八戸に2カ所、岩手県久慈に1カ所工場があり、各工場で分担しながら船を製造していること知りました。ケミカルタンカーの船内は、食堂や、休憩、寝室等設備がしっかりしていて日常生活と変わらず安心できると思いました。製造に関わる方々は、こんなにも重労働しながら部品一つ一つを真剣にそして大切に製造していることが分かりよかったです。私は、今後社会人として生活していく上で、甘い気持ちを持たず、世の中のために役立つ人間として生きていきたいと感じました。(N・S)

○はじめに説明と映像を見ました。見学した会社はとて大きく、外国からも頼りにされ、世界でも通用する技術は八戸の誇りでないかと思いました。また、自分の地元の久慈にも工場がある事を知り感動しました。部品製造の過程では、コンピュータを活用し精密に裁断・溶接等していることも驚きでした。化学物質を運ぶとても大きなケミカルタンカーに乗船した時は、海に浮かんでいるのが不思議なくらいになりました。作業している人たちがうまく連携して進めることや真剣に取り組んでいる姿を見て、その大切さや自分自身の普段の学習生活を再確認しました。この事を通して、自分自身の将来に向けての強い気持ちを持ちながら様々な経験を積んでいきたいと思います。(T・R)

○始めにケミカルタンカーの製造過程を見学し、金属部品を高温の機械で切断し、また曲げたりと一寸の狂いもなく真剣に作業している様子が強く目にとまりました。次に、船内を見学し、船員の居住スペースが十分に確保されていて快適さを感じました。エンジン部分では、巨大なモーターがすごい速さで回転し、船の動力のすごさに驚きました。作業に関わっている人たちの様子を見て、自分たちが日本の海運業の要であるというような自覚と誇りが感じられました。自分も将来に向け自信と誇りを持って取り組める職業を目指すために、専門学校で技量を身につけ、社会人として地域のために尽くせる人間になりたいと強く思いました。(N・M)



タンカーを背景に全体



工場及び船内の見学



II 「薬物乱用防止・健康」について

初めてILC 青森湊高台校舎の講義室で開催いたしました。「薬物」についての言葉はインターネットやテレビ等で放映され知っているが、その現状や詳しい内容については理解されていないのではないかと考え企画いたしました。今回の講座では、生徒や保護者が50名ほど集まって頂き、真剣な表情で講師の小池先生の話に耳を傾けていました。講話の中で講師から生徒への質問そして感想や意見等自分の考えを述べる姿が見られました。

生徒の感想文からも分かるように、生徒自身が今回の講座で「薬物」や「服薬している薬」について再認識することができたのではないかと思います。

期 日 平成30年11月28日

会 場 ILC 青森湊高台校舎

講 師 八戸市学校薬剤師会会長小池智彦氏

時 間 午前10時から11時30分

参加者 生徒(34)・保護者(8)・教職員(5)47名

[生徒の感想文から]

○昔、八戸市では国策として大麻が栽培されていたことに驚きました。現在では八戸市やその周辺でも薬物等で検挙されたという事件発生しています。アロマやお香を装って販売したり、インターネットで簡単に取引ができたり、薬物を手に入れる手段が様々工夫され怖い感じです。薬物は、自分の心身だけでなく、家族や周囲の人たちとの関係も破壊してしまう恐ろしい物であることを認識し、そうした誘惑があろうとも、きっぱり断る強い心を持って行動したいと思いました。(N・Z)



○薬物乱用防止教室では、思っていた以上に「薬物」は怖い物だと知りました。薬物を乱用することで、犯罪以外に脳を破壊したり体への害が生じ、薬物依存症になる。年間200人もの人が命を無駄にしている。誘われた時は、カエル作戦（話題を変える）、その場から離れる、きっぱり断る、大人に相談する事が大事です。困った時は、一人で悩まず周りに相談することも大切です。薬物を近づけないためにも、健康な体と心が第1に必要です。また、乱用により周りの家族や友人の信用も失います。今回学んだことは、人生で絶対忘れてはいけないことだと強く思いました。(R・S)

○今年の夏「登録販売者」の資格を取得しました。今回の講座では、薬物の種類や作用、人体への影響について理解を深めることができました。また、大都市だけでなく全国各地で薬物等により検挙される事件が発生していることも驚きました。薬物に対する法律や取り締まりが厳しくなっているとはいえ、購入する手口も巧妙になり違法薬物の使用がゼロにならないのも現実です。その中で大切なのは自分自身が巻き込まれないように強い気持ちとそのような場に行かないことだと思います。自分ができることはとても小さな事ですが、資格で得た知識と今回学んだことを将来に生かしていきたいと思いました。(M・M)



○薬物をアロマやお香などに装っているのはとても怖いことです。覚醒剤等の薬物は1回使うだけでも、自分の人生を変えてしまう危険な物です。止めたとしても止められなくなってしまうので、絶対に手を出すべきではないし、未成年なのでたばこやお酒もやるべきではないと改めて強く思いました。(H・H)



○今回の社会人養成講座を通して、初めて真剣に薬物乱用に向き合った。間違っただけの情報を安易に信じ込まないためにも、集団で正しい情報を共有し、「薬物乱用」が入り込む隙を無くすることが大切であることを学んだ。また、薬のあり方についても考えるきっかけになりました。そして薬物乱用を世界から無くすことに少しでも貢献できたらと思う。(A・T)

○有機溶剤のボンドや除光液、市販されている薬など自分の身の周りにある物や個人で簡単に入手できる物も使い方によっては薬物乱用になってしまう。そのことで、脳が破壊されたり身体や精神への害が生じることで、健康への悪影響が出るのが分かった。薬物を勧められても断る気持ちの強さ、そのためにの精神を安定させる健康的で規則正しい生活など心と体の健康を守ることが、薬物から自分を遠ざけくれる一番の方法なのだということを学びました。(M・I)

6. 結びに

加藤雄彦理事長・校長先生はじめ仙台育英学園の先生方のおかげで校舎が新築され3年目、そして八戸学習センターが開設されて2年目を迎えている中、生徒の学ぶ場を保障する素晴らしい学習環境の中で、在校生180名の生徒たちが教職員と共に「高校卒業を目指して、思い出づくりをしましょう」をスローガンに掲げ、学習や学校行事に取り組めることに心から感謝申し上げます。

今後も、日々の授業や各種学校行事を通して、個々の学力向上はもちろんのこと、心身ともに成長する生徒の姿に期待しながら、生徒一人ひとりの確かな居場所となるILC 青森を目指していきたい。

平成30年度
 仙台育英学園高等学校ILC青森
 薬物乱用防止教室

「薬物乱用が心身与える影響
 について」

青森県薬物乱用防止指導員
 学校薬剤師 小池智彦

薬物乱用とは

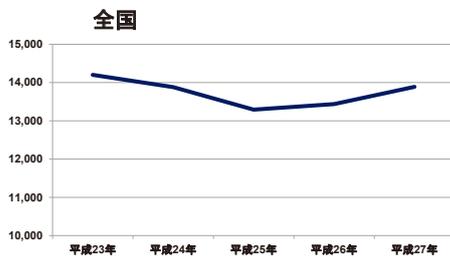
薬物を社会のルールからはずれた方法や目的で使うことです。

**1回使っただけでも
 乱用になります！**

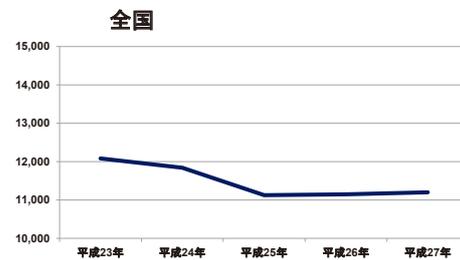


NOドラックン

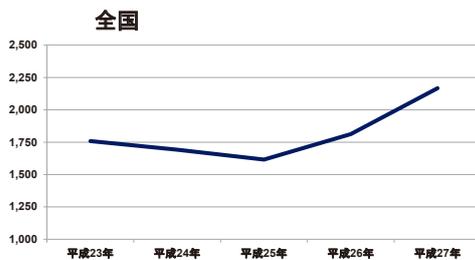
薬物事犯全体の状況



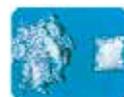
覚醒剤事犯の状況



大麻事犯の状況



乱用薬物の種類



覚せい剤



大麻



幻覚性きのこ



MDMA



有機溶剤



コカイン



あへん系麻薬



危険ドラッグ

興奮作用のある薬物

脳を刺激して興奮させる薬物



覚せい剤



コカイン



MDMA

抑制作用のある薬物

脳を麻痺させ、気分を静めたり
 眠らせたりする薬物



あへん系麻薬



有機溶剤

幻覚作用のある薬物

実際にはないものが見えたり
聞こえたりするなどの異常を
引き起こす薬物



大麻



有機溶剤



幻覚性きのこ

京都府における大麻事

平成
高校生

大麻の所持・譲渡な
どは法律で禁止され
ており、違反すると
罰則が科されます！

平
学生
反

小
法違

大麻の人体への影響



クワ科の一年草で
中央アジア原産の植物

身体的影響

めまい、嘔吐、胎児
への影響など

精神的影響

(大麻精神病)

幻覚・妄想、無動機
症候群、集中力・記
憶力の減退など

大麻はタバコより安全？

● 肺 大麻タバコ1本には、
普通のタバコ20本分の
がん物質！

● 脳 何年たっても残ってしまい、
一生が台無しに！

「危険ドラッグ」について①

- 危険ドラッグとは、麻薬などには指定されていないものの、麻薬などと類似の有害性が疑われている薬物で、人に乱用させることを主な目的として製造され、販売されているもの。
- 犯罪に悪用されたり、乱用による死亡事故を招くこともある危険なもの。
- 「脱法ドラッグ」、「脱法ハーブ」、「違法ドラッグ」・・・色々な呼び名がありますが、同じく危険なもの！呼び名にだまされないで！

13

アロマ・お香などを装って販売されているものに注意！

アロマ？



お香？



「危険ドラッグ」について②

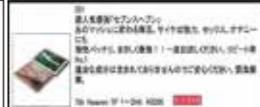
製品例

広告例(1)(医薬品該当性が明らか)

1) 試薬系



2) 植物粉末系



広告例(2)(研究用試薬と偽装)

3) アロマオイル系



4) ビデオクリナー系



15

「危険ドラッグ」について③

- 危険ドラッグを乱用すると、脳や身体に影響を及ぼし、吐き気、頭痛、精神への悪影響や意識障害が起こります。
- 覚せい剤や大麻などと同様、危険な薬物です。



「危険ドラッグ」について④ ～シバガス(亜酸化窒素)～



シバガスのカートリッジ

- 自転車のタイヤ充填用ガス等と称して販売
- 医療用麻酔薬の成分「亜酸化窒素(笑気ガス)」が封入
- 乱用すると窒息による**死亡事故**のおそれ

府条例に基づき府内における乱用を規制！

京都府薬物の濫用の防止
に関する

**2年以下の懲役
又は
100万円以下
の罰金**

違法に医薬品成分を含む健康食品について

身体に対する作用を目的とするもの＝医薬品

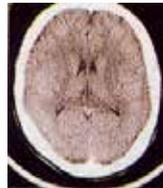
海外製の健康食品を中心に身体に強く作用する成分(医薬品成分)を含む健康食品による健康被害が報告されています！



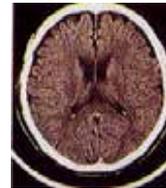
ダイエット効果を広告する海外製の健康食品での死亡例もある！！

薬物乱用の恐ろしさ 1

薬物乱用は脳を破壊する



正常な脳



シンナー乱用者の脳

薬物乱用の恐ろしさ 1

薬物乱用は脳を破壊する



正常な人が書いた円

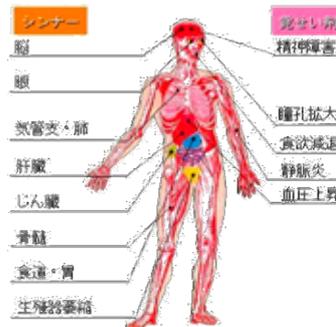


シンナー乱用者が書いた円

覚せい剤乱用者の幻覚



シンナー・覚せい剤の害



- ・精神障害
幻覚・妄想
- ・瞳孔拡大
- ・心拍数増加
- ・食欲減退
- ・血圧上昇
- ・静脈炎
- ・血圧上昇
- ・食欲減退
- ・瞳孔拡大

薬物乱用の恐ろしさ 2

自分の意志ではやめられない

耐性 依存性

薬物の依存性と耐性



《薬物の依存性がいかに強いかわかる？》
→ サルを用いた実験から

【実験の方法】

- ・檻に入れたサル
- ・薬物をサルに静脈注射
- ・サルがレバーを叩くと、自動静注



フラッシュバックが起こる！！



薬物乱用の恐ろしさ 3

薬物乱用は犯罪を起こす



薬物乱用の恐ろしさ 4

薬物乱用は犯罪者の資金源となる！



さそわれないように？

悪魔が薬物を誘うのか？



笑顔の天使の顔をした悪魔の
ささやき



薬物乱用誘いのきっかけ

友達や先輩からの誘惑

携帯電話やインターネットによる誘惑

休日に町に遊びに行くと普段と違って気持ちが開放的になり心にスキができた時に薬物の売人がよってきて優しいセリフで誘われる

後悔の日々

(覚せい剤乱用者の手記)

抜粋:厚生労働省・都道府県作成パンフレット
「薬物の乱用は、あなたとあなたの周りの社会をダメにします！」

覚せい剤再乱用のきっかけ・・・

覚せい剤事件で逮捕されるのは今回で3回目です。私は、昨年の夏に懲役を終え、しばらくは覚せい剤と無縁の生活を送っていました。

年末祖父が亡くなりました。悲しくて、落ち込んで、どうにもなりませんでした。

そんな時に、覚せい剤を使ったときのあの何ともいえない「爽快感」が頭をよぎったのです。服役中、あれだけ「もう覚せい剤はしない」と誓ったはずなのに、欲しくてたまらなくなったのです。私は衝動を抑えられず、昔の覚せい剤仲間と連絡をとって「1回分欲しいんだけど」と頼みました。

覚せい剤への依存

私は、覚せい剤を注射しました。

するとふわっと体が軽くなり、元気が出てきました。それと同時に、悲しみやつらさは吹っ飛び、前向きな気持ちになれたのです。しかしそれは長く続かず、覚せい剤の効果が切れてくると、逆に不安や孤独感が押し寄せきて、覚せい剤を使う前よりも何倍もの精神的なつらさがやってきました。

それから逃れたくて、また覚せい剤を買いました。ですが、解放されるのは一瞬だけで、覚せい剤の効果が切れればまた辛くなる、また逃れたくて覚せい剤を買う。気がついたら給料のほとんどを覚せい剤につぎ込んでいました。

妄想・幻覚・・・

覚せい剤を使用し続けると^{さい}猜疑心が出てくるのです。職場の人も、「あいつまた覚せい剤やってんじゃないの」という眼差しで自分を見ている気がするのです。

私は居づらくなって仕事を辞めてしまいました。家に帰って、家族が何気ない会話をしていても、「自分のことを悪く言っている」ように聞こえてくるのです。段々イライラしてきて、家族に暴力をふるい、妻は娘を連れて出て行ってしまいました。

私は独りぼっちになりました。だから家には誰もいないはずなのに、「壁の中から誰かに見られている」、そんな気がしてなりません。私はゴルフクラブで家の壁を壊しました。窓や鏡に映る自分を見て、それが自分に見えなくて、敵に見張られているような気がして、家中の窓ガラスを割りました。挙げ句の果ては、「テレビに盗聴器が仕掛けられていて、自分の電話のやりとりを全て誰かに聞かれている」と思って、夜通しテレビを分解したこともありました。

後悔の日々

こうして荒れ果てた家に独りで居たところ、麻薬取締部の人たちが捜索に来て、覚せい剤取締法違反で逮捕されました。拘置所に入ってようやく「自分は覚せい剤で狂っていた」ということに気がつきました。

今は、そんな自分がしてきたことをただ後悔するだけの毎日です。

ロールプレイング

- そうした状況にあなた自身が置かれたとしたら、どういう態度や行動をとるか考えて見ましょう。
- ロールプレイング中、自発的な対応があってもよいが、横道にそれないようにしましょう。
- 演技者以外の方は、観察者としての役割を果たしましょう。

高校2年生のA君は文化祭の実行委員長として、一生懸命に活動を行いました。文化祭は大成功に終わり、A君は無論、実行委員たちは皆満足感でいっぱいでした。だが、心身ともにくたくたに疲れていました。

しかし、文化祭の成功を祝して打ち上げを喫茶店で開くことになりました。

その会場には、昨年度の委員長や先輩たちも参加し大いに盛り上がりました。A君は疲れてついウトウトしてしまいました。すると先輩の一人がポケットから少し小さい包みを取り出しました。

登場人物

A君:

先輩B:

先輩C:

先輩B 「A君御苦労様、これを飲むと疲れが取れるし気分もスッキリするよ」

先輩C 「みんな飲んでるし、危ないものじゃないよ。A君も飲もうよ。」

A君
「……………」

解答例

・「これって、あぶないやつじゃないんですか？寝たらスッキリするんでいいです。」

・「やめてください！」

・「そんなことより、まだ料理こないですね。」



誘われたときは！ その1



誘われたときは！ その1



こういう作戦もある～断り方

- 「カエル作戦」～ 話をかえる
- 壊れたCD作戦 ～ 同じことを繰り返す
- 3D作戦 ～ 「だって」「でも」「どうして」
- 逃げるが勝ち作戦

誘われたときは！ その2

話題を変える



誘われたときは！ その2

それより
昨日ドラマ見た？

シンナー
吸ってみろよ



誘われたときは！ その2

おもしろかった
なあ

頭がすっきり
するよ



誘われたときは！ その2

次回もどうなるか
楽しみ

1回だけ
どう？



誘われたときは！ その2

...



こういう作戦もある～断り方

- 「カエル作戦」～ 話をかえる
- **壊れたCD作戦** ～ 同じことを繰り返す
- 3D作戦 ～ 「だって」「でも」「どうして」
- 逃げるが勝ち作戦

誘われたときは！ その3

同じことを繰り返す



誘われたときは！ その3

お母さんに
怒られる

シンナー
吸ってみろよ



誘われたときは！ その3

お母さんに
怒られる

頭がすっきり
するよ



誘われたときは！ その3

お母さんに
怒られる

1回だけ
どう？



誘われたときは！ その3

...



こういう作戦もある～断り方

- ・「カエル作戦」～ 話をかえる
- ・壊れたCD作戦 ～ 同じことを繰り返す
- ・**3D作戦** ～ 「だって」「でも」「どうして」
- ・逃げるが勝ち作戦

誘われたときは！ その4

「だって、でも、どうして・・・」



誘われたときは！ その4

だって・・・

シンナー
吸ってみろよ



誘われたときは！ その4

でも・・・

頭がすっきり
するよ



誘われたときは！ その4

どうして？

1回だけ
どう？



誘われたときは！ その4

...



こういう作戦もある～断り方

- ・「カエル作戦」～ 話をかえる
- ・壊れたCD作戦～ 同じことを繰り返す
- ・3D作戦～ 「だって」「でも」「どうして」
- ・逃げるが勝ち作戦

誘われたときは！ その5

逃げる！



誘われたときは！ その5

シンナー
吸ってみろよ



誘われたときは！ その5

...



やくばつ
薬物から、みなさんを守る
3つの決まり

ことは
あまい言葉でさどられても、
こと
きっぱり断ろう。(ことわろう)

- ・行かない。
- ・聞かない。
- ・さわらない。



大阪市学校薬剤師会 西川節子先生 PPT

それでも
やくばつ ちか
薬物が近づいてきたら・・・



どうしよう？

こま とき そうだん
困った時は、相談しよう！！

ひとり なや ほごしゃ たんにん せんせい
一人で悩まずに、保護者、担任の先生、
やくざいし けいさつ ほけんじょ そうだん
薬剤師、警察、保健所に相談しよう！



やくぶつ ちか
薬物を近づけないためには

けんき
元気なからだ

と

けんき
元気なこころ

が



ひつよう
必要！

心の健康5か条

- ・自分自身を大切に思うこと
- ・物事を前向きに考えること
- ・自分なりの目標に向かって努力すること
- ・様々なトラブル、心配事にくよくよしないこと
- ・家族・友人と何でも話し合える関係を築くこと

まとめ

- 1 薬物は一回使うたびに、脳を破壊する。
- 2 薬物は自分の意志ではやめられない。
- 3 薬物をやめても元には戻らない。
- 4 薬物を一度使うだけでも乱用である。

薬物乱用は法律で厳しく取り締まられています

- ・アルコール (未成年者飲酒禁止法 大11 平12)
- ・たばこ (未成年者喫煙禁止法 明33 平12) 行政処分:没収

未成年の飲酒・喫煙の禁止

「50万円以下の罰金(販売者等)」または「1万円以下の料(保護者)」

自分の命を大切に

- ・ 身体に入れるもの
- ・ よく、考えてみよう！



総目録(第1号～33号)

1986年3月 第1号

巻頭言……………加藤 昭

I. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・全国私立中高全国私学教育研究集会……………2
第33回 全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(1)
柏倉 拓
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(2) 国語部会
—新学習指導要領における文学教育— 青野 宏一
- ・全国私立中高国際教育研修会……………7
第7回全国私立中学高等学校
国際教育研修会に参加して 教諭 宝槻 隆史
- ・第12回「米国における社会研修講座」……………10
第12回アメリカ社会研修講座に参加して
副題日米社会の相違と文化摩擦 佐々木 豊
- ・第7回「私学の新任若手教員の研修講座」……………12
第7回私学の新任・若手教員研修講座に参加して
渡部 進
- ・「名取平野の文化財」史跡見学会の記録より……………14
渡邊 泰伸

II. 昭和60年度職員研修会

- ・授業研究・各科研究会……………27
国語科(現代文)学習指導案 遣水 満雄
社会科(日本史)学習指導案 駒板 泰吉
数学科(数学I)学習指導案 乾 敬
数学科学習指導案 鈴木 豊治
理科学習指導案 丸山 実信
TEACHING PLAN By Akiyoshi Ohmi
情報処理科 研修のまとめ
公開授業 教科:ベーシック
担当者:野村コンピューターシステム(株) 西村 昌郎
保健体育科柔道学習指導案 佐々木 豊
芸術科研修のまとめ

編集後記

1987年3月 第2号

巻頭言……………加藤 昭

I. 研究

- ・宮城県加美郡中新田町熊野堂遺跡調査略報……………2
渡邊 泰伸
- ・コンピュータによる学業成績処理……………28
瀬戸 信男
佐々木一郎

II. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・第13回米国における社会研修講座に参加して……………39
沢田 敏明
- ・英語教師のための夏期セミナー講演会報告……………42
山田 昇
- ・第24回全国私立中学高等学校
保健体育科研修会に参加して……………50
阿部 俊英
- ・第28回全国私立中学高等学校
理科(生物)研修会に参加して……………52
今野 良裕
- ・第1回全国私立中学高等学校
ニューメディア教育研修会に参加して……………54
瀬戸 信男

III. 昭和61年度職員研修会

- ・授業研究・各科研究会……………59
国語科研究会報告 遣水 満雄
社会科研究会報告 渡邊 泰伸
数学I C不等式の表す領域 中川 良雄
代数幾何学習指導案 渡部 進
数学科研究会報告 中川 良雄
理科I 学習指導案 砂沢 準助
英語科研究会報告 宝槻 隆史
芸術科研究会報告 安倍 一男
情報処理I (BASIC) 小林 慶三
佐々木一郎
保健学習指導案 佐々木松治

編集後記

1988年3月 第3号

巻頭言……………加藤 昭

I. 研究

- ・仙台市安養寺下窯跡……………2
渡邊 泰伸
- 研究発表
・大学入試に取り扱われたカテナリー・サイクロイド・
インボリュート曲線について……………22
鈴木 弘

II. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・第十四回 米国における社会研修講座(CIAA主催)
に参加して……………29
今野 良裕
- ・アメリカテキサス大学語学研修報告……………60
柏倉 拓
- ・第二十五回全国私立中学高等学校
保健・体育科研修会報告……………71
沢田 敏明

・第二十一回全国私立中学高等学校 生徒指導研修会報告	76	佐々木 豊
・第二十三回全国私立中学高等学校 道徳宗教教育研修会報告	78	及川千一郎
・第二回全国私立中学高等学校 ニューメディア教育研修会報告	81	大場 幸
・第九回国際教育研修会報告	86	出井まち子
・ジェラルド・ロビンス ピアノリサイタル報告	89	荒井 恵子

III. 昭和62年度職員研修会

・授業研究・各科研究会	91	
・短歌教材指導について		高橋 正幸
・社会科研究会報告		柏倉 拓
・数学科（基礎解析）学習指導案		乾 敬
・校内公開授業		中川 良雄
・数学科研究会報告		佐藤 亘 松尾 勝郎
・理科（化学）学習指導案		櫻井 忠良
・理科研究会報告		砂沢 準助
・英語科研究会報告		小野 明夫
・書道Ⅱの学習指導について		安倍 一男
・ワープロ学習指導案		遠藤 卓 大場 幸
・保健体育指導		阿部 由晴

編集後記

1989年3月 第4号

巻頭言

I. 研究発表	1	加藤 昭
1. 安養寺下窯跡第3次調査	2	渡邊 泰伸
2. 同一素材の外国語翻訳を試みて	28	波里 光彦
II. 海外研修	45	
1. アメリカ夏期語学研修についての報告と所感	46	坂爪 英夫
2. 地球の裏から「オブリガード」	51	宮本 昇
III. 全国私学研修報告	63	
1. ニューメディア教育研修会報告	64	大場 幸
2. 現代社会とこれからの体育	96	丹野 博太

IV. 第36回全国私学教育研究集会新潟大会	99	
1. 特色教育部会報告	100	高山 直光
2. 福祉活動を中心として	110	小林 慶三
3. 教育課程部会報告	114	庄司 均
4. 国語分科会	121	笠岡 庸志
5. 英語分科会	134	宝槻 隆史
6. 商業部会報告	138	遠藤 卓

V. 校内公開授業各科研究会

・国語科研究会報告		遣水 満雄
・国語研究会報告		ソビエト連邦の教育事情と日本 中津川清風
・社会科研究会報告		小野寺文雄
・数学科研究会報告		校内研究授業〔数学Ⅰ〕学習指導案 岩渕 定義 校内研究授業〔確率・統計〕学習指導案 鈴木 弘
・理科研究会報告		砂沢 準助
・理科授業研究…“ヒトの生殖と発生”を行うにあたって		横澤 秀夫
・英語科研究会報告		宝槻 隆史 谷津 繁勝 小野 明夫 大沼 洋二
・芸術科研究会報告		時代に即した音楽教育 武藤 信子
・保健体育科研究会報告		保健体育「柔道」指導案 沢田 敏明
・情報処理科研究会報告		「進化する紙」 佐々木一郎

VI. 編集後記・奥付

1990年3月 第5号

巻頭言		加藤 昭
I. 研究		
・仙台市安養寺下窯跡 第4次調査概報	1	渡邊 泰伸
II. 各種研修会・研修講座に参加して		
・全国私学教育研究集会講演（教育課程部会）より	25	小林 慶三
・平成元年度 高等学校学習指導研修会	27	渡部 進
・私学経営研究会教員研修セミナー		

第11回私学の新任・若手教員研修講座報告	35
若澤 幸弘・及川 隆夫	
・第37回全国私学教育研究会大阪大会	
岩淵 定義	
〔1〕 数学分科会報告	49
〔2〕 進路指導部会報	63
・全国私立中学高等学校	
第4回ニューメディア研修会に参加して	74
渡部 進	
・第30回東北地区私学教育研究会に参加して	86
山田 昇	
・第25回全国私立中学高等学校家庭科研修会	90
庄司 均	
・カナダ語学研修について	93
佐々木清彦	
・英国語学研修報告	102
阿部 徹・出井まち子	
・カー先生の日本体験記	117
波里 光彦	
Ⅲ. 授業研究・各科研究会	
・国語科学習指導案	143
千田 亥彦	
・数学科学習指導案	146
渡部 進	
・数学科学習指導案	152
菅井 了	
・数学科研究会報告	157
・理科(化学)学習指導案	161
半澤 健	
・化学実験の一考察	167
半澤 健	
・情報処理科(簿記会計)学習指導案	173
佐々木英明	
・保健体育科学習指導案	177
丹野 博太	

編集後記

1991年3月 第6号

巻頭言	加藤 昭
Ⅰ. 国際化教育への模索	
・日本の「国際化」に思う	1
波里 光彦	
・創立85周年記念事業 国際理解のための講演会	17
研修課	
・全国私立中学高等学校	
第12回国際教育研修会に参加して	34
佐々木清彦	
・夏期イギリス語学研修(女子)	60
関谷 照夫	
・夏期イギリス語学研修(男子)	73
桜井 忠良	

・女子卓球部中国遠征報告	85
若澤 幸弘	
・仙台育英学園高等学校創立85周年記念	
日本, カナダ国際親善ラグビー遠征記	89
伊藤挺一郎	
・第31回東北地区私学教育研修会 英語分科会	
「How to give the motivation to the students」	
キヤム・カー	104
Ⅱ. 多賀城フォーラム	
・「多賀城フォーラム21」行わる	121
加藤 雄彦	
Ⅲ. 研究・研修	
・第25回全国高等学校体育学科連絡協議会に参加して	137
丹野 博太	
・平成2年度 研修課年間計画	
情報処理研修報告	144
佐藤 正行	
・平成2年度全国私立中学高等学校	
第5回ニューメディア教育研修会報告	167
佐藤 正行	
・私学経営研修会教員研修セミナー	
第12回私学の新任・若手教員研修講座報告	222
佐藤 正行	
・第12回私学の新任・若手教員研修講座	227
佐々木英明	
・西多賀養護学校を訪問して	228
若澤 幸弘	
・宮城県生徒指導研修会に参加して	230
佐々木英明	
・国語科(漢文)公開授業並びに教育研究会	241
寺尾 幸吉	
・数学科公開授業並びに教科研究会	248
近藤 精宏	
・英語科公開授業並びに英語科教科研究会	255
立谷 梨	
・理理科公開授業並びに教科研究会	260
男澤 文義	
・社会科教科研究会	263
阿部 徹	
・保健体育科(保健)公開授業並びに教科研究会	266
沢田 敏明	
編集後記	269

1992年3月 第7号

巻頭言	加藤 昭
Ⅰ 研究	
・仙台市安養寺下窯跡	1
渡邊 泰伸	

II 多賀城フォーラム	
・第2回多賀城フォーラム	37 加藤 雄彦
III 講演「山形の一教師の実践論」	55 山形県生涯学習人材育成機構専務理事 打田 早苗
IV 研修報告	
・平成3年度高等学校教育課程講習会	75 凌 時哉
・東北国語教育研究会	83 佐々木隆男・板橋 敏男
・平成3年度宮城県高等学校教育課程講習会外国語部会	94 関谷 照夫
・第13回私学の新任・若手教員研修会	120 佐藤 弘
V 海外遠征報告（平成3年度）	
・夏期カナダ語学研修	125 関谷 照夫
・夏期イギリス語学研修（男子）	135 山田 紀英
・夏期イギリス語学研修（女子）	150 砂金 紀
・オックスフォード紀行	162 高平たつみ
・軟式庭球部台湾遠征	172 佐藤 正行
・女子卓球部スウェーデン遠征	176 大岡多津子
・イタリア知識旅行事前調査	180 小林 慶三・渡部 進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝
・女子卓球部中国（上海市）遠征	191 若澤 幸弘
VI 研究・研修	
・校内研修会実施要	193
・国語科公開授業並びに教科研究会	194 及川千一郎
・数学科公開授業並びに教科研究会	224 佐藤 孝
・英語科公開授業並びに教科研究会	230 秋山なみ江・出井まち子
・理学科公開授業並びに教科研究会	232 渡辺 重隆
・社会科教育研究会	238 加藤 晃孝
VII 論文	
・国語科短歌鑑賞会 一高校生の読み物として一名歌少考	245 高橋 正幸

・「うたごころ」	256 加藤 武夫
----------	--------------

編集後記	259
------	-----

1993年3月 第8号

巻頭言	加藤 昭
-----	------

I 研究

・仙台市安養寺下窯跡（第7次調査概報）	1 渡邊 泰伸
---------------------	------------

II 研修・遠征報告

・第14回私学の新任・若手教員研修講座	47 槇 統
・全国高等学校選抜卓球大会二連覇を達成して	50 大岡 巖
・オーストラリア英語に接して	52 庄子春一郎
・平成4年度夏期イギリス語学研修	54 渡邊 泰伸
・男子陸上チームのカナダ・バンクーバー遠征	106 二階堂 進

III 校内研修会

・平成4年度校内研修会実施要項	109
・国語科教科研究会	110 佐藤 秀一
・数学科公開授業並びに教科研究会	154 加藤 晃孝
・理学科教科研究会	163 八木 浩
・社会科教科研究会	203 佐藤 林平
・保健体育科公開授業並びに教科研究会	212 槇 統
・情報処理科公開授業並びに教科研究会	217 佐々木英明

編集後記	223
------	-----

1994年3月 第9号

巻頭言	加藤 昭
-----	------

I. 加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業

・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して	1 半沢 健
・記念講演—大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは	7 ロバート・カークナー
・平成5年度父母教師会総会講演	26 トミー植松

II 研究	
・仙台市安養寺下窯跡（第8次調査概報）	37 渡邊 泰伸
・宮城県志田郡松山町下伊場野窯跡調査略報	58 渡邊 泰伸
III 海外研修・遠征報告	
・女子バレー部韓国研修旅行	105 佐藤 幸雄
・サッカー部ドイツ遠征	107 佐藤 脩
・中国グランプリ国際大会報告書	123 大岡 巖
・ボーンマス再訪	124 渡邊 泰伸
・平成5年度イギリス語学研修に参加して	180 高谷 功
・平成5年度カナダ研修旅行	195 今野 仁
・クリスマスをアメリカの一家庭で過ごして	206 庄子春一郎
IV 研修報告	
・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会（第2回）	209 庄司 和良
・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会（第2回）	214 寺内るみ子
・第15回私学の新任・若手教員研修講座	219 寺内るみ子
・第15回私学の新任・若手教員研修講座を受講しての報告	223 松原潤一郎
・全国私立中学高等学校性教育研修会参加報告	226 柏倉 拓
・平成5年度全国私立中学高等学校生徒指導研修会	230 宝槻 隆史
・私学の特色ある教育課程の実践に向けてII	233 佐々木 豊
・平成5年度全国私立中学高等学校数学科研修会報告	248 加藤 晃孝・鈴木 孝司
・全国私立中学高等学校英語科研修会	252 武田 美法
V 校内研修会	
・平成5年度校内研修会実施要項	255
・効果的国語指導の在り方	256 及川千一郎・清水 初治
・社会科教育研究会	266 高谷 功・渡邊 泰伸
・数学科研究会記録	271 佐々木順子

・地学学習指導案	276 武田 要吉
・英語科研究会	285 武田 美法
・総合実践業務処理システム実習概要	293 瀬戸 信男
・保健体育科学習指導案	325 庄司 和良
・保健体育科柔道学習指導案	327 松原潤一郎

編集後記	330
------	-----

1995年3月 第10号

巻頭言	加藤 昭
-----	------

I 研究	
・仙台市安養寺下窯跡（第9次調査概報）	1 渡邊 泰伸
II 海外研修・語学研修	
・英国語学研修 [ボーンマス] の記録	31 渡邊 泰伸
・カナダ語学研修旅行を共にして	93 日下 英夫
・カナダ語学研修報告	105 柏倉 拓
・CBS杯招待遠征報告（韓国(ソウル)雑感）	115 丸山 博史
・韓国CBS杯全国高等学校バレーボール大会に参加して	121 藤屋 秀人
・ニュージーランド語学研修／姉妹校訪問	124 二階堂 勉
・ニュージーランド語学研修	129 小野 裕子
・ハワイ修学旅行下見についての報告と雑感	131 坂爪 英夫
・ラグビー部ニュージーランド遠征についての報告	136 丹野 博太
・ヨーロッパ・橋紀行	145 関根 一郎
・オーストラリアの高校生活—公立キルコイ高校の場合	154 庄子春一郎

III 研修報告	
・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修会報告	163 引地 由佳
・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修報告	167 中村 千恵

・第35回東北地区私学教育研修会	171
今野 仁	
・第35回東北地区私学教育研修会参加の報告	180
佐藤 林平	
・第35回東北地区私学教育研修会進路指導部会	199
大場 幸	
・第35回東北地区私学教育研修会学習指導部会理科 分科会	205
大沼 正行	

IV 校内研修会

・平成6年度校内研修会実施要項	209
・「国語科」研究会	210
鎌田 敬	
・数学科研究会記録	215
佐藤 孝	
・英語科研究会	220
砂金 紀	
・理科研究会	226
横澤 秀夫	
・社会科研究会	235
阿部 徹	
・情報処理科研究会	242
佐藤 正行・内海 利男	
・保健体育科指導計画	256
中村 光男	

1996年3月 第11号

創立90周年特別号

巻頭言	加藤 昭
-----	------

I 研究

・「世界史」探訪の旅	1
武田 義之	
・不登校児への対応を探る	8
半澤 健	
・宗教と人生	20
小柳 俊夫	
・文学教材指導法雑感	34
伊藤源太郎	
・補助教材として授業中に使用した参考作品集	48
丹野 将範	
・生活史に反映する伝承音楽の役割	94
鎌田 敬	

II 海外研修

・カナダ研修旅行	111
太宰 芳郎	
・イートン校サマースクールを終えて	121
加藤 晃孝	
・オーストラリアの中生活 公立モーソン中学の場合	125
庄子春一郎	

III 研修報告

・平成7年度『財政経済セミナー』に参加して 我が国財政の現状と課題	129
小嶋 聡悦	
・全国私立中学高等学校国語科研修会研修報告書	170
引地 由佳	
・「性教育研修会」に参加しての報告	174
出井まち子	

編集後記	177
------	-----

1997年3月 第12号

巻頭言	加藤 雄彦
・授業の活性化	1
半澤 健	
・世界史探訪の旅II	6
武田 義之	
・修学旅行事前調査報告	21
沼田嘉一郎	
・韓国スポーツ交流団へ参加して	26
坂爪 英夫	
・韓国修学旅行事前調査に参加して	53
宝槻 隆史	
・Memories of Canada	59
清水 初次	
・学校茶道の果たす役割	63
佐藤 宗秀	
・茶事の研修	69
岡崎 宗豊	
・裏千家今日庵を訪ねて	71
馬淵 宗友	
・21世紀にお茶の心をつなごう	74
木村 宗智	
・カナダ研修旅行報告	78
山田 昇	
・イギリスアップランズカレッジ語学研修事前調査に いって	82
小嶋 哲朗	
・「私学教員のめざすもの」についての一考察	85
下平 孝富	
・北海道・東北地区研修会	88
富澤 良江	
・当世イングランド南西地区環境状況	91
内海 利男	
・宮城野校舎での「LD学習」の利用の現状について	94
工藤 敏夫	
・『第1回実用英語技能検定』の結果を振り返って	100
尾形 照子	
・異文化体験	102
庄子春一郎	
・『ライオンの晴』発行について	108
山本吉之助	

- ・CS向上めざして教養コースからの提案 ……113
坂爪 英夫
- ・多賀城セクション生徒寮保護者懇談会概要報告…126
守 喜美夫・加藤 晃孝
- ・教育実習（養護教諭）期間中に行った研究について
……………137
指導 木村 保子・佐藤 雅美
- ・KOREA旅行雑感・1996年 ……145
阿部 俊徳
- ・長春外国語学校との姉妹校締結記念
中国訪問親善交流・研修の記録……………152
曾我 道雄
- ・那須研修の現状について……………166
藤岡 昌之
- 編集後記……………186

1998年3月 第13号

- 巻頭言……………加藤 雄彦
- ・演題「180°変わる進学英語」……………1
佐藤 良明
- ・世界史探訪の旅Ⅲーチュニジア共和国とカルタゴの
遺跡ー……………10
武田 義之
- ・雄と雌の話……………25
半沢 健
- ・高校生の喫煙についての一考察……………52
富澤 良江
- ・平成8年度教養コースにおける生徒指導の一つの試み
……………59
沼田嘉一郎
- ・平成8年度修学旅行……………75
瀬戸 信男・小川 久松・渡邊 泰伸
- ・カナダ日記 1997年夏……………84
阿部 俊徳
- ・アンコール・ワットへの旅……………94
佐藤 雄三
- ・CS向上をめざす物理教育の一試案……………102
高橋 明
- ・英国語学研修実施報告……………121
千代窪敏光
- ・平成9年イギリス夏期語学研修（ボーンマス団）
……………125
遊佐 隆司
- ・松島研修センターの概要……………133
榊井 庸彦・渡辺 章紀・佐々木英明
千葉 浩・青木 康博
- ・オーストラリアのハイスクール……………149
庄子春一郎
- ・ペルシアの風ーイラン旅情……………158
伊藤源太郎
- ・授業における吹奏楽の試み……………212
牛渡 純

- ・はじめてのクロアチア国際交流……………218
澤口 衛・藤屋 秀人
郷古 武・木村 美知
- ・国際ゆめ交流博覧会の報告……………230
ジェシタ ワンジロ ムタヒ

編集後記

1999年3月 第14号

- 巻頭言……………加藤 雄彦
- ・初任者研修……………1
PART I 宮城野中学校での中高連携授業研究会に
参加して
日比野曜子 鈴木 暁子 佐々木順子
引地 由佳 下平 孝富 佐々木順一郎
富澤 良江 箱島 道泰 榎 統
藤屋 秀人 千葉 浩 岡崎 由起
古宮 紀子 池口真理子 鈴木 保恵
松原潤一郎 吉田 淳 郷古 武
望月久美子
PART II 三色最中を訪ねて
望月久美子 下平 孝富 古宮 紀子
池口真理子 榎 統 鈴木 暁子
松原潤一郎 佐々木順子 鈴木 孝司
鈴木 保恵 岡崎 由起 引地 由佳
- ・数学嫌いをつくり出す原因を本校生徒よりさぐる
……………33
渡部 進
- ・Message from Mahurangi College, NZ……………45
ジョン・スコベル
- ・ニュージーランド修学旅行……………48
庄子春一郎
- ・ドイツ滞在3年あれこれ……………54
佐々木芳輝
- ・高等学校におけるコンピュータ事情……………63
高階 公・若松 武徳
- ・我が国の人名習俗ー複名習俗としてのー……………74
新関 昌利
- ・ヨーロッパ知識旅行……………84
藤岡 昌之
- ・簿記会計1級合格を目指して……………91
坂爪 英夫
- ・シリーズPART IV「中国」……………93
北京・長春の見聞
中国の近代史をみる
坂爪 英夫

編集後記

2000年3月 第15号

巻頭言	加藤 雄彦
I 研究報告	
(1)平成7,8年度帰国子女教育研究	1 千葉 浩
(2)高校生時代の「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱と、 その人格形成への影響について－「日の丸」「君が 代」に関する一考察－	30 若松 武徳
(3)わが育英における語学教育－中国語教育について－	44 張 言行
II 平成11年度新任者研修の記録	
(1)「講演会」	49 大学から見た、これからの青少年への期待 期 日 H.11年3月8日(月)16時より 講 師 東北大学総長・工学博士 阿部 博之先生 会 場 宮城野校舎 大会議堂
(2)「講演会」	コーチング科学について 期 日 H.11年6月18日(月) 16:30～17:50 講 師 順天堂大学スポーツ健康科学部、 コーチ学バレーボール研究室 河合 武司 先生
(3)平成11年度体育会運動部校内研修会	－コーチング科学講演会をきいて－ 71 杉本 真・進藤由里子
(4)北海道・東北地区私学学校初任者研修会に参加して	－職業人である私学教員として「私学」というもの をきちんと理解し、認識する－ 74 鎌田千佳子
(5)北海道・東北地区私立学校初任者研修に参加して	－21世紀が求める学力を育む学習とその指導－ 80 佐藤 恵美
III 研修旅行	
(1)イギリス・アップランズカレッジ語学研修	85 千葉 浩
(2)カナダ研修旅行記	96 秋山なみ江
(3)イギリス語学研修	104 武田由紀子
(4)1998年教養コース修学旅行下見報告(瀬戸内班)	113 渡邊 泰伸
IV 歳時記	
(1)NewYork Symphonic Ensemble	－Japan Concert Program 1998－
1.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル	と仙台育英高等学校混声合唱団・仙台育英学園秀光 コース・秀光中学校オーケストラ・ジョイントコン

サートを終えて」	122 牛渡 純
2.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル	ジョイントコンサートに参加して」 126 中村 桂子
3.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル	ジョイントコンサートの合唱指導」 129 横山 功
(2)ケニヤからのメッセージ	135 エライジャ・J・ギタオ
(3)オランダからきた柔道人－オランダからやって来た 柔道家たちとの交流記－	139 箱島 道泰
V 英文中文目次要旨 142	
編集後記	

2001年3月 第16号

巻頭言	加藤 雄彦
「トピックス」	
「一瞬に賭けたエアピストル」	－シドニーオリンピック・エアピストル競技出場 稲田容子先生応援記－ 1 沼田嘉一郎
I 研究報告	
(1)「開かれた学校経営」	～集めるPTAから、集まるPTAをめざして～ 6 沼田嘉一郎
II 平成12年度研修の記録 13	
(1)「第1回教職員研修会」	「社会に背を向ける青少年の心の問題」 講 師 宮城県中央児童相談所次長 本間 博彰氏
(2)「進学CLUB講演会」	27 「生きる喜び」－ガンとの戦いにうち勝って－ 講 師 千葉 勇作 氏
(3)「第2回教職員研修会」	44 「オリンピックの活躍とキューバスポーツ」 講 師 キューバスポーツ省 ロベルト・ゴンザレス 氏
(4)「指導者講習会」	「中国のスポーツ事情」 講 師 孫 国華 氏
III 研修旅行	
(1)教養コース 中華人民共和国 中国研修旅行の記	「大きな一歩－中国5日間の旅」 57 佐藤 學
(2)教養コース 英語語学研修	「英語での初めての生活はスケッチブックと」 70 佐々木仁志

(3)英進コース カナダ語学研修 「語学研修 犬ですら英語でしか反応しない」	82	芳賀 良光
(4)韓国研修「韓国の古都慶州を駆けぬける」 第16回コーロン杯高校区間マラソン大会招待参加 記録	90	遊佐 隆司
(5)外国語コース ヨーロッパ語学研修 「すばらしき体験」 「What a LOVELY experience !」 ーイギリス(チャタム)語学研修を終えてー	97	渡辺有紀子
(6)特別進学コース 英語語学研修 「心豊かな日々」ーイギリス・アップランズ・コミュ ニティ・カレッジ語学研修ー	111	佐伯 達二
IV 英文・中文目次要旨	129	
編集後記		

2002年3月 第17号

巻頭言		加藤 雄彦
「トピック」 「キューバ訪問」 訪問の記録	1	
I 研究報告 イギリスの教育改革	14	若松 武徳
II 平成13年度研修の記録 (1)講演 こころの担任	22	仙台市教育長 阿部 芳吉
指導者のあるべき姿勢と今日の日本スポーツ現状	32	帖佐 寛章
(2)研修記録 「本校における国際交流」 ー平成13年度第41回東北地区私学教育研修会国際 教育部会ー	49	大場 幸
(3)開放講座「生き生き学級」の実践	63	船島 敏之
III 研修旅行 (1)教養コース ニュージーランド研修旅行 「育英学園の教師であればこそ」	67	佐々木 功
(2)英進コース 英国語学研修 「貴重な経験」	76	山川真理子

IV 歳時記 「少林寺拳法国際大会2001」出場実施報告書	88	佐々木英明
V 英文中文目次・要旨	92	
編集後記		

2003年3月 第18号

巻頭言		加藤 雄彦
「トピック」 「全国制覇」夢達成に胸を張り。	1	佐藤 達雄
「～千人の思いよ届け！～バンブーオーケストラ」	3	相良 信恵
I 平成14年度 研修の記録 (1)「21世紀の情報教育」ー図形と画像処理ー	10	小林 祐喜
(2)仙台育英学園高等学校における公文式英語学習の導 入について～ The report on the introduction of Kumon English Method at SENDAI IKUEI GAKUEN HIGH SCHOOL ～	26	日野 彰
(3)平成14年度私立学校初任者研修 北海道・東北地区研修会参加報告	32	石山かおり
II 研究報告 (1)文章指導についての一考察 ー小論文入門編としてー	41	齋藤 典子
III 研修報告 (1)教養コース 中国研修旅行 研修旅行で学んだもの	66	佐竹 伸彦
(2)英進コース イギリス語学研修 Letters From Cambridge (ケンブリッジからの便り)	82	進藤 満
IV 英文目次・要旨		
編集後記		

2004年3月 第19号

巻頭言		加藤 雄彦
トピック クローチアからの手紙	1	ドリカ・グロシニッチ

I 研究報告	
(1)通信制課程における教科指導—ビデオを利用した地球環境と生物界の変化について—	3 金田 敏宏
(2)投球速度の異なる投手の投動作の比較研究—高校野球選手を対象として—	7 佐々木順一郎
平成15年度 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究所 スポーツ科学領域コーチング科学専門分野修士論文 指導教官 川合 武司 教授	
(3)第3期(社)日本経済団体連合会 キャリア・アドバイザー養成講座受講報告書	37 佐々木 豊
II 研修旅行	
(1)外国語コース ニュージーランド語学研修旅行 ENCOUNTERING A DIFFERENT CULTURE 「異文化との出会い」	47 永井 惇
(2)英進進学コース ニュージーランド語学研修旅行 「はじめてのニュージーランド語学研修」	54 石田 昌彦

編集後記

2005年3月 第20号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
ケニアからの留学生 サムエル・ワンジル (Samuel Kamau Wanjyu) 君と書道の出会い—心の修行に—	1 渡邊 章紀
I 研究報告	
(1)心豊かな生徒の育成をめざして—合同LHRをとおして—	5 秀光中等教育学校 ホームルーム委員会 代表 高橋 守雄
(2)宮城県高等学校商業教育研究会平成16年実務演習講習会受講報告	15 佐々木英明・日野 彰
(3)フォローアップ講座についての考察	24 小野 仁也・櫻井 順
(4)スピン軸は公転軸を目指す	51 原 憲之介
(5)1年生の試行錯誤	62 本木 真人
(6)宮城県加美郡色麻町 土器坂瓦窯跡の調査—雷文縁4葉複弁蓮華文軒丸瓦を出土する色麻柵付属瓦窯跡の調査—	78 仙台育英学園高等学校考古学研究部 古窯跡研究会

II 平成16年度 研修旅行報告	
(1)教養コース 北海道研修旅行—有意義で事故の無い研修旅行の実践—	182 船島 敏之
(2)教養コース 中国研修旅行報告	187 瀬戸 信男
(3)秀光中等教育学校 スイスの自然環境保護への取り組み—ユーロスクールを通して感じたこと—	193 小林 祐喜
(4)英進進学コース ニュージーランド留学研修—新たな発見を求めて in New Zealand—	199 高橋 美保
(5)英進進学コース カナダ語学研修旅行	207 木村 啓子
(6)特別進学コース カナダ語学研修—自然を愛する国—	212 高根 司

編集後記

2006年3月 第21号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
青い目の剣士たち—スウェーデン研修から—	1 田中 裕子
I 研究報告	
(1)スペイン語の指導法の研究	11 コレテス・レオン
(2)憲政初期の選挙運動の一形態	23 井上 祥
(3)トリプルA委員会の計画と取り組みについて—トリプルA委員会委員長 佐々木英明	31
(4)MBPとKBPの比較—国際収支理論を中心に—	35 雫石 誠孝
(5)平成17年度 公文英語・英語Iの関連性における考察	46 高橋 美保
(6)部活動指導における一考察—サッカー部三年間の歩み—	70 吉井 秀邦
(7)創作脚本講習テキスト—宮城県高等学校演劇総合研修会—	76 渡部 進
(8)古代東北における古瓦の研究	83 渡邊 泰伸
II 平成17年度 研修旅行報告	
(1)特進コース アイルランド・オーストラリア語学研修	122 日比野曜子
(2)英進コース 北海道研修旅行	134 伊藤 寿展・桜井 順

(3)英進コース イタリア研修旅行	148
	池口真利子
(4)英進進学コース カナダ語学研修旅行	159
	石田 昌彦
(5)外国語コース アイルランド語学研修	173
	岡崎 由起
(6)フレックスコース 北海道研修旅行	180
	大友 健一

編集後記

2007年3月 第22号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

毎日書道宮城県高校生選抜書展団体賞 —第12回展～第16回展(2002～2006) 5連覇を叶えた仲間たち—	1
	渡邊 章紀

I 研究報告

(1)フォローアップ講座についての一考察	13
	加藤 美穂
(2)TOEIC/TOEIC Bridge教員向けセミナー —「高校における活用事例」—2006—仙台に参加 して—	34
	小野寺朋子・日比野真奈
(3)法学の学問的特殊性 —その概念形成の仕方に注目しつつ—	37
	伊藤 剛
(4)特別進学コース プラン2000実施報告 —平成16年～18年度の取組について—	44
	倉橋 真司

II 平成18年度 研修報告

(1)英進進学コース カナダ語学研修	61
	相良 信恵
(2)英進進学コース 北海道研修報告	69
	渡邊 章紀・文屋 祐介
(3)英進進学コース 英進コース研修 —膨大な歴史・文化の都イタリアを訪ねて—	94
	佐竹 伸彦
(4)外国語コース アイルランド・ドイツ 語学研修	109
	岡崎 由起
(5)フレックスコース 北海道学研修	117
	1班(男子) 富栄 博行
	2班(女子) 島倉 尚子
(6)秀光中等教育学校 「2006ユーロスクール」実施報告	127
	前半 船越 總眞
	後半 ダブリン班 千葉 浩
	レンヌ班 石田真理子
	エジンバラ班 脇 淳

(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	156
	大竹 聡美

編集後記

2008年3月 第23号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

「仙台育英中学校創立記念誌」の発見とその内容について —戦火を超えて残った大正12年2月発行の記念誌—	1
	渡邊理律子

I 研究報告

(1)高等学校における日本思想を扱った学習指導について —保科正之の思想と会津を事例として—	7
	倉橋 真司
(2)外国語コース1年生におけるPLPへの意識調査と家 庭学習について	18
	北村 悦子

II 平成19年度 研修報告

(1)英進コース 北海道研修旅行報告	44
	小野 仁也・及川 尚彰
(2)特進・外国語コース 2007年アイルランド・ドイツ語学研修	48
	浅利 正雄
(3)フレックスコース 北海道学研修報告	55
	大岩 和良
(4)秀光中等教育学校 ①グリーンスクール研修報告	60
	千葉 広高
②—1 2007ユーロスクール実施報告(前半)	66
	千葉 浩
—2 アイルランド・ダブリン班(後半)	松田 万理
—3 フランス・レンヌ班	小林 祐喜
—4 参加生徒レポート (1)初めてのヨーロッパ	岩本 怜央
(2)私が感じたヨーロッパ	川岸 瑞歩
③第4学年自由研究論文 京都実地研修報告	103
	芦立 俊雄・他
(5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	131
	新田 玲子

編集後記

2009年3月 第24号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

「グリーンフィールド」	1
	吉井 秀邦

I 研究報告	
(1)平成20年度 第47回東北地区私学教育研修会報告	4
	石田 昌彦
(2)第47回東北地区私学教育研修会報告	7
	小林 祐喜
(3)小論文指導の着地点はどこに設定すべきか	12
	三浦 宗隆
(4)全国音楽教育研究会高等学校部会全国大会宮城大会報告	19
	熊原 裕美
(5)国語教育における課題	
－国語教育研修会に参加して－	22
	島倉 尚子
(6)日本史の教材研究の試み	
－「城下町」の場合を例として－	37
	作間 克彦
(7)高校生における携帯電話の利用について	
－フレックスコース1年生の調査から－	43
	後藤 有希
(8)仙台市安養寺下瓦窯跡調査報告	
－陸奥国分寺・同尼寺創建期の瓦窯跡－	47
	渡邊 泰伸
II 平成20年度 研修報告	
(1)英進コース 北海道研修旅行報告	245
	(前班) 赤間由樹子
	(後班) 秋葉寿太郎
(2)特進・外国語コース	
2008年アイルランド・ドイツ語学研修	263
	小岩久美子
(3)フレックスコース	
①北海道学研修報告	280
	(男子) 高階 公
	(女子) 高橋 葉子
(4)秀光中等教育学校	
①グリーンスクール研修報告	296
	田添万智子
②ユーロスクール実施報告	301
	前半(スイス・ジュネーブ) 庄司 昌弘
	後半(アイルランド・ダブリン) 木田智恵美
	前半(イタリア・ローマ) 本木 真人
	後半(フランス・レンヌ) 牛渡 純
(5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	333
	新田 玲子
編集後記	
2010年3月 第25号	
巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
2009年「長春第十一高校」姉妹校締結訪問	1
	赤間由樹子

I 研究報告	
(1)伝統芸能の継承に見られる教育のあり方	
－ハワイ・フラにおける一考察－	5
	安住 陽子
(2)日中交流の架け橋に… 中国人就学生への取り組み	27
	岩淵 奈央
(3)理科教育の現状と今後の課題	
－BU(理科)を通して－	35
	寒河江華菜
(4)ニュース時事能力検定の授業への導入について	38
	秋葉寿太郎
(5)仙台育英学園陸上競技部(短距離ブロック)の活動報告と今後の展望	43
	菅原 新
(6)アブソープション・アプローチについて	47
	雫石 誠孝
(7)書の楽しみ方 ～いろいろな書の在り方の一考察～	50
	渡邊 章紀
II 平成21年度 研修報告	
(1)英進コース 北海道研修旅行報告	71
	早坂 憲人・高根 司
(2)外国語コース 韓国ソウル研修報告	79
	青木 康博
(3)特別進学コース・外国語コース	
ハワイ語学研修旅行報告	84
	庄司 昌弘
(4)フレックスコース(多賀城校舎)	
韓国ソウル研修旅行報告	95
	阿部 綾子
(5)フレックスコース(宮城野校舎)	
①北海道学研修旅行報告(女子)	104
	池口真利子
②北海道学研修旅行報告(男子)	110
	寺澤 信枝
(6)秀光中等教育学校	
①第3学年ユーロスクール実施報告(前半)	118
	倉橋 真司
②第3学年ユーロスクール実施報告(後半)	128
	小岩久美子
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	131
	新田 玲子
編集後記	
2011年3月 第26号	
巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
I-LION HAWAII SCHOOLにおける	
ソーシャルスタディーズがめざすもの	1
	安住 陽子

I 研究報告	
(1)西洋倫理思想史におけるプラトニック・ラブ(エロス論)の系譜 —アンリ・ベルクソンの説を中心に—	10
	土屋 靖明
(2)高校野球の犠牲バントに関する一考察	15
	横山 将
(3)育英祭での第2学年演劇上演報告	22
	河内 実華
(4)私の考える理想的な授業 ～Brush Upを通じて感じたこと～	32
	高橋こずえ
(5)気化熱を利用した燃焼実験と冷却実験	36
	相原ゆり子
II 平成22年度 研修報告	
(1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告	39
	山本 尚武
(2)外国語コース 2010年度TOEICエッセイコンテスト3位入賞について —報告—	49
	鹿野 洋・高橋 智子
(3)特別進学コース ハワイILHA語学研修	51
	石山かおり
(4)フレックスコース(多賀城校舎) 北海道学研修旅行報告	62
	千葉 陽子
(5)フレックスコース(宮城野校舎)	
①北海道学研修旅行報告	96
	千葉絵美子・庄子 由美
②沖縄学研修旅行報告	101
	小石純之介・佐藤 飛鳥
(6)秀光中等教育学校 第3学年ユーロスクール2010報告	
①前半(9月6日～10日) スイス～イギリス	105
	石田真理子
②後半(9月11日～17日)フランス	117
	脇 淳
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ校研修報告	134
	新田 玲子

編集後記

2012年3月 第27号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

仙台育英獅子太鼓部 —ダボス会議に参加して— ……1
高橋 葉子

I 研究報告

(1)教育リーダーシップ理論における「同僚性」の理論とその実践的意義 ……7
石田真理子

(2)国語教育における文学的文章の読解 —短歌を題材として—	17
	鈴木 正明
(3)外国語コースにおける外国語指導についての考察	20
	小野 真弓
(4)本校における理科の指導について —Brush Upを通しての一考察—	26
	井上 晶子

II 平成23年度 研修報告

(1)英進進学コース	
①第2学年北海道研修旅行報告	29
	高橋 麻憂
②2011年度TOEICエッセイコンテスト特別賞受賞 について(報告)	39
	鹿野 洋・岩渕 奈央
(2)外国語コース ILHA研修に向けての準備と研修報告	41
	高橋 美保・安住 陽子
(3)特別進学コース	
①PLAN2000 山形疎開学習報告	65
	高橋 真理
②第2学年校外研修旅行報告	73
	鈴木 和弘・伊藤 信男 山下 秀範・小山 格
(4)Tフレックスコース(多賀城)北海道学研修旅行報告	82
	後藤 有希
(5)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行報告	89
	佐藤 絢
(6)秀光中等教育学校 第2学年ILHA研修報告	96
	安住 陽子・須江 航・前澤 絵菜
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修報告	106
	安藤 清一

編集後記

2013年3月 第28号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

秀光・特進共同理科実験講座「サイエンス・コ・ラボ」
……………1
千田 芳文
第1回New York Shukoh Academy (NYSA) 実施報告
……………12
小林 祐喜

I 研究報告

(1)地理の授業での工夫 ……21
鈴木 和雄

(2)英進進学コースⅡ類における高度IT教育について	29
日野 彰	
(3)外国語コースの特色を生かした授業 ～日本伝統文化の発表活動を通して～	34
松田 万里	

Ⅱ 平成24年度 研修報告

(1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告	45
三浦 宏明	
(2)特別進学コース	
①ILHA研修	58
河内 実華	
②京都研修旅行	69
神谷 章嗣・三浦 仁志	
(3)Tフレックスコース(多賀城)沖縄研修旅行	75
伊藤 寛・千葉 陽子	
(4)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行	80
安部 恒俊	
(5)秀光中等教育学校 第2学年 ILHA研修	94
遠藤 祐太	
(6)日中国交正常化40周年記念事業 仙台育英学園 高等学校通信制課程 北京研修報告	99
安藤 清一	

編集後記

2014年3月 第29号

巻頭言	加藤 雄彦
-----------	-------

トピック

インドネシア研修生の本校での短期研修について	1
新井 真未	
第4学年 NYSA2013実施報告	12
小岩久美子	

I 研究報告

(1)化学部の活動	23
讃岐 果林	
(2)情報科学コースに向けての取り組みについて	33
島倉 尚子・庄司 邦彰 遠藤 誠・日野 彰	

Ⅱ 平成25年度 研修報告

(1)英進進学コース	
ILHA研修報告	41
佐々木真野	
第2学年北海道研修旅行報告	54
及川 まり・本多 華菜	
(2)特別進学コース 関西校外研修報告	66
神谷 章嗣	
(3)Tフレックスコース 沖縄研修旅行報告	72
赤間由樹子・林田 茂・芳賀 賢祐 古田 夕子・二瓶 巧	

(4)Mフレックスコース 沖縄研修旅行報告	76
佐藤 優人	
(5)秀光中等教育学校 ILHA研修	85
下浅 雄大	
(6)通信制課程 広域通信制課程沖縄研修報告	95
戸崎 亮司	

編集後記

2015年3月 第30号

巻頭言	加藤 雄彦
-----------	-------

トピック

広域通信制課程 ILC沖縄東北研修旅行報告	1
ICL沖縄 與那城慧太	
国際バカロレア・デュアルプログラム (IBDP) 導入 について	7
外国語コース 高橋 郁夫	

I 研究報告

(1)イマージョン授業(国際バカロレア準備)	10
外国語コース ジェームズ・ドクターマン	
(2)戦時期における「仙塩地方開発総合計画」(いわゆる 金森構想)の登場と展開	23
特進コース 雲然 祥子	
(3)河川流域における遺跡動態の研究	30
英進コース 佐々木 悟	

Ⅱ 平成26年度 研修報告

(1)特別進学コース	
関西校外研修旅行	46
高橋 真理	
(2)情報科学コース	
第1学年 会津研修報告書	52
正木 智也	
第2学年 校外研修報告	57
千葉 陽子	
(3)外国語コース	
第2学年 ILHA研修報告	63
小野 真弓	
(4)英進進学コース	
ILHA研修報告	72
熊坂 治平	
(5)秀光中等教育学校	
秀光16期生 第4学年NYSA2014実施報告	84
石田真理子	
第2学年(18期生)ILHA研修報告	93
阿部 広大	
(6)通信制課程	
広域通信制課程沖縄研修旅行	105
ILC青森 竹ノ子千春	

Ⅲ その他	
(1)日本・キューバ友好400周年交流事業	114
外国語コース	岩渕 奈央
Tフレックス	白岩 幸浩

編集後記

2016年3月 第31号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

創立110周年記念講演	
国際人育成のための提言～ILHAの実践を通して	1
ILHA(校長)	アール・大川

I 研究報告

(1)数学同好会の活動	9
特別進学コース	佐藤 璽
(2)IB DP(国際バカロレア・ディプロマプログラム)	
に関する生徒の振り返り	14
外国語コース	ジェームズ・ドクターマン
	ケリー・ウィンター
	高橋 郁夫
(3)3DCGゲームソフト作成	27
情報科学コース	遠藤 誠
	日野 彰

II 平成27年度 研修報告

(1)特別進学コース 関西校外研修旅行	32
	菅野 直幸
(2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告	37
	山田 大
(3)外国語コース ハワイ研修報告	42
	石田真理子
(4)英進進学コース 沖縄研修報告	52
	北村 悦子
(5)フレックス・技能開発コース	
サッカー部女子沖縄遠征・交流会	66
	林田 茂
(6)秀光中等教育学校	
NY研修報告	70
	本田 朋
ハワイ研修報告	77
	阿部 広大
(7)広域通信制課程	
沖縄研修旅行	89
	ILC青森 加藤 宏明
職場体験実習報告	98
	ILC沖縄 照屋 恵美

III 東北地区私学教育研修・ブロック別指導者研修報告

(1)教育課程(私学教育)	111
	秀光中等教育学校 坂内 玲子

(2)生徒指導(私学教育)	114
	フレックスコース 白岩 幸浩
(3)進路指導(私学教育)	116
	秀光中等教育学校 倉橋 真司
(4)道德教育(ブロック別)	119
	フレックスコース 渡邊 章紀
	秀光中等教育学校 小林 祐喜

編集後記

2017年3月 第32号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

探究講座TTTチャレンジの成果	1
特別進学コース	神谷 章嗣
孔子課堂の可能性	7
外国語コース	鈴木 茂幸
国際バカロレア受講生徒の学術的論文	13
外国語コース	石田真理子

I 研究報告

(1)文芸部の活動について	23
特別進学コース	下田真奈美
(2)英進進学コース英語科研究報告	27
英進進学コース	熊坂 治平
(3)国際バカロレアと日本のカリキュラム:2つは両立	31
できるのか	
	秀光中等教育学校 ケリー・ウィンター
	笠原 千尋
(4)IB生物におけるアクティブ・ラーニングの事例研	36
究	
	外国語コース ジェームス・ドクターマン
	笠原 千尋

II 平成28年度 研修報告

(1)特別進学コース 関西校外研修旅行	43
	齋藤 美咲
(2)外国語コース ハワイ研修報告	48
	赤間 ゆき
(3)英進進学コース 沖縄研修報告	57
	佐々木正人
(4)フレックス・技能開発コース	
沖縄研修旅行(フレックスコース女子)	66
	杉田 愛
沖縄研修旅行(技能開発コース)	71
	小野 仁也
(5)秀光中等教育学校	
NYSA 2016 実施報告	75
	伊藤 沙絵
ハワイ研修報告	81
	倉橋 真司
(6)職員研修報告	90
	多賀 努

Ⅲ その他

- (1)広域通信制課程ILC青森校の状況報告 ……104
ILC青森所長 三笠 勝彦
- (2)職業調査とジョブミーティングー12職種の職業に
関する調査とその発表活動を通してー ……115
情報科学コース 志賀 貞昭
- (3)公文式学習(国語)実践の成果 ……119
フレックスコース 島倉 尚子

編集後記

2018年3月 第33号

巻頭言 ……加藤 雄彦

トピック

- 高等学校通信制教育の質の向上について …… 1
村上 淳
- 剣道部サイパン遠征・文化交流活動報告 …… 5
加藤 裕之
- IBにおける教科指導実践について ……12
Enabling and Disabling Factors in Implementing
International Baccalaureate Programmes in
Japanese Secondary Schools: Curriculum, Pedagogy
and Assessment
Kerry Winter

I 研究報告

- (1)Surface活用に向けた授業における取組について
 ……20
情報科学コース 坂入 崇紀
日野 彰
- (2)IB DP(国際バカロレア・ディプロマプログラム)
デュアルランゲージで行うTOK授業 ……24
外国語コース 石田真理子
- (3)教科BU研修会について ……27
教科教育センター 板垣 徳昭

II 平成29年度 研修報告

- (1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告 ……36
小保内陽大
- (2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告 ……51
加藤 芳己
- (3)フレックス・技能開発コース 沖縄研修報告 ……56
多賀 努
- (4)英進進学コース
沖縄研修報告 ……63
渡邊 光稀
韓国研修報告 ……71
狩野 常俊
- (5)外国語コース ハワイ研修報告 ……78
岩淵 奈央
丹野まさよ
- (6)職員研修報告 ……89
零石 利光

Ⅲ その他

- (1)ILC沖縄校の状況報告 ……97
ILC沖縄所長 山内 一秀
- (2)演劇部の活動について ……111
特別進学コース 赤間 ゆき

編集後記

編 集 後 記

平成30年度（第34号）の研究紀要が完成しました。原稿をお願いした先生方に心より感謝申し上げます。

今年度も、加藤雄彦理事長校長先生のご指導の下、幅広い分野で研究が進められました。今年度は、私たち教員の研修として「戌申の役150周年記念 遠藤敬止翁の偉業を語る」講演会が開催されました。内容については、別記のとおりですが、戊辰戦争から150年の節目を迎え、本学の創立者である加藤利吉先生の建学の精神を心に刻み、仙台育英学園としての学校の在り方を再確認する機会でもあります。

昨年度に引き続き、先進的な取り組みであるIBの報告からは、着実に実績を積み上げていることが、青森ILCからは、通信制課程として地域において認知度が上がり、生徒数の増加につながっていること、生徒への手厚いサポート体制が評価されていることが報告されています。特に、青森ILCにおいては、特筆すべき取り組みとして「社会人養成講座」があります。詳細は本文をご覧ください。そして、特色ある取り組みが、全国的な広域通信制高等学校としての仙台育英学園の存在を確固としたものになっていることがうかがえます。

先生方におかれましては、これらの研究実践と日々の教育活動が、さらなる研究と発展的な教育活動への道しるべとなることを切に願うものです。

さて、巻頭言にもありますが、先般の全国駅伝大会において、仙台育英が女子で第3位入賞という実績を上げました。書道部の実績もまた顕著なものがあります。

いうまでもなく、高みを目指すためには、より高い目標が必要です。そのための監督あるいは部長、コーチとして日々ご指導に当たられた先生方のご苦勞と、大会本番で実力を発揮できた生徒諸君の日々の積み重ねにも、心よりお祝いを申し上げます。

また、生徒たちにとって安全安心な学校であることを第一義に考え、きめ細かな対応とご配慮をいただいている加藤雄彦理事長校長先生に深く感謝する次第です。

日々の教育活動をより効果的なものにするために、この冊子が、自分自身の足で前に進むための一助となれば幸いです。

第34号 研究紀要編集担当 雫石利光

発 行：秀光中等教育学校・仙台育英学園高等学校

所在地：〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目4-1

電 話：022-256-4141

研究紀要34号

巻頭言 加藤 雄彦

トピック

授業改革：協働学習の可能性 Kerry Winter

Transforming the Culture of Teaching and Learning:

An emerging collaborative learning community

仙台育英孔子課堂活動報告 孔子課堂長 板垣 徳昭

I 研究報告

(1) デュアルランゲージで行う TOK 授業のケーススタディ
—PCK（授業を想定した教科内容知識）を意識したバイリンガル授業—
..... 外国語コース 石田真理子

(2) 特進コースの英語4技能向上対策：
「オンライン Weblio 英会話」を活用した e-learning 学習について
..... 特別進学コース 伊藤 需

(3) 仙台育英学園生き生き教室「√2 ってなに」
..... フレックスコース 雫石 利光

(4) 教科BU研修会について 教科教育センター長 板垣 徳昭

II 平成30年度 研修報告

(1) 秀光中等教育学校
カナダ研修報告 笠原 千尋

(2) 特別進学コース
関西校外研修報告 高橋 真理
佐々木 正人

(3) 情報科学コース
沖縄研修報告 船越 正志
野坂 有生

(4) フレックス・技能開発コース
沖縄研修報告（男子） 西山 大樹
沖縄研修報告（女子） 石川美紀子

(5) 英進進学コース
沖縄研修報告 藤倉 善将
台湾研修報告 熊坂 治平

(6) 外国語コース
ハワイ研修報告 松崎 希莉
下浅 雄大

(7) 仙台育英孔子課堂 第2回北京語学研修報告
..... 平成29年度孔子課堂長 鈴木 茂幸

(8) 職員会津研修報告 フレックスコース 雫石 利光

III その他

ILC 青森校の状況と社会人養成講座について ILC 青森所長 三笠 勝彦

総目録（第1～33号）

編集後記